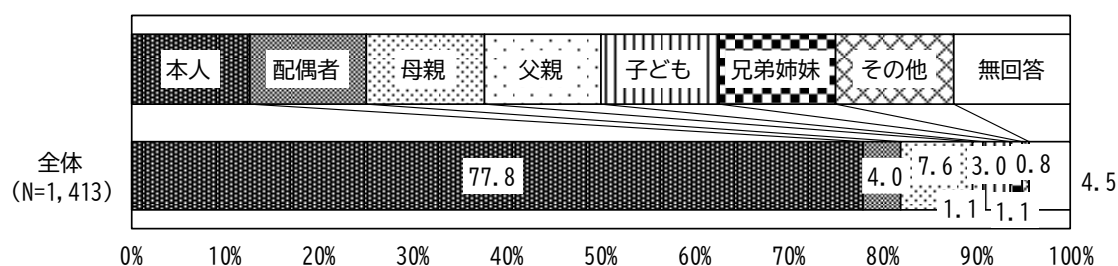


第2部 調査結果の概要

F1 記入される方とあて名ご本人との関係についておたずねします。(1つに○)

- ・「本人」(77.8%)が最も多く、次いで「母親」(7.6%)、「配偶者」(4.0%)が続いている。

図表 記入者（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「本人」(79.7%)が最も多く、次いで「配偶者」(7.3%)、「子ども」(5.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「母親」(45.6%)が最も多く、次いで「本人」(37.8%)、「父親」(6.1%)が続いている。
- ・精神障害者は「本人」(91.8%)が最も多く、次いで「母親」(2.8%)、「配偶者」と「父親」(それぞれ1.3%)が同率で続いている。
- ・難病患者は「本人」(91.5%)が最も多く、次いで「母親」(2.4%)、「配偶者」と「父親」(それぞれ1.3%)が同率で続いている。

図表 記入者（全体、障害等の種類別）

		本人	配偶者	母親	父親	子ども	兄弟姉妹	その他	無回答	
障害種	全体	(N=1,413)	77.8	4.0	7.6	1.1	3.0	1.1	0.8	4.5
	身体障害者	(n=645)	79.7	7.3	1.6	0.2	5.0	1.2	1.4	3.7
	知的障害者	(n=180)	37.8	0.6	45.6	6.1	1.7	3.3	0.6	4.4
	精神障害者	(n=319)	91.8	1.3	2.8	1.3	0.3	0.3	0.3	1.9
	難病患者	(n=211)	91.5	1.9	2.4	0.0	1.9	0.0	0.0	2.4

F2 あなたの性別と年齢をお答えください。（1つに○）

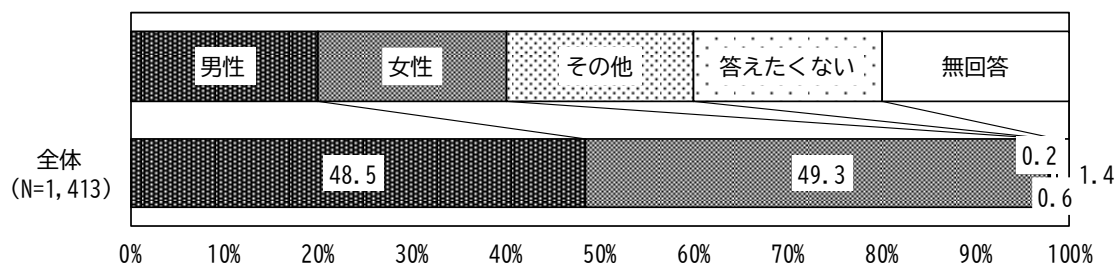
（1）性別 ＊戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。

（2）年齢 ＊令和7年4月1日現在の年齢でお答えください。

（1）性別

- ・「男性」が48.5%、「女性」が49.3%となっている。

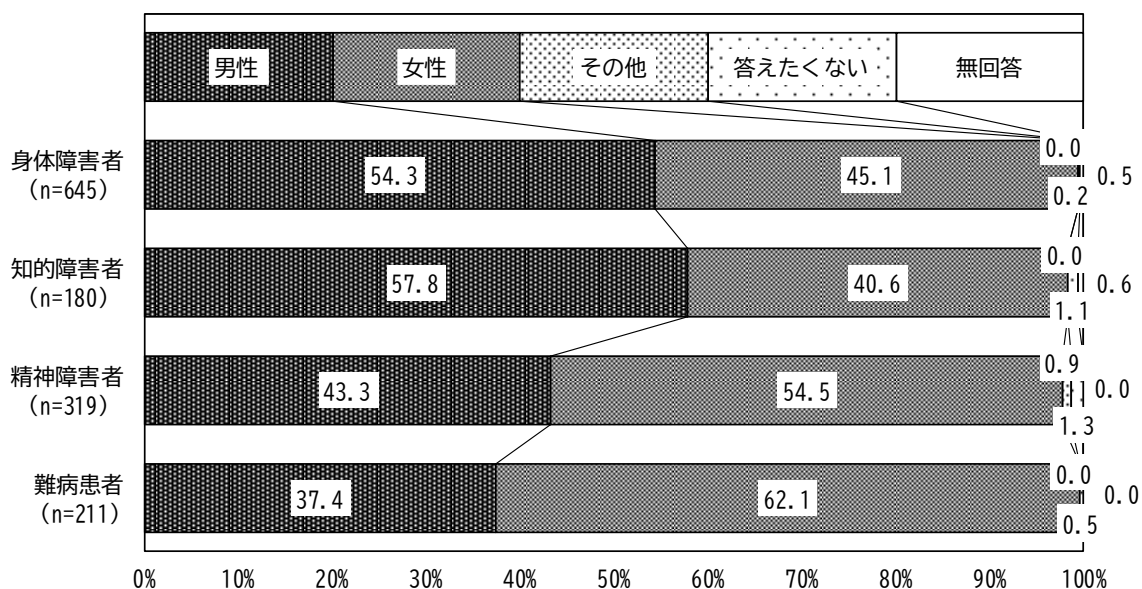
図表 性別（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は、「男性」が54.3%、「女性」が45.1%となっている。
- ・知的障害者は、「男性」が57.8%、「女性」が40.6%となっている。
- ・精神障害者は、「男性」が43.3%、「女性」が54.5%となっている。
- ・難病患者は、「男性」が37.4%、「女性」が62.1%となっている。

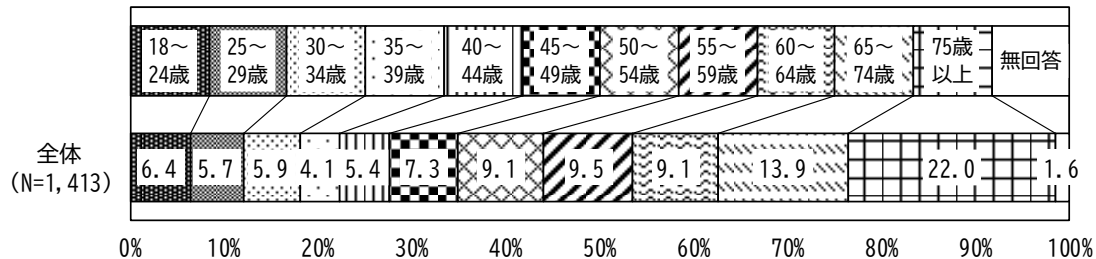
図表 性別（障害等の種類別）



(2) 年齢

- ・「75歳以上」(22.0%)が最も多く、次いで「65～74歳」(13.9%)、「55～59歳」(9.5%)が続いている。

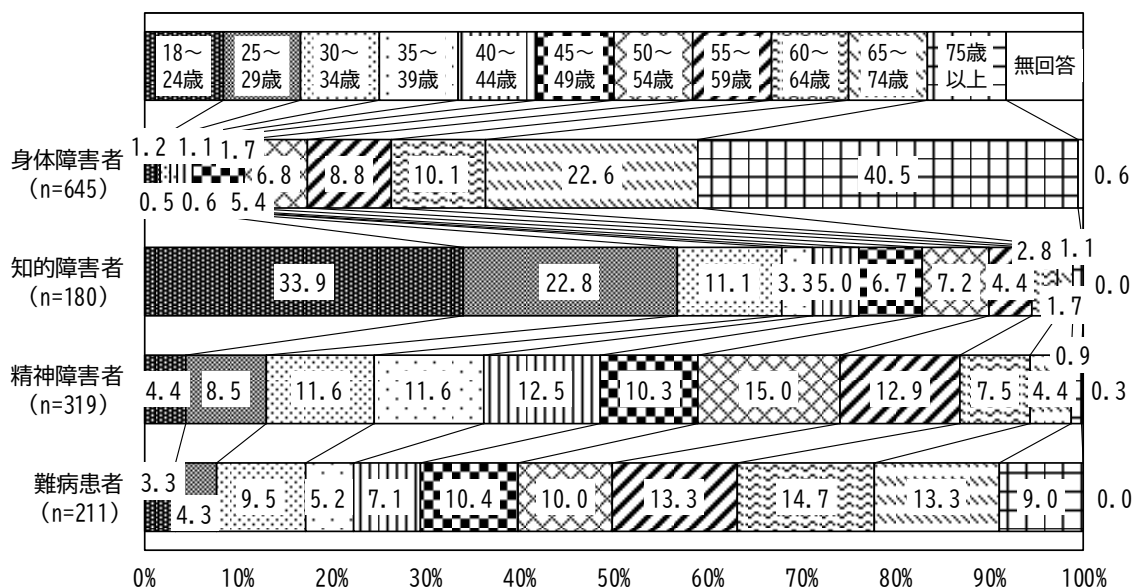
図表 年齢 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「75歳以上」(40.5%)が最も多く、次いで「65～74歳」(22.6%)、「60～64歳」(10.1%)が続いている。
- ・知的障害者は「18～24歳」(33.9%)が最も多く、次いで「25～29歳」(22.8%)、「30～34歳」(11.1%)が続いている。
- ・精神障害者は「50～54歳」(15.0%)が最も多く、次いで「55～59歳」(12.9%)、「40～44歳」(12.5%)が続いている。
- ・難病患者は「60～64歳」(14.7%)が最も多く、次いで「55～59歳」と「65～74歳」(それぞれ13.3%)が同率で続いている。

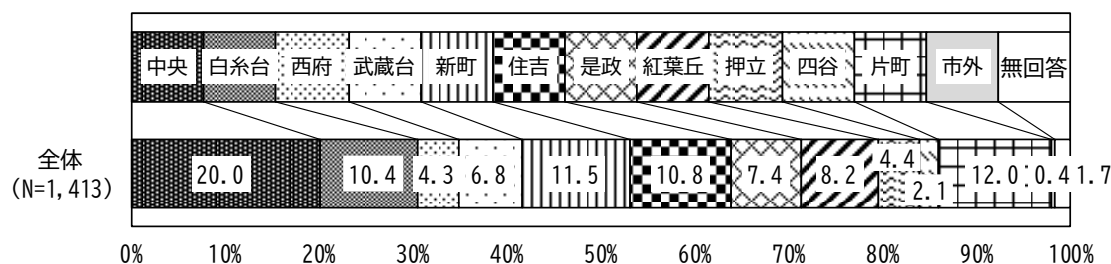
図表 年齢 (障害等の種類別)



F3 あなたが住んでいる住宅はどこですか。該当する福祉エリアに○をつけてください。

- ・「市内」が97.9%、「市外」が0.4%となっている。
- ・「市内」と回答した人を市内11か所の文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(20.0%)が最も多く、次いで「片町文化センター圏域」(12.0%)、「新町文化センター圏域」(11.5%)が続いている。

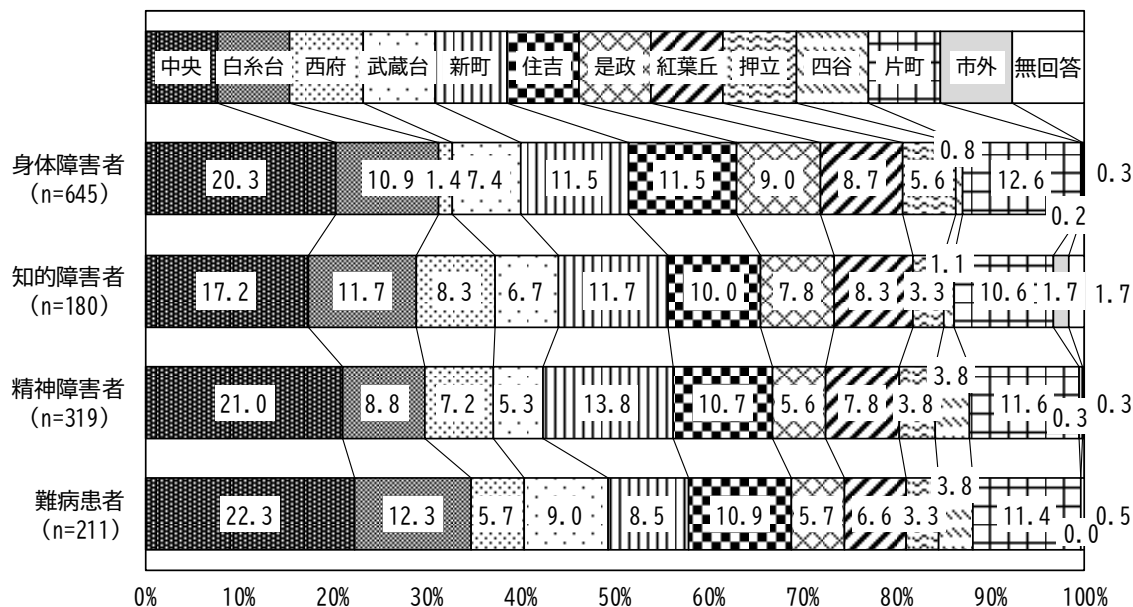
図表 居住地域（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「市内」が99.5%、「市外」が0.2%となっている。文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(20.3%)が最も多く、次いで「片町文化センター圏域」(12.6%)、「新町文化センター圏域」と「住吉文化センター圏域」(それぞれ11.5%)が続いている。
- ・知的障害者は「市内」が96.6%、「市外」が1.7%となっている。文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(17.2%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」と「新町文化センター圏域」(それぞれ11.7%)が続いている。
- ・精神障害者は「市内」が99.4%、「市外」が0.3%となっている。文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(21.0%)が最も多く、次いで「新町文化センター圏域」(13.8%)、「片町文化センター圏域」(11.6%)が続いている。
- ・難病患者は「市内」が99.5%で、「市外」はいない。文化センター圏域ごとにみると、「中央文化センター圏域」(22.3%)が最も多く、次いで「白糸台文化センター圏域」(12.3%)、「片町文化センター圏域」(11.4%)が続いている。

図表 居住地域（障害等の種類別）



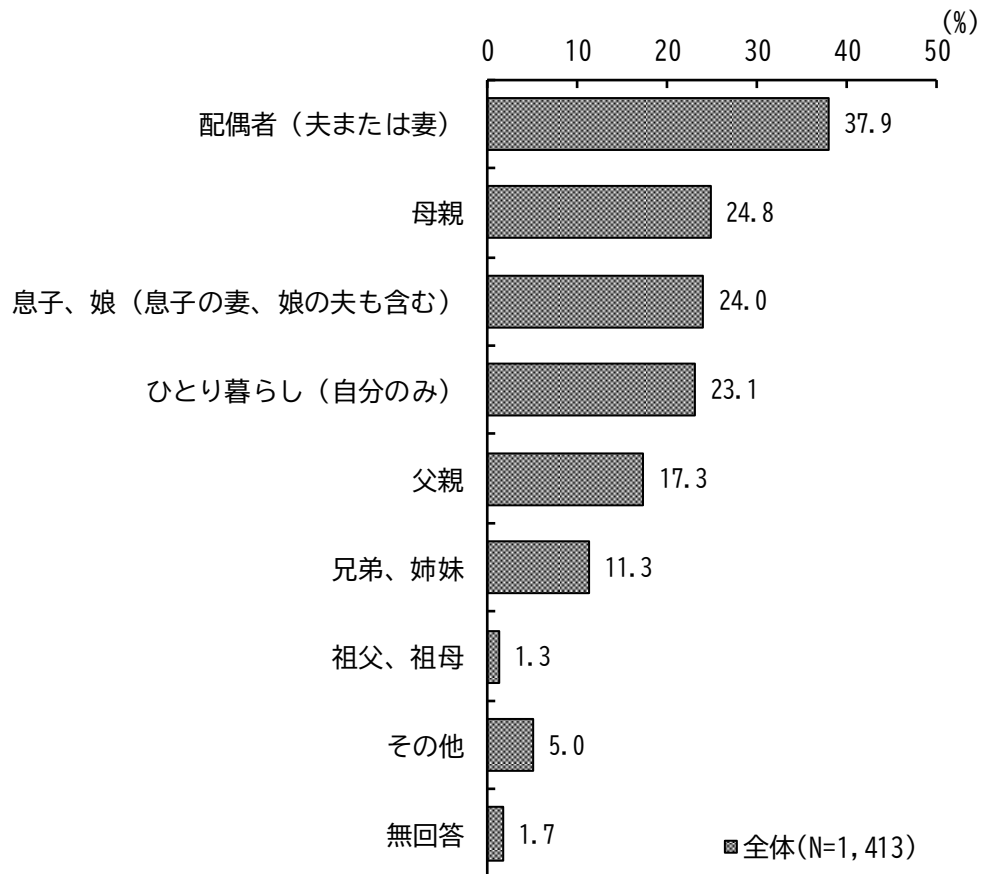
F4 あなたと同居*している方はどなたですか。(いくつでも○)

*2世帯住宅は同居としてお答えください。

*配偶者の親族を含めてお答えください。

- ・「配偶者（夫または妻）」(37.9%)が最も多く、次いで「母親」(24.8%)、「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」(24.0%)が続いている。

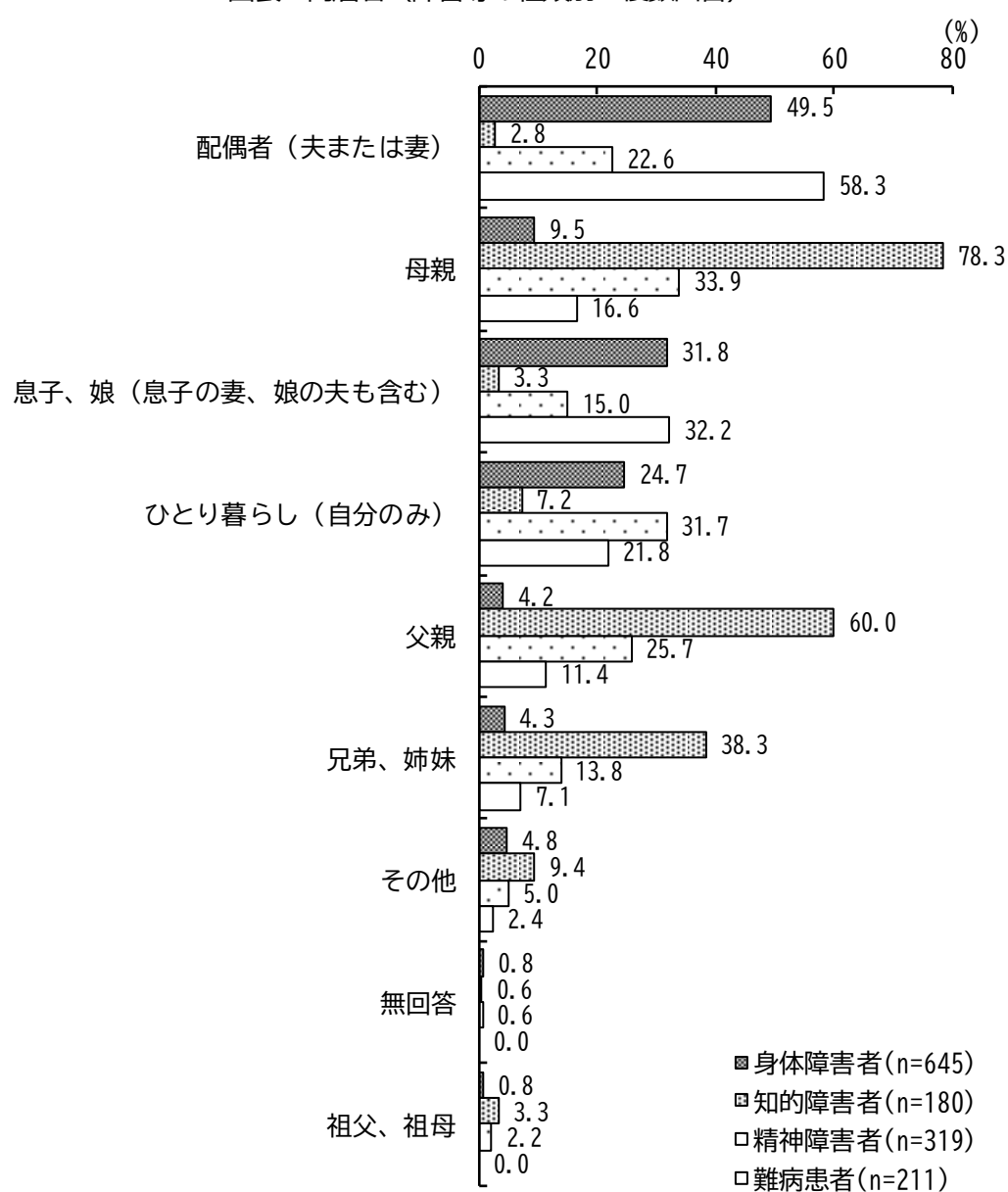
図表 同居者（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「配偶者（夫または妻）」(49.5%)が最も多く、次いで「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」(31.8%)、「ひとり暮らし」(24.7%)が続いている。
- ・知的障害者は「母親」(78.3%)が最も多く、次いで「父親」(60.0%)、「兄弟、姉妹」(38.3%)が続いている。
- ・精神障害者は「母親」(33.9%)が最も多く、次いで「ひとり暮らし」(31.7%)、「父親」(25.7%)が続いている。
- ・難病患者は「配偶者（夫または妻）」(58.3%)が最も多く、次いで「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」(32.2%)、「ひとり暮らし」(21.8%)が続いている。

図表 同居者（障害等の種類別：複数回答）



F5 あなたがお持ちの手帳または受給者証の種類ごとに、現在の程度に○をつけてください。

- ・身体障害者手帳の所持者は687人である。等級は「1級」(253人)が最も多く、次いで「4級」(166人)、「2級」(113人)が続いている。年代別では65歳以上が410人と最も多い。
- ・愛の手帳の所持者は180人である。「4度」(89人)が最も多く、次いで「2度」(43人)、「3度」(30人)が続いている。年代別では18～30歳が128人と最も多い。
- ・精神障害者保健福祉手帳の所持者は369人である。「2級」(179人)が最も多く、次いで「3級」(176人)、「1級」(14人)である。年代別では40～64歳が213人と最も多い。
- ・自立支援医療受給者証の所持者は348人である。年代別では、40～64歳が196人と最も多い。
- ・特定医療費受給者証の所持者は244人である。年代別では40～64歳が129人と最も多い。

図表 所持する手帳の程度(全体、年代別)

【身体障害者手帳】

										(人)
			1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,413)	253	113	92	166	27	36	726	687
年代別	18～39歳	(n=312)	14	15	7	7	1	2	266	46
	40～64歳	(n=562)	88	44	33	37	10	15	335	227
	65歳以上	(n=476)	150	54	52	120	16	18	66	410

【愛の手帳】

								(人)
			1度	2度	3度	4度	無回答	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,413)	18	43	30	89	1,233	180
年代別	18～39歳	(n=312)	13	37	15	63	184	128
	40～64歳	(n=562)	4	6	15	22	515	47
	65歳以上	(n=476)	1	0	0	4	471	5

【精神障害者保健福祉手帳】

							(人)
			1級	2級	3級	無回答	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,413)	14	179	176	1,044	369
年代別	18～39歳	(n=312)	3	54	77	178	134
	40～64歳	(n=562)	9	112	92	349	213
	65歳以上	(n=476)	2	13	6	455	21

【自立支援医療受給者証】

						(人)
			受給して いる	受給して いない	無回答	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,413)	348	70	995	348
年代別	18～39歳	(n=312)	123	24	165	123
	40～64歳	(n=562)	196	14	352	196
	65歳以上	(n=476)	28	24	424	28

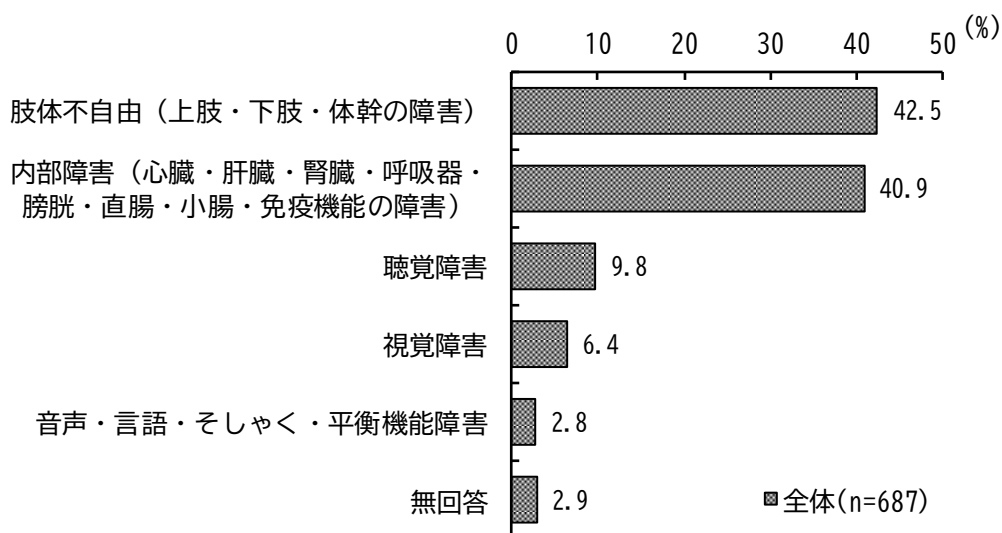
【特定医療受給者証】

						(人)
			受給して いる	受給して いない	無回答	所持者数 (再掲)
全体		(N=1,413)	244	166	1,003	244
年代別	18～39歳	(n=312)	40	64	208	40
	40～64歳	(n=562)	129	66	367	129
	65歳以上	(n=476)	75	29	372	75

F 6 身体障害者手帳をお持ちの方におたずねします。身体障害者手帳に記載された項目は次のどれですか。
(いくつでも○)

- ・「肢体不自由(上肢・下肢・体幹の障害)」(42.5%)が最も多く、次いで「内部障害(心臓・肝臓・腎臓・呼吸器・膀胱・直腸・小腸・免疫機能の障害)」(40.9%)、「聴覚障害」(9.8%)が続いている。

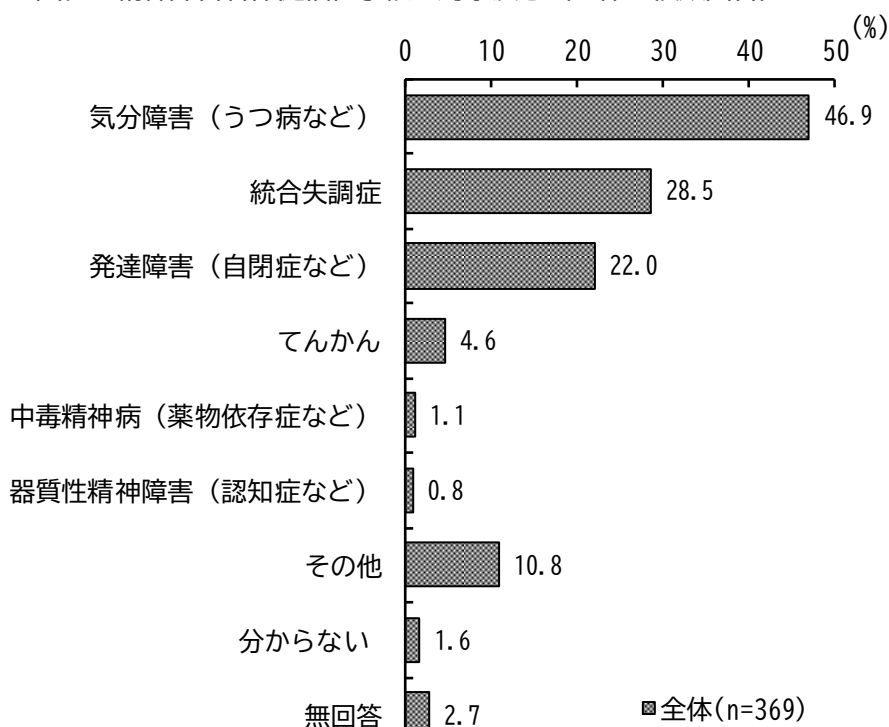
図表 身体障害者手帳に記載された項目(全体:複数回答)



F 7 精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方におたずねします。精神障害者保健福祉手帳の対象疾患は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「気分障害(うつ病など)」(46.9%)が最も多く、次いで「統合失調症」(28.5%)、「発達障害(自閉症など)」(22.0%)が続いている。

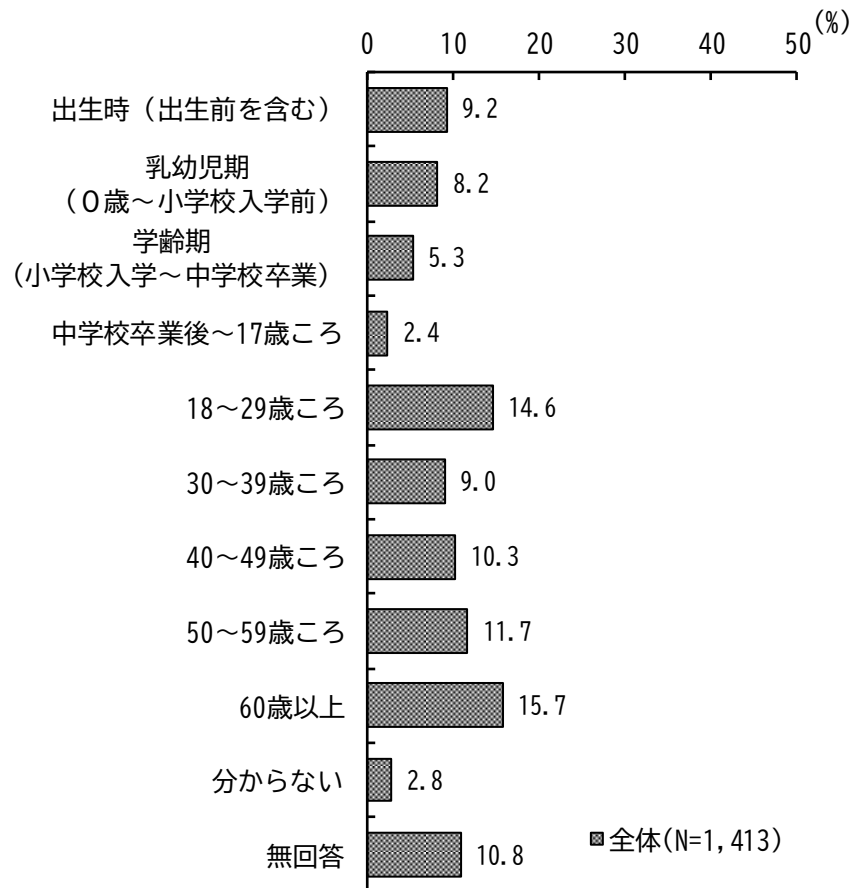
図表 精神障害者保健福祉手帳の対象疾患(全体:複数回答)



F8 主な障害や疾病が生じたのは、いつごろですか。(1つに○)

- ・「60歳以上」(15.7%)が最も多く、次いで「18～29歳ころ」(14.6%) 「50～59歳ころ」(11.7%)が続いている。

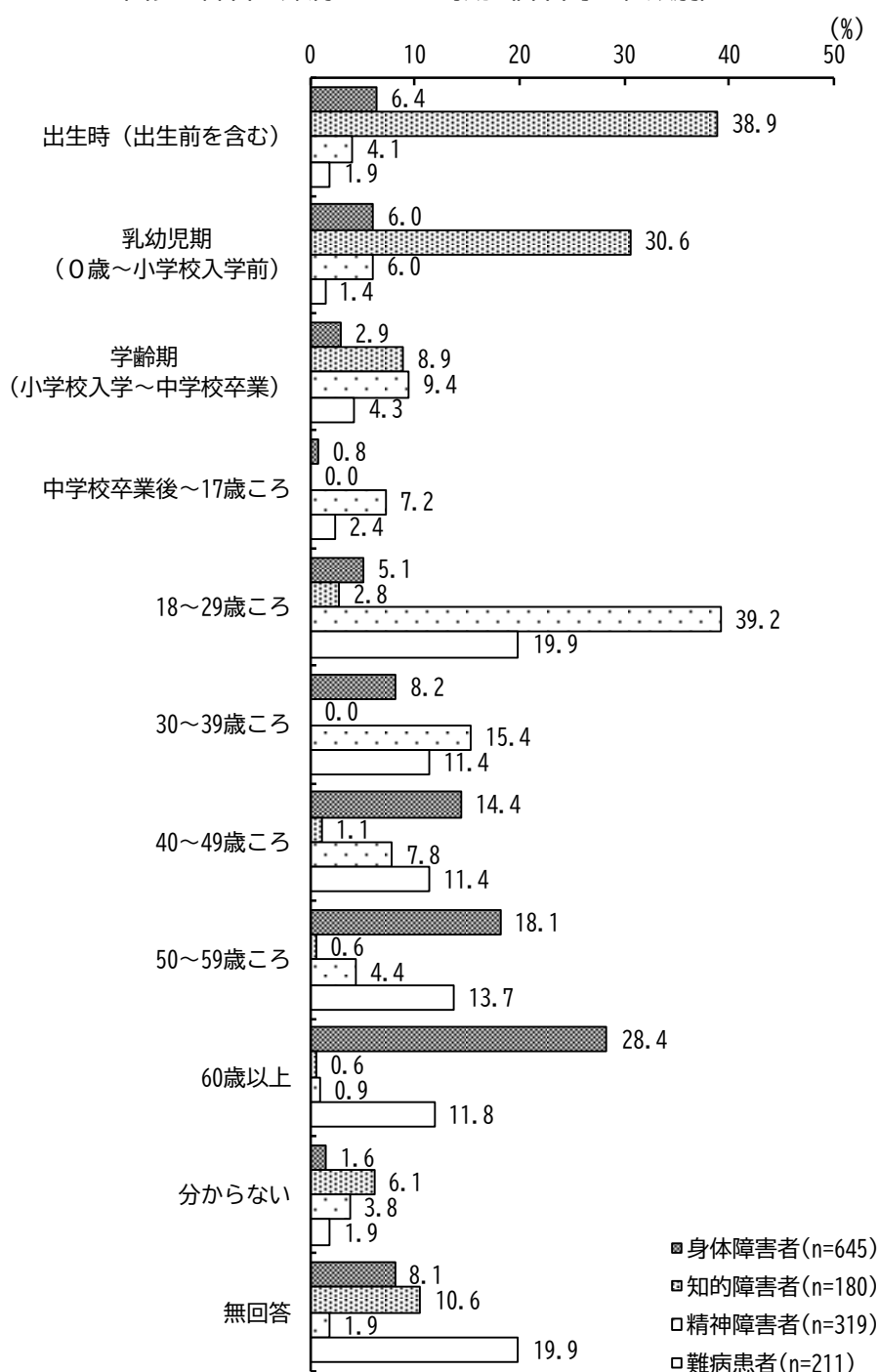
図表 障害・難病が生じた時期(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「60 歳以上」(28.4%)が最も多く、次いで「50～59 歳ころ」(18.1%)、「40～49 歳ころ」(14.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「出生時(出生前を含む)」(38.9%)が最も多く、次いで「乳幼児期(0 歳～小学校入学前)」(30.6%)、「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(8.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「18～29 歳ころ」(39.2%)が最も多く、次いで「30～39 歳ころ」(15.4%)、「学齢期(小学校入学～中学校卒業)」(9.4%)が続いている。
- ・難病患者は「18～29 歳ころ」(19.9%)が最も多く、次いで「50～59 歳ころ」(13.7%)、「60 歳以上」(11.8%)が続いている。

図表 障害・難病が生じた時期（障害等の種類別）

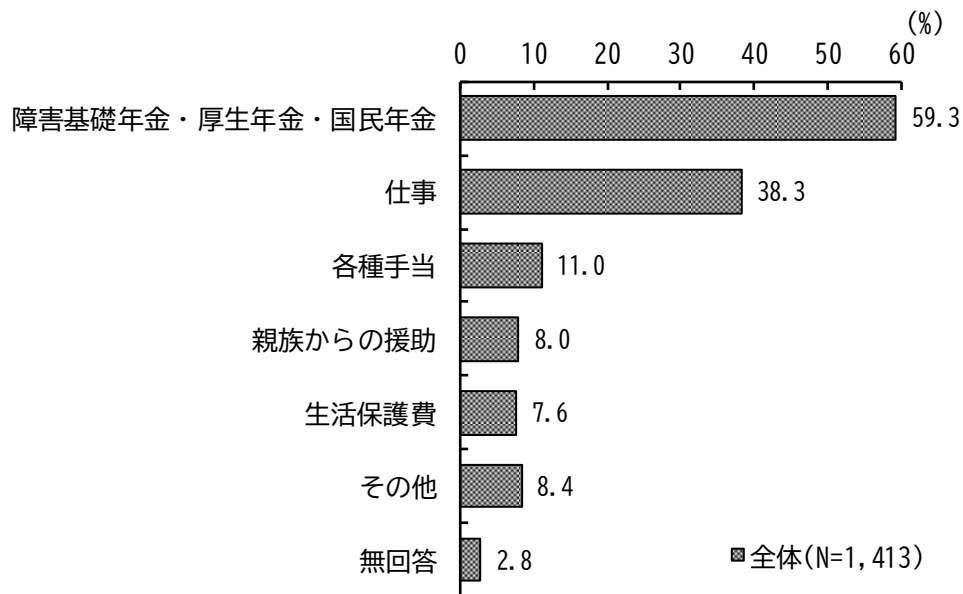


F9 あなたの収入源と年収はどれくらいですか。年収は、税金などを差し引く前の額でお答えください。
年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含みます。

(1) 収入源(いくつでも○)

- ・「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(59.3%)が最も多く、次いで「仕事」(38.3%)、「各種手当」(11.0%)が続いている。

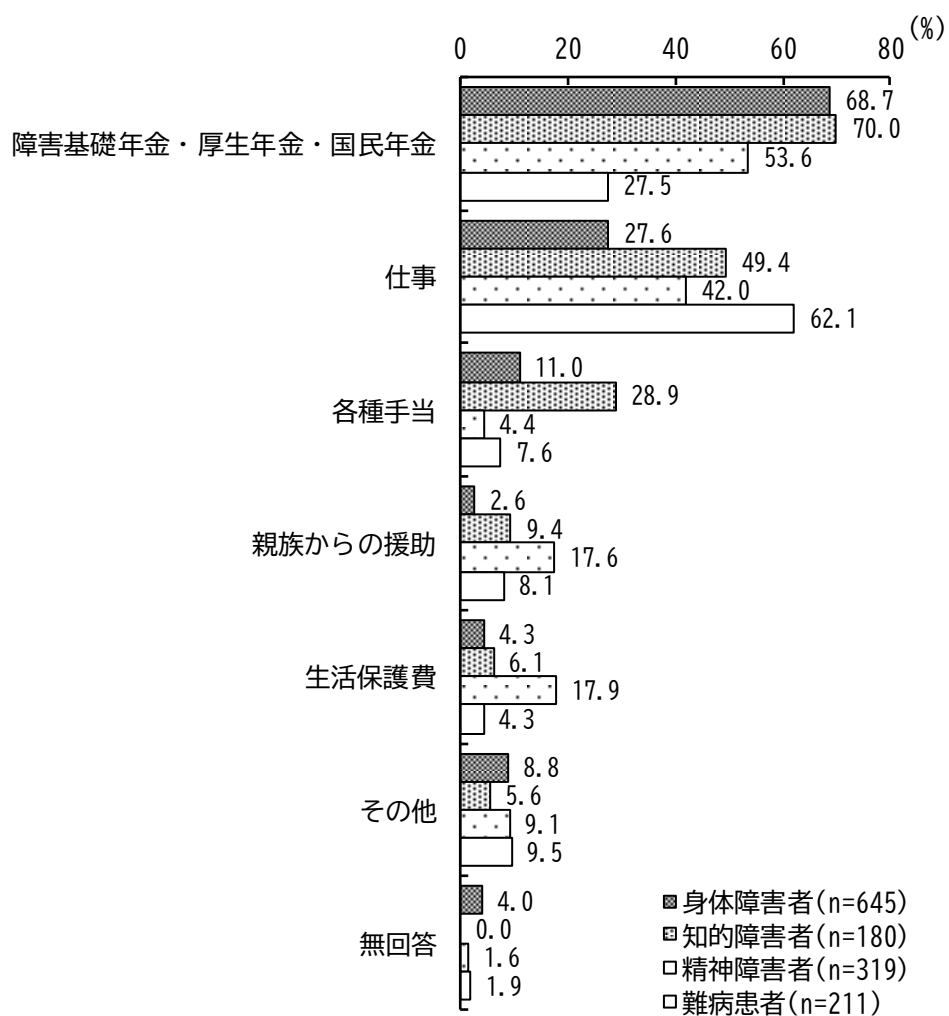
図表 収入源 (全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(68.7%)が最も多く、次いで「仕事」(27.6%)、「各種手当」(11.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(70.0%)が最も多く、次いで「仕事」(49.4%)、「各種手当」(28.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(53.6%)が最も多く、次いで「仕事」(42.0%)、「生活保護費」(17.9%)が続いている。
- ・難病患者は「仕事」(62.1%)が最も多く、次いで「障害基礎年金・厚生年金・国民年金」(27.5%)、「その他」(9.5%)が続いている。

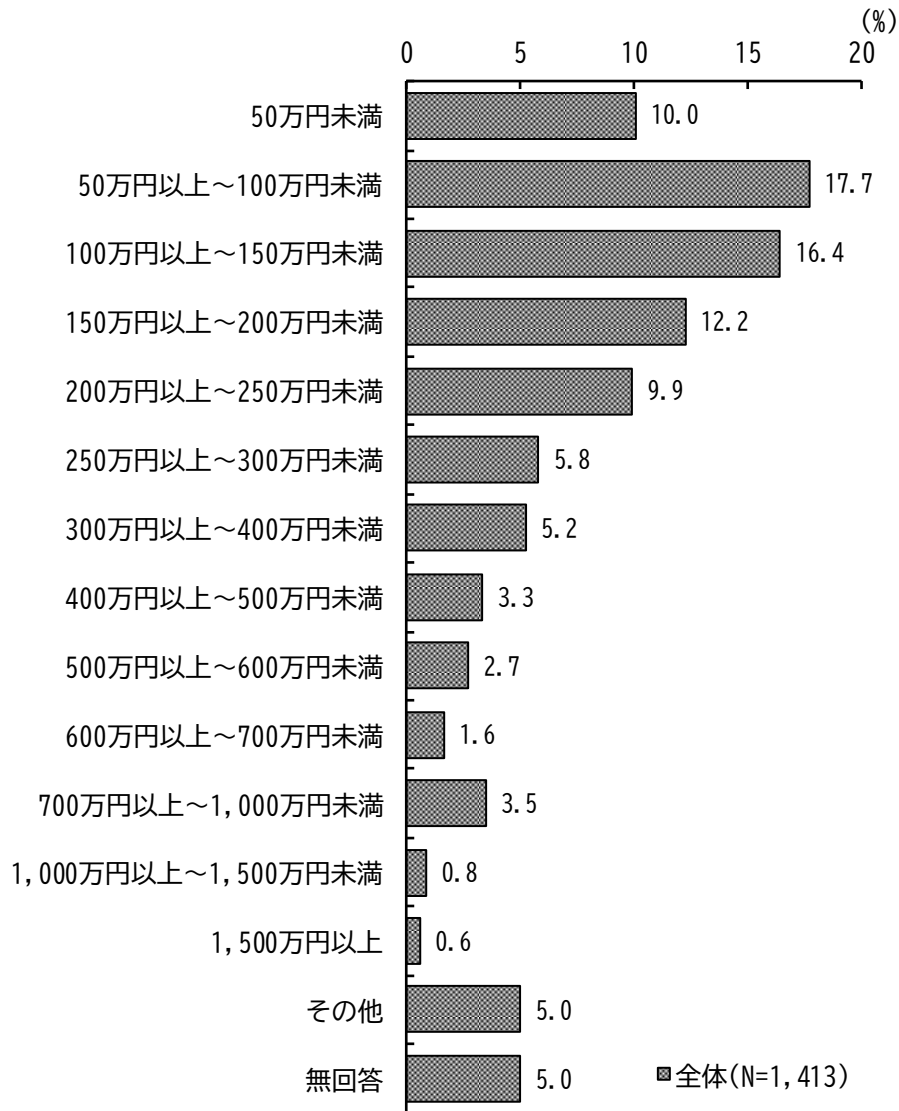
図表 収入源（障害等の種類別：複数回答）



F9 (2) 年収 (1つに○)

- ・「50万円以上～100万円未満」(17.7%)が最も多く、次いで「100万円以上～150万円未満」(16.4%)、「150万円以上～200万円未満」(12.2%)が続いている。

図表 年収 (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「100万円以上～150万円未満」（15.7%）が最も多く、次いで「50万円以上～100万円未満」（14.7%）、「200万円以上～250万円未満」（14.0%）が続いている。
- ・知的障害者は「50万円以上～100万円未満」（22.8%）が最も多く、次いで「100万円以上～150万円未満」（20.0%）、「150万円以上～200万円未満」（16.7%）が続いている。
- ・精神障害者は「50万円以上～100万円未満」（20.7%）が最も多く、次いで「100万円以上～150万円未満」（20.4%）、「50万円未満」（13.2%）が続いている。
- ・難病患者は「50万円以上～100万円未満」（15.6%）が最も多く、次いで「150万円以上～200万円未満」（11.4%）、「100万円以上～150万円未満」（10.9%）が続いている。

図表 年収（障害等の種類別）

			50万円未満	50万円以上～100万円未満	100万円以上～150万円未満	150万円以上～200万円未満	200万円以上～250万円未満	250万円以上～300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上～500万円未満	(%)
全体		(N=1,413)	10.0	17.7	16.4	12.2	9.9	5.8	5.2	3.3	
障害種別	身体障害者	(n=645)	6.4	14.7	15.7	12.2	14.0	6.8	5.9	3.4	
	知的障害者	(n=180)	14.4	22.8	20.0	16.7	9.4	3.3	2.2	0.0	
	精神障害者	(n=319)	13.2	20.7	20.4	11.9	6.3	4.7	3.8	3.1	
	難病患者	(n=211)	10.4	15.6	10.9	11.4	4.3	5.7	9.5	7.1	

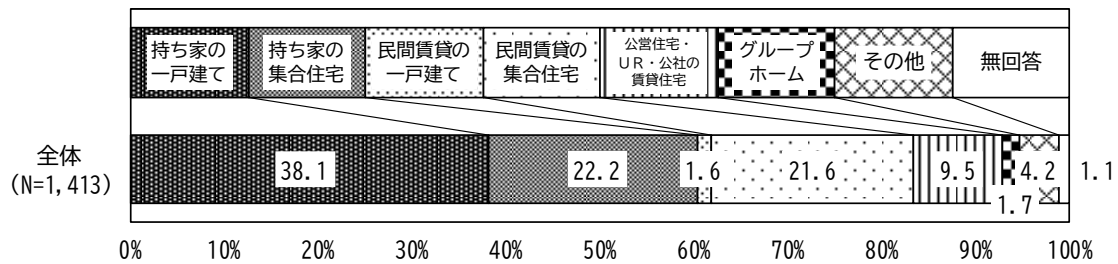
			500万円以上～600万円未満	600万円以上～700万円未満	700万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上～1,500万円未満	1,500万円以上	その他	無回答
全体		(N=1,413)	2.7	1.6	3.5	0.8	0.6	2.5	7.6
障害種別	身体障害者	(n=645)	2.2	1.7	4.3	1.2	1.1	2.0	8.4
	知的障害者	(n=180)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	7.2
	精神障害者	(n=319)	2.5	0.6	1.6	0.0	0.0	3.8	7.5
	難病患者	(n=211)	7.1	4.7	6.6	1.9	0.0	1.4	3.3

(2) 住んでいる住宅について

問1 あなたが住んでいる住宅は次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「持ち家の一戸建て」(38.1%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(22.2%)、「民間賃貸の集合住宅」(21.6%)が続いている。

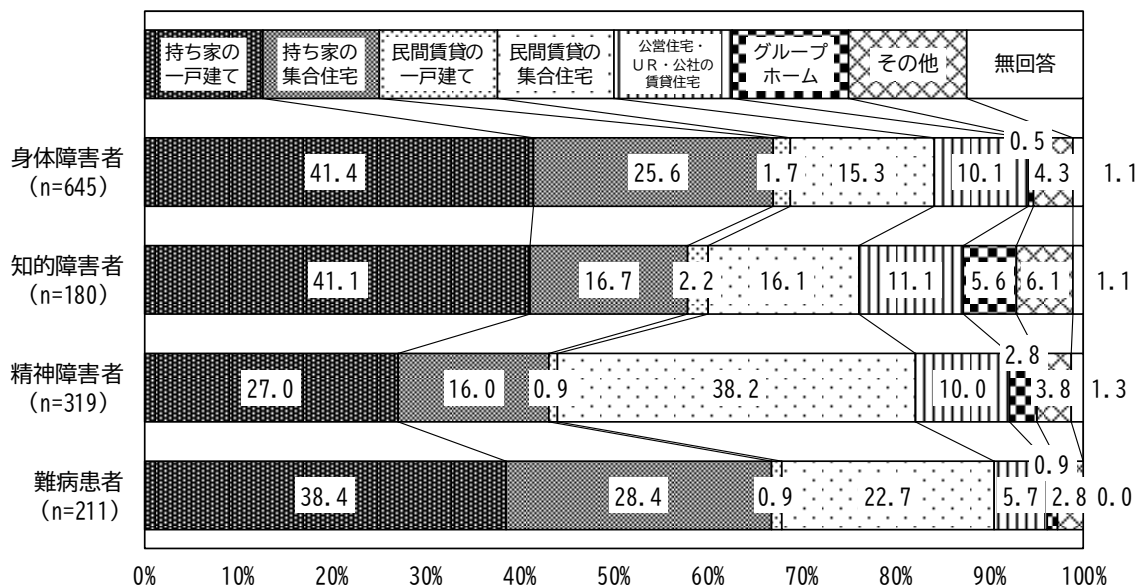
図表 住居形態（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「持ち家の一戸建て」(41.4%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(25.6%)、「民間賃貸の集合住宅」(15.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「持ち家の一戸建て」(41.1%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(16.7%)、「民間賃貸の集合住宅」(16.1%)が続いている。
- ・精神障害者は「民間賃貸の集合住宅」(38.2%)が最も多く、次いで「持ち家の一戸建て」(27.0%)、「持ち家の集合住宅」(16.0%)が続いている。
- ・難病患者は「持ち家の一戸建て」(38.4%)が最も多く、次いで「持ち家の集合住宅」(28.4%)、「民間賃貸の集合住宅」(22.7%)が続いている。

図表 住居形態（障害等の種類別）



問2 あなたが住んでいる住宅について何か困っていることがありますか。

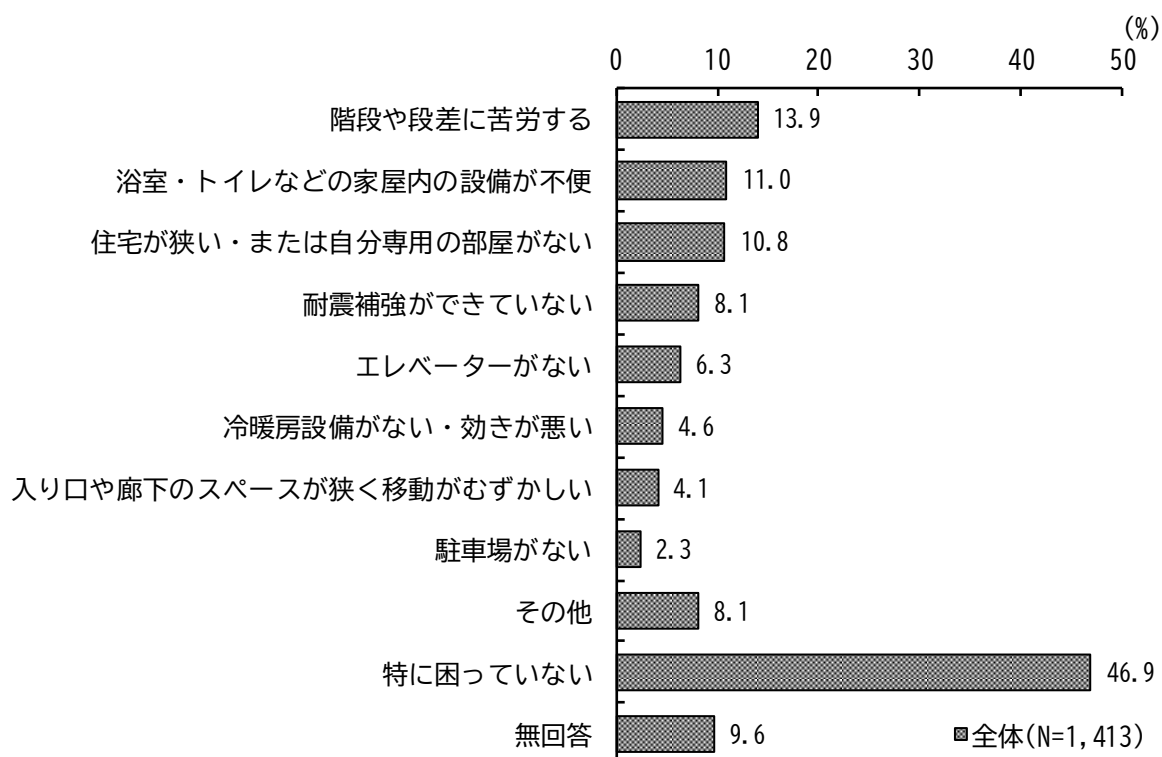
(1) 設計・設備について(いくつでも○)

(2) 住宅事情について(いくつでも○)

(1) 設計・設備について

- ・「特に困っていない」(46.9%)が最も多いが、それ以外では「階段や段差に苦勞する」(13.9%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(11.0%)、「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない」(10.8%)が続いている。

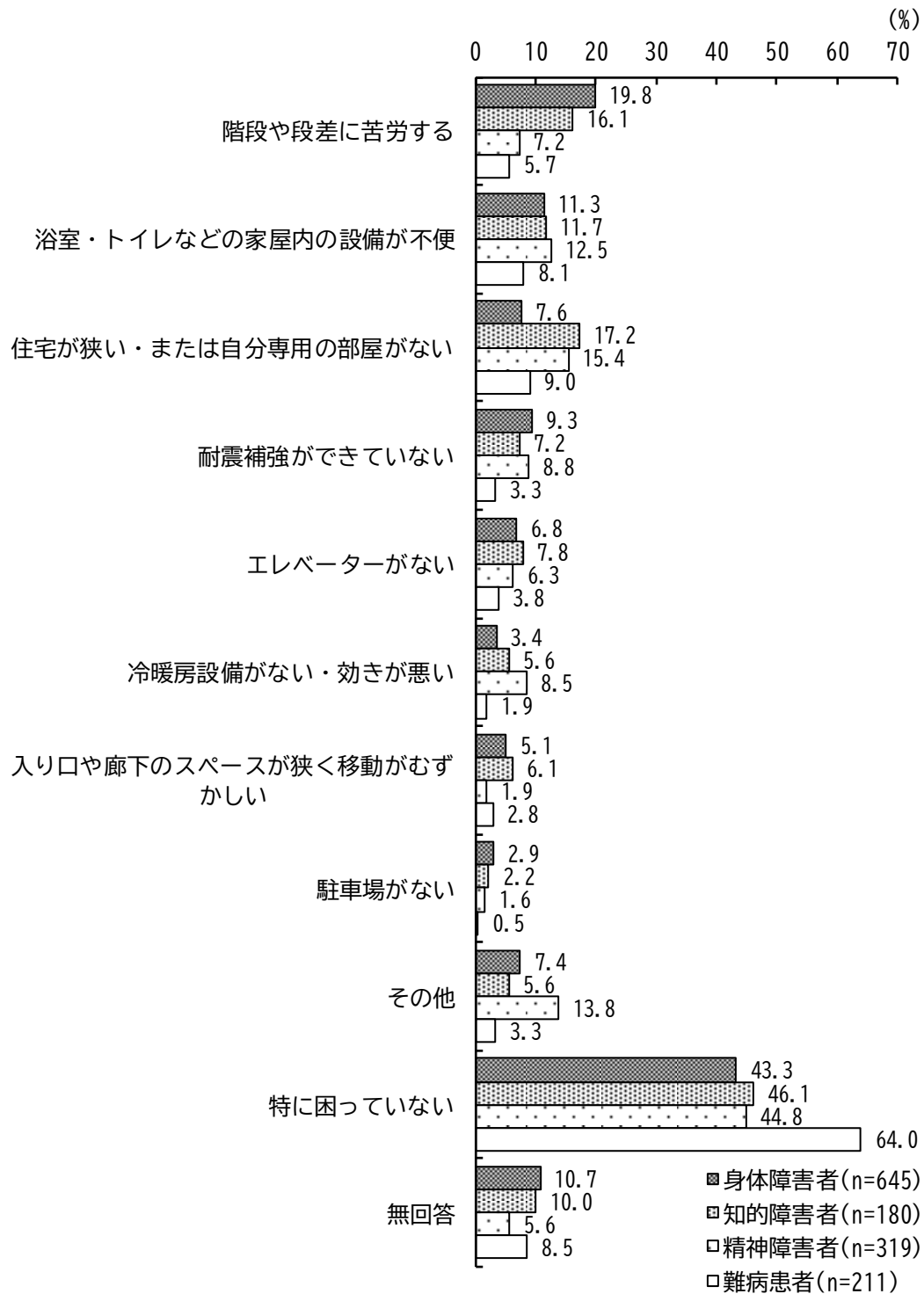
図表 住居について困っていること：設計・設備（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(43.3%)が最も多いが、それ以外では「階段や段差に苦勞する」(19.8%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(11.3%)、「耐震補強ができていない」(9.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(46.1%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない」(17.2%)、「階段や段差に苦勞する」(16.1%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(11.7%)が続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(44.8%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない」(15.4%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(12.5%)、「その他」(13.8%)が続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(64.0%)が最も多いが、それ以外では「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない」(9.0%)、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便」(8.1%)、「階段や段差に苦勞する」(5.7%)が続いている。

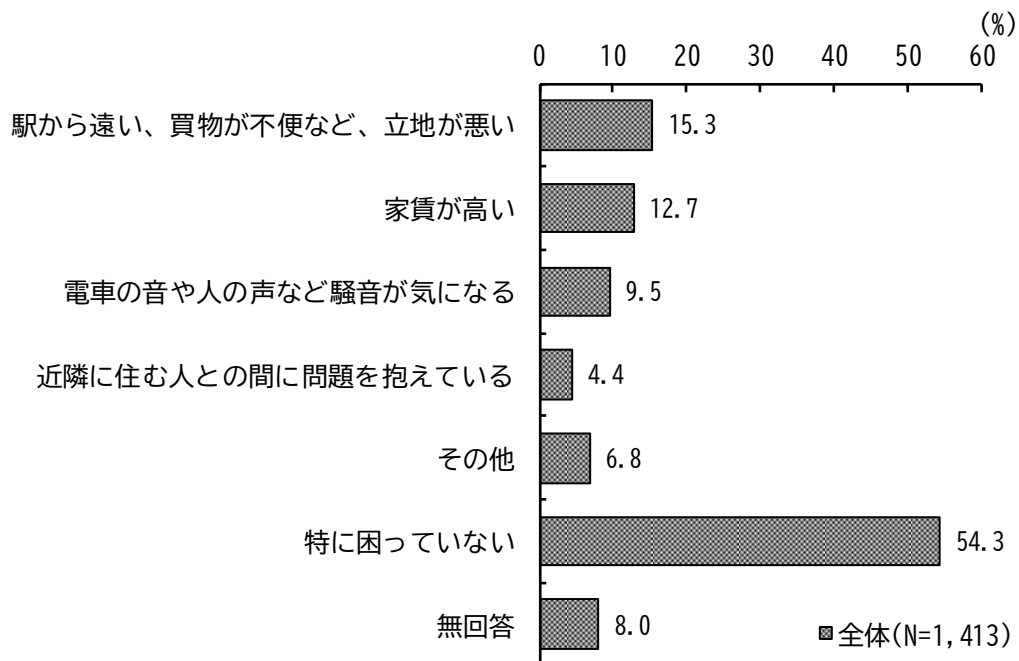
図表 住居について困っていること：設計・設備（障害等の種類別：複数回答）



(2) 住宅事情について

- ・「特に困っていない」(54.3%)が最も多いが、それ以外では「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(15.3%)、「家賃が高い」(12.7%)、「電車の音や人の声など騒音が気になる」(9.5%)が続いている。

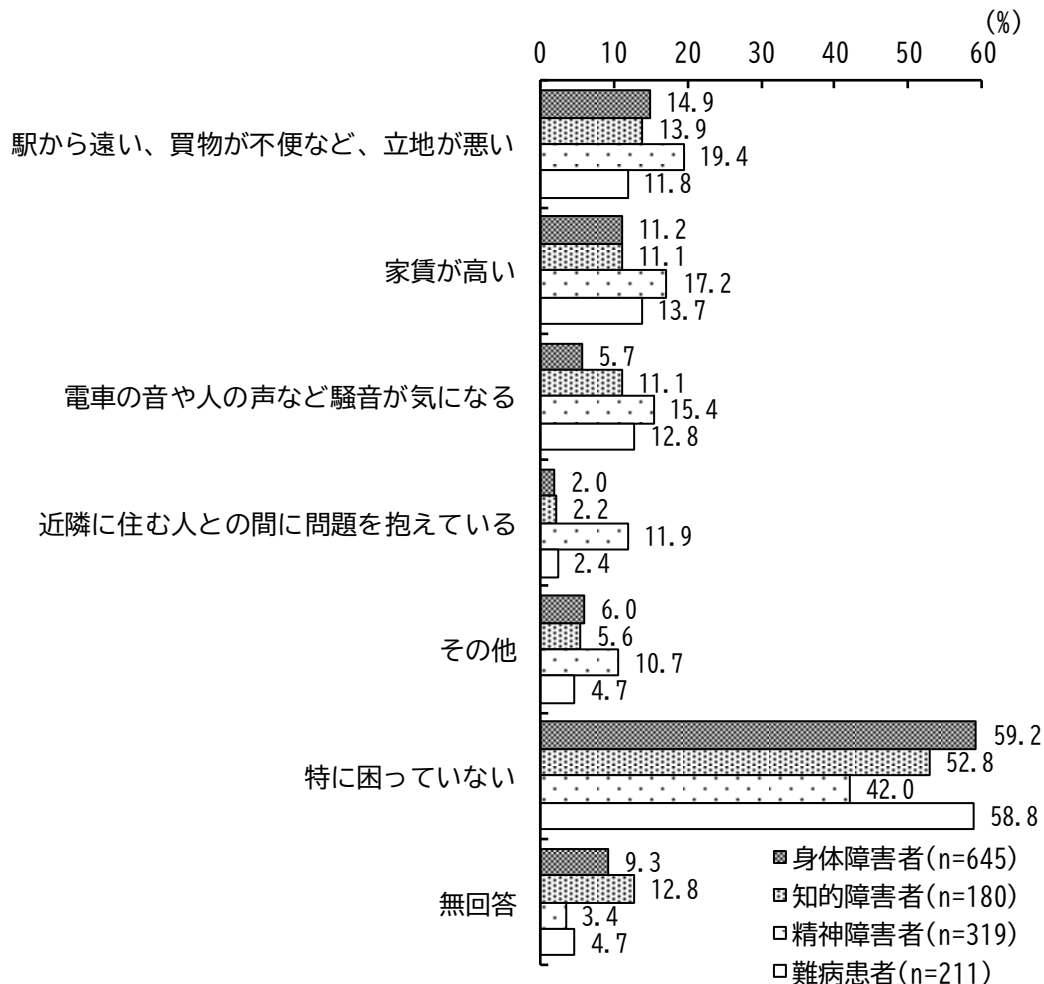
図表 住居について困っていること：住宅事情（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「特に困っていない」(59.2%)が最も多いが、それ以外では「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(14.9%)、「家賃が高い」(11.2%)、「その他」(6.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「特に困っていない」(52.8%)が最も多いが、それ以外では「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(13.9%)、「家賃が高い」と「電車の音や人の声など騒音が気になる」(それぞれ11.1%)が同率で続いている。
- ・精神障害者は「特に困っていない」(42.0%)が最も多いが、それ以外では「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(19.4%)、「家賃が高い」(17.2%)、「電車の音や人の声など騒音が気になる」(15.4%)が続いている。
- ・難病患者は「特に困っていない」(58.8%)が最も多いが、それ以外では「家賃が高い」(13.7%)、「電車の音や人の声など騒音が気になる」(12.8%)、「駅から遠い、買物が不便など、立地が悪い」(11.8%)が続いている。

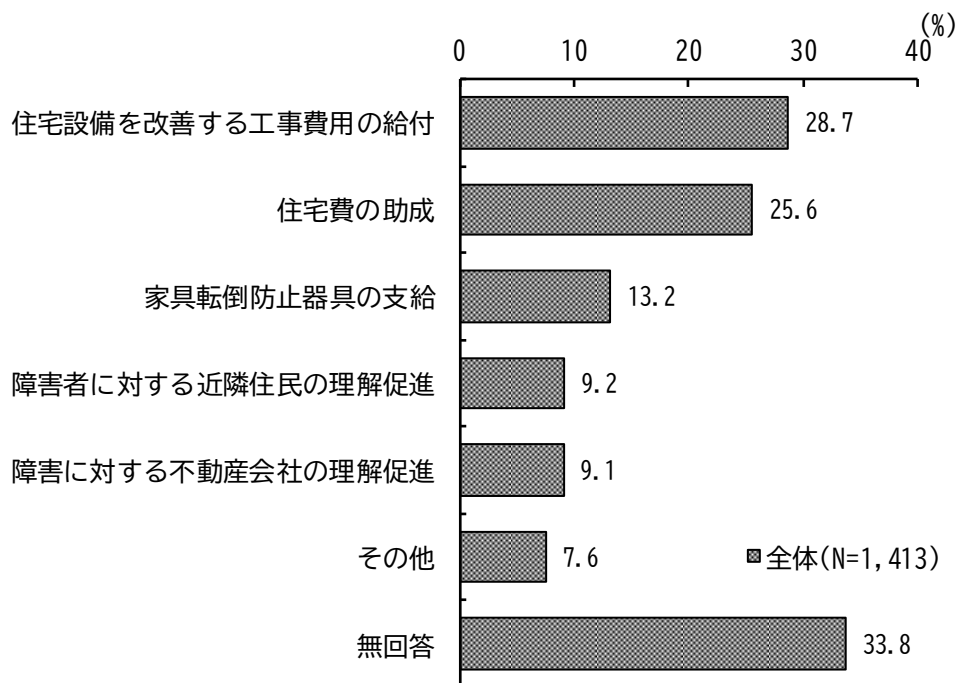
図表 住居について困っていること：住宅事情（障害等の種類別：複数回答）



問3 あなたが住んでいる住宅に関する困りごとで、希望する支援は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「住宅設備を改善する工事費用の給付」(28.7%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(25.6%)、「家具転倒防止器具の支給」(13.2%)が続いている。

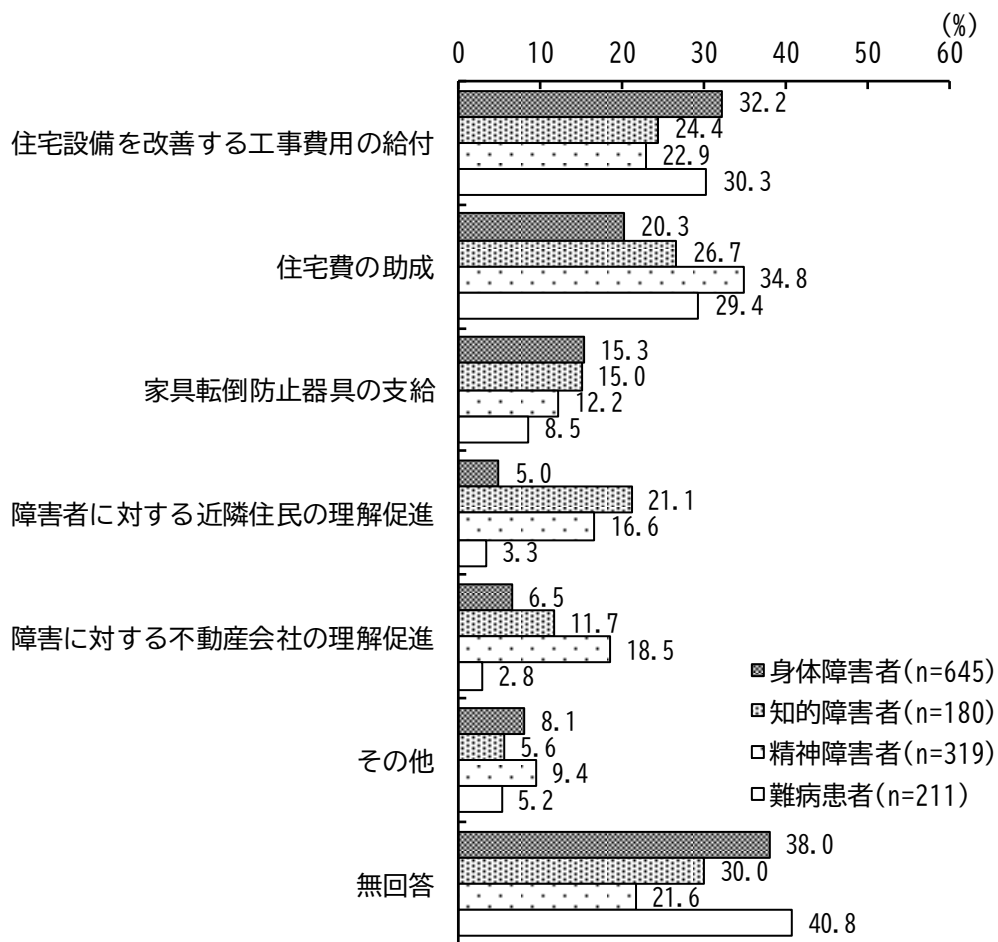
図表 住居の困りごとに対して希望する支援（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「住宅設備を改善する工事費用の給付」(32.2%)が最も多く、次いで「住宅費の助成」(20.3%)、「家具転倒防止器具の支給」(15.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「住宅費の助成」(26.7%)が最も多く、次いで「住宅設備を改善する工事費用の給付」(24.4%)、「障害者に対する近隣住民の理解促進」(21.1%)が続いている。
- ・精神障害者は「住宅費の助成」(34.8%)が最も多く、次いで「住宅設備を改善する工事費用の給付」(22.9%)、「障害者に対する不動産会社の理解促進」(18.5%)が続いている。
- ・難病患者は「住宅設備を改善する工事費用の給付」(30.3%)が最も多く、次いで、「住宅費の助成」(29.4%)、「家具転倒防止器具の支給」(8.5%)が続いている。

図表 住居の困りごとに対して希望する支援（障害等の種類別：複数回答）



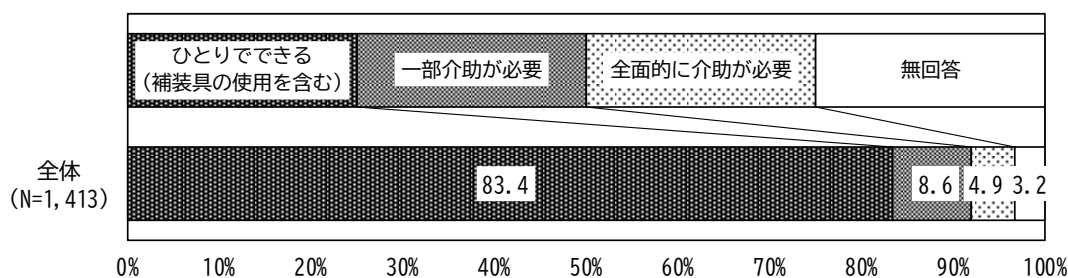
(3) 日常生活について

問4 あなたの日常生活についておたずねします。次のそれぞれの状況について、1～3のいずれか1つに○をつけてください。((1)～(11)について、それぞれ1つに○)

(1) 日常生活の状況(ADL)等：食事

- ・「一部介助が必要」が8.6%、「全面的に介助が必要」が4.9%である。

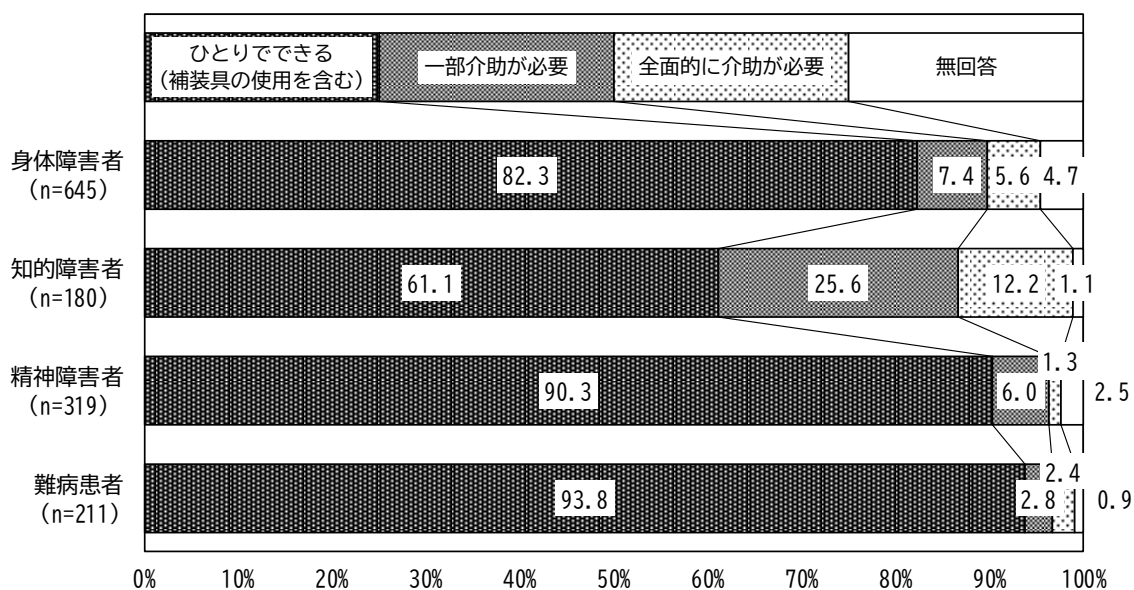
図表 日常生活の状況(ADL)等：食事（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が7.4%、「全面的に介助が必要」が5.6%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が25.6%、「全面的に介助が必要」が12.2%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が6.0%、「全面的に介助が必要」が1.3%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が2.8%、「全面的に介助が必要」が2.4%である。

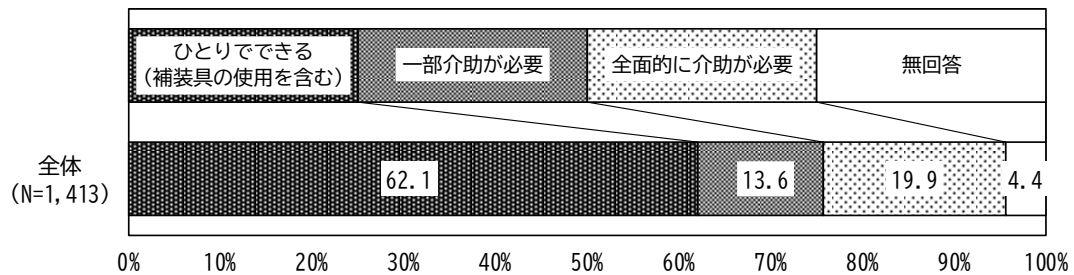
図表 日常生活の状況(ADL)等：食事（障害等の種類別）



(2) 日常生活の状況(ADL)等：調理

- ・「一部介助が必要」が13.6%、「全面的に介助が必要」が19.9%である。

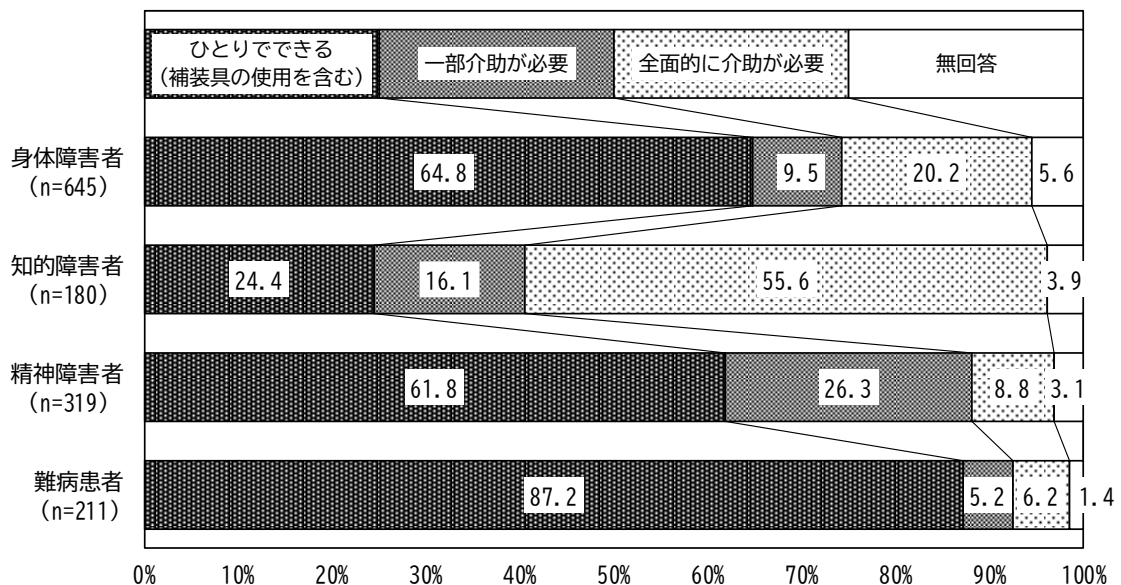
図表 日常生活の状況(ADL)等：調理（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が9.5%、「全面的に介助が必要」が20.2%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が16.1%、「全面的に介助が必要」が55.6%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が26.3%、「全面的に介助が必要」が8.8%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が5.2%、「全面的に介助が必要」が6.2%である。

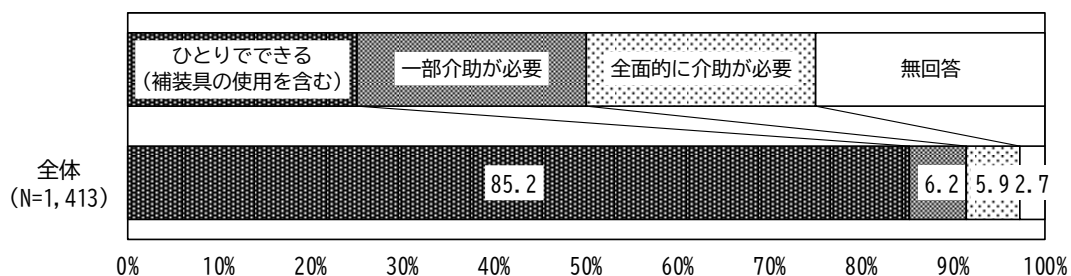
図表 日常生活の状況(ADL)等：調理（障害等の種類別）



(3) 日常生活の状況(ADL)等：排泄

- ・「一部介助が必要」が6.2%、「全面的に介助が必要」が5.9%である。

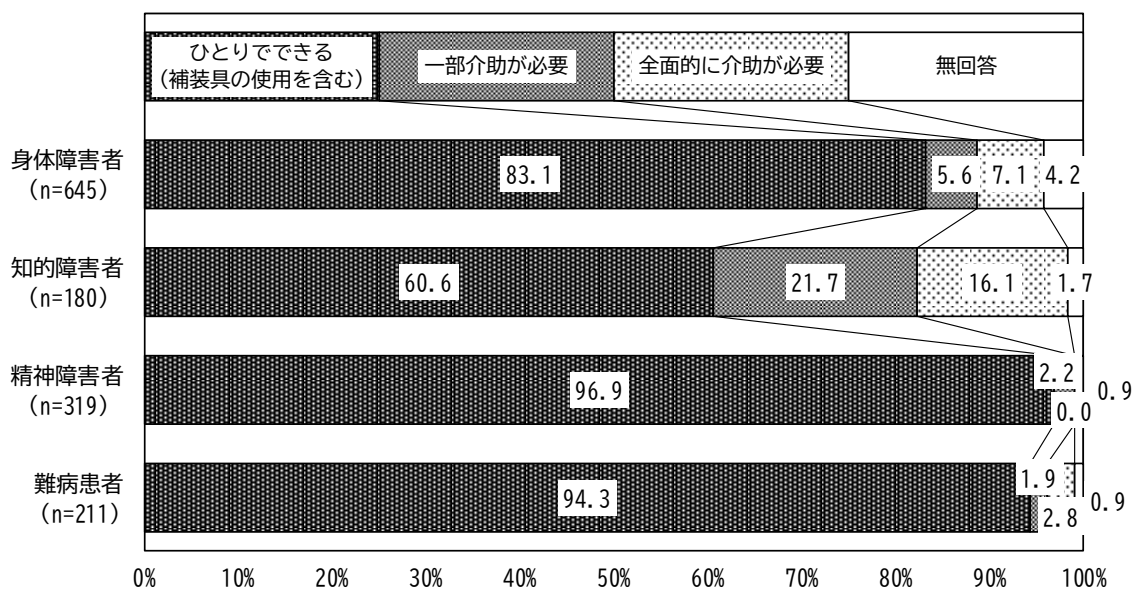
図表 日常生活の状況(ADL)等：排泄（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が5.6%、「全面的に介助が必要」が7.1%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が21.7%、「全面的に介助が必要」が16.1%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が2.2%、「全面的に介助が必要」が0.0%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が1.9%、「全面的に介助が必要」が2.8%である。

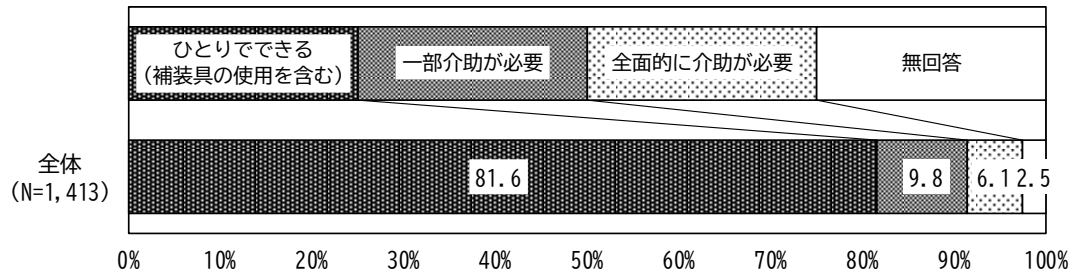
図表 日常生活の状況(ADL)等：排泄（障害等の種類別）



(4) 日常生活の状況(ADL)等：着替え

- ・「一部介助が必要」が9.8%、「全面的に介助が必要」が6.1%である。

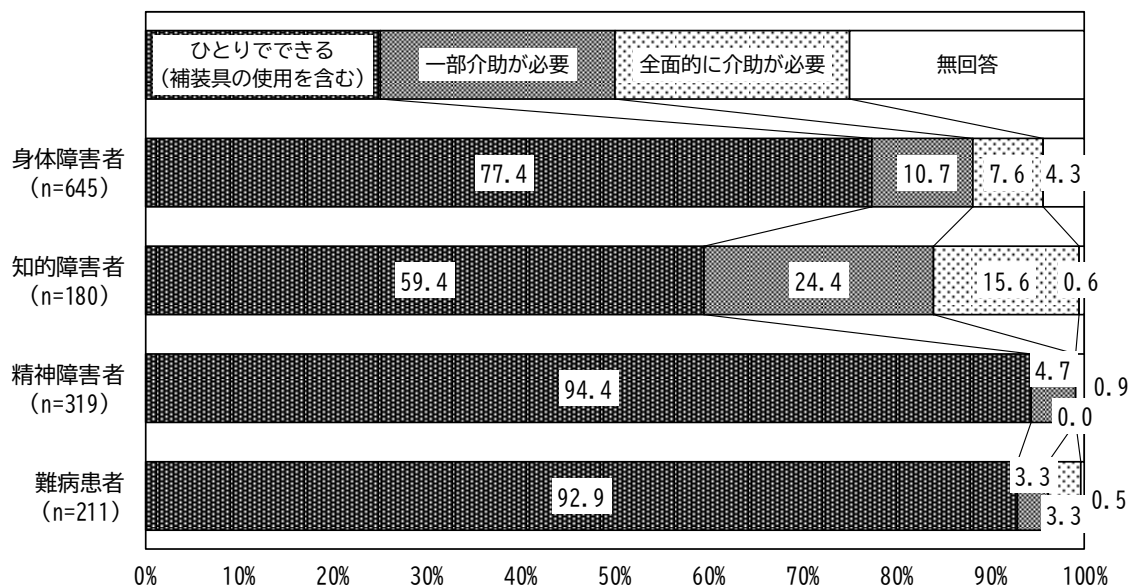
図表 日常生活の状況(ADL)等：着替え（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が10.7%、「全面的に介助が必要」が7.6%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が24.4%、「全面的に介助が必要」が15.6%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が4.7%、「全面的に介助が必要」が0.0%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が3.3%、「全面的に介助が必要」が3.3%である。

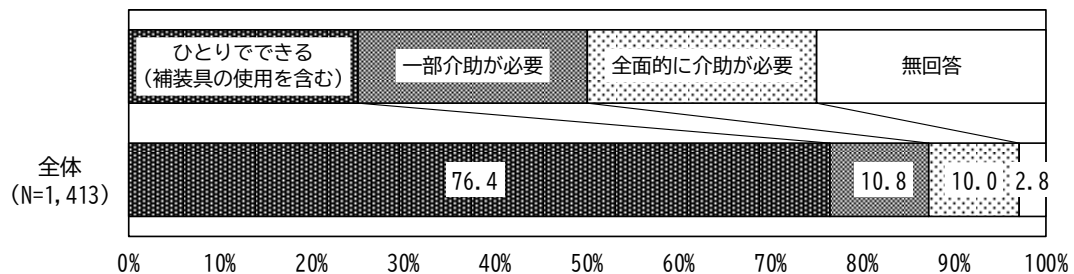
図表 日常生活の状況(ADL)等：着替え（障害等の種類別）



(5) 日常生活の状況(ADL)等：入浴

- ・「一部介助が必要」が10.8%、「全面的に介助が必要」が10.0%である。

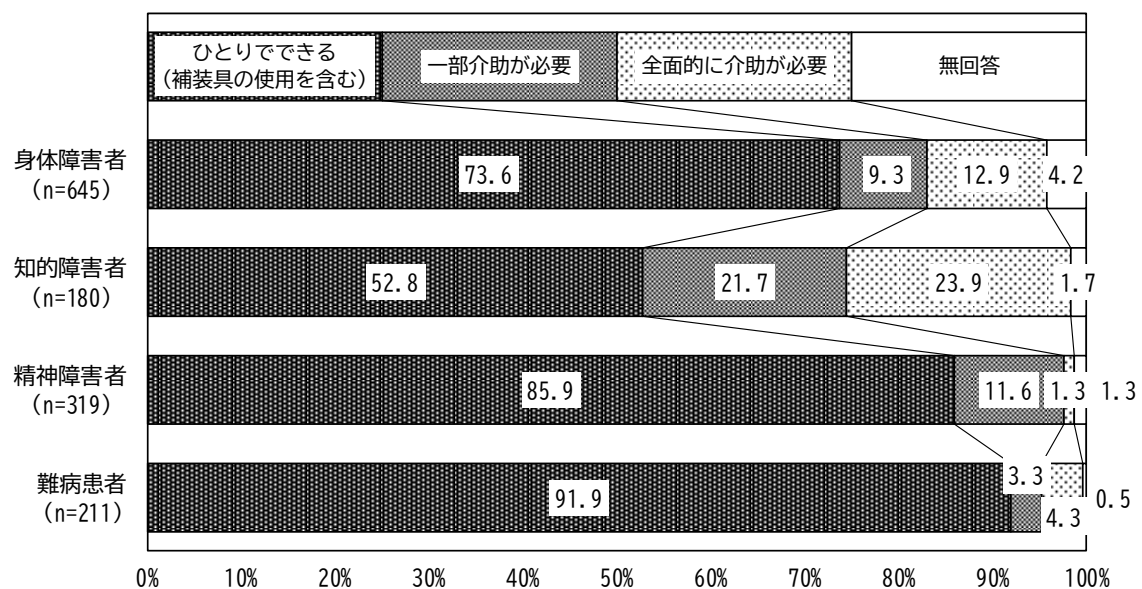
図表 日常生活の状況(ADL)等：入浴（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が9.3%、「全面的に介助が必要」が12.9%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が21.7%、「全面的に介助が必要」が23.9%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が11.6%、「全面的に介助が必要」が1.3%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が3.3%、「全面的に介助が必要」が4.3%である。

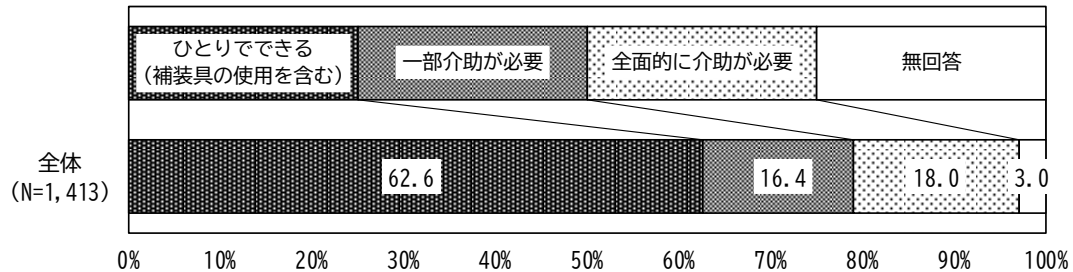
図表 日常生活の状況(ADL)等：入浴（障害等の種類別）



(6) 日常生活の状況(ADL)等：掃除、洗濯

- ・「一部介助が必要」が16.4%、「全面的に介助が必要」が18.0%である。

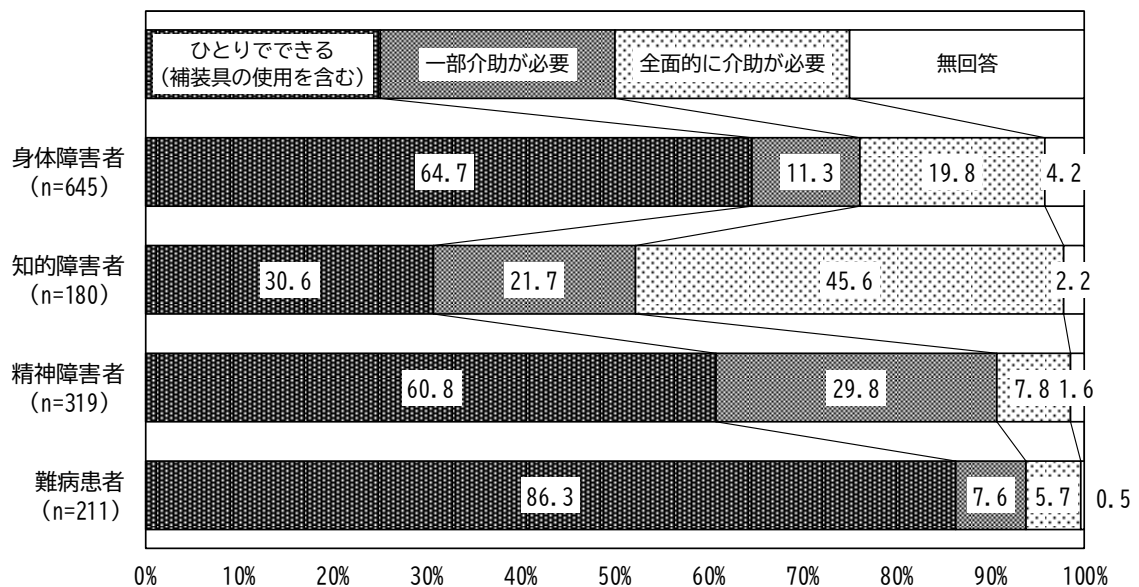
図表 日常生活の状況(ADL)等：掃除、洗濯（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が11.3%、「全面的に介助が必要」が19.8%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が21.7%、「全面的に介助が必要」が45.6%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が29.8%、「全面的に介助が必要」が7.8%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が7.6%、「全面的に介助が必要」が5.7%である。

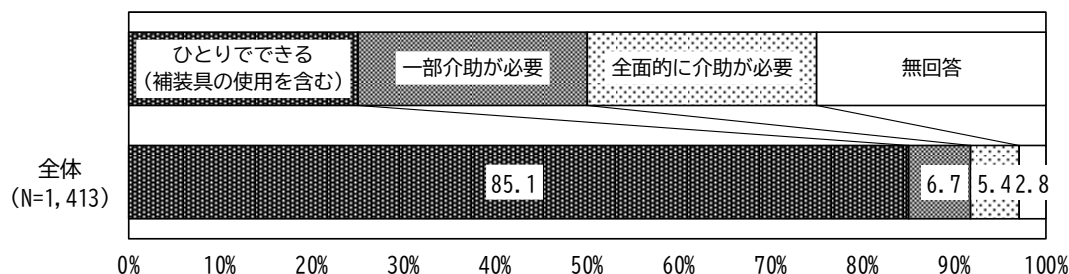
図表 日常生活の状況(ADL)等：掃除、洗濯（障害等の種類別）



(7) 日常生活の状況(ADL)等：室内の移動

- ・「一部介助が必要」が6.7%、「全面的に介助が必要」が5.4%である。

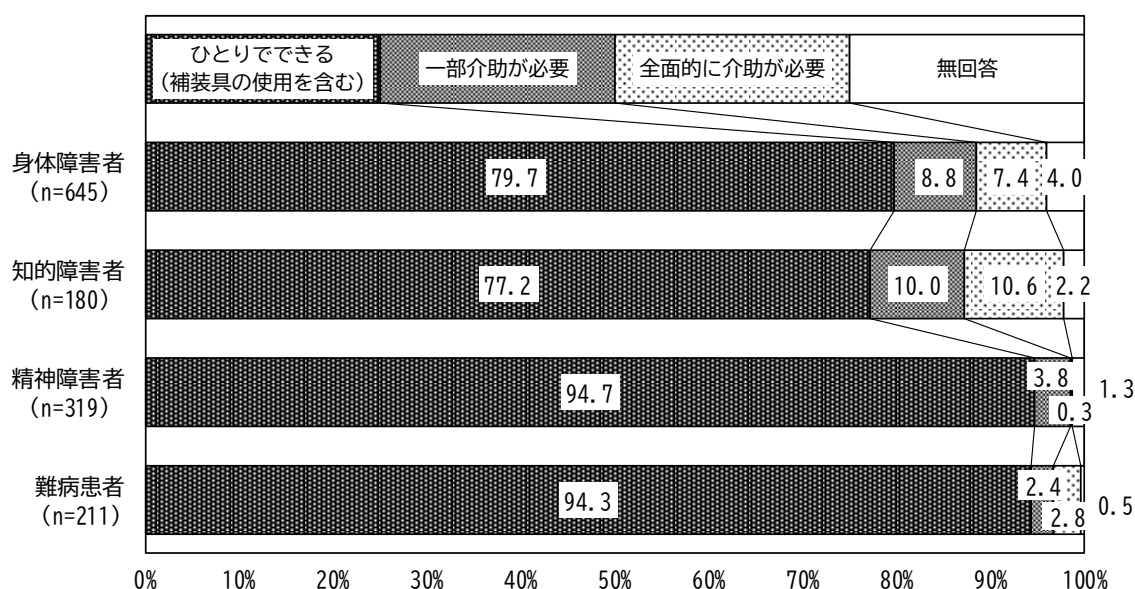
図表 日常生活の状況(ADL)等：室内の移動（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が8.8%、「全面的に介助が必要」が7.4%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が10.0%、「全面的に介助が必要」が10.6%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が3.8%、「全面的に介助が必要」が0.3%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が2.4%、「全面的に介助が必要」が2.8%である。

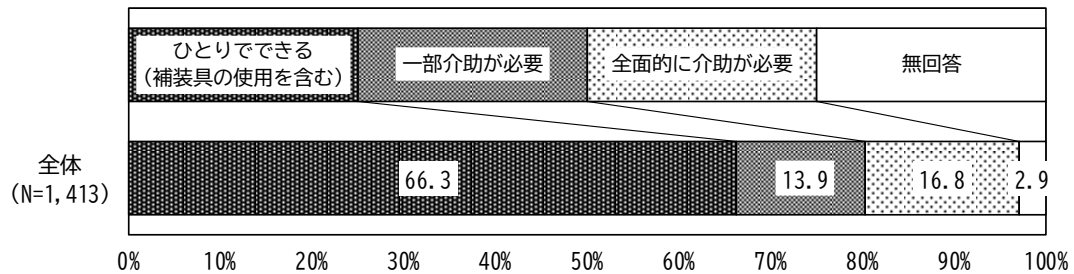
図表 日常生活の状況(ADL)等：室内の移動（障害等の種類別）



(8) 日常生活の状況(ADL)等：お金の管理

- ・「一部介助が必要」が13.9%、「全面的に介助が必要」が16.8%である。

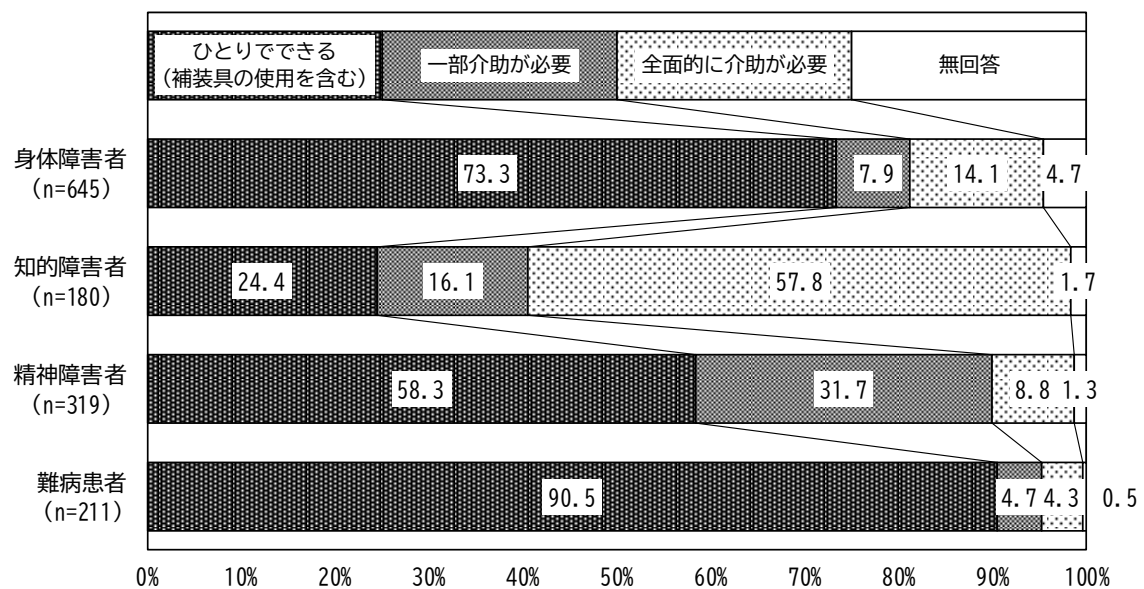
図表 日常生活の状況(ADL)等：お金の管理（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が7.9%、「全面的に介助が必要」が14.1%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が16.1%、「全面的に介助が必要」が57.8%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が31.7%、「全面的に介助が必要」が8.8%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が4.7%、「全面的に介助が必要」が4.3%である。

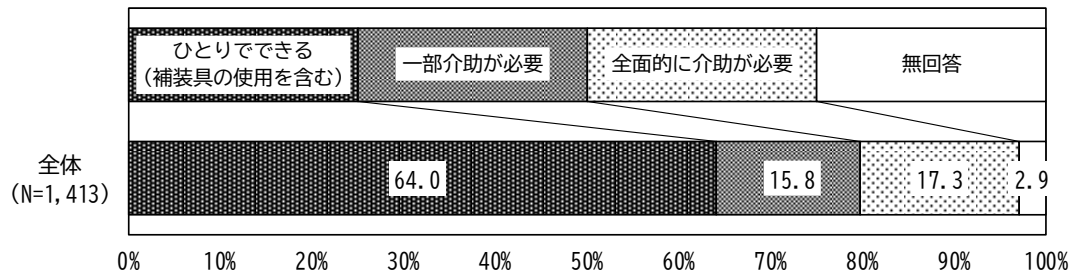
図表 日常生活の状況(ADL)等：お金の管理（障害等の種類別）



(9) 日常生活の状況(ADL)等：外出(買い物なども含む)

- ・「一部介助が必要」が15.8%、「全面的に介助が必要」が17.3%である。

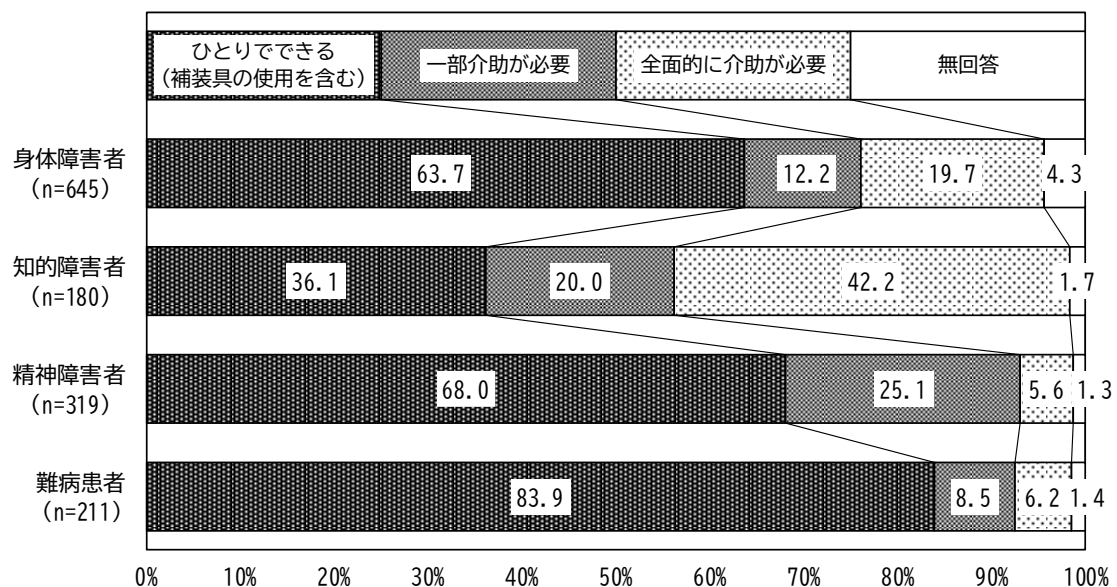
図表 日常生活の状況(ADL)等：外出(買い物なども含む) (全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が12.2%、「全面的に介助が必要」が19.7%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が20.0%、「全面的に介助が必要」が42.2%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が25.1%、「全面的に介助が必要」が5.6%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が8.5%、「全面的に介助が必要」が6.2%である。

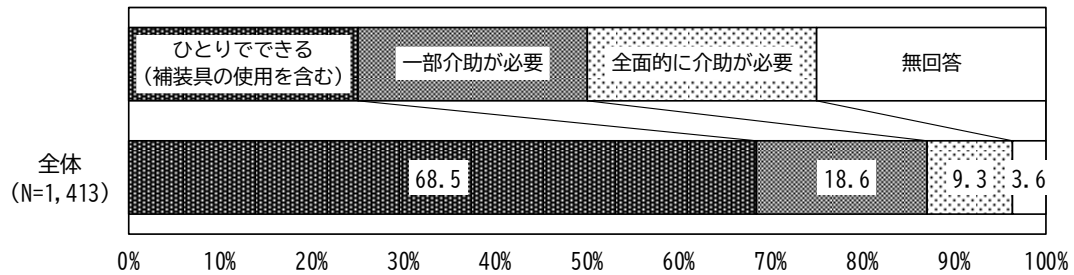
図表 日常生活の状況(ADL)等：外出(買い物なども含む) (障害等の種類別)



(10) 日常生活の状況(ADL)等：人とのコミュニケーション

- ・「一部介助が必要」が18.6%、「全面的に介助が必要」が9.3%である。

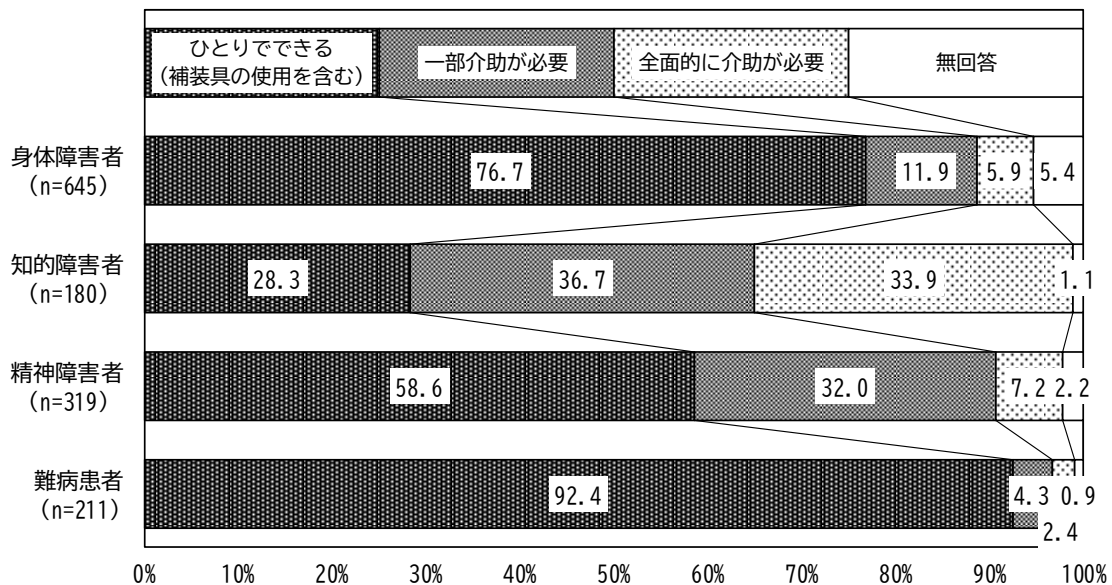
図表 日常生活の状況(ADL)等：人とのコミュニケーション（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が11.9%、「全面的に介助が必要」が5.9%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が36.7%、「全面的に介助が必要」が33.9%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が32.0%、「全面的に介助が必要」が7.2%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が4.3%、「全面的に介助が必要」が2.4%である。

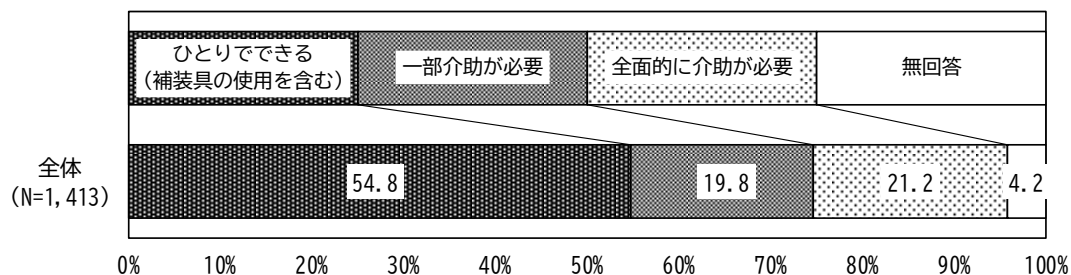
図表 日常生活の状況(ADL)等：人とのコミュニケーション（障害等の種類別）



(11) 日常生活の状況(ADL)等：障害福祉サービスなどの手続き

- ・「一部介助が必要」が19.8%、「全面的に介助が必要」が21.2%である。

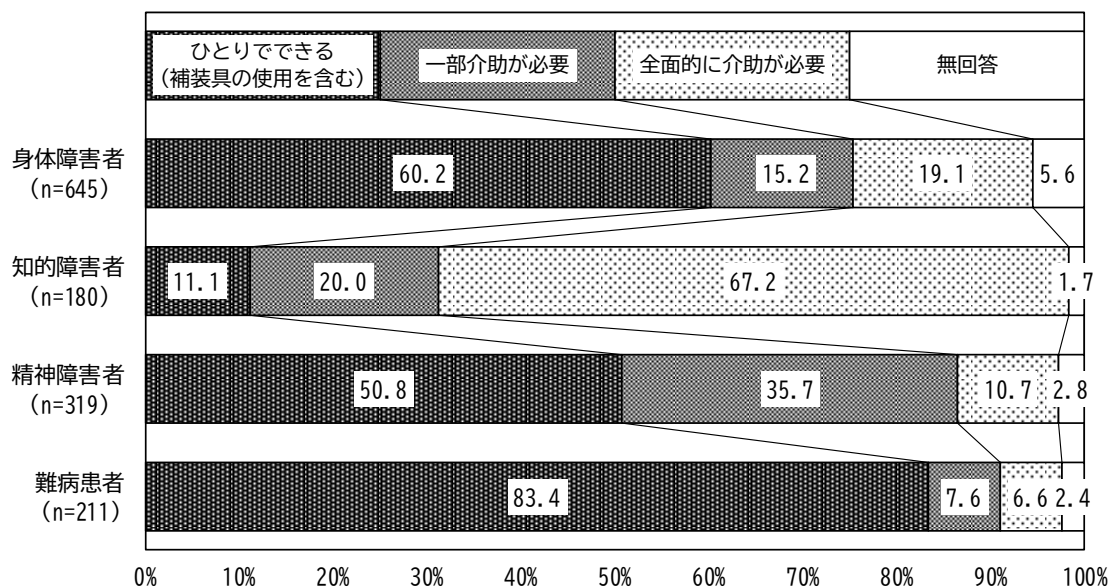
図表 日常生活の状況(ADL)等：障害福祉サービスなどの手続き（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「一部介助が必要」が15.2%、「全面的に介助が必要」が19.1%である。
- ・知的障害者は「一部介助が必要」が20.0%、「全面的に介助が必要」が67.2%である。
- ・精神障害者は「一部介助が必要」が35.7%、「全面的に介助が必要」が10.7%である。
- ・難病患者は「一部介助が必要」が7.6%、「全面的に介助が必要」が6.6%である。

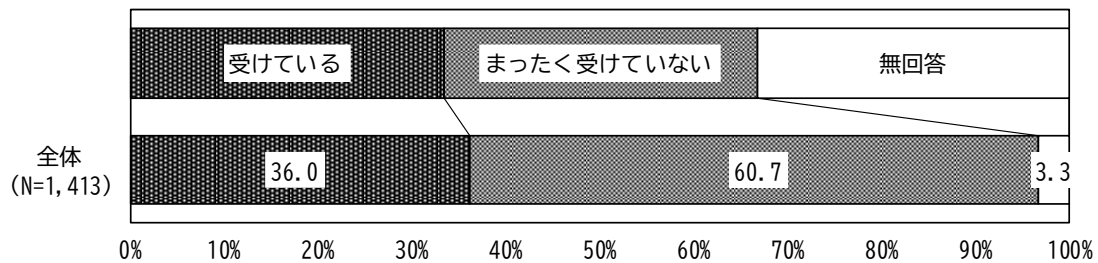
図表 日常生活の状況(ADL)等：障害福祉サービスなどの手続き（障害等の種類別）



問5 あなたは、日常生活において何らかの介助を受けていますか。(1つに○)

- ・「受けている」は36.0%である。

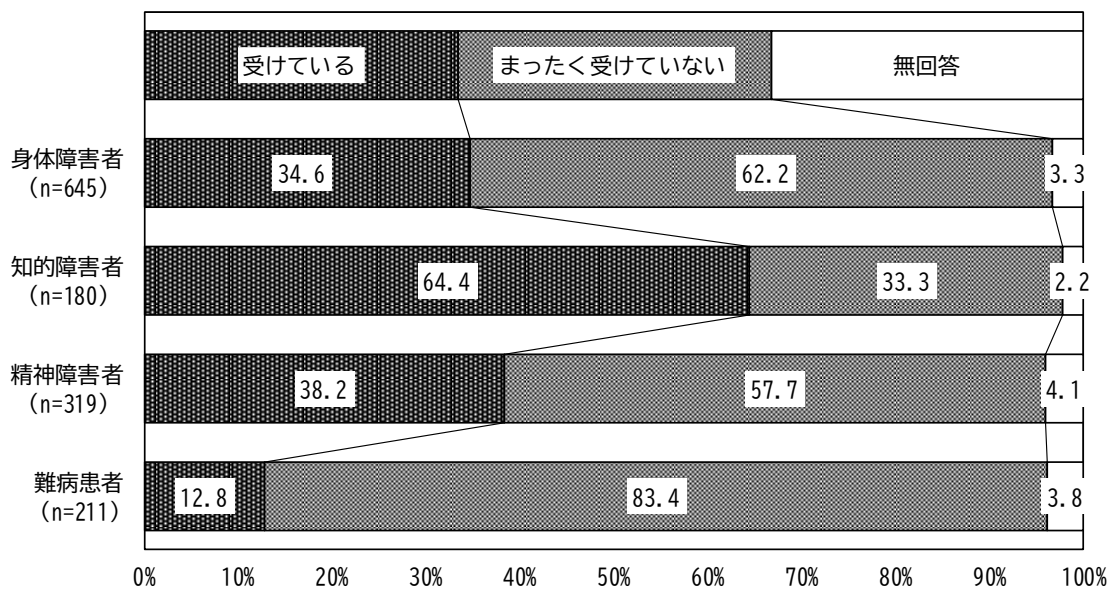
図表 介助の状況（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「受けている」が34.6%である。
- ・知的障害者は「受けている」が64.4%である。
- ・精神障害者は「受けている」が38.2%である。
- ・難病患者は「受けている」が12.8%である。

図表 介助の状況（障害等の種類別）

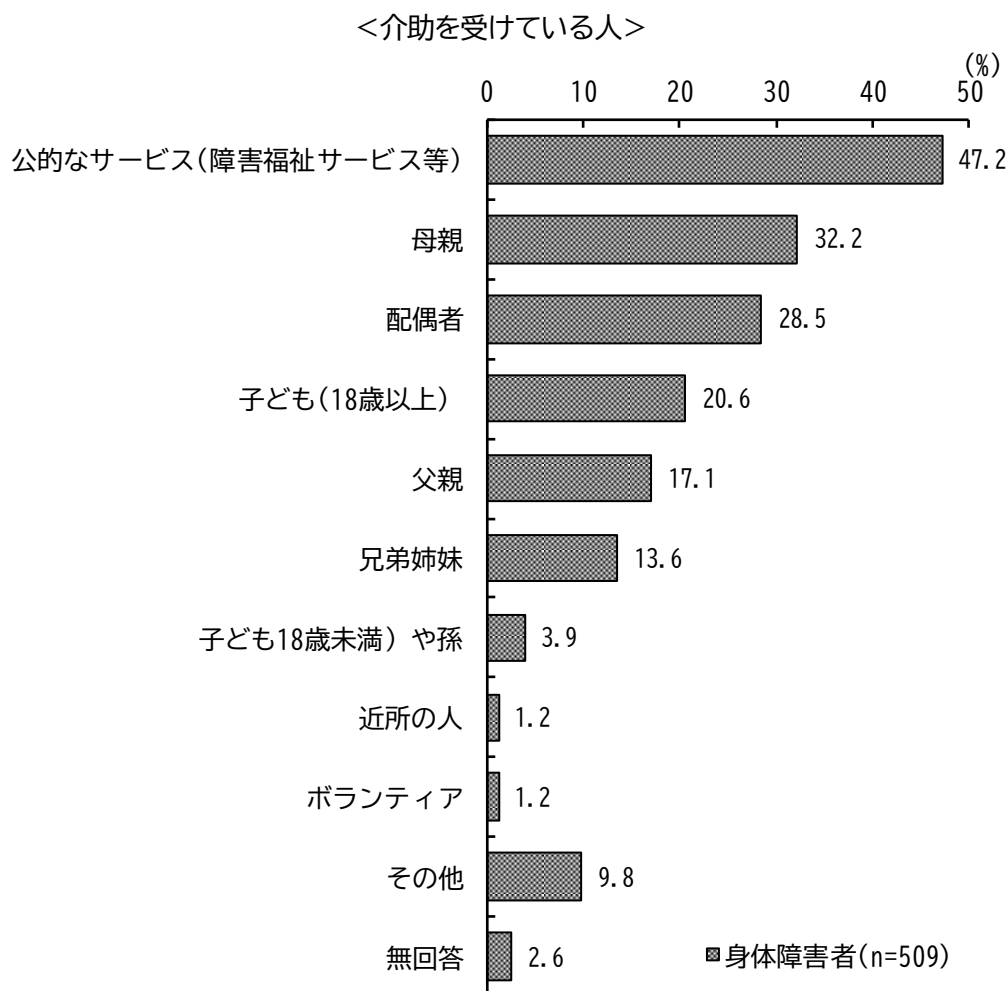


問5-1 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

(1) 介助を頼めるのはどなたですか。(いくつでも○)

- ・「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(47.2%)が最も多く、次いで「母親」(32.2%)、「配偶者」(28.5%)が続いている。

図表 介助を頼める人(全体：複数回答)

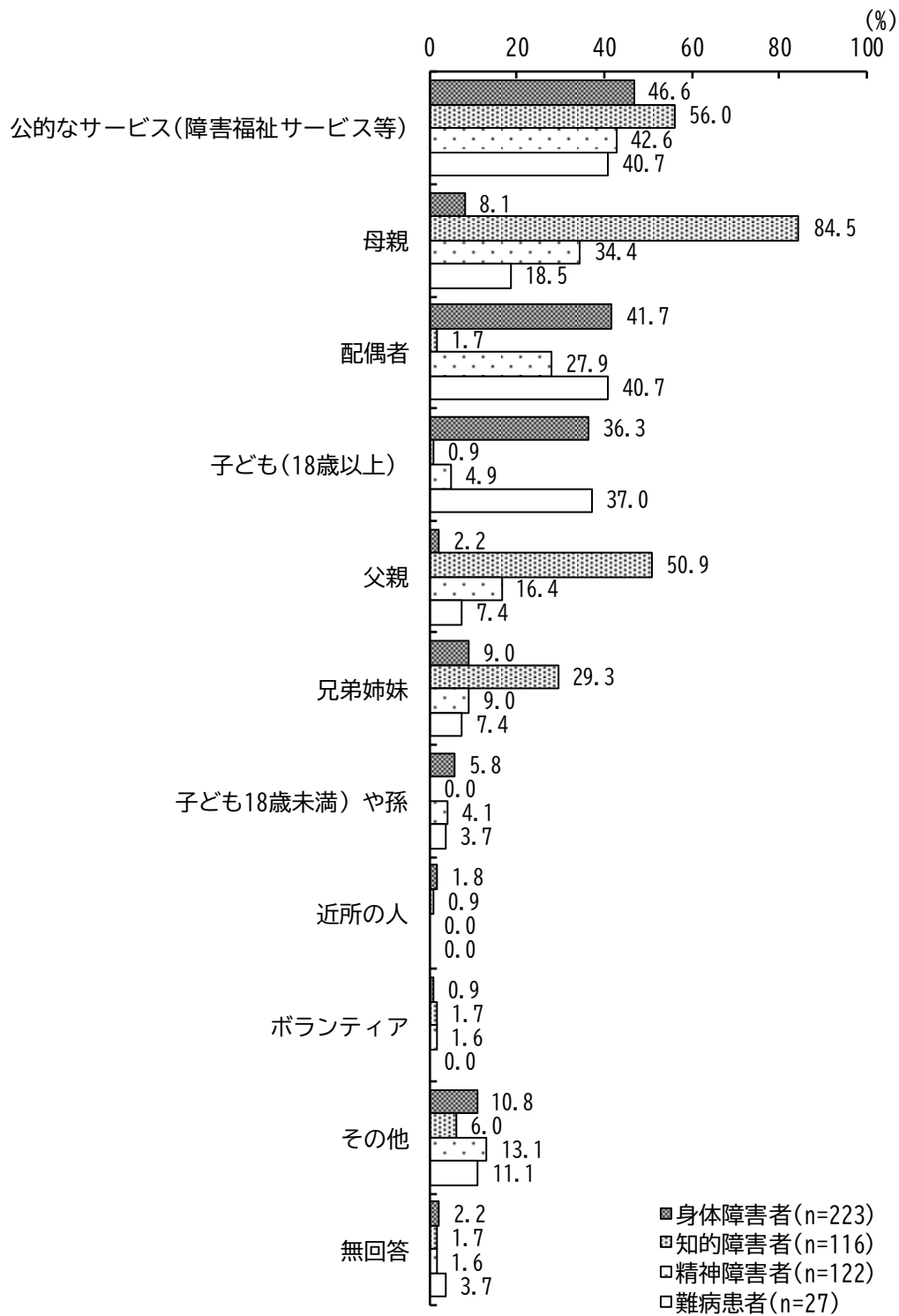


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(46.6%)が最も多く、次いで「配偶者」(41.7%)、「子ども」(36.3%)が続いている。
- ・知的障害者は「母親」(84.5%)が最も多く、次いで「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(56.0%)、「父親」(50.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(42.6%)が最も多く、次いで、「母親」(34.4%)、「配偶者」(27.9%)が続いている。
- ・難病患者は「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」と「配偶者」(それぞれ40.7%)が最も多く、次いで「子ども(18歳以上)」(37.0%)が続いている。

図表 介助の状況（障害等の種類別：複数回答）

<介助を受けている人>

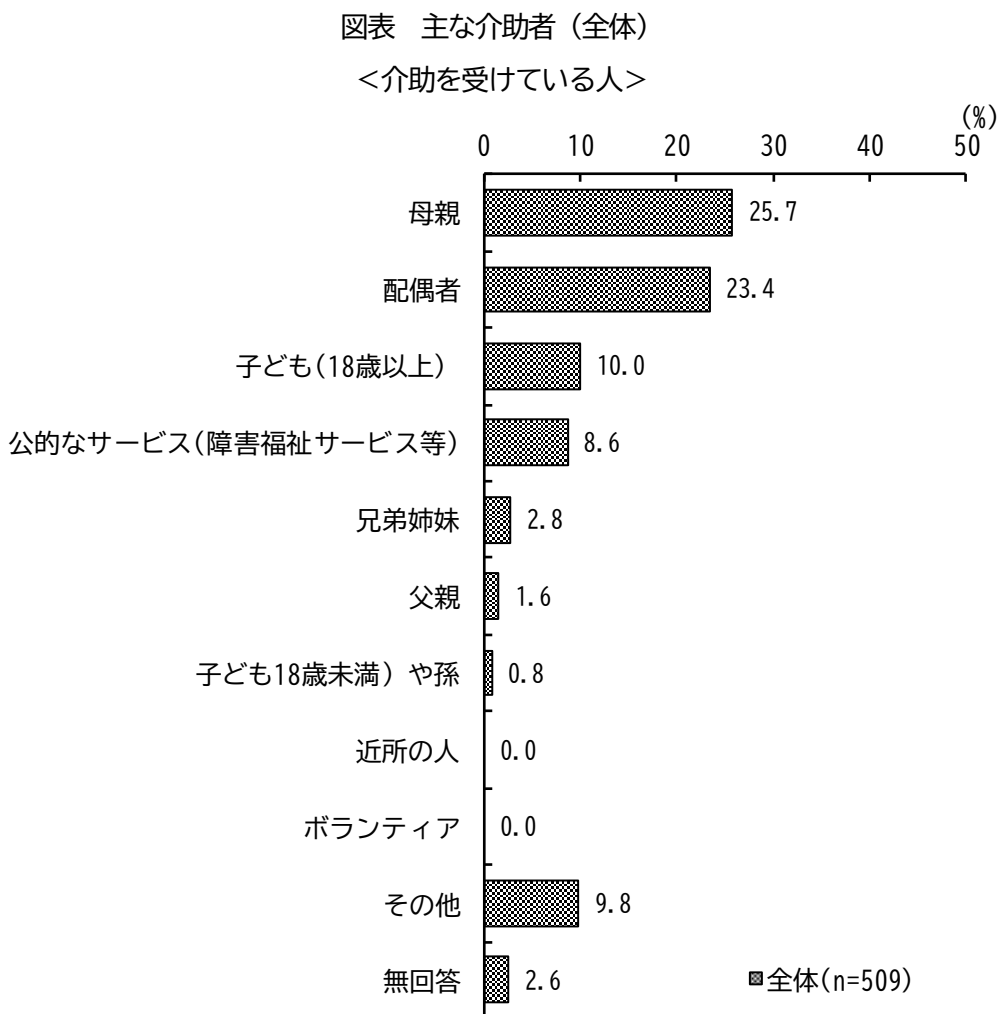


問5-1 問5で「1.受けている」と答えた方におたずねします。

(2) 主な介助者はどなたですか。

((1)の選択肢から1つだけ の中に記入してください)

- ・「母親」(25.7%)が最も多く、次いで「配偶者」(23.4%)、「子ども(18歳以上)」(10.0%)が続いている。

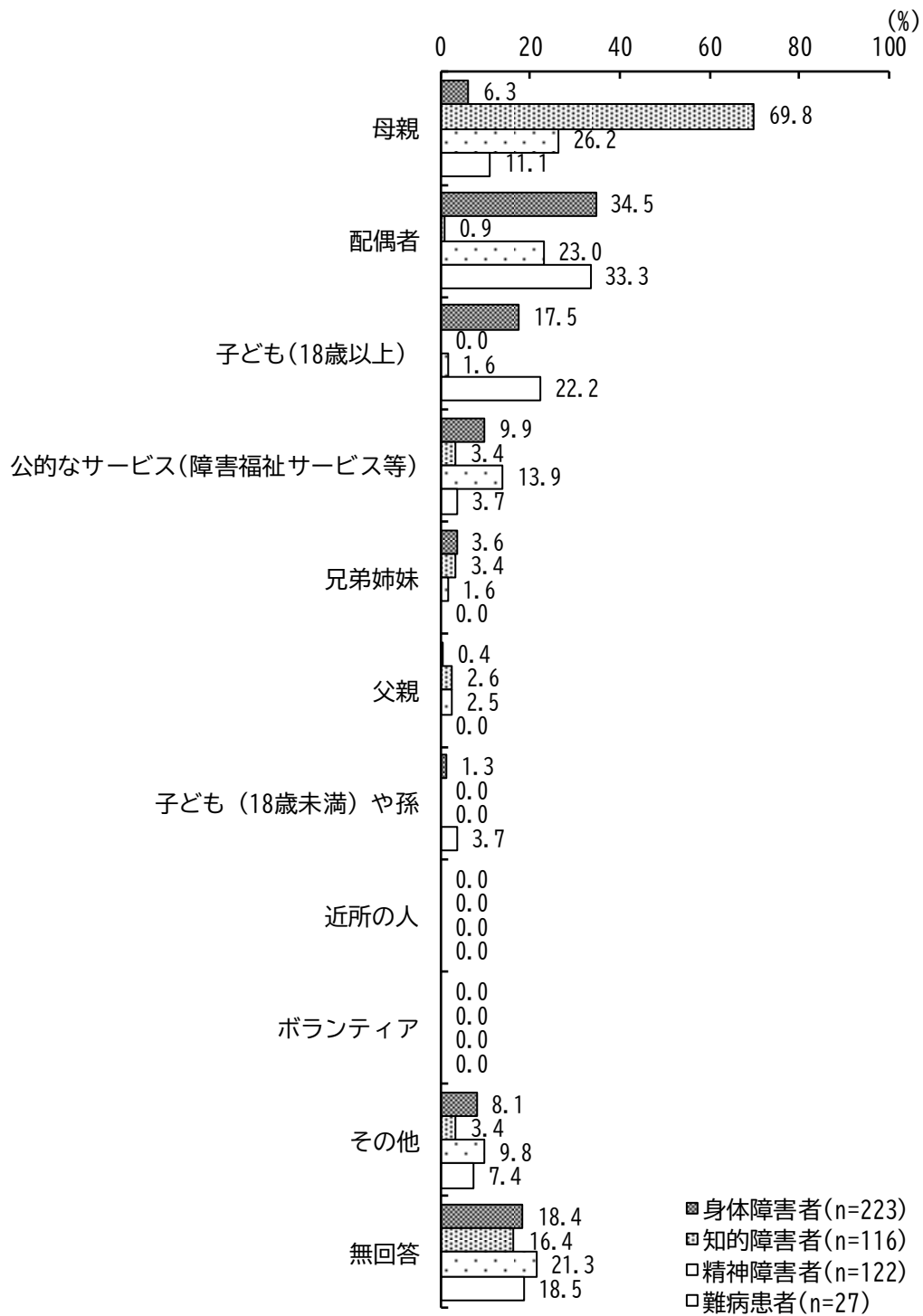


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「配偶者」(34.5%)が最も多く、次いで「子ども(18歳以上)」(17.5%)、「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(9.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「母親」(69.8%)が最も多く、次いで「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」、「兄弟姉妹」、「その他」(それぞれ3.4%)が同率で続いている。
- ・精神障害者は「母親」(26.2%)が最も多く、次いで「配偶者」(23.0%)、「公的なサービス(障害福祉サービス・介護保険サービス)」(13.9%)が続いている。
- ・難病患者は「配偶者」(33.3%)が最も多く、次いで「子ども(18歳以上)」(22.2%)、「母親」(11.1%)が続いている。

図表 主な介助者（障害等の種類別）

<介助を受けている人>



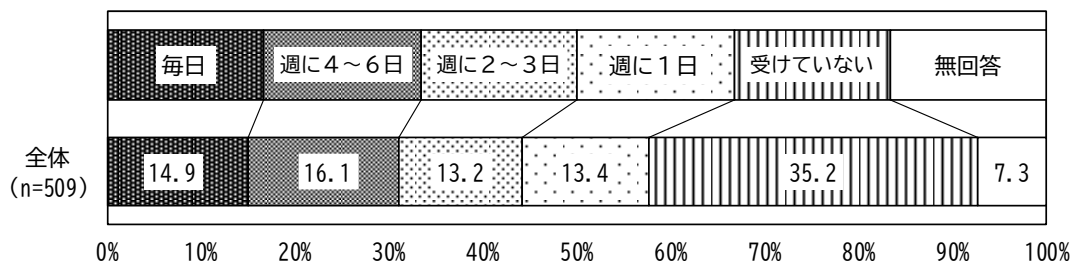
問5-2 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

公的なサービスによる介助(介護保険サービス、障害福祉サービス)を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「受けていない」(35.2%)が最も多く、次いで「週に4～6日」(16.1%)が続いている。

図表 公的サービスによる介助の頻度(全体)

<介助を受けている人>

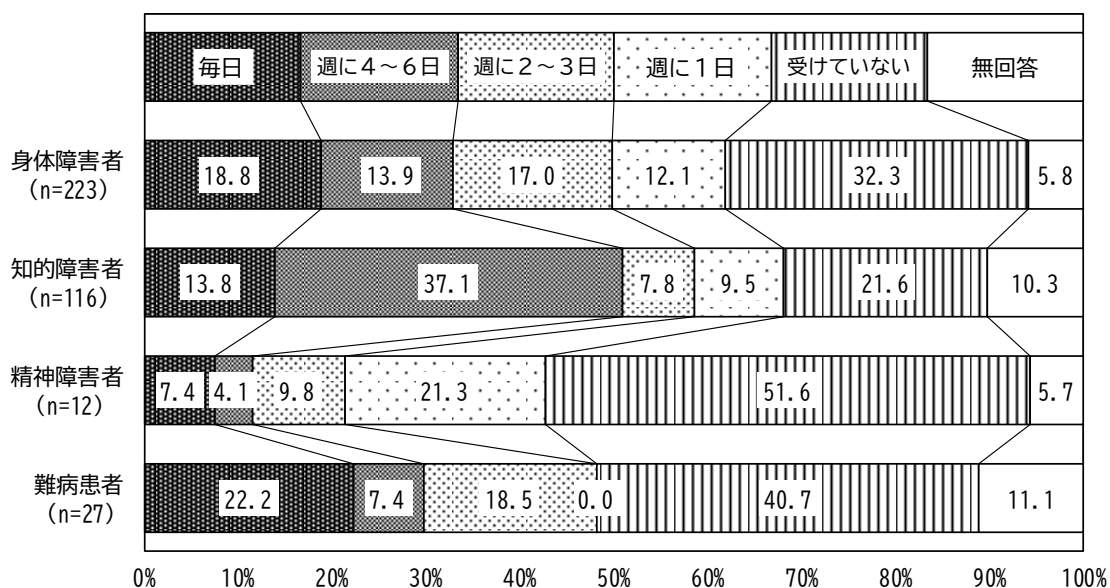


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「受けていない」(32.3%)が最も多く、次いで「毎日」(18.8%)が続いている。
- ・知的障害者は「週に4～6日」(37.1%)が最も多く、次いで「受けていない」(21.6%)が続いている。
- ・精神障害者は「受けていない」(51.6%)が最も多く、次いで「週に1日」(21.3%)が続いている。
- ・難病患者は「受けていない」(40.7%)が最も多く、次いで「毎日」(22.2%)が続いている。

図表 公的サービスによる介助の頻度(障害等の種類別)

<介助を受けている人>



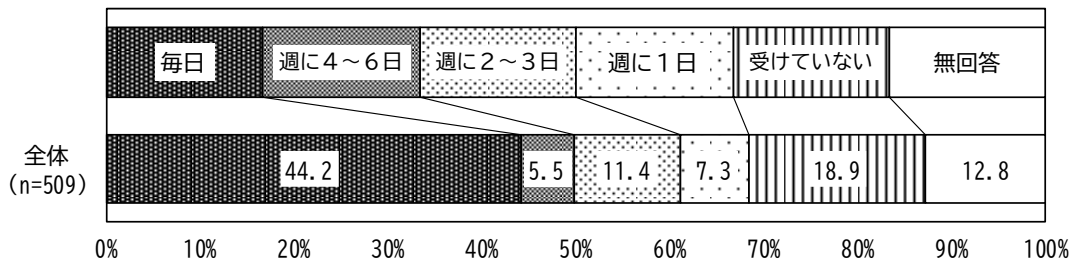
問5-3 問5で「1. 受けている」と答えた方におたずねします。

家族・親族・ボランティア(公的なサービスを除く)の介助を1週間のうち何日ぐらい受けていますか。(1つに○)

- ・「毎日」(44.2%)が最も多く、次いで「受けていない」(18.9%)となっている。

図表 家族等介助の頻度(全体)

<介助を受けている人>

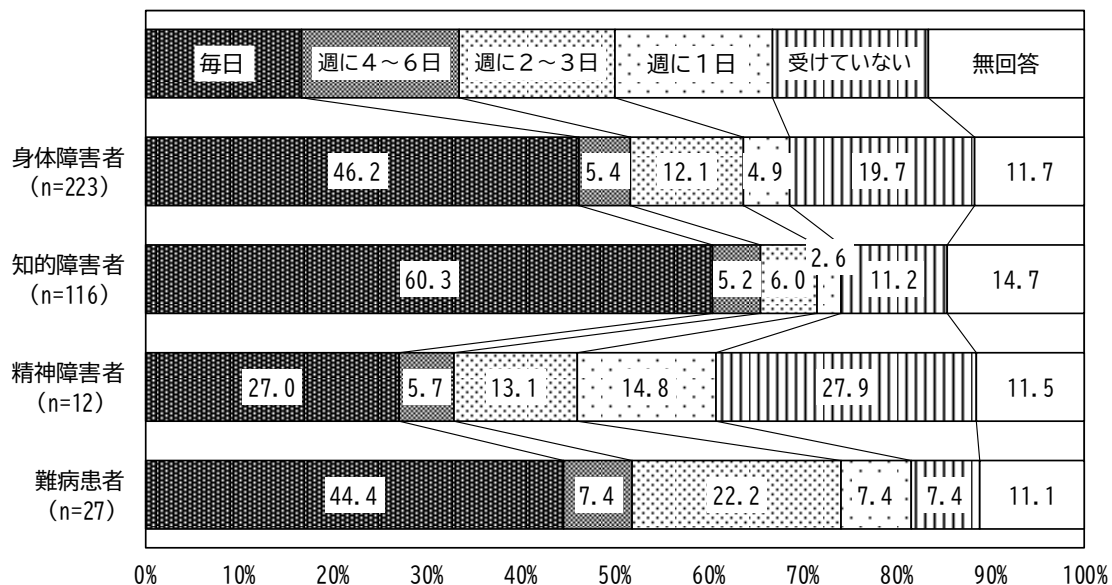


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「毎日」(46.2%)が最も多く、「受けていない」(19.7%)が続いている。
- ・知的障害者は「毎日」(60.3%)と約6割を占めて最も多く、「受けていない」(11.2%)が続いている。
- ・精神障害者は「受けていない」(27.9%)が最も多く、次いで「毎日」(27.0%)が続いている。
- ・難病患者は「毎日」(44.4%)が最も多く、次いで「週に2~3日」(22.2%)が続いている。

図表 家族等介助の頻度(障害等の種類別)

<介助を受けている人>

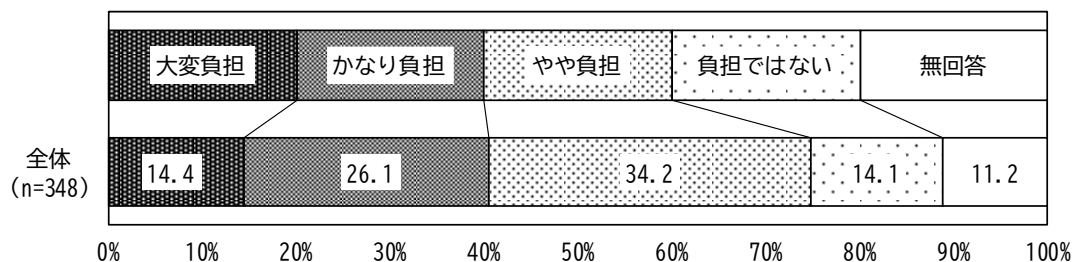


問5-3-1 問5-3で「1」～「4」と答えた方の家族・親族におたずねします。

ご本人の介助による負担感はいかがですか。（1つに○）

- ・「やや負担」（34.2%）が最も多く、次いで「かなり負担」（26.1%）、「大変負担」（14.4%）、「負担ではない」（14.1%）となっている。「大変負担」、「かなり負担」を合わせると4割を超えており、家族等の介助の負担感がうかがえる。

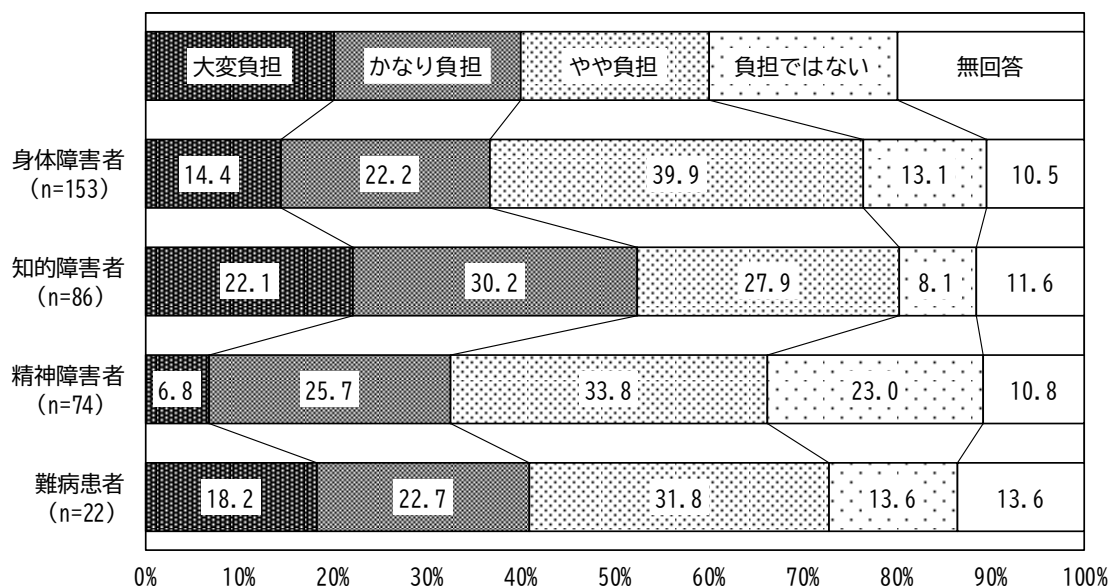
図表 家族等介助の負担感（全体）
 <家族・親族等の介助を受けている人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「やや負担」（39.9%）が最も多く、「かなり負担」（22.2%）が続いている。
- ・知的障害者は「かなり負担」（30.2%）が最も多く、「やや負担」（27.9%）が続いている。
- ・精神障害者は「やや負担」（33.8%）が最も多く、「かなり負担」（25.7%）が続いている。
- ・難病患者は「やや負担」（31.8%）が最も多く、「かなり負担」（22.7%）が続いている。

図表 家族等介助の負担感（障害等の種類別）
 <家族・親族等の介助を受けている人>



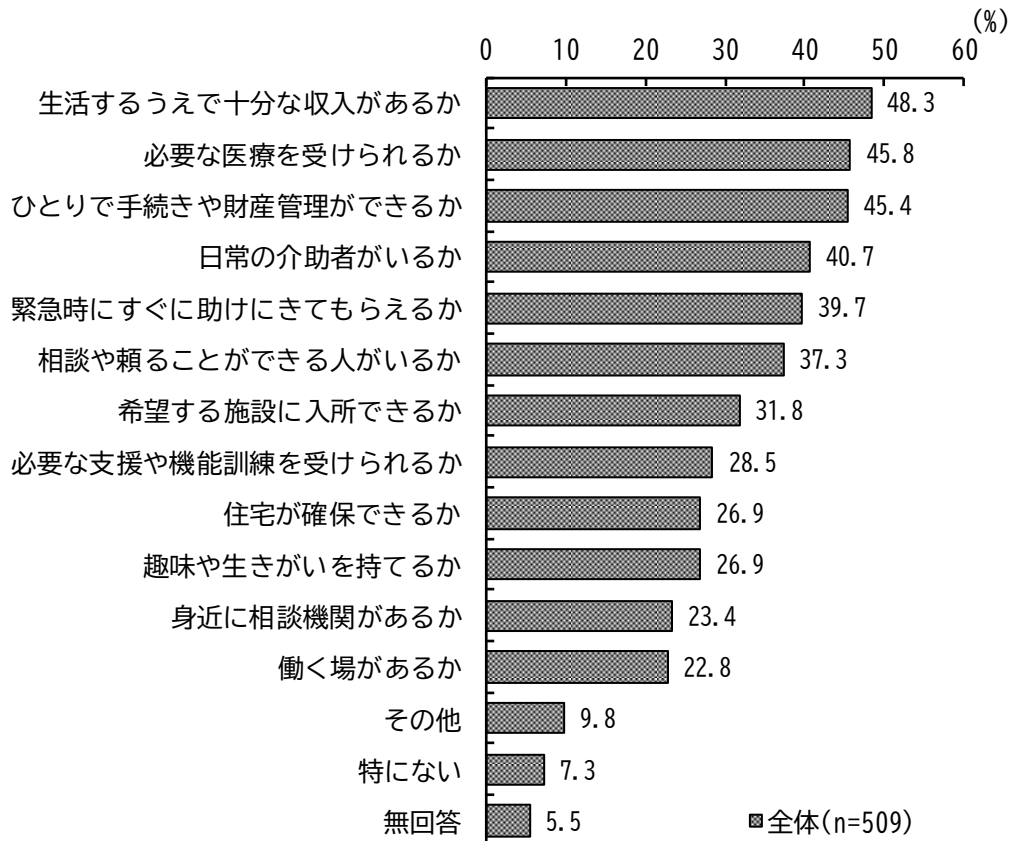
問5-4 あなた（あて名のご本人）が、将来のことで、特に不安に感じていることは何ですか。

(いくつでも○)

- ・「生活するうえで十分な収入があるか」(48.3%) が最も多く、次いで「必要な医療を受けられるか」(45.8%)、「ひとりで手続きや財産管理ができるか」(45.4%)、「日常の介助者がいるか」(40.7%)が続いている。

図表 将来の不安なこと（全体：複数回答）

<介助を受けている人>

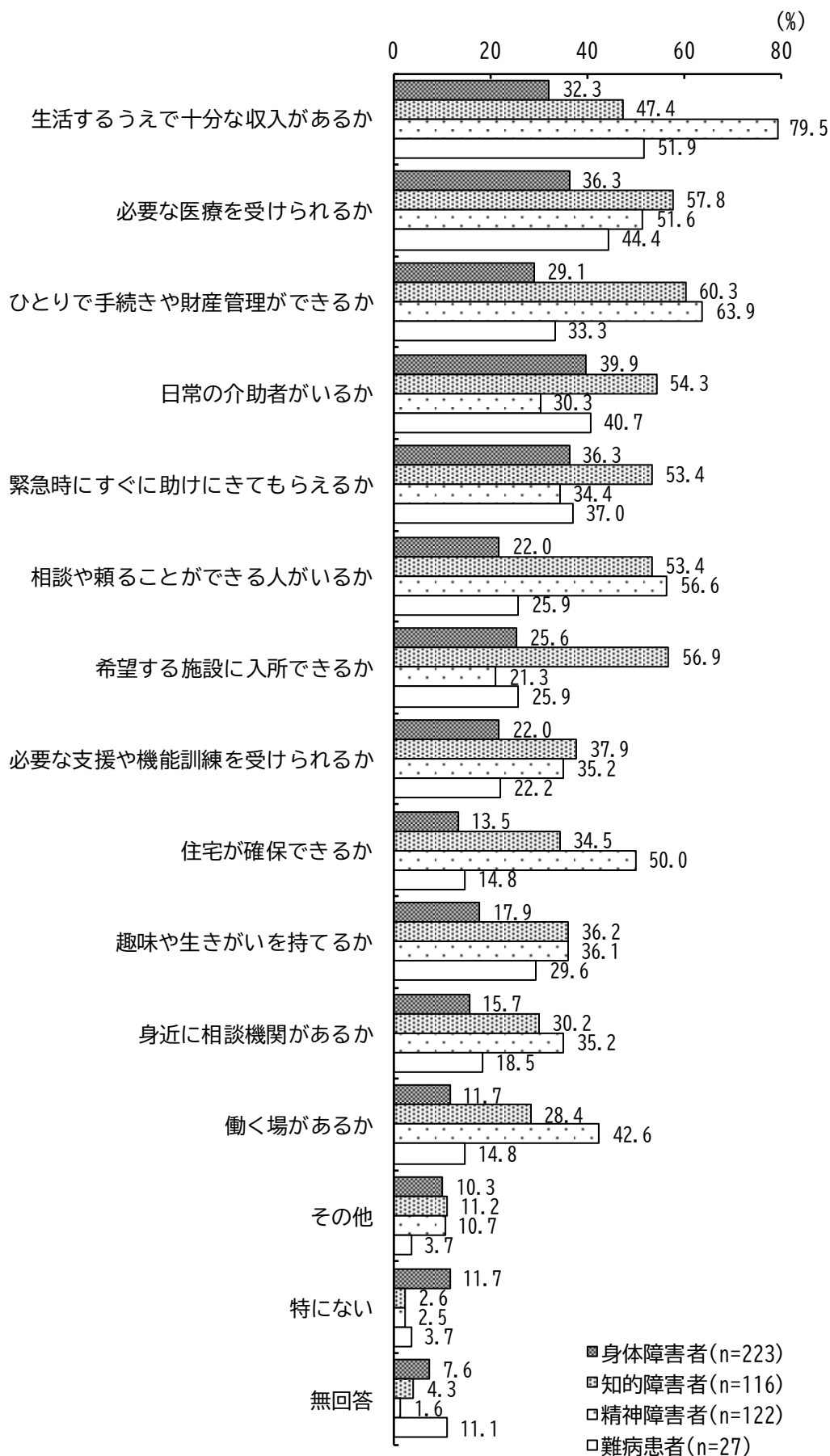


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「日常の介助者がいるか」(39.9%)が最も多く、次いで「必要な医療を受けられるか」と「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」(それぞれ 36.3%)が同率で続いている。
- ・知的障害者は「ひとりで手続きや財産管理ができるか」(60.3%)が最も多く、次いで「必要な医療を受けられるか」(57.8%)、「希望する施設に入所できるか」(56.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「生活するうえで十分な収入があるか」(79.5%)が最も多く、次いで「ひとりで手続きや財産管理ができるか」(63.9%)、「相談や頼ることができる人がいるか」(56.6%)が続いている。
- ・難病患者は「生活するうえで十分な収入があるか」(51.9%)が最も多く、次いで「必要な医療を受けられるか」(44.4%)、「日常の介助者がいるか」(40.7%)が続いている。

図表 将来の不安なこと（障害等の種類別：複数回答）

<介助を受けている人>



(4) 障害福祉サービスの利用について

問6 福祉サービスの利用状況・利用意向について、おたずねします。(1)～(8)のそれぞれについて、「1」～「7」にいくつでも○をつけてください。

- ・「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせた<利用者層>は、『相談支援』(17.3%)が最も多く、『日中活動系サービス』(11.2%)、『訪問系サービス』(10.5%)が続いている。
- ・「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後、利用したい」をあわせた<未利用者層>は、『相談支援』(28.2%)が最も多く、『移動支援』(19.0%)、『居住系サービス』と『短期入所サービス』(それぞれ17.8%)が続いている。

【障害等の種類別】

- ・身体障害者は、<利用者層>では『補装具・日常生活用具費の支給』(14.1%)、<未利用者層>では『相談支援』(29.6%)が最も多い。
- ・知的障害者は、<利用者層>では『日中活動系サービス』(38.9%)、<未利用者層>では『居住系サービス』(38.3%)が最も多い。
- ・精神障害者は、<利用者層>では『相談支援』(23.2%)、<未利用者層>でも『相談支援』(32.9%)が最も多い。
- ・難病患者は、<利用者層>では『相談支援』(5.7%)、<未利用者層>でも『相談支援』(22.7%)が最も多い。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向(全体、障害等の種類別)

(1) 訪問系サービス

			(%)									
			利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)	
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない						今後、利 用したい
全体		(N=1,413)	8.6	2.0	0.1	0.4	15.8	20.2	33.4	19.5	10.5	16.3
障害種別	身体障害者	(n=645)	9.1	1.9	0.0	0.5	19.4	16.1	30.7	22.3	11.0	19.8
	知的障害者	(n=180)	10.6	2.2	0.6	0.6	14.4	18.9	27.8	25.0	12.8	15.6
	精神障害者	(n=319)	10.0	3.4	0.3	0.6	10.7	30.1	33.5	11.3	13.5	11.6
	難病患者	(n=211)	2.4	0.5	0.0	0.0	12.8	21.3	46.0	17.1	2.8	12.8

(2) 日中活動系サービス

			(%)									
			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=1,413)	8.8	2.4	0.6	0.5	13.0	21.2	33.7	19.8	11.2	14.1
障害種別	身体障害者	(n=645)	4.8	1.9	0.2	0.3	16.1	18.4	33.8	24.5	6.7	16.6
	知的障害者	(n=180)	31.1	7.8	4.4	1.1	8.9	15.0	13.9	17.8	38.9	14.4
	精神障害者	(n=319)	9.1	1.9	0.0	0.9	11.3	31.3	33.2	12.2	11.0	12.2
	難病患者	(n=211)	2.4	0.9	0.0	0.0	9.5	21.3	48.8	17.1	3.3	9.5

第2部 調査結果の概要

(3) 居住系サービス

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	3.3	0.8	1.4	0.6	15.8	24.0	33.6	20.5	4.1	17.8
障害種別	身体障害者	(n=645)	2.2	0.5	0.2	0.2	16.3	21.7	33.8	25.3	2.6	16.6
	知的障害者	(n=180)	8.3	3.3	8.9	1.1	28.3	12.8	17.8	19.4	11.7	38.3
	精神障害者	(n=319)	3.4	0.9	0.9	1.6	11.9	35.4	32.0	13.8	4.4	14.4
	難病患者	(n=211)	1.4	0.0	0.0	0.5	10.0	24.6	47.9	15.6	1.4	10.4

(4) 短期入所サービス

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	3.3	1.8	0.6	0.7	16.6	23.4	33.5	20.2	5.0	17.8
障害種別	身体障害者	(n=645)	2.9	0.8	0.0	0.3	20.9	18.9	31.6	24.5	3.7	21.2
	知的障害者	(n=180)	8.3	9.4	4.4	1.7	20.6	13.3	20.6	21.7	17.8	26.7
	精神障害者	(n=319)	1.9	0.6	0.0	1.3	9.1	38.2	35.4	13.5	2.5	10.3
	難病患者	(n=211)	1.9	0.5	0.0	0.5	11.8	22.7	47.4	15.2	2.4	12.3

(5) 相談支援

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	15.1	2.2	0.2	1.0	27.0	11.3	25.5	17.6	17.3	28.2
障害種別	身体障害者	(n=645)	8.7	1.2	0.0	0.5	29.1	12.9	25.1	22.5	9.9	29.6
	知的障害者	(n=180)	42.2	7.2	0.6	1.1	20.0	3.3	10.0	15.6	49.4	21.7
	精神障害者	(n=319)	20.7	2.5	0.6	2.5	29.8	8.5	25.7	9.7	23.2	32.9
	難病患者	(n=211)	4.7	0.9	0.0	0.0	22.7	17.1	39.8	14.7	5.7	22.7

(6) 移動支援

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	3.0	2.1	1.3	0.6	17.1	22.2	33.7	20.0	5.2	19.0
障害種別	身体障害者	(n=645)	2.6	1.2	0.5	0.5	20.2	17.7	32.9	24.5	3.9	21.1
	知的障害者	(n=180)	10.0	10.6	8.3	1.1	19.4	14.4	18.3	17.8	20.6	28.9
	精神障害者	(n=319)	1.3	0.6	0.0	1.3	11.9	37.0	34.2	13.8	1.9	13.2
	難病患者	(n=211)	0.9	0.5	0.0	0.0	12.8	21.3	48.3	16.1	1.4	12.8

(7) 意思疎通支援

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	0.7	0.3	0.1	0.4	6.6	27.7	41.1	23.1	1.0	7.1
障害種別	身体障害者	(n=645)	0.9	0.5	0.0	0.5	8.5	21.7	40.9	27.0	1.4	9.0
	知的障害者	(n=180)	1.1	0.0	0.6	1.1	3.9	27.2	36.7	29.4	1.1	5.6
	精神障害者	(n=319)	0.6	0.3	0.0	0.3	3.1	44.8	36.4	14.4	0.9	3.4
	難病患者	(n=211)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	22.3	52.6	18.0	0.0	7.1

(8) 補装具・日常生活用具費の支給

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,413)	6.9	2.8	0.1	0.3	16.8	20.7	32.5	19.9	9.8	17.2
障害種別	身体障害者	(n=645)	10.1	4.0	0.3	0.5	23.6	12.9	26.7	22.0	14.1	24.3
	知的障害者	(n=180)	10.0	6.1	0.0	0.0	8.3	20.0	28.9	26.7	16.1	8.3
	精神障害者	(n=319)	0.6	0.0	0.0	0.3	9.1	38.6	37.0	14.4	0.6	9.4
	難病患者	(n=211)	2.4	0.9	0.0	0.0	12.8	20.4	47.4	16.1	3.3	12.8

【障害の種類・年代別】

(短期入所)

- ・身体障害者は、65歳以上で「今後、利用したい」が全体より6ポイント以上高くなっている。
- ・知的障害者は、数の多い18～39歳で「希望通り利用できている」が全体より6ポイント以上高く、「今後利用したい」もいずれの年代でも全体を上回っており、今後の利用意向も高い。
- ・精神障害者は、いずれの年代でも「利用したくない」が4割前後と、利用意向が低い。
- ・難病患者は、いずれの年代でも「希望通り利用できている」が1割に満たないが、「今後、利用したい」が1割を超えている。

(相談支援)

- ・身体障害者は、いずれの年代でも「今後、利用したい」が全体より高くなっている。
- ・知的障害者は、いずれの年齢でも「希望通り利用できている」が全体より15ポイント以上高く、「今後利用したい」も、数の少ない65歳以上を除くと概ね2割以上で、利用意向が高い。
- ・精神障害者は、18～39歳で「希望通り利用できている」は全体より10ポイント以上、「今後利用したい」も全体より6ポイント高く、現在の利用状況、今後の利用意向ともに高い。
- ・難病患者は、いずれの年代でも「希望通り利用できている」が1割に満たないが、「今後、利用したい」が2割以上となっている。

図表 障害福祉サービスの利用状況・利用意向(全体、障害等の種類×年代別)

(4) 短期入所サービス

												(%)	
				利用者層		未利用者層			利用したい	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
				希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した いが事業 所がない	今後、利 用したい	くない				
全体			(N=1,413)	3.3	1.8	0.6	0.7	16.6	23.4	33.5	20.2	5.0	17.8
障害種別・ 年代別	身体障害者	18～39歳	(n=22)	0.0	0.0	0.0	4.5	22.7	27.3	40.9	4.5	0.0	27.3
		40～64歳	(n=212)	1.4	0.5	0.0	0.5	16.5	23.1	44.3	13.7	1.9	17.0
		65歳以上	(n=407)	3.9	1.0	0.0	0.0	23.3	16.5	24.6	30.7	4.9	23.3
	知的障害者	18～39歳	(n=128)	9.4	10.9	6.3	2.3	18.0	12.5	22.7	18.0	20.3	26.6
		40～64歳	(n=47)	6.4	6.4	0.0	0.0	27.7	14.9	12.8	31.9	12.8	27.7
		65歳以上	(n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0
	精神障害者	18～39歳	(n=115)	0.9	0.9	0.0	0.9	6.1	41.7	40.0	9.6	1.7	7.0
		40～64歳	(n=186)	2.2	0.5	0.0	1.6	11.8	36.0	33.3	14.5	2.7	13.4
		65歳以上	(n=17)	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	41.2	23.5	29.4	5.9	0.0
	難病患者	18～39歳	(n=47)	2.1	2.1	0.0	0.0	14.9	25.5	53.2	2.1	4.3	14.9
		40～64歳	(n=117)	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	25.6	46.2	17.1	0.0	11.1
		65歳以上	(n=47)	6.4	0.0	0.0	2.1	10.6	12.8	44.7	23.4	6.4	12.8

(5) 相談支援

(3) 相談支援

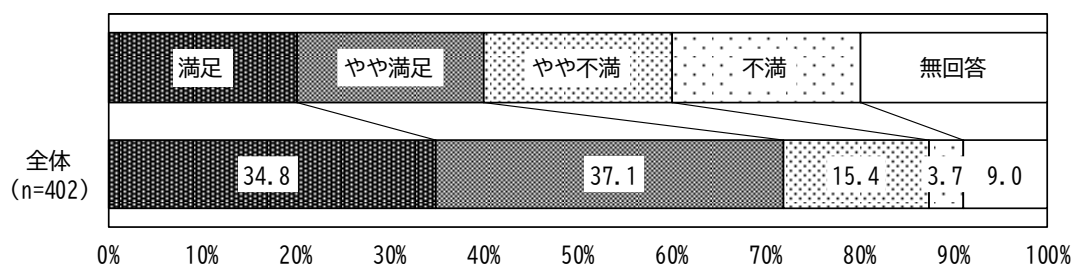
				(%)									
				利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
				希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体			(N=1,413)	15.1	2.2	0.2	1.0	27.0	11.3	25.5	17.6	17.3	28.2
障害種別・ 年代別	身体障害者	18～39歳	(n=22)	0.0	0.0	0.0	4.5	40.9	13.6	36.4	4.5	0.0	45.5
		40～64歳	(n=212)	9.9	1.4	0.0	0.5	29.7	11.3	35.8	11.3	11.3	30.2
		65歳以上	(n=407)	8.6	1.2	0.0	0.2	28.5	13.8	19.2	28.5	9.8	28.7
	知的障害者	18～39歳	(n=128)	46.1	9.4	0.0	0.8	18.8	3.1	10.9	10.9	55.5	19.5
		40～64歳	(n=47)	31.9	0.0	2.1	2.1	25.5	2.1	6.4	29.8	31.9	29.8
		65歳以上	(n=5)	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0
	精神障害者	18～39歳	(n=115)	28.7	1.7	0.0	2.6	33.0	3.5	24.3	6.1	30.4	35.7
		40～64歳	(n=186)	16.7	2.7	1.1	2.7	29.0	10.2	26.9	10.8	19.4	32.8
		65歳以上	(n=17)	11.8	5.9	0.0	0.0	17.6	23.5	17.6	23.5	17.6	17.6
	難病患者	18～39歳	(n=47)	6.4	0.0	0.0	0.0	27.7	21.3	42.6	2.1	6.4	27.7
		40～64歳	(n=117)	2.6	0.9	0.0	0.0	20.5	18.8	41.0	16.2	3.4	20.5
		65歳以上	(n=47)	8.5	2.1	0.0	0.0	23.4	8.5	34.0	23.4	10.6	23.4

問6-1 障害者福祉サービスの満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「満足」(34.8%)と「やや満足」(37.1%)をあわせた<満足層>は 71.9%である。「やや不満」(15.4%)と「不満」(3.7%)をあわせた<不満層>は 19.1%である。

図表 障害福祉サービスの満足度(全体)

<障害福祉サービスを利用している人>

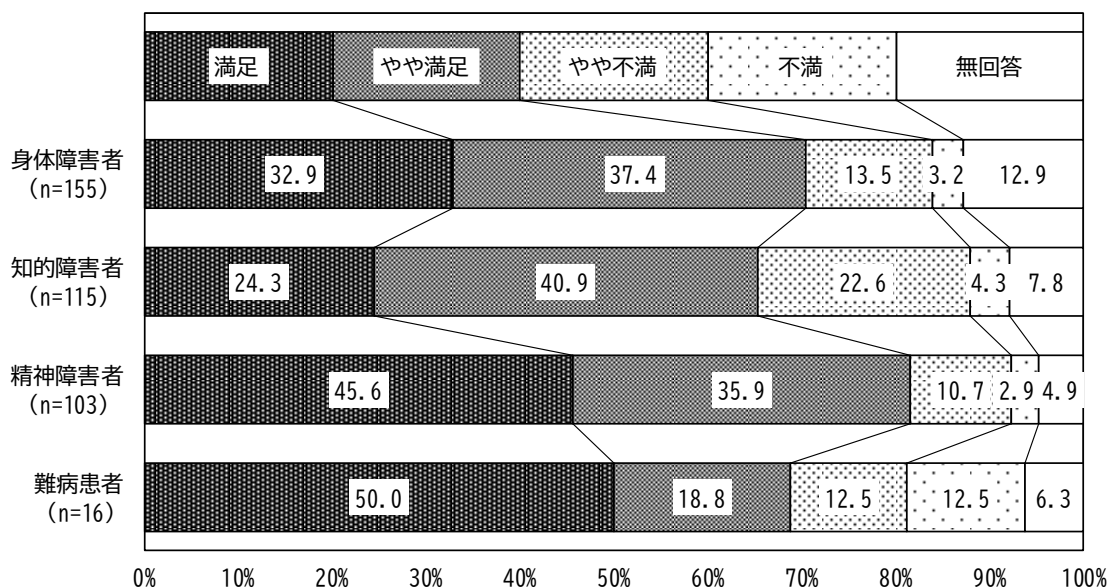


【障害等の種類別】

- ・精神障害者の「満足」(45.6%)と「やや満足」(35.9%)をあわせた<満足層>は 81.5%と、他の障害種別比べると10ポイント以上高い。

図表 障害福祉サービスの満足度(障害等の種類別)

<障害福祉サービスを利用している人>



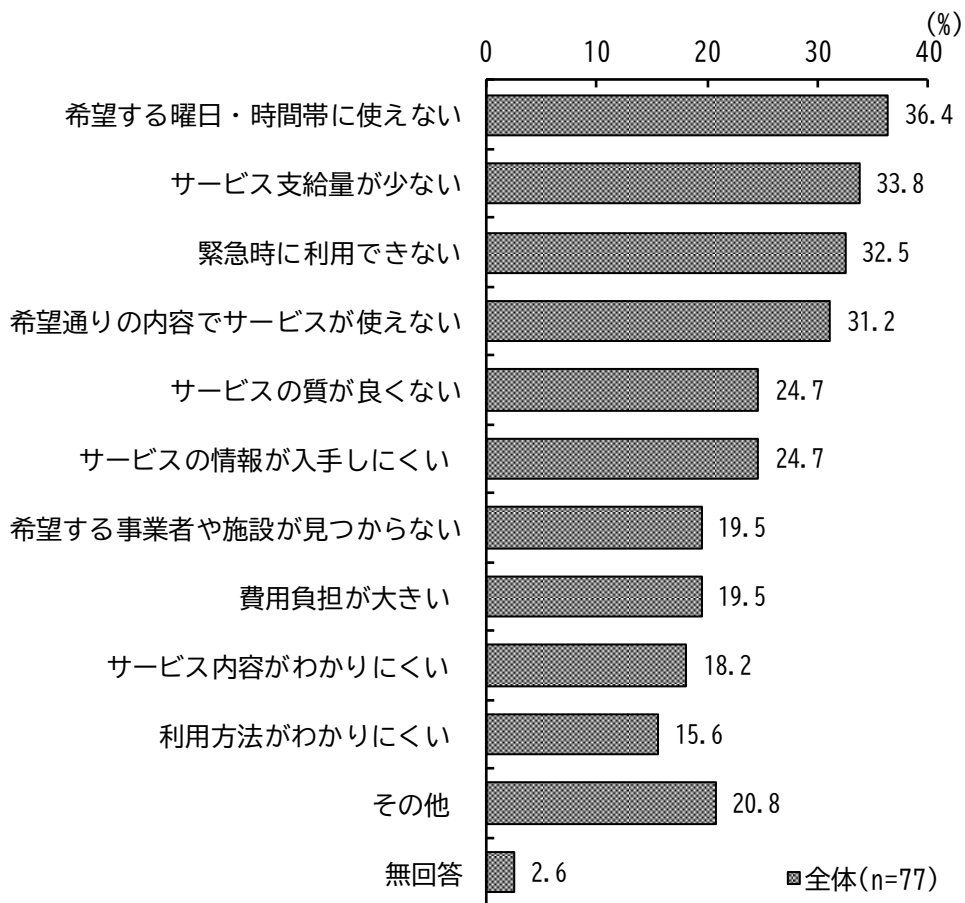
問6-2 問6-1で「3」「4」と答えた方におたずねします。

サービスの不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- ・ <不満層>にその理由をたずねたところ、「希望する曜日・時間に使えない」(36.4%)が最も多く、次いで「サービス支給量が少ない」(33.8%)、「緊急時に利用できない」(32.5%)、「希望通りの内容でサービスが使えない」(31.2%)が続いている。

図表 サービスの不満な理由(全体：複数回答)

<やや不満、不満と回答した人>

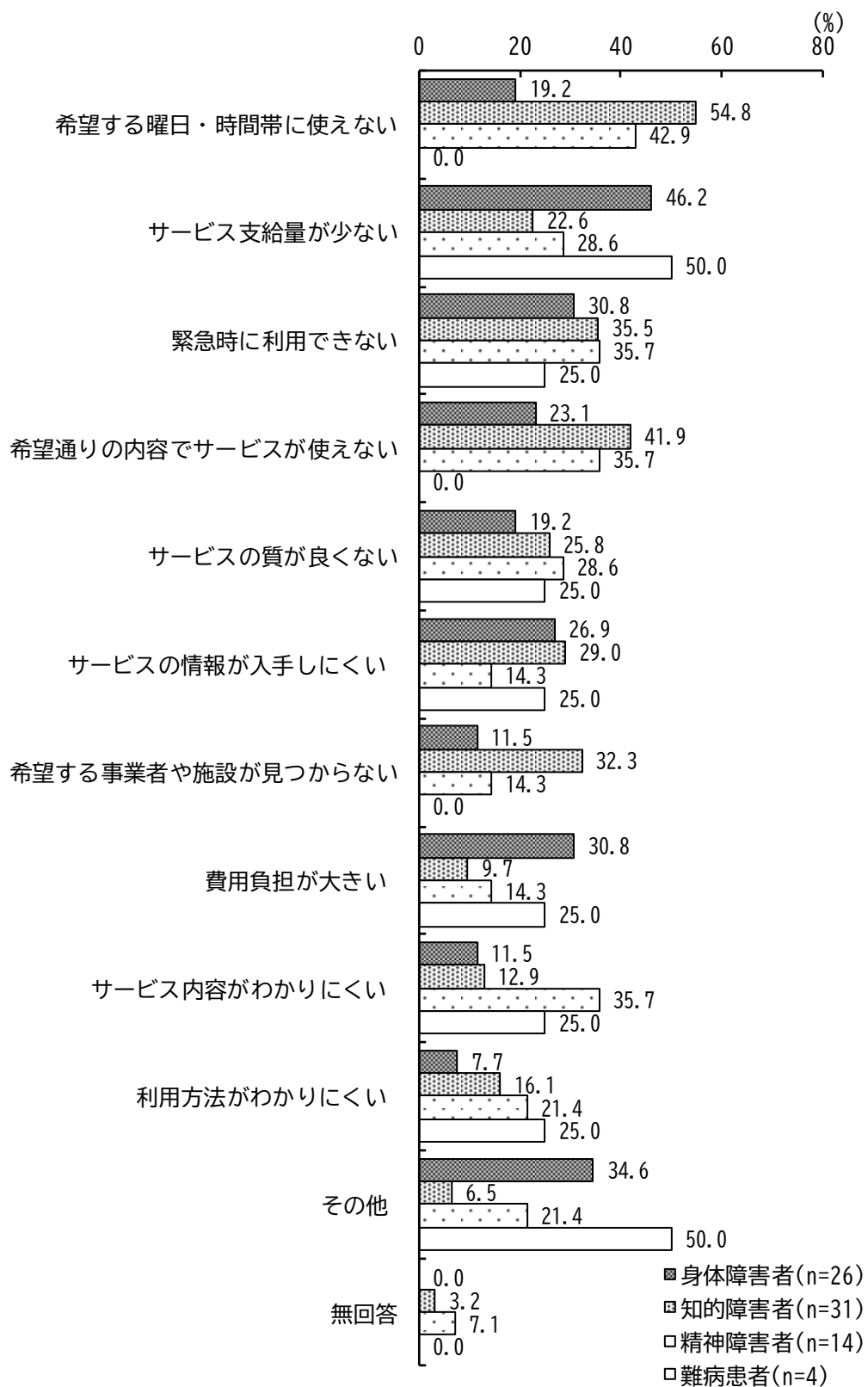


【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者は「サービス支給量が少ない」(46.2%)が最も多く、次いで「緊急時に利用できない」と「費用負担が大きい」(それぞれ30.8%)が同率で続いている。
- ・ 知的障害者は「希望する曜日・時間に使えない」(54.8%)が最も多く、次いで「希望通りの内容でサービスが使えない」(41.8%)、「緊急時に利用できない」(35.5%)が続いている。
- ・ 精神障害者は「希望する曜日・時間に使えない」(42.9%)が最も多く、次いで「緊急時に利用できない」と「希望通りの内容でサービスが使えない」(それぞれ35.7%)が同率で続いている。
- ・ 難病患者は回答者数が4人であるが、2人が「サービス支給量が少ない」と回答している。

図表 サービスの不満な理由(障害等の種類別：複数回答)

<やや不満、不満と回答した人>

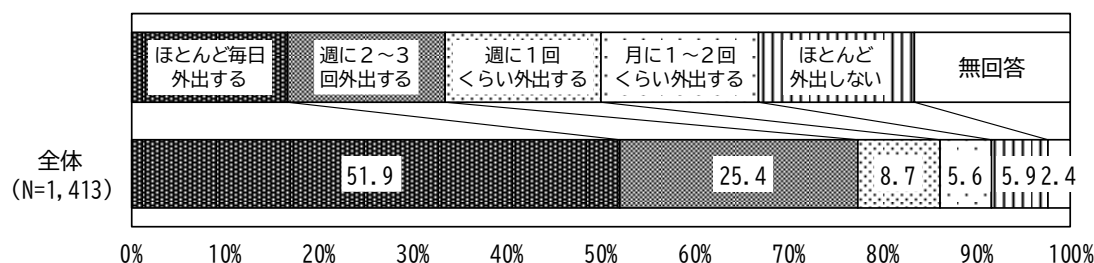


(5) 日ごろの活動について

問7 あなたは、普段の生活の中でどれくらい外出しますか。(1つに○)

- ・「ほとんど毎日外出する」(51.9%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(25.4%)が続いている。

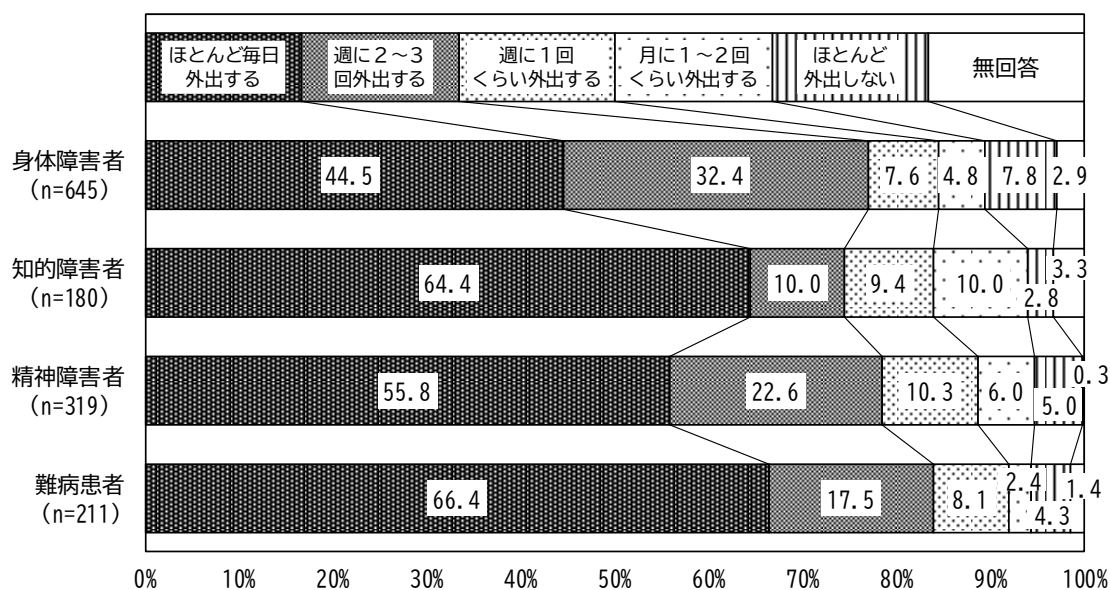
図表 外出の頻度(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「ほとんど毎日外出する」(44.5%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(32.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「ほとんど毎日外出する」(64.4%)が最も多く、「週に2～3回外出する」と「月に1～2回外出する」(それぞれ10.0%)が同率が続いている。
- ・精神障害者は「ほとんど毎日外出する」(55.8%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(22.6%)が続いている。
- ・難病患者は「ほとんど毎日外出する」(66.4%)が最も多く、「週に2～3回外出する」(17.5%)が続いている。

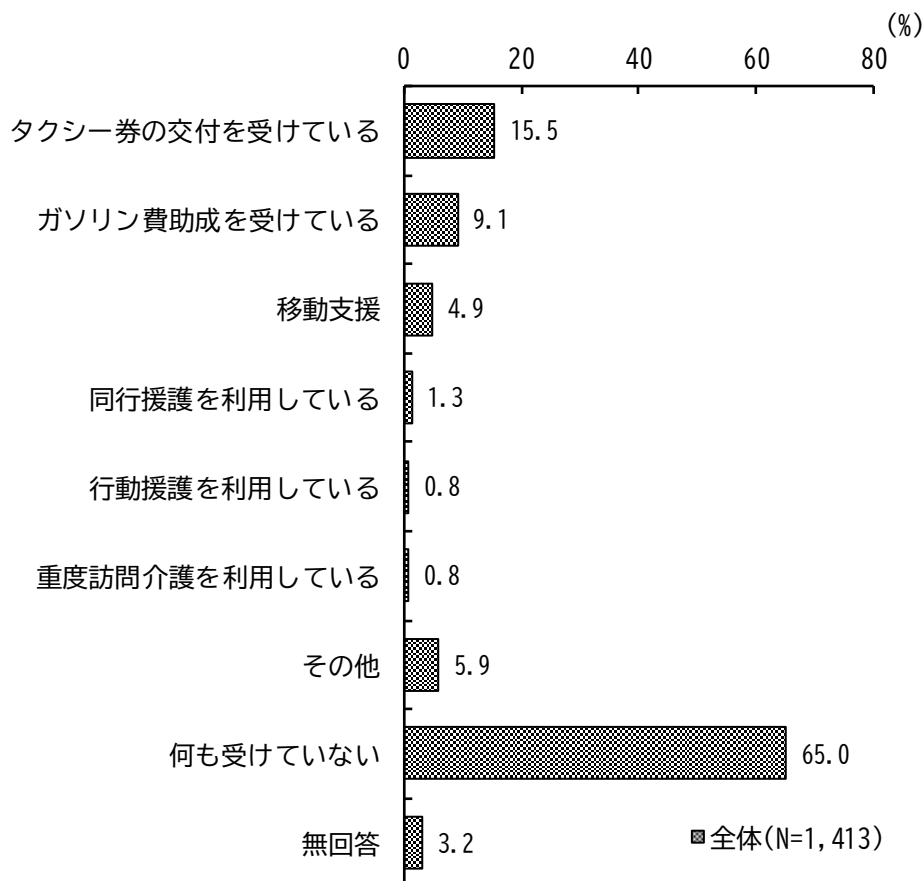
図表 外出の頻度(障害等の種類別)



問8 あなたは、外出の際に何らかの制度を受けていますか。(いくつでも○)

- ・「タクシー券の交付」(15.5%)が最も多く、「ガソリン費助成を受けている」(9.1%)が続いている。

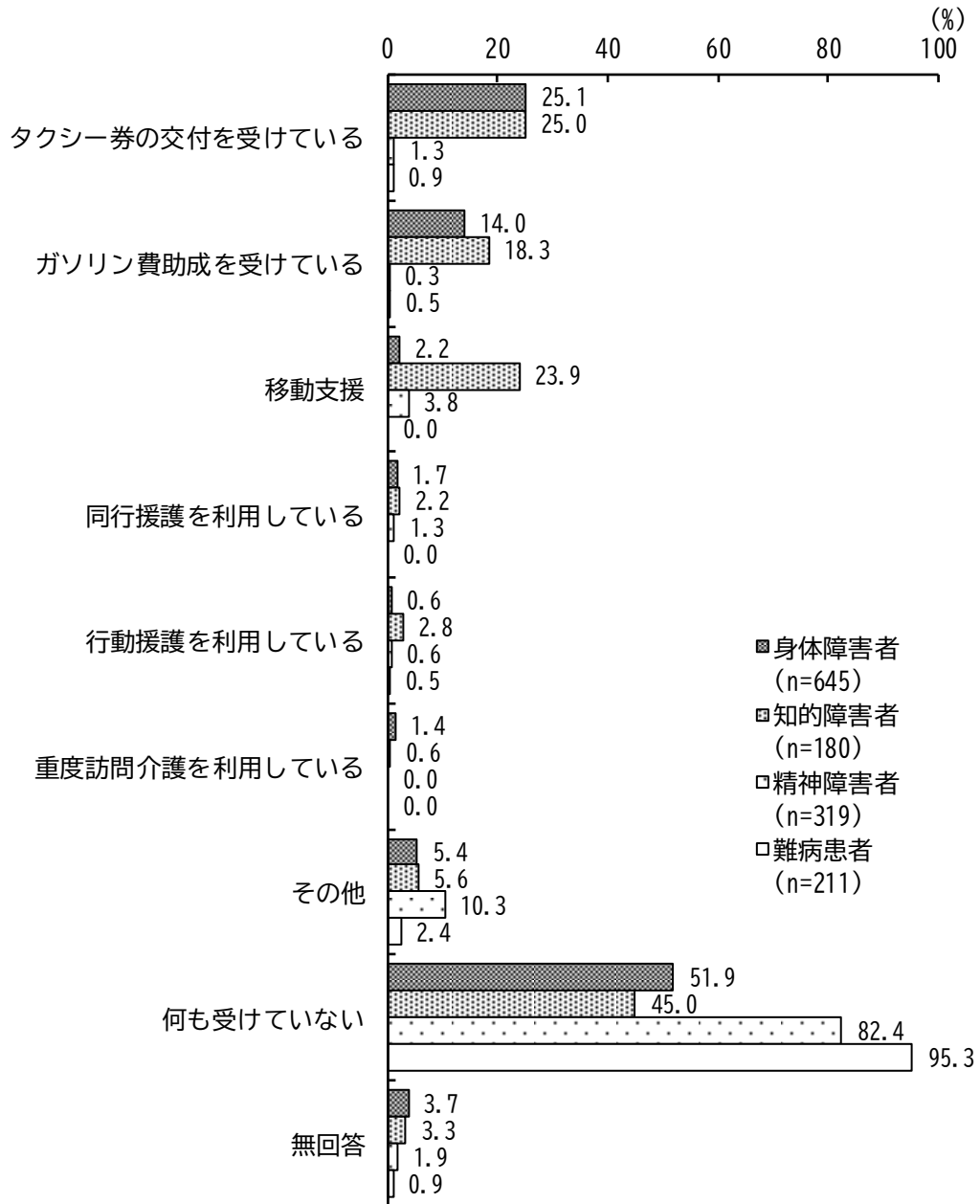
図表 外出の際を受けている制度(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「タクシー券の交付」(25.1%)が最も多く、「ガソリン費助成を受けている」(14.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「タクシー券の交付」(25.0%)が最も多く、「移動支援」(23.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「移動支援」(3.8%)が最も多く、「タクシー券の交付」と「同行援護」(それぞれ1.3%)が同率で続いている(「その他」を除く)。
- ・難病患者は「何も受けていない」が95.3%となっているが、「タクシー券の交付」(0.9%)、「ガソリン費補助」と「同行援護」(それぞれ0.5%)が同率で続いている。

図表 外出の際受けている制度(障害等の種類別：複数回答)

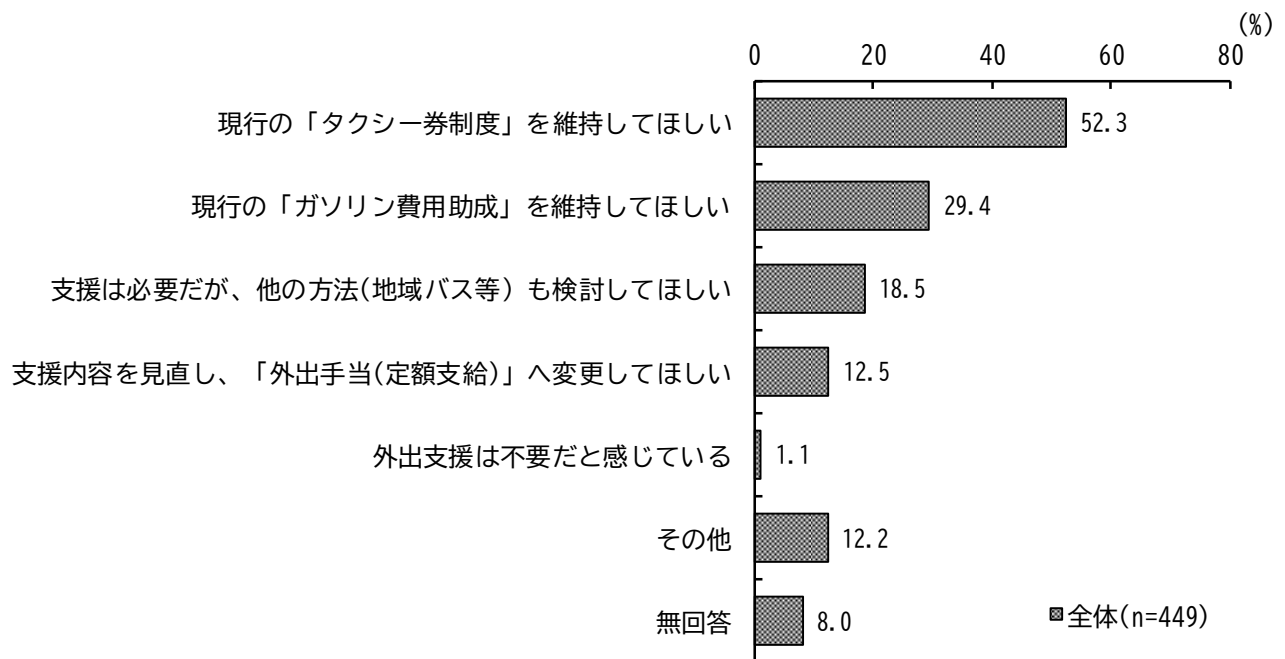


問9 問8で何らかのサービスを受けている方にお伺いします。現行の制度について感じていることを教えてください。(いくつでも○)

- ・「現行の『タクシー券制度』を維持してほしい」(52.3%)が最も多く、「現行の『ガソリン費用助成』を維持してほしい」(29.4%)が続いている。

図表 現行制度について感じていること(全体：複数回答)

<何らかのサービスを受けている人>

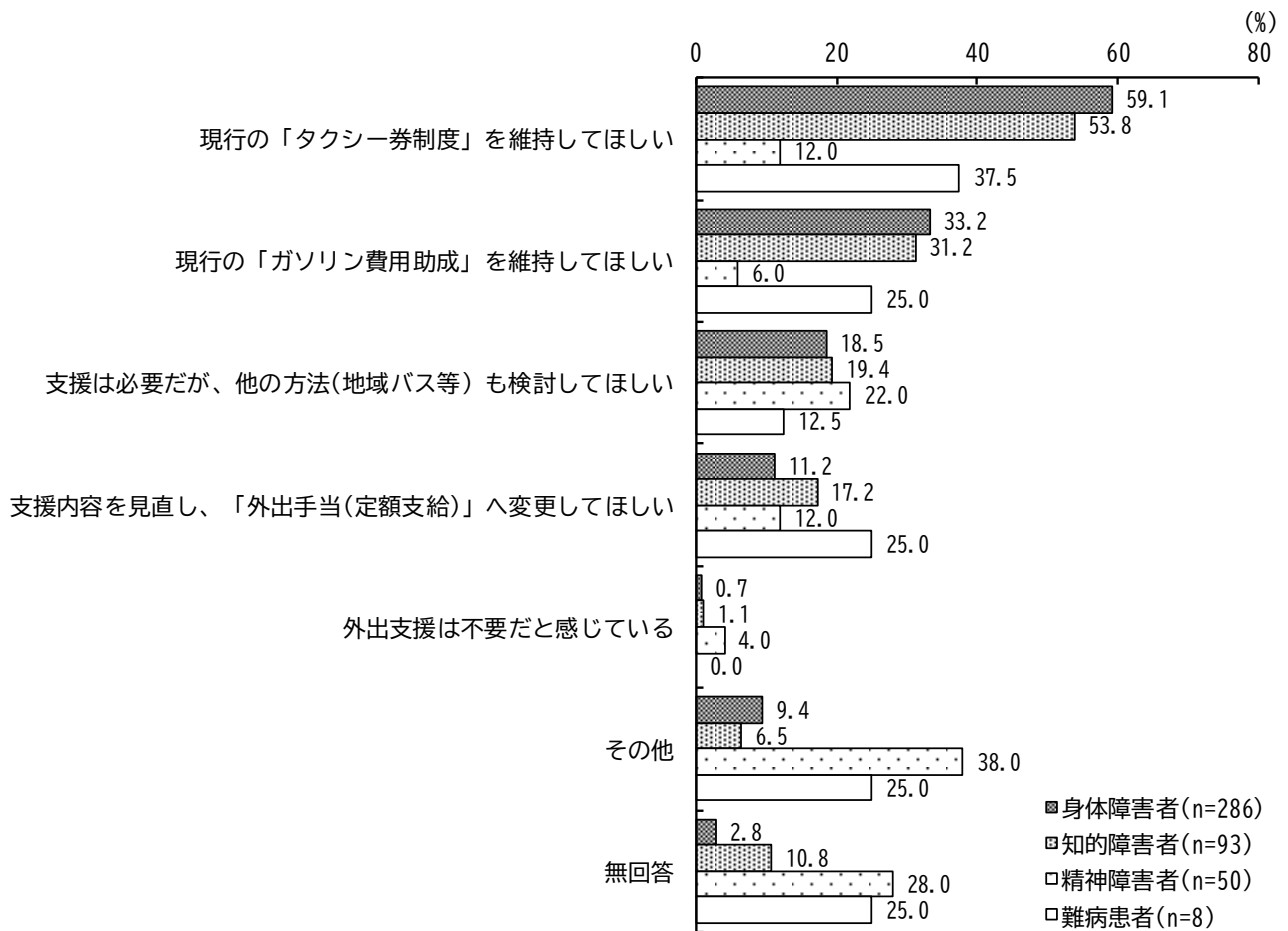


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「現行の『タクシー券制度』を維持してほしい」(59.1%)が最も多く、「現行の『ガソリン費用助成』を維持してほしい」(33.2%)が続いている。
- ・知的障害者は「現行の『タクシー券制度』を維持してほしい」(53.8%)が最も多く、「現行の『ガソリン費用助成』を維持してほしい」(31.2%)が続いている。
- ・精神障害者は「支援は必要だが、他の方法(地域バス等)も検討してほしい」(22.0%)が最も多く、「現行の『タクシー券制度』を維持してほしい」と「支援内容を見直し、「外出手当(定額支給)」へ変更してほしい」(それぞれ12.0%)が同率が続いている。
- ・難病患者は「現行の『タクシー券制度』を維持してほしい」(37.5%)が最も多く、次いで「現行の『ガソリン費用助成』を維持してほしい」と「支援内容を見直し、「外出手当(定額支給)」へ変更してほしい」(それぞれ25.0%)が同率が続いている。

図表 現行制度について感じていること(障害等の種類別：複数回答)

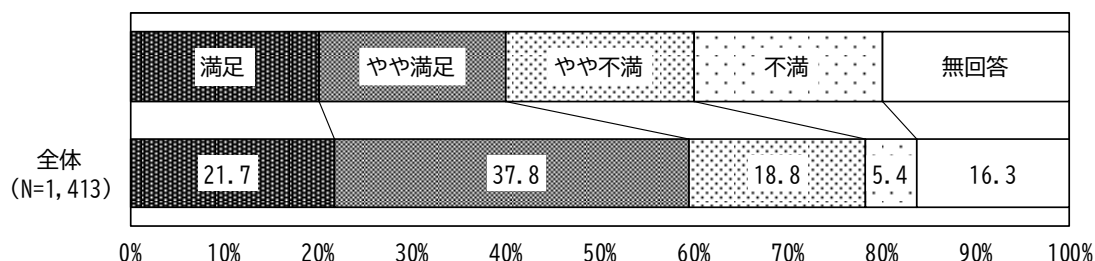
<何らかのサービスを受けている人>



問10 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度は、次のうちどれですか。(1つに○)

- ・「満足」(21.7%)と「やや満足」(37.8%)をあわせた<満足>は 59.5%、「やや不満」(18.8%)と「不満」(5.4%)をあわせた<不満>は 24.2%である。

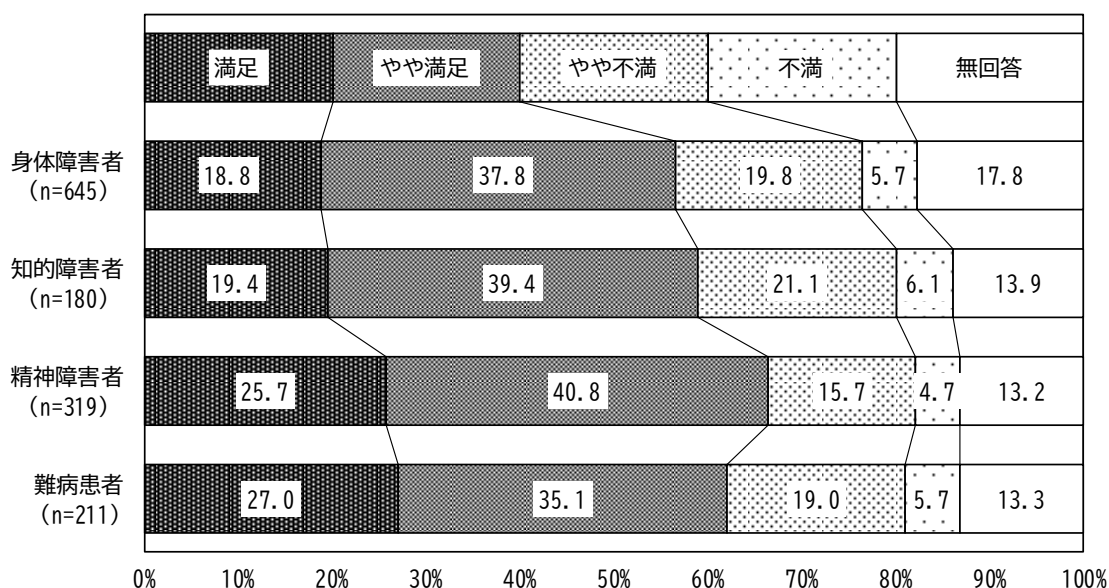
図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「満足」(18.8%)と「やや満足」(37.8%)をあわせた<満足>は 56.6%、「やや不満」(19.8%)と「不満」(5.7%)をあわせた<不満>は 25.5%である。
- ・知的障害者は「満足」(19.4%)と「やや満足」(39.4%)をあわせた<満足>は 58.8%、「やや不満」(21.1%)と「不満」(6.1%)をあわせた<不満>は 27.2%である。
- ・精神障害者は「満足」(25.7%)と「やや満足」(40.8%)をあわせた<満足>は 66.5%、「やや不満」(15.7%)と「不満」(4.7%)をあわせた<不満>は 20.4%である。
- ・難病患者は「満足」(27.0%)と「やや満足」(35.1%)をあわせた<満足>は 62.1%、「やや不満」(19.0%)と「不満」(5.7%)をあわせた<不満>は 24.7%である。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況の満足度(障害等の種類別)

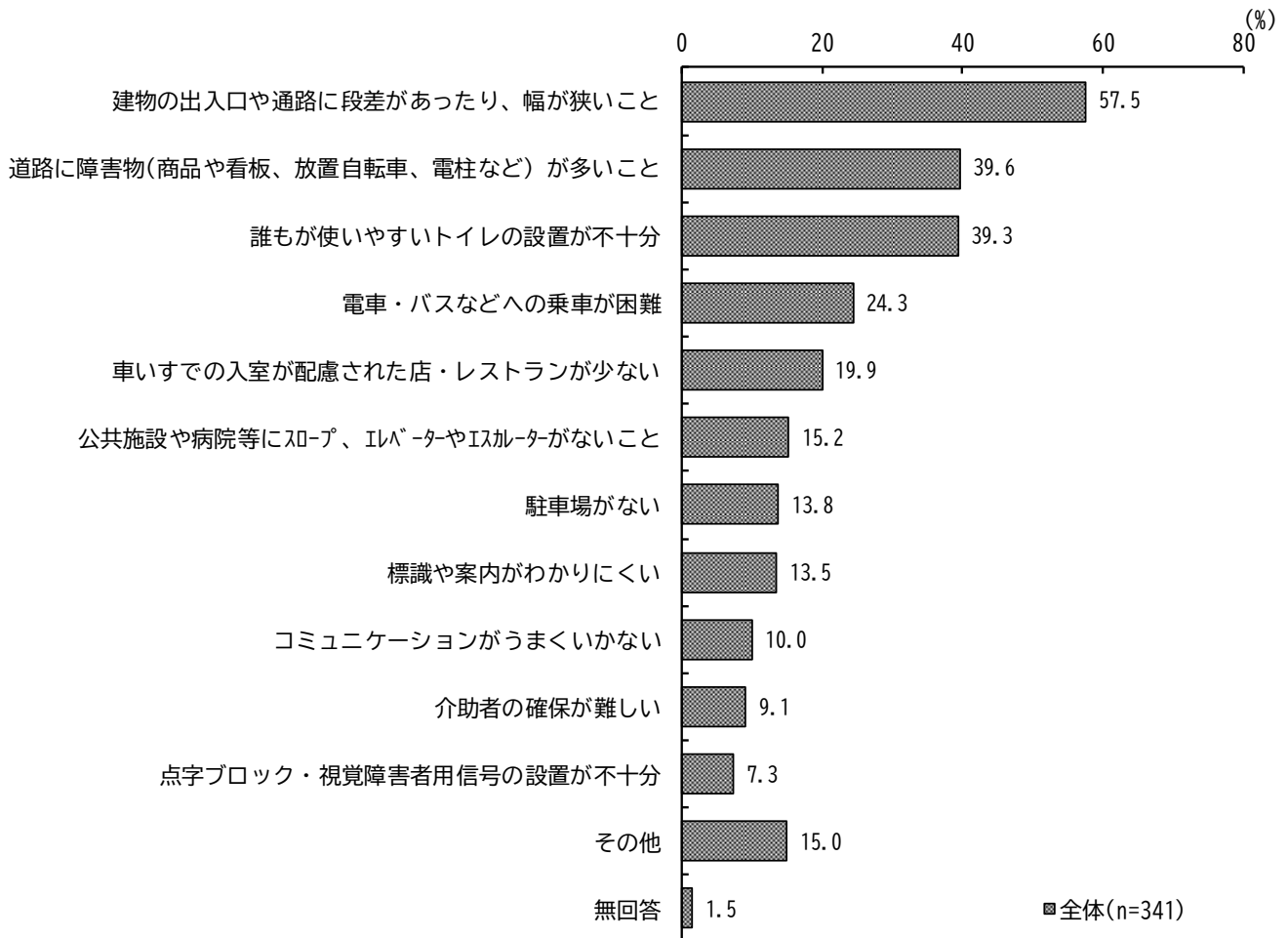


問 10-1 問8で「3」「4」と答えた方におたずねします。バリアフリー環境の整備状況に不満な理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

- ・「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(57.5%)が最も多く、次いで「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(39.6%)、「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(39.3%)が続いている。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況に不満な理由(全体：複数回答)

<やや不満、不満と回答した人>

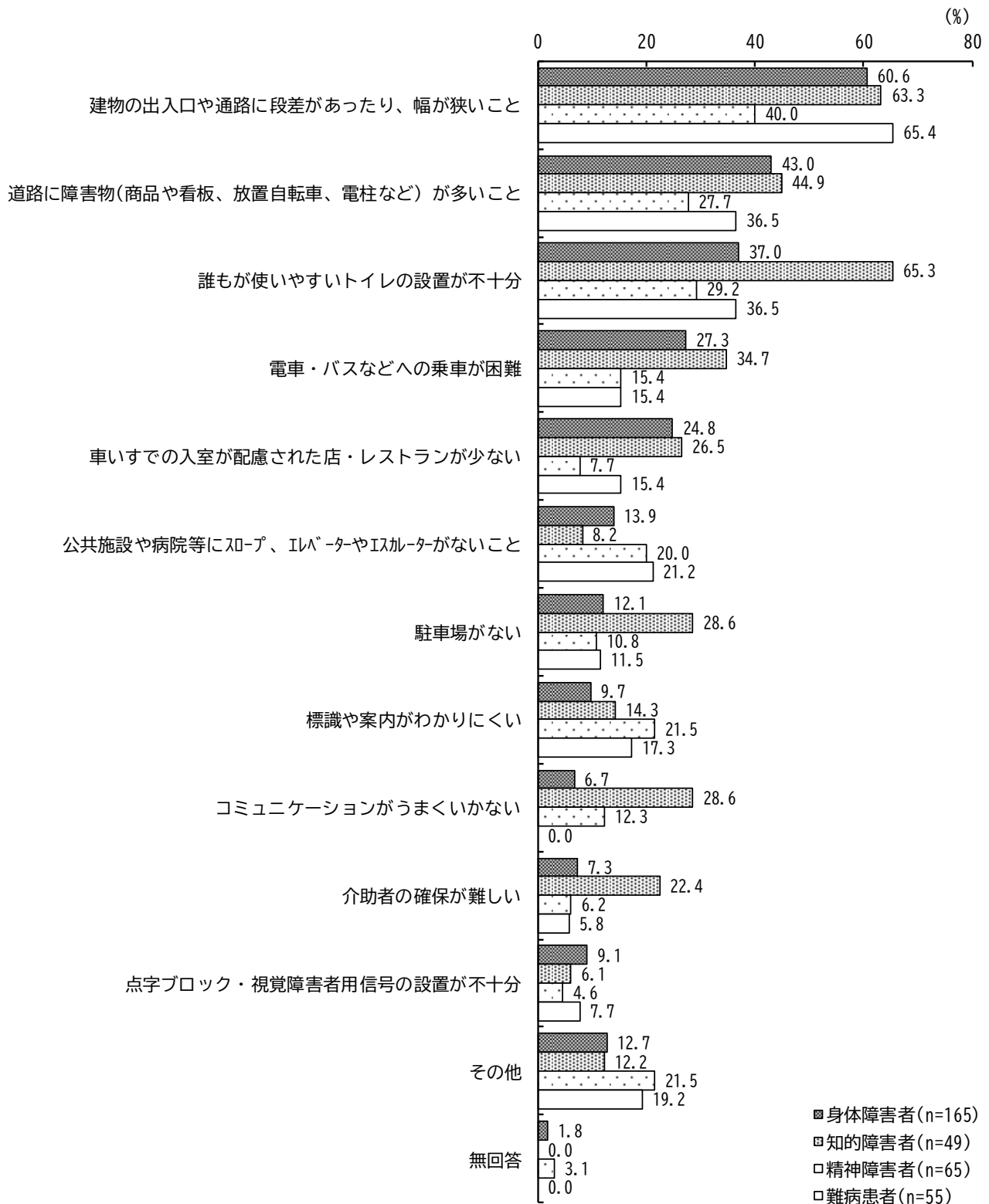


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(60.6%)が最も多く、次いで「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(43.0%)、「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(37.0%)が続いている。
- ・知的障害者は「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(65.3%)が最も多く、次いで「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(63.3%)、「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(44.9%)が続いている。全体と比べて「コミュニケーションがうまくいかない」(28.6%)は18.6ポイント、「介助者の確保が難しい」(22.4%)は13.3ポイント高い。
- ・精神障害者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(40.0%)が最も多く、次いで「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(29.2%)、「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」(27.7%)が続いている。
- ・難病患者は「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」(65.4%)が最も多く、次いで「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと」と「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分」(それぞれ36.5%)が同率で続いている。

図表 市内のバリアフリー環境の整備状況に不満な理由(障害等の種類別：複数回答)

<やや不満、不満と回答した人>

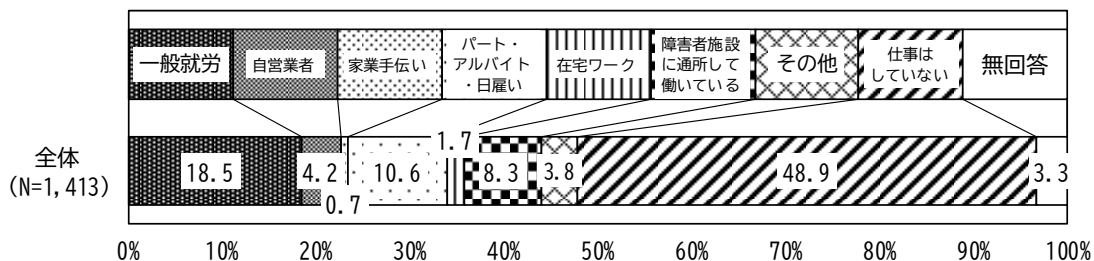


(6) 就労について

問11 あなたは現在どのような仕事をしていますか。(1つに○)

- ・「仕事はしていない」(48.9%)と「無回答」(3.3%)を除くと、＜仕事をしている人＞は 47.8%である。「一般就労」(18.5%)が最も多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い」(10.6%)、「障害者施設に通所して働いている」(8.3%)が続いている。

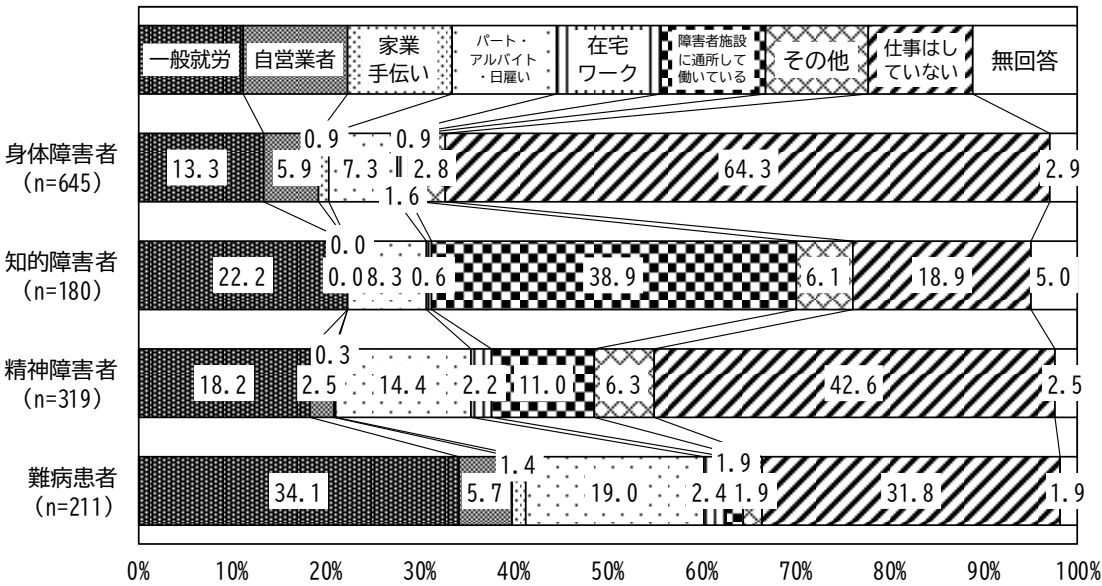
図表 現在の仕事(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「仕事はしていない」(64.3%)と「無回答」(2.9%)を除いた＜仕事をしている人＞は 32.8%である。「一般就労」(13.3%)が最も多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い」(7.3%)、「自営業者」(5.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「仕事はしていない」(18.9%)と「無回答」(5.0%)を除いた＜仕事をしている人＞は 76.1%である。「障害者施設に通所して働いている」(38.9%)が最も多く、次いで「一般就労」(22.2%)、「パート・アルバイト・日雇い」(8.3%)が続いている。
- ・精神障害者は「仕事はしていない」(42.6%)と「無回答」(2.5%)を除いた＜仕事をしている人＞は 54.9%である。「一般就労」(18.2%)が最も多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い」(14.4%)、「障害者施設に通所して働いている」(11.0%)が続いている。
- ・難病患者は「仕事はしていない」(31.8%)と「無回答」(1.9%)を除いた＜仕事をしている人＞は 66.3%である。「一般就労」(34.1%)が最も多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い」(19.0%)、「自営業者」(5.7%)が続いている。

図表 現在の仕事(障害等の種類別)



【障害等の種類・年代別】

- ・ 身体障害者は 18～39 歳で 63.6%、40～64 歳で 56.6%が仕事をしている。18～39 歳は 50.0%、40～64 歳は 30.2%が「一般就労」である。
- ・ 知的障害者は 18～39 歳で 78.9%、40～64 歳で 70.2%が仕事をしている。18～39 歳と 40～64 歳は「障害者施設に通所して働いている」（18～39 歳 39.1%、40～64 歳 38.3%）が最も多く、次いで「一般就労」（18～39 歳 25.0%、40～64 歳 17.0%）が多い。
- ・ 精神障害者は 18～39 歳で 62.6%、40～64 歳で 54.3%が仕事をしている。18～39 歳は「一般就労」と「パート・アルバイト・日雇い」（それぞれ 19.1%）が最も多く、次いで「障害者施設に通所して働いている」（9.6%）が続いている。40～64 歳では、「一般就労」（19.4%）が最も多い。
- ・ 難病患者は、18～39 歳で 80.9%、40～64 歳で 79.5%が仕事をしている。18～39 歳、40～64 歳ともに「一般就労」（18～39 歳：53.2%、40～64 歳：39.3%）が最も多く、「パート・アルバイト・日雇い」（それぞれ 19.1%、23.9%）が続いている。

図表 現在の仕事(全体、障害等の種類×年代別)

				仕事をしている人							仕事はしていない	無回答	仕事をしている人(再掲)
				一般就労	自営業者	家業手伝い	パート・アルバイト・日雇い	在宅ワーク	障害者施設に通所して働いている	その他			(%)
全体 (N=1,413)				18.5	4.2	0.7	10.6	1.7	8.3	3.8	48.9	3.3	47.8
障害種別・年代別	身体障害者	18～39歳 (n=22)		50.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	4.5	31.8	4.5	63.6
		40～64歳 (n=212)		30.2	7.1	0.9	9.9	3.8	2.4	2.4	41.5	1.9	56.6
		65歳以上 (n=407)		2.7	5.7	1.0	5.9	0.5	0.2	2.7	77.9	3.4	18.7
	知的障害者	18～39歳 (n=128)		25.0	0.0	0.0	7.0	0.8	39.1	7.0	18.0	3.1	78.9
		40～64歳 (n=47)		17.0	0.0	0.0	10.6	0.0	38.3	4.3	21.3	8.5	70.2
		65歳以上 (n=5)		0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	20.0	60.0
	精神障害者	18～39歳 (n=115)		19.1	4.3	0.0	19.1	2.6	9.6	7.8	35.7	1.7	62.6
		40～64歳 (n=186)		19.4	1.6	0.5	12.4	2.2	12.4	5.9	43.0	2.7	54.3
		65歳以上 (n=17)		0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	82.4	5.9	11.8
	難病患者	18～39歳 (n=47)		53.2	0.0	2.1	19.1	0.0	2.1	4.3	17.0	2.1	80.9
		40～64歳 (n=117)		39.3	6.8	0.9	23.9	4.3	2.6	1.7	19.7	0.9	79.5
		65歳以上 (n=47)		2.1	8.5	2.1	6.4	0.0	0.0	0.0	76.6	4.3	19.1

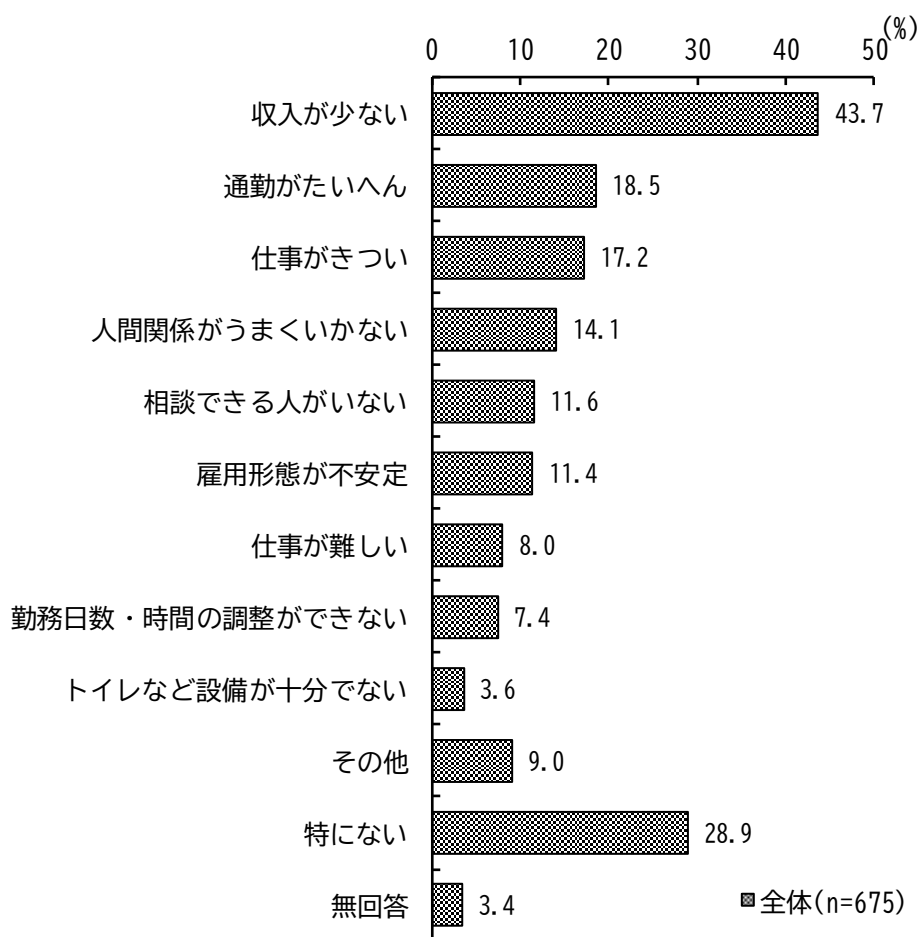
問11-1 問11で「1」～「7」と答えた方におたずねします。

仕事をするうえで不安がありますか。(いくつでも○)

- ・「収入が少ない」(43.7%)が最も多く、「通勤がたいへん」(18.5%)、「仕事がきつい」(17.2%)が続いている。

図表 仕事上の不安(全体：複数回答)

<仕事をしている人>

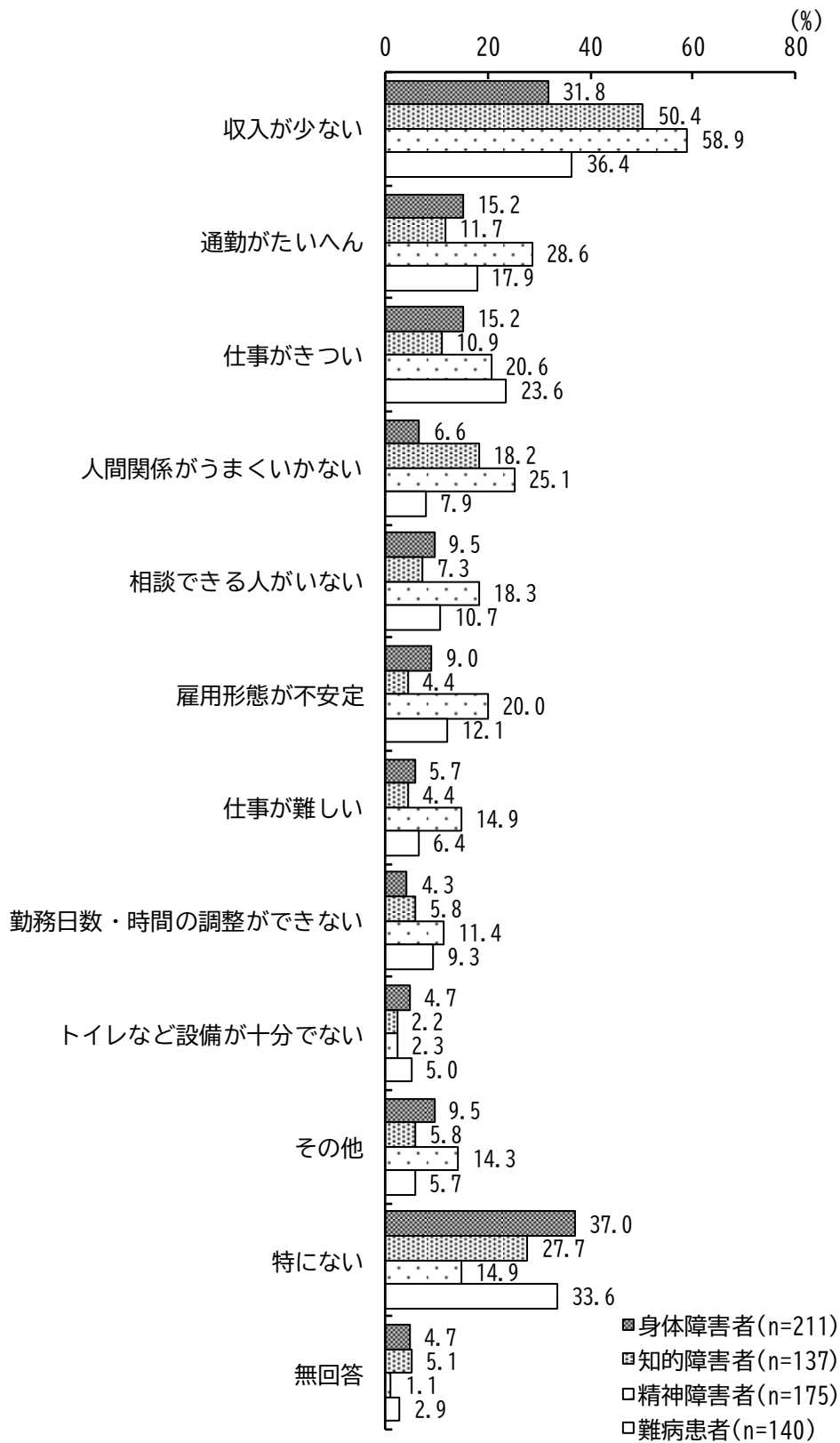


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者ともに、「収入が少ない」(身体：31.8%、知的：50.4%、精神：58.9%、難病：36.4%)が最も多い。
- ・「収入が少ない」以外では、身体障害者は「通勤がたいへん」と「仕事がきつい」(それぞれ15.2%)、知的障害者では「人間関係がうまくいかない」(18.2%)、精神障害者は「通勤がたいへん」(28.6%)、難病患者は「仕事がきつい」(23.6%)が続いている。

図表 仕事上の不安(障害等の種類別：複数回答)

<仕事をしている人>

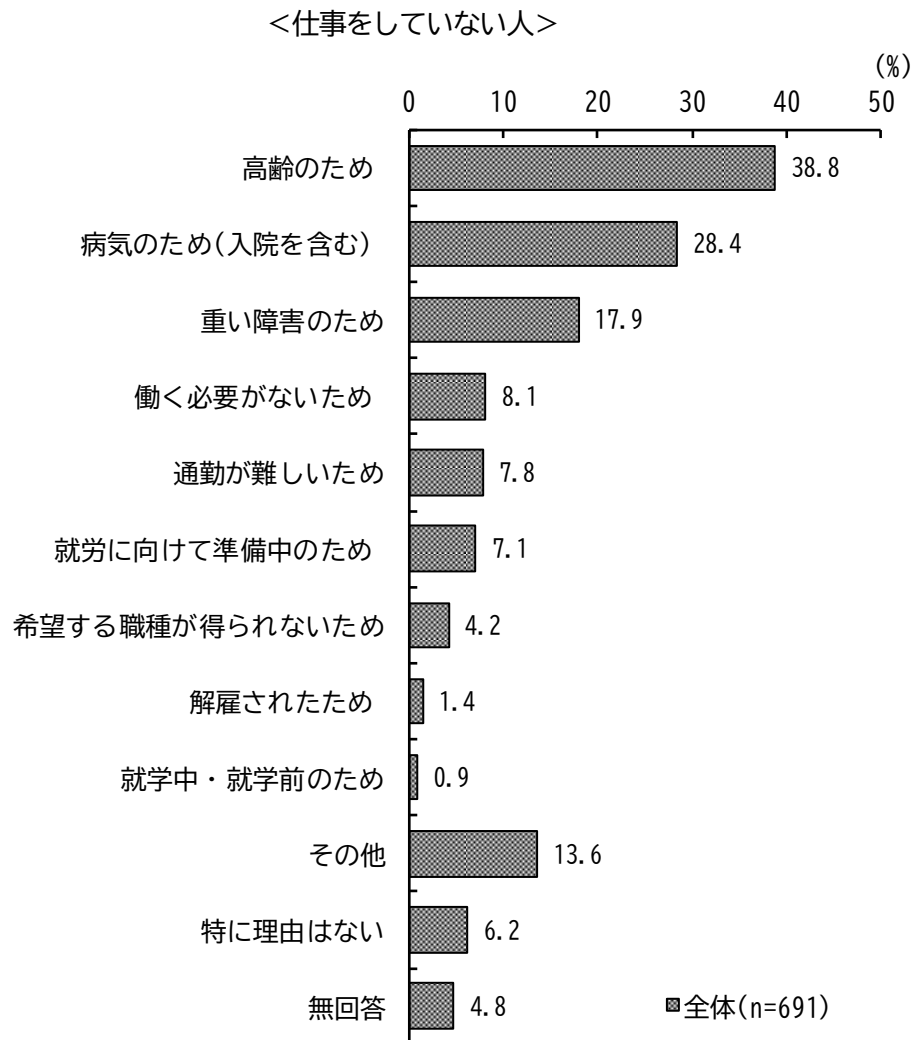


問11-2 問11で「8. 仕事はしていない」と答えた方におたずねします。

仕事をしていない理由は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「高齢のため」(38.8%)が最も多く、「病気のため(入院を含む)」(28.4%)、「重い障害のため」(17.9%)が続いている。

図表 仕事をしていない理由(全体：複数回答)



【障害等の種類×年代別】

- ・「高齢のため」、「重い障害のため」、「病気のため(入院を含む)」以外の理由について、障害の種類・年代別に分析する。
- ・身体障害者は、40～64歳は「通勤が難しいため」(19.3%)、「その他」(15.9%)が多い。65歳以上は「働く必要がないため」(11.4%)が全体と比較して多い。
- ・知的障害者は、18～39歳では「その他」(26.1%)、40～64歳では「通勤が難しいため」(20.0%)が多い。
- ・精神障害者は、18～39歳は「就労に向けて準備中のため」(31.7%)が多く、「通勤が難しいため」(24.4%)、「その他」(26.8%)も多い。40～64歳でも「就労に向けて準備中のため」(15.0%)が全体と比較して多い。
- ・難病患者は、18～39歳で「就労に向けて準備中のため」(50.0%)を8人中4人が、「通勤が難しいため」(25.0%)も8人中2人が挙げている。40～64歳でも、「就労に向けて準備中のため」(26.1%)、「通勤が難しいため」(13.0%)が上位となっている。65歳以上では「働く必要がないため」(19.4%)が多い。

図表 仕事をしていない理由(全体、障害等の種類×年代別：複数回答)

<仕事をしていない人>

(%)

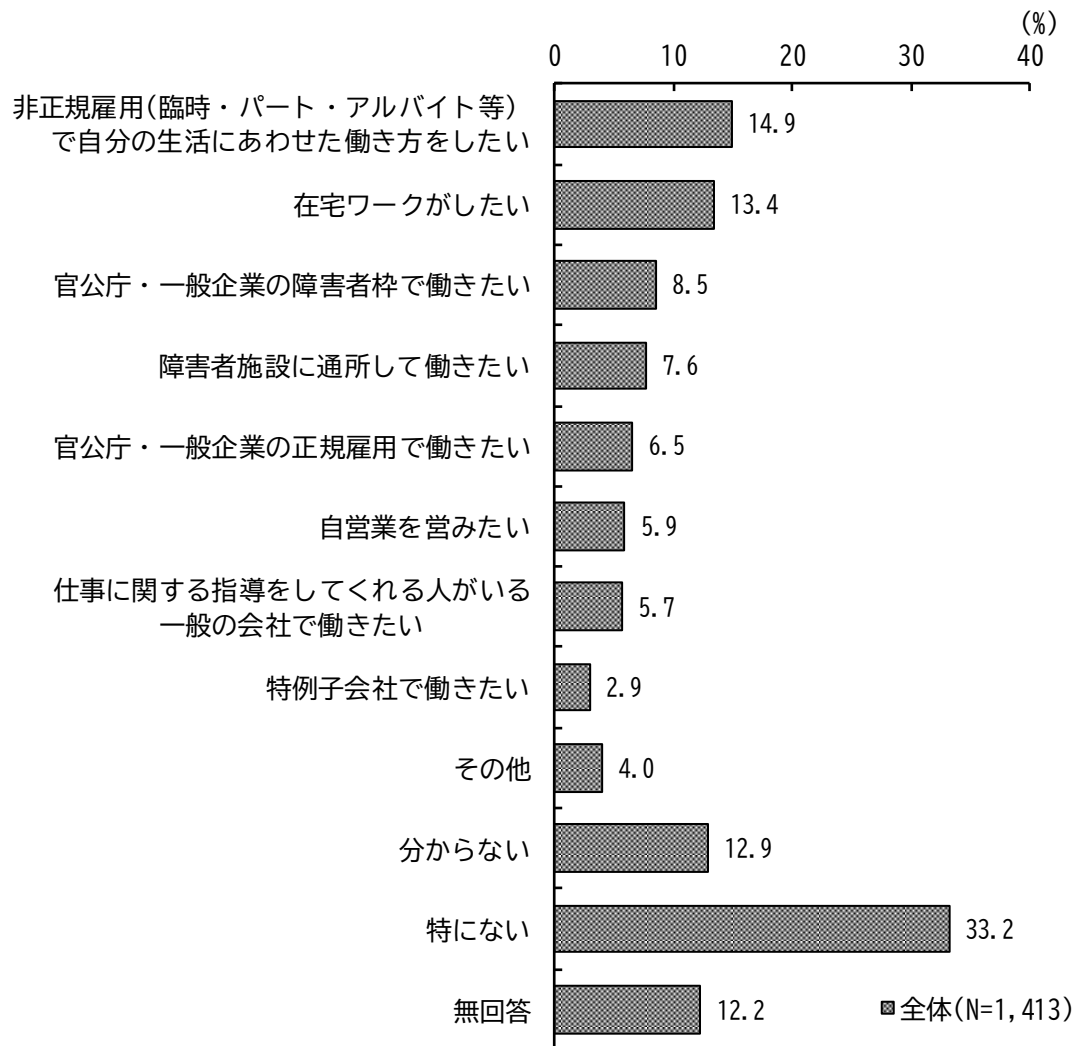
				高齢のため	病気のため (入院を含む)	重い障害のため	働く必要がないため	通勤が難しいため	就労に向けて準備中のため
		全体	(n=691)	38.8	28.4	17.9	8.1	7.8	7.1
障害種別・年代別	身体障害者	18～39歳	(n=7)	14.3	57.1	14.3	0.0	14.3	14.3
		40～64歳	(n=88)	6.8	42.0	34.1	4.5	19.3	10.2
		65歳以上	(n=317)	65.9	17.7	13.9	11.4	3.2	0.0
	知的障害者	18～39歳	(n=23)	0.0	0.0	60.9	0.0	8.7	8.7
		40～64歳	(n=10)	10.0	0.0	50.0	0.0	20.0	0.0
		65歳以上	(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神障害者	18～39歳	(n=41)	0.0	41.5	19.5	2.4	24.4	31.7
		40～64歳	(n=80)	2.5	47.5	17.5	2.5	6.3	15.0
		65歳以上	(n=14)	42.9	42.9	21.4	0.0	7.1	0.0
	難病患者	18～39歳	(n=8)	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	50.0
		40～64歳	(n=23)	0.0	47.8	8.7	0.0	13.0	26.1
		65歳以上	(n=36)	61.1	38.9	0.0	19.4	0.0	0.0

				希望する職種が得られないため	解雇されたため	就学中・就学前のため	その他	特に理由はない	無回答
		全体	(n=691)	4.2	1.4	0.9	13.6	6.2	4.8
障害種別・年代別	身体障害者	18～39歳	(n=7)	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
		40～64歳	(n=88)	10.2	1.1	0.0	15.9	8.0	3.4
		65歳以上	(n=317)	2.2	0.6	0.0	8.5	7.3	5.4
	知的障害者	18～39歳	(n=23)	4.3	0.0	8.7	26.1	0.0	4.3
		40～64歳	(n=10)	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0
		65歳以上	(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神障害者	18～39歳	(n=41)	4.9	4.9	4.9	26.8	2.4	0.0
		40～64歳	(n=80)	5.0	3.8	0.0	21.3	5.0	6.3
		65歳以上	(n=14)	7.1	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1
	難病患者	18～39歳	(n=8)	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0
		40～64歳	(n=23)	0.0	0.0	0.0	17.4	4.3	4.3
		65歳以上	(n=36)	8.3	0.0	0.0	11.1	8.3	2.8

問12 あなたは、今後どのような仕事がしたいですか。(いくつでも○)

- ・「特にない」(33.2%)と「分からない」(12.9%)以外では、「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(14.9%)が最も多く、次いで「在宅ワークがしたい」(13.4%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(8.5%)が続いている。

図表 今後したい仕事(全体：複数回答)



【障害等の種類・年代別】

- ・身体障害者は、18～39 歳で「在宅ワークがしたい」(36.4%)が最も多く、次いで「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(22.7%)と「仕事に関する指導をしてくれる人がある一般の会社で働きたい」(22.7%)が同率で続いている。40～64 歳では「在宅ワークがしたい」(17.9%)が最も多く、次いで「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(15.6%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(12.7%)が続いている。
- ・知的障害者は、18～39 歳で「障害者施設に通所して働きたい」(28.9%)が最も多く、次いで「特例子会社で働きたい」(8.6%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(7.0%)が続いている。40～64 歳では「障害者施設に通所して働きたい」(34.0%)が最も多く、次いで「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(8.5%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(8.5%)が同率で続いている。
- ・精神障害者は、18～39 歳は「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(33.0%)が最も多く、「在宅ワークがしたい」(32.2%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(27.8%)が続いている。40～64 歳では「在宅ワークがしたい」(24.7%)が最も多く、「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(18.8%)、「官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい」(17.2%)が続いている。
- ・難病患者は、18～39 歳で「在宅ワークがしたい」(31.9%)が最も多く、次いで「官公庁・一般企業の正規雇用で働きたい」(21.3%)、「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(17.0%)が続いている。40～64 歳では「非正規雇用(臨時・パート・アルバイト等)で自分の生活にあわせた働き方をしたい」(29.1%)が最も多く、次いで「在宅ワークがしたい」(12.0%)と「官公庁・一般企業の正規雇用で働きたい」(12.0%)が同率で続いている。

図表 今後したい仕事（全体、障害等の種類×年代別：複数回答）

（％）

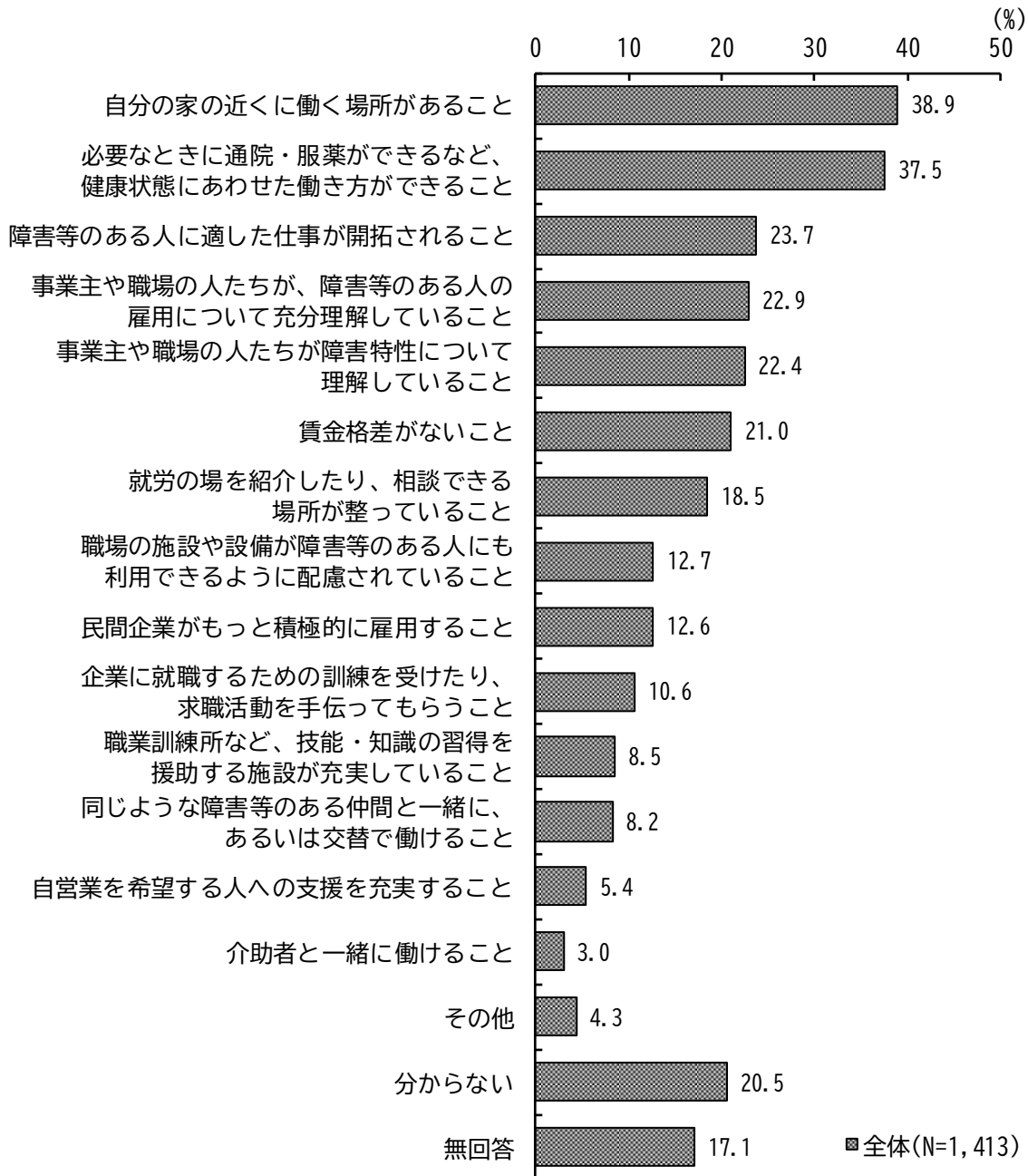
				非正規雇用（臨時・パート・アルバイト等）で自分の生活にあわせた働き方をしたい	在宅ワークがしたい	官公庁・一般企業の障害者枠で働きたい	障害者施設に通所して働きたい	官公庁・一般企業の正規雇用で働きたい	自営業を営みたい
		全体	(n=1,413)	14.9	13.4	8.5	7.6	6.5	5.9
障害種別・年代別	身体障害者	18～39歳	(n=22)	22.7	36.4	18.2	9.1	18.2	9.1
		40～64歳	(n=212)	15.6	17.9	12.7	2.8	9.4	8.0
		65歳以上	(n=407)	8.1	4.9	1.5	1.2	0.2	2.5
	知的障害者	18～39歳	(n=128)	5.5	4.7	7.0	28.9	5.5	3.1
		40～64歳	(n=47)	8.5	2.1	8.5	34.0	2.1	0.0
		65歳以上	(n=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神障害者	18～39歳	(n=115)	33.0	32.2	27.8	13.9	12.2	9.6
		40～64歳	(n=186)	18.8	24.7	17.2	10.2	10.8	10.2
		65歳以上	(n=17)	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0
	難病患者	18～39歳	(n=47)	17.0	31.9	6.4	4.3	21.3	14.9
		40～64歳	(n=117)	29.1	12.0	1.7	1.7	12.0	6.0
		65歳以上	(n=47)	10.6	4.3	0.0	2.1	0.0	4.3

				仕事に関する指導をしてくれる人がいる一般の会社で働きたい	特例子会社で働きたい	その他	分からない	特にない	無回答
		全体	(n=1,413)	5.7	2.9	4.0	12.9	33.2	12.2
障害種別・年代別	身体障害者	18～39歳	(n=22)	22.7	9.1	0.0	9.1	18.2	9.1
		40～64歳	(n=212)	5.7	1.9	7.1	15.6	26.4	7.5
		65歳以上	(n=407)	1.2	0.0	1.2	8.4	57.5	18.9
	知的障害者	18～39歳	(n=128)	6.3	8.6	6.3	20.3	13.3	13.3
		40～64歳	(n=47)	2.1	4.3	0.0	14.9	17.0	21.3
		65歳以上	(n=5)	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0
	精神障害者	18～39歳	(n=115)	15.7	7.8	2.6	15.7	11.3	2.6
		40～64歳	(n=186)	10.8	5.9	8.6	15.6	14.5	6.5
		65歳以上	(n=17)	0.0	0.0	5.9	17.6	47.1	17.6
	難病患者	18～39歳	(n=47)	6.4	0.0	2.1	10.6	27.7	2.1
		40～64歳	(n=117)	5.1	1.7	4.3	10.3	34.2	4.3
		65歳以上	(n=47)	2.1	0.0	2.1	10.6	53.2	12.8

問13 あなたは、働くためにはどのようなことを希望しますか。(いくつでも○)

- ・「自分の家の近くに働く場所があること」(38.9%)が最も多く、「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」(37.5%)、「障害等のある人に適した仕事が開拓されること」(23.7%)が続いている。

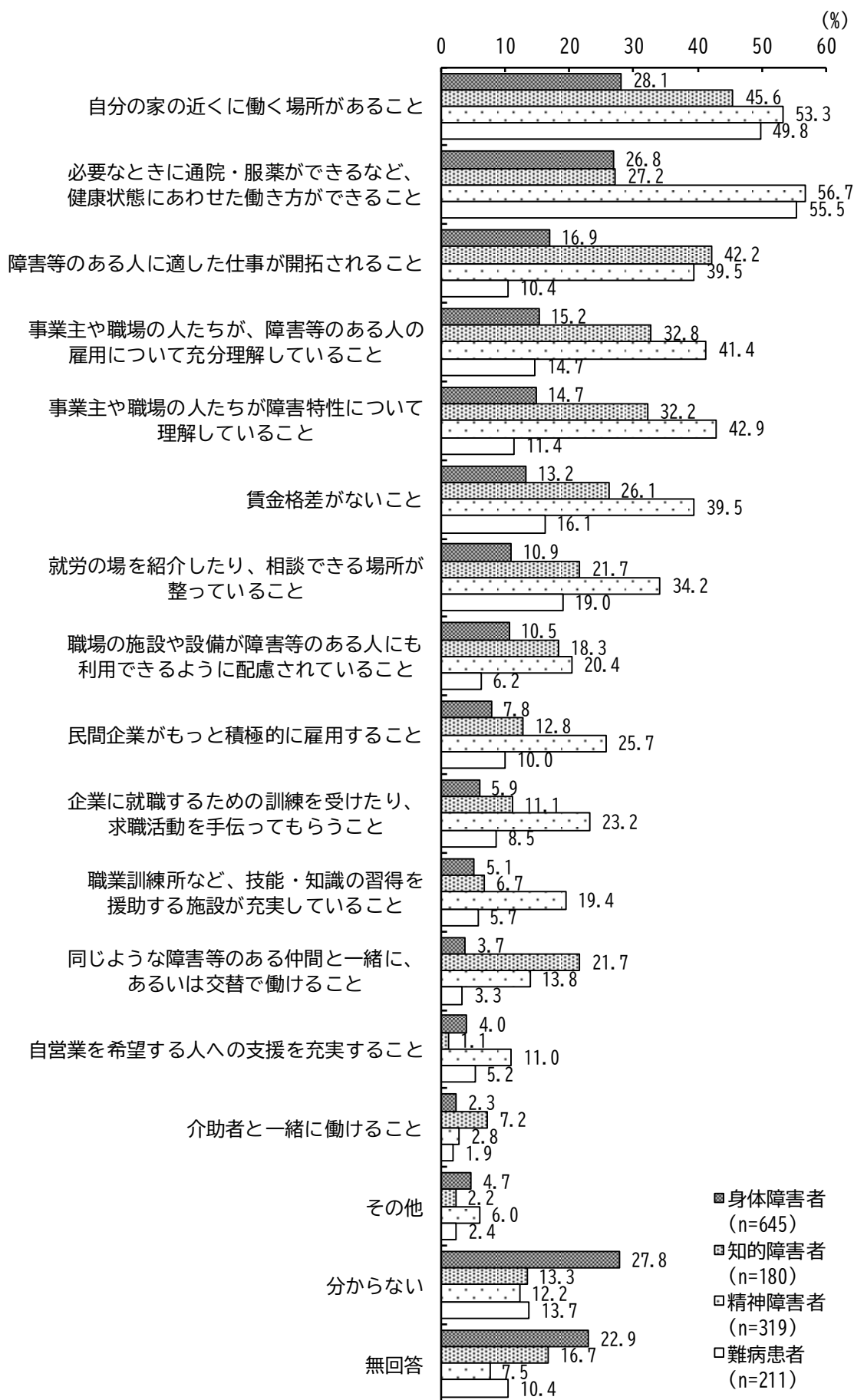
図表 働くために希望すること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者と知的障害者は「自分の家の近くに働く場所があること」(身体障害者：28.1%、知的障害者：45.6%)、精神障害者と難病患者は「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」(精神：56.7%、難病：55.5%)が最も多い。

図表 働くために希望すること(障害等の種類別：複数回答)

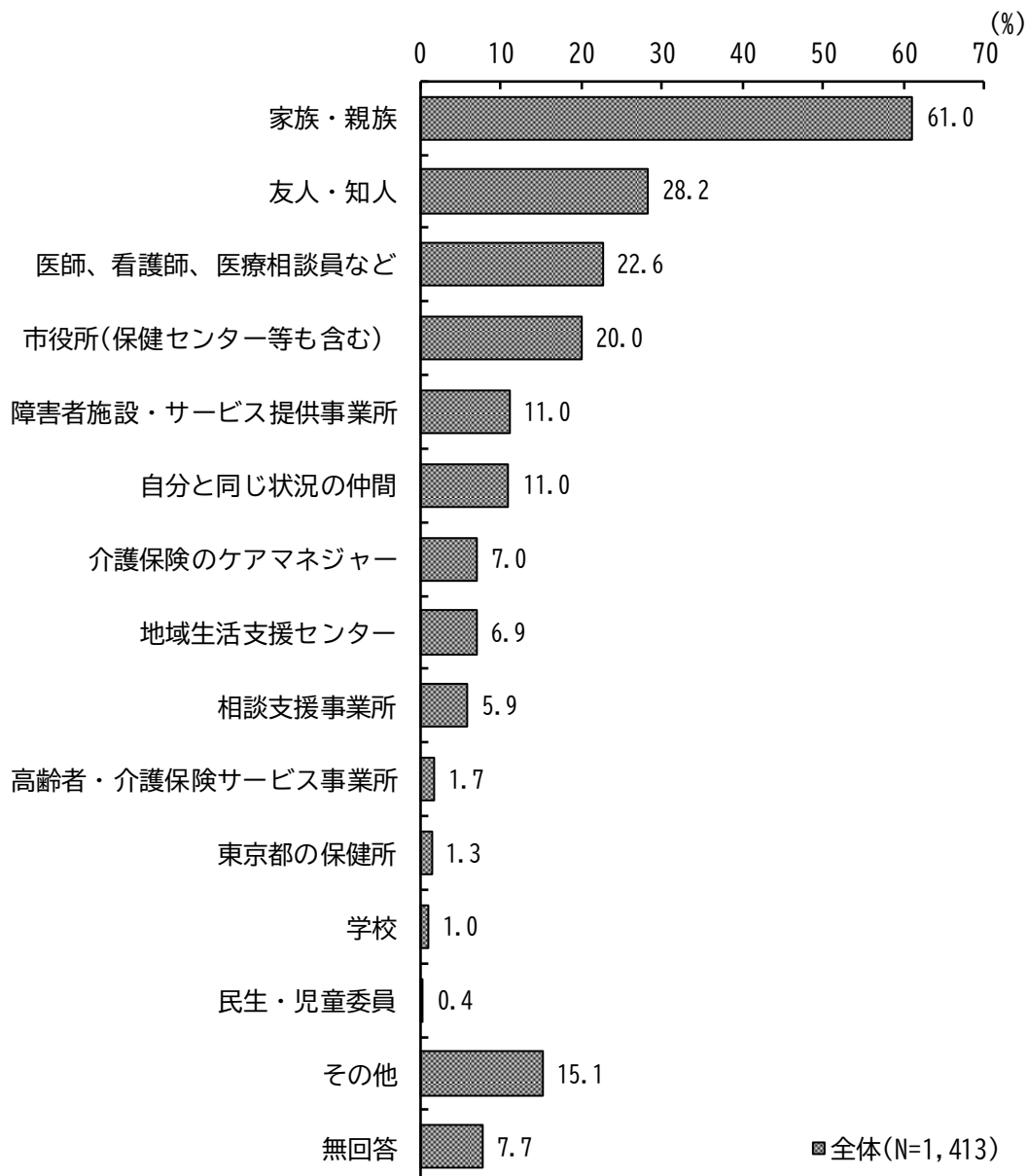


(7) 情報・相談・権利擁護について

問14 あなたは、生活に必要な情報をどちらから得ていますか。(いくつでも○)

- ・情報の取得先については、「家族・親族」(61.0%)が最も多く、「友人・知人」(28.2%)、「医師、看護師、医療相談員など」(22.6%)、「市役所(保健センター等も含む)」(20.0%)が続いている。「障害者施設・サービス提供事業所」(11.0%)、「自分と同じ状況の仲間」(11.0%)も1割を超えている。

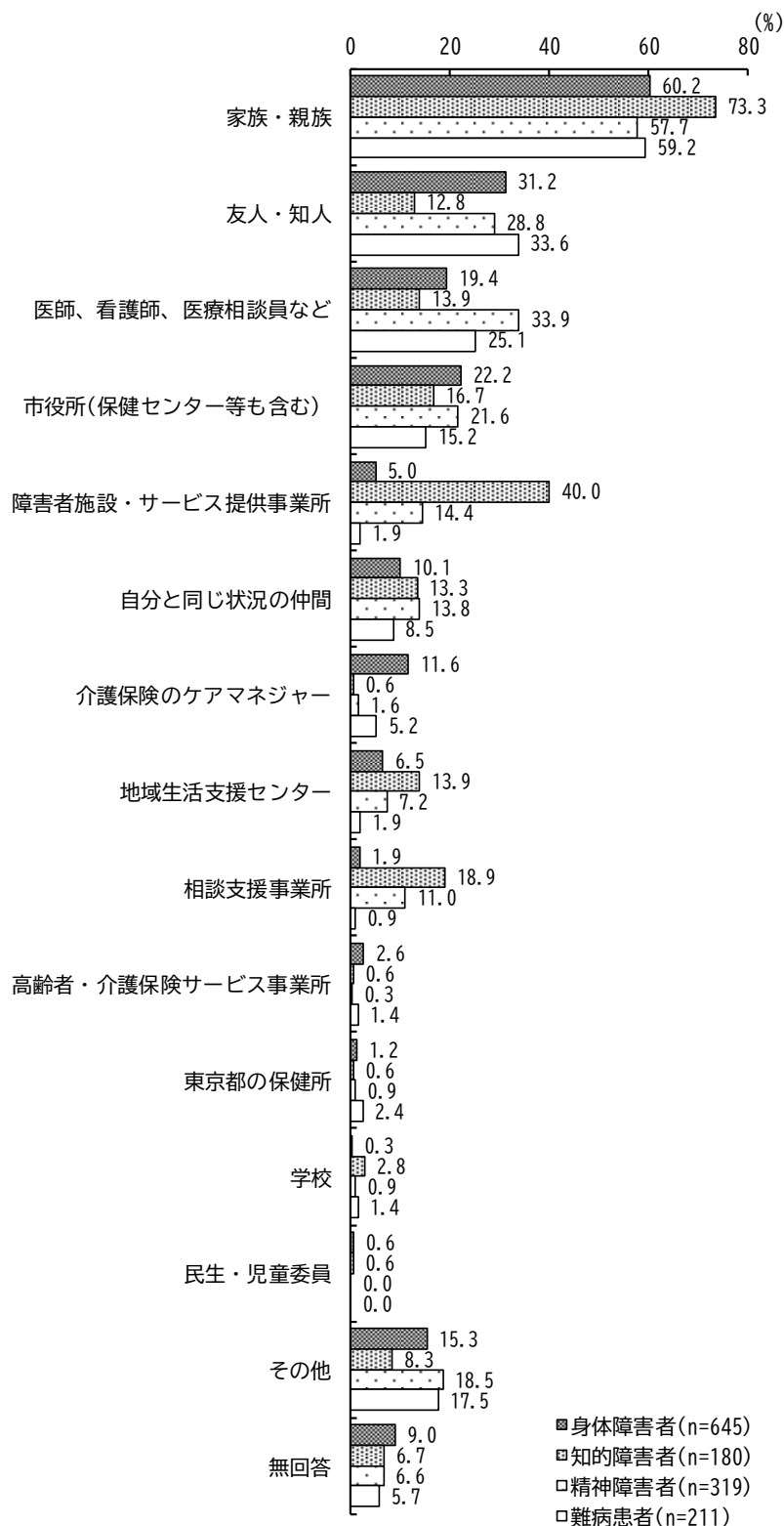
図表 情報の取得先(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、「家族・親族」（身体：60.2%、知的：73.3%、精神：57.7%、難病：59.2%）が最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者と難病患者は「友人・知人」（身体：31.2%、難病患者：33.6%）、知的障害者は「障害者施設・サービス提供事業所」（40.0%）、精神障害者は「医師、看護師、医療相談員など」（33.9%）となっている。

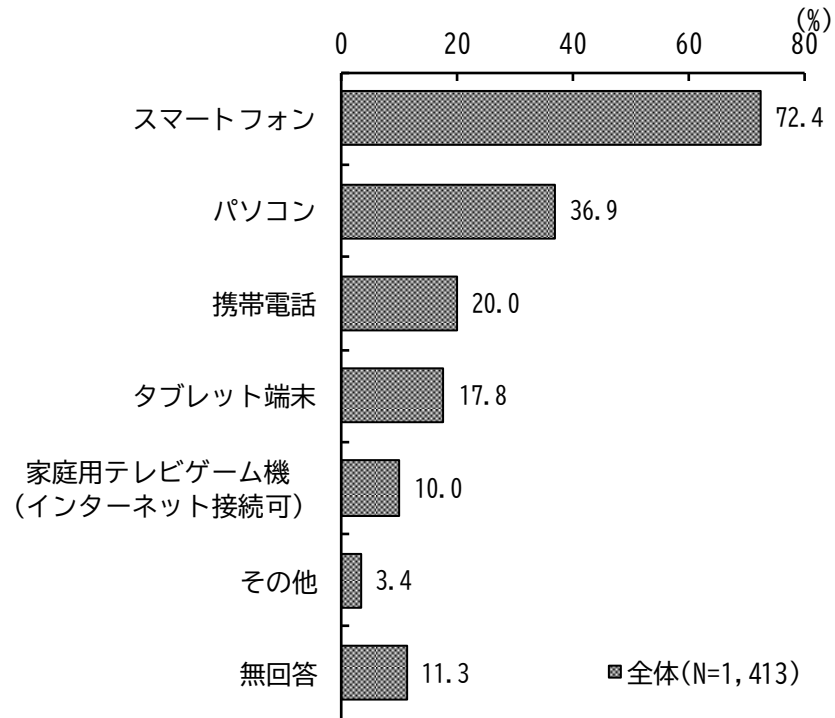
図表 情報の取得先(障害等の種類別：複数回答)



問15 あなたは、次のような情報通信機器を使用していますか。(いくつでも○)

- ・ 使用している情報通信機器については、「スマートフォン」(72.4%)が最も多く、「パソコン」(36.9%)、「携帯電話」(20.0%)、「タブレット端末」(17.8%)が続いている。「家庭用テレビゲーム機(インターネット接続可)」(10.0%)も1割となっている。

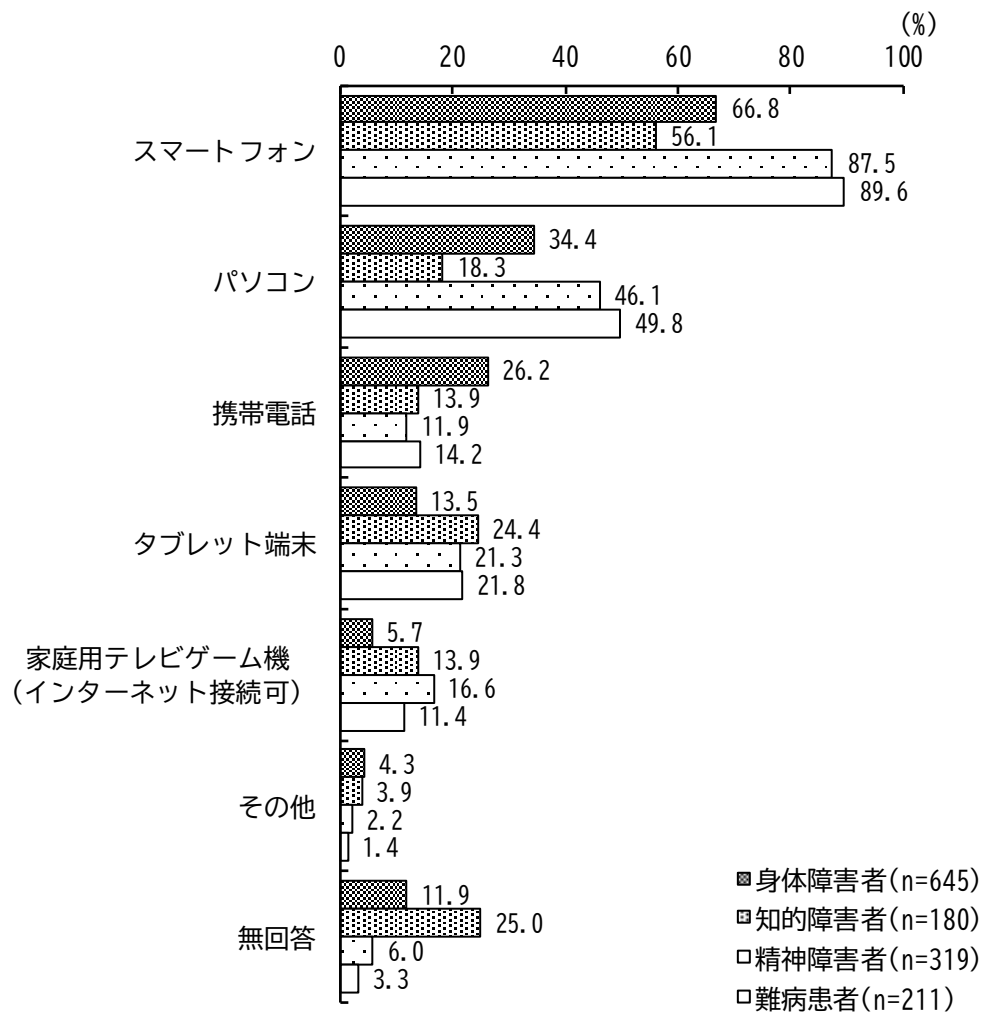
図表 利用している情報通信機器(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・ 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、「スマートフォン」(身体：66.8%、知的：56.1%、精神：87.5%、難病：89.6%)が最も多い。
- ・ 2番目に多いのは、身体障害者と精神障害者、難病患者は「パソコン」(身体：34.4%、精神：46.1%、難病：49.8%)、知的障害者は「タブレット端末」(24.4%)となっている。

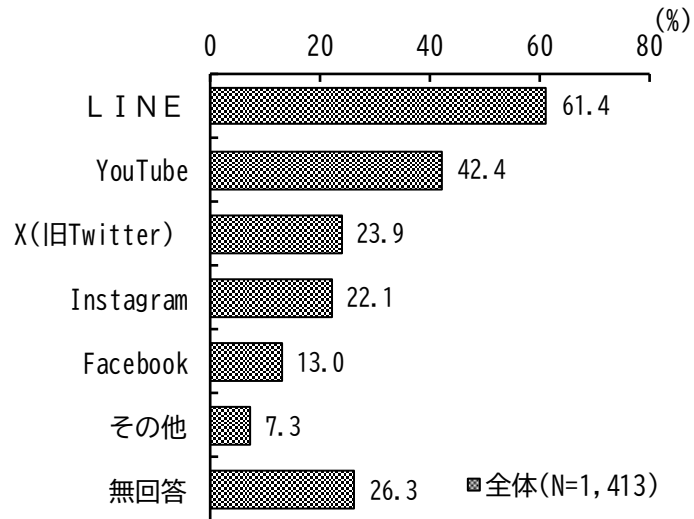
図表 利用している情報通信機器(障害等の種類別：複数回答)



問 16 あなたは、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用していますか。（いくつでも○）

- ・利用しているSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）についてたずねたところ、「LINE」（61.4%）が最も多く、「YouTube」（42.4%）、「X(旧 Twitter)」（23.9%）、「Instagram」（22.1%）が続いている。「Facebook」（13.0%）も1割を超えている。

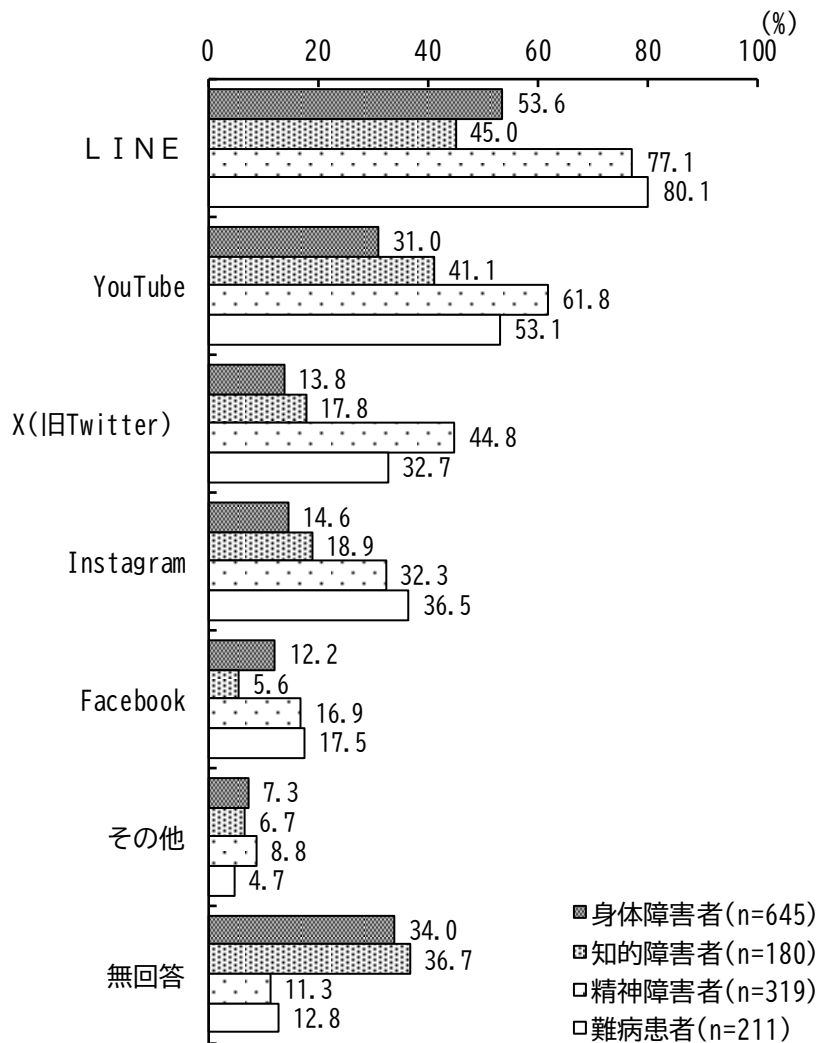
図表 利用しているSNS（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、「LINE」(身体：53.6%、知的：45.0%、精神：77.1%、難病：80.1%)が最も多く、「YouTube」(身体：31.0%、知的：41.1%、精神：61.8%、難病：53.1%)が続いている。
- ・3番目に多いのは、身体障害者と知的障害者、難病患者は「Instagram」(身体：14.6%、知的障害者：18.9%、難病患者：36.5%)、精神障害者は「X(旧Twitter)」(44.8%)となっている。

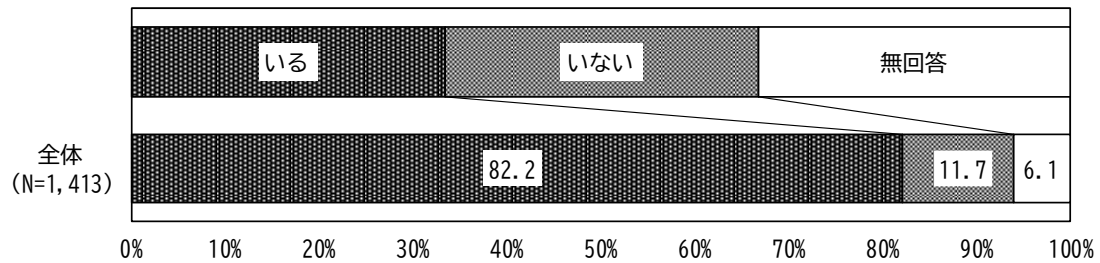
図表 利用しているSNS(障害等の種類別：複数回答)



問17 あなたは、悩みや困りごとを相談できる人がいますか。(1つに○)

- ・「いる」が82.2%、「いない」が11.7%である。

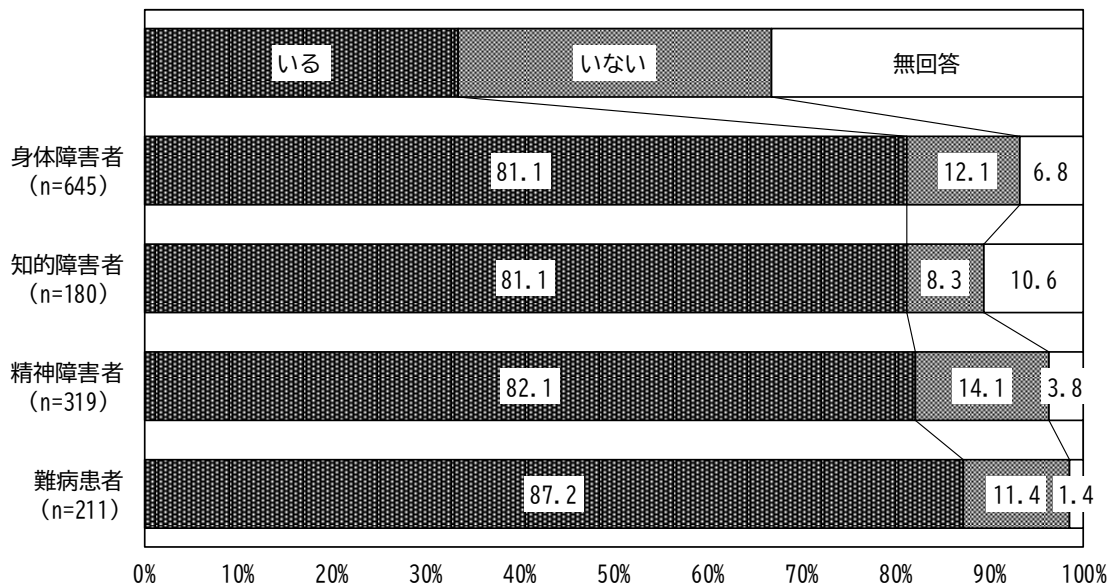
図表 相談できる人の有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、全体と同様「いる」が8割を超えている。

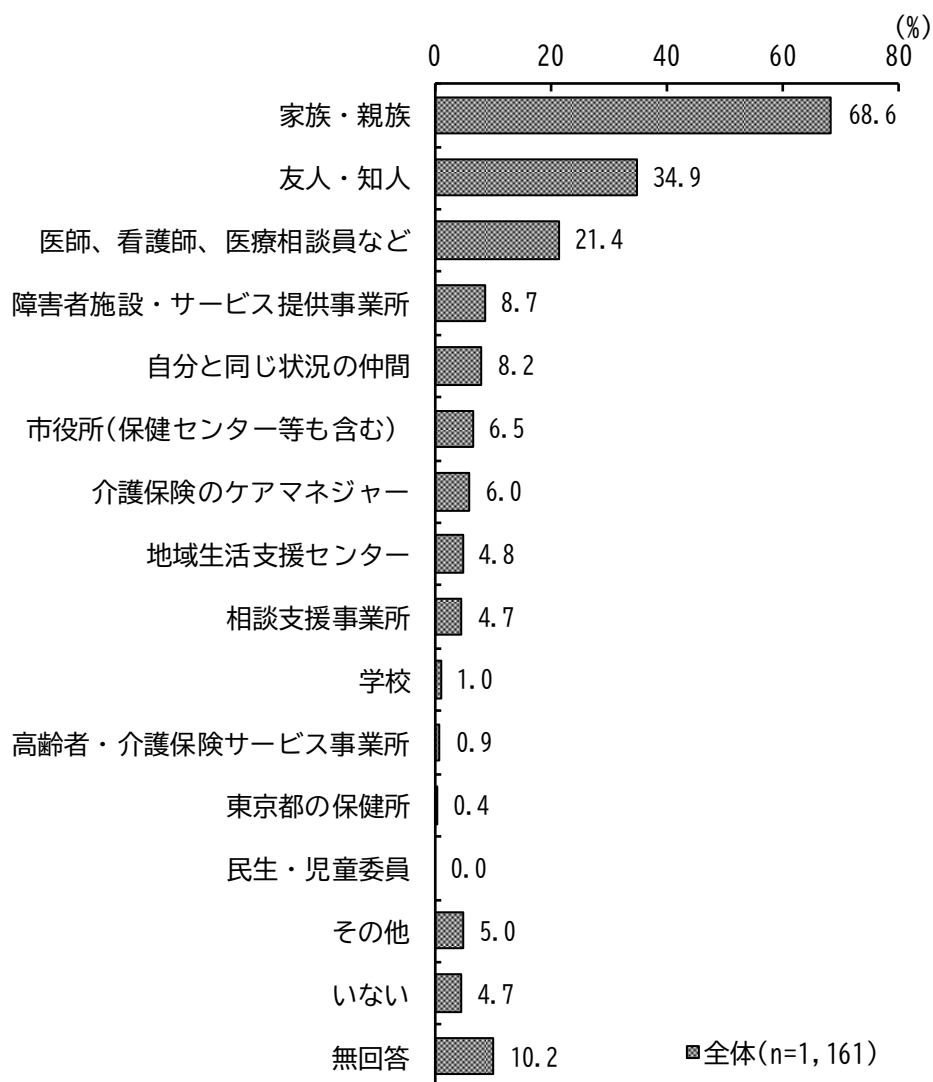
図表 相談できる人の有無(障害等の種類別)



問17-1 あなたは、悩みや困りごとを相談できる人はどなたですか。(いくつでも○)

- ・問17で「いる」と回答した人に悩みや困りごとの相談先についてたずねたところ、「家族・親族」(68.6%)が最も多く、「友人・知人」(34.9%)、「医師、看護師、医療相談員など」(21.4%)が続いている。「障害者施設・サービス提供事業所」(8.7%)、「自分と同じ状況の仲間」(8.2%)も1割近くとなっている。

図表 相談先(全体：複数回答)
<相談できる人がいると回答した人>

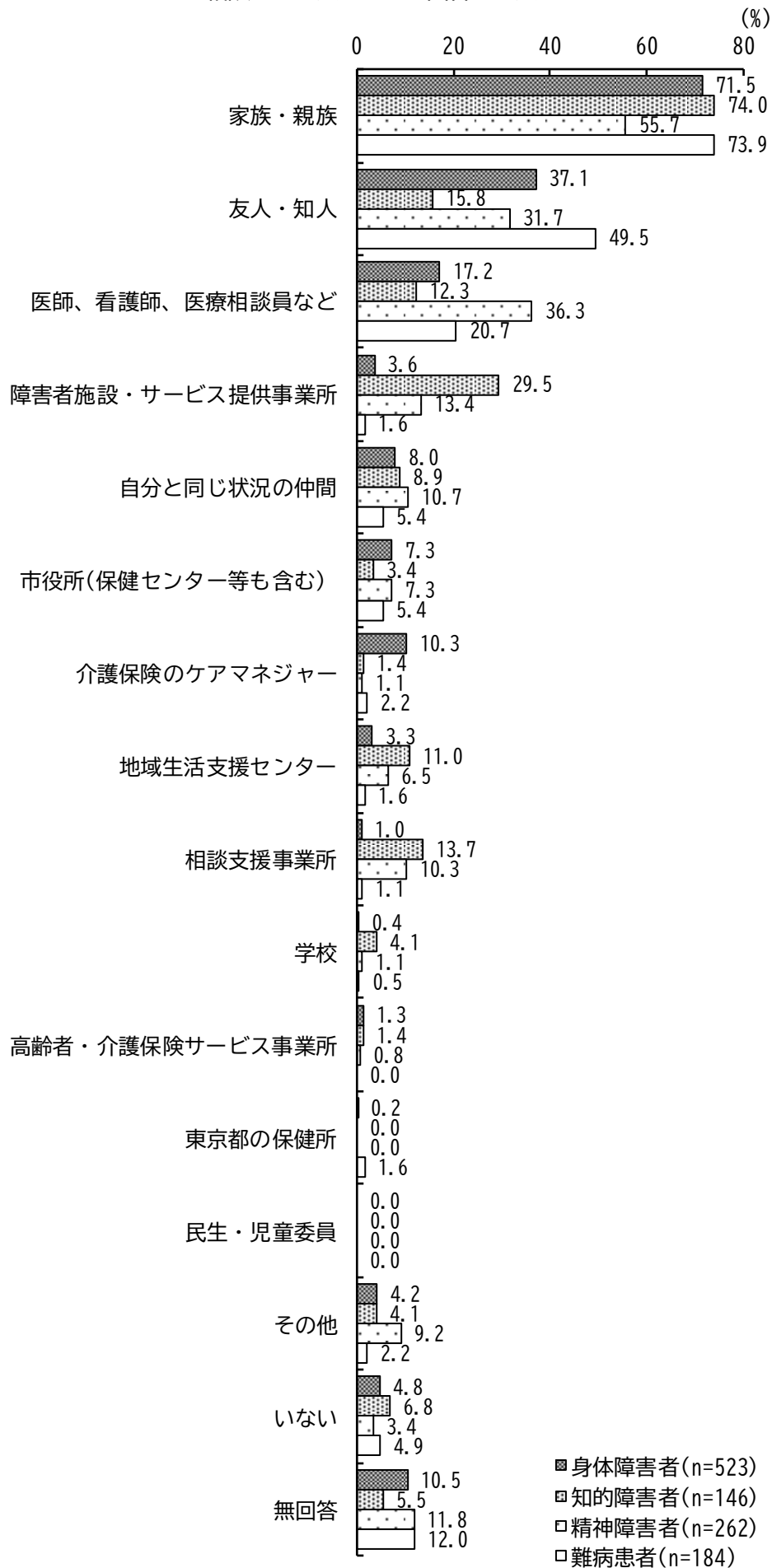


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、「家族・親族」(身体：71.5%、知的：74.0%、精神：55.7%、難病：73.9%)が最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者と難病患者は「友人・知人」(身体：37.1%、難病患者：49.5%)、知的障害者は「障害者施設・サービス提供事業所」(29.5%)、精神障害者は「医師、看護師、医療相談員など」(36.3%)となっている。

図表 相談先(障害等の種類別：複数回答)

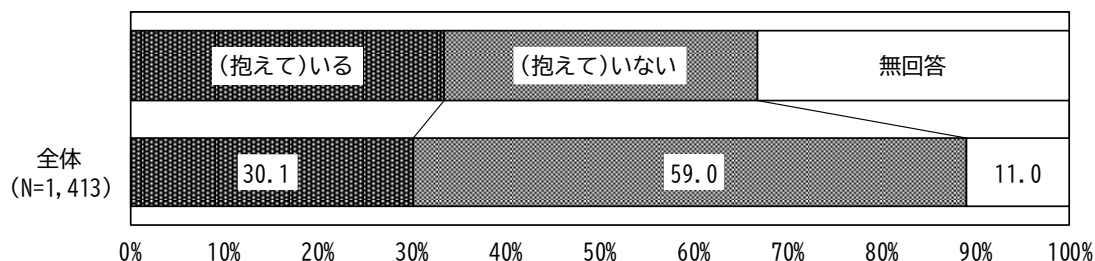
<相談できる人がいると回答した人>



問 18 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

- ・「(抱えて)いる」が30.1%、「(抱えて)いない」が59.0%である。

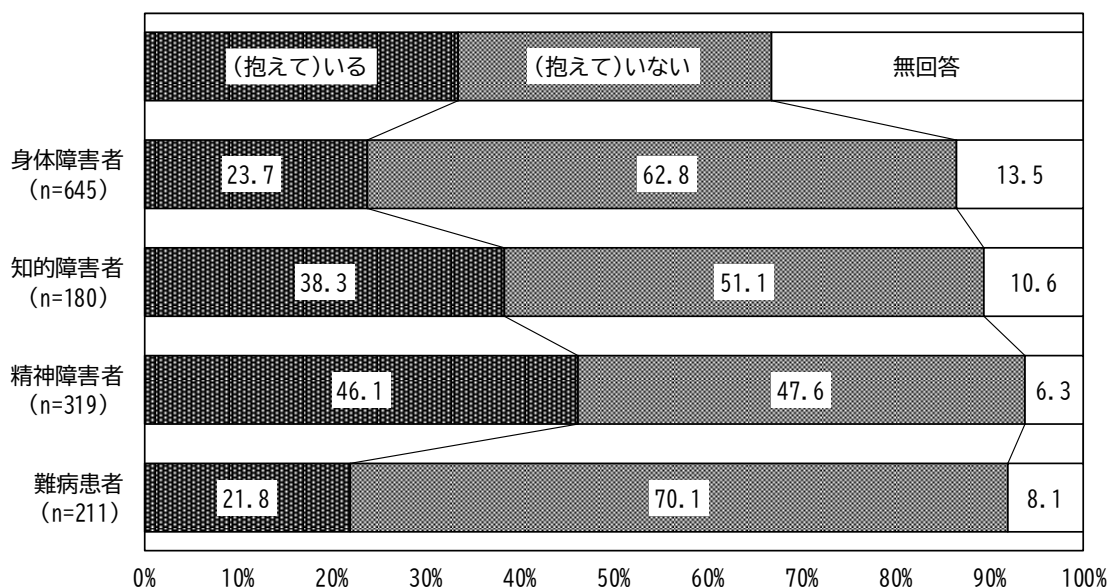
図表 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとの有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・「(抱えて)いる」との回答は、身体障害者 23.7%、知的障害者 38.3%、精神障害者 46.1%、難病患者 21.8%と、精神障害者、知的障害者で全体より多くなっている。

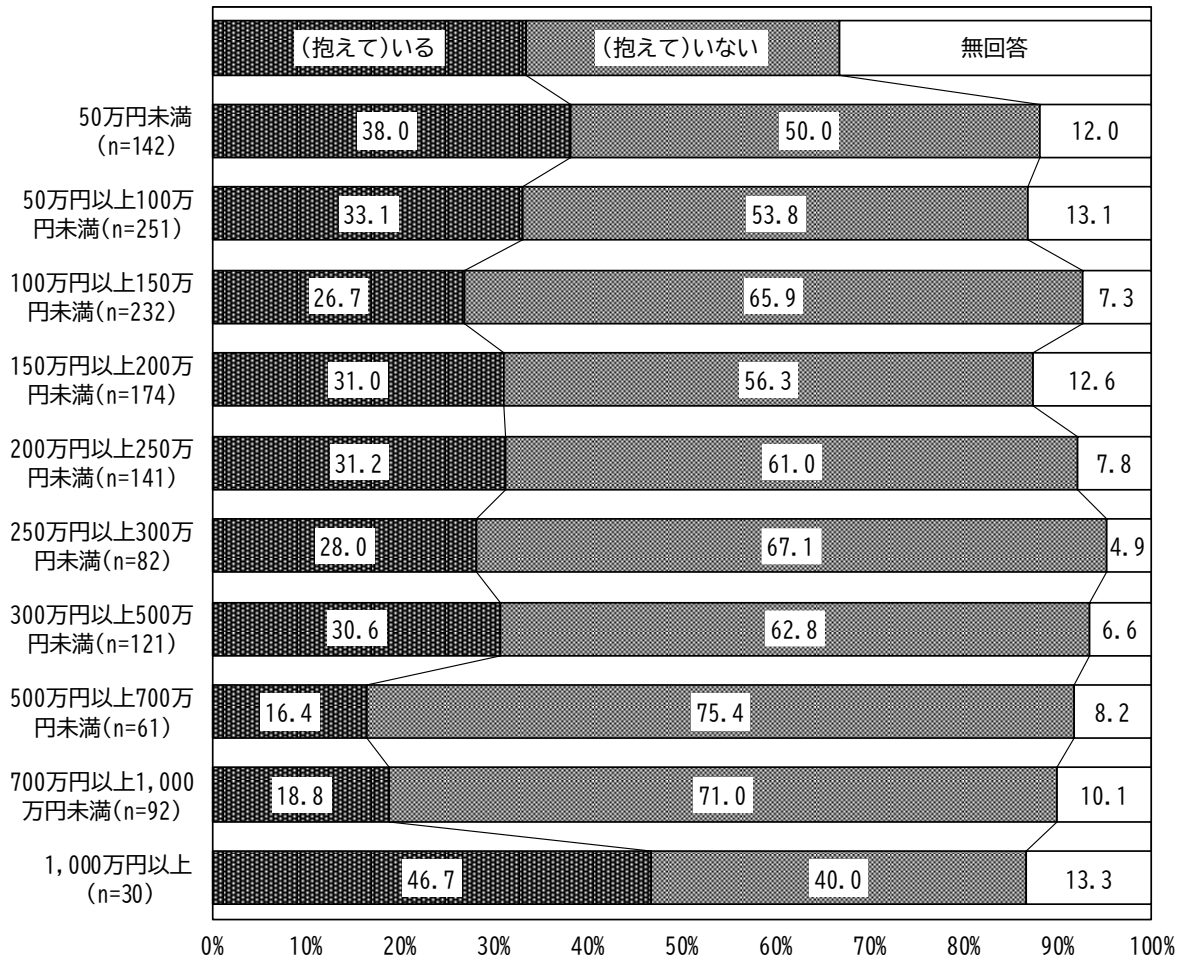
図表 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとの有無(障害等の種類別)



【年収別】

- ・「(抱えて)いる」との回答は、500万円以上700万円未満16.4%、700万円以上1,000万円未満18.5%と、500万円以上1,000万円未満層で全体より10ポイント以上低くなっている。

図表 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとの有無(年収別)

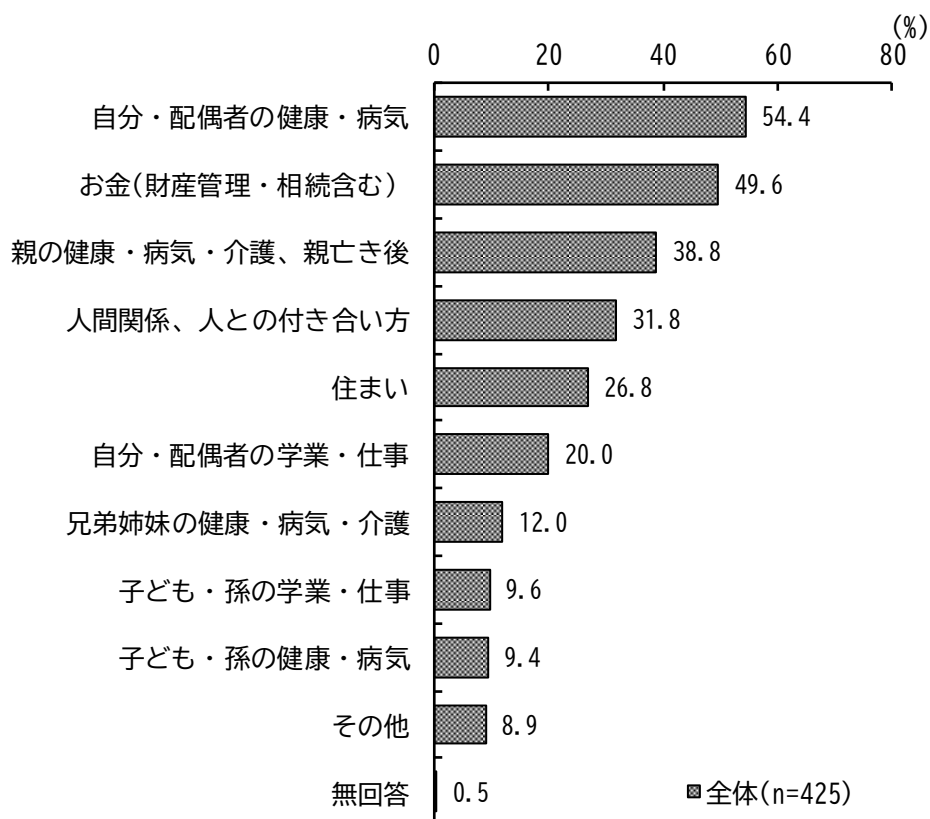


問18-1 問18で「1」と答えた方におたずねします。お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

- ・問18で「(抱えて)いる」と回答した人に困りごとの内容についてたずねたところ、「自分・配偶者の健康・病気」(54.4%)が最も多く、「お金(財産管理・相続含む)」(49.6%)、「親の健康・病気・介護、親亡き後」(38.8%)、「人間関係、人との付き合い方」(31.8%)が続いている。「住まい」(26.8%)、「自分・配偶者の学業・仕事」(20.0%)も2割以上となっている。

図表 困りごとの内容(全体：複数回答)

<困りごとがあると回答した人>

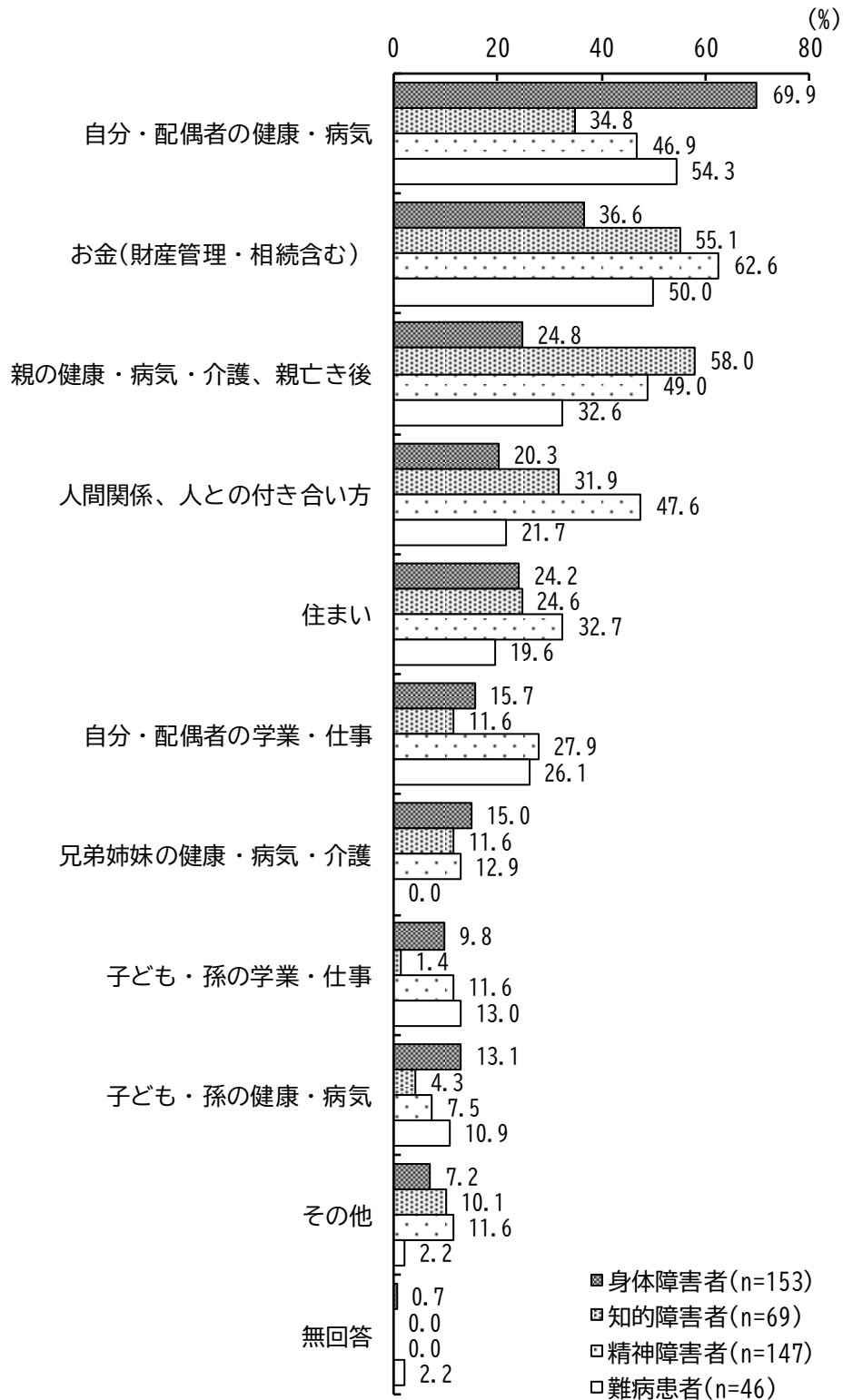


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、難病患者では「自分・配偶者の健康・病気」(身体：69.9%、難病：54.3%)、知的障害者は「親の健康・病気・介護、親亡き後」(58.0%)、精神障害者は「お金(財産管理・相続を含む)」(62.6%)が最も多く
- ・2番目に多いのは、身体障害者、知的障害者と難病患者は「お金(財産管理・相続を含む)」(身体：36.6%、知的障害者：55.1%、難病患者：50.0%)、精神障害者は「親の健康・病気・介護、親亡き後」(49.0%)となっている。

図表 困りごとの内容(障害等の種類別：複数回答)

<困りごとがあると回答した人>



【年収別】

- ・年収150万円以上300万円未満層及び700万円以上層は「自分・配偶者の健康・病気」が最も多く、年収50万円未満と年収100万円以上150万円未満、年収300万円以上700万円未満層は「お金（財産管理・相続含む）」が最も多くなっている。
- ・50万円以上100万円未満は「親の健康・病気・介護・親亡き後」が最も多くなっている。

図表 困りごとの内容(年収別：複数回答)

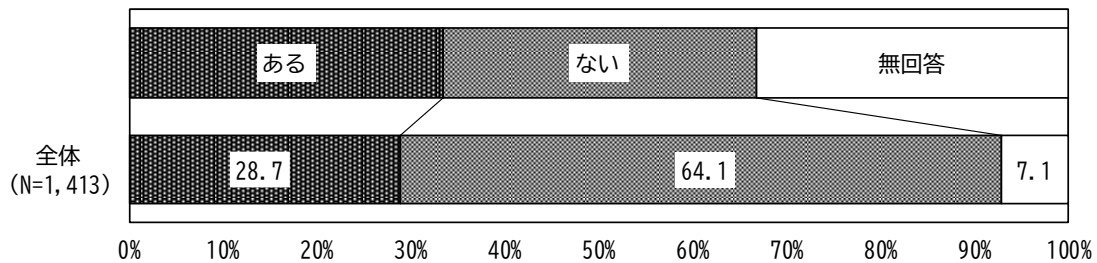
		(%)										
		自分・配偶者の健康・病気	お金(財産管理・相続含む)	親の健康・病気・介護・親亡き後	人間関係、人との付き合い方	住まい	自分・配偶者の学業・仕事	兄弟姉妹の健康・病気・介護	子ども・孫の学業・仕事	子ども・孫の健康・病気	その他	無回答
全体	(n=425)	54.4	49.6	38.8	31.8	26.8	20.0	12.0	9.6	9.4	8.9	0.5
年収別	50万円未満	(n=54)	59.3	63.0	35.2	37.0	27.8	13.0	9.3	5.6	5.6	0.0
	50万円以上100万円未満	(n=83)	49.4	47.0	50.6	27.7	20.5	14.5	9.6	8.4	14.5	0.0
	100万円以上150万円未満	(n=62)	43.5	46.8	40.3	33.9	30.6	17.7	11.3	14.5	8.1	1.6
	150万円以上200万円未満	(n=54)	63.0	50.0	35.2	35.2	27.8	7.4	13.0	9.3	11.1	0.0
	200万円以上250万円未満	(n=44)	56.8	54.5	31.8	31.8	20.5	15.9	9.1	9.1	9.1	0.0
	250万円以上300万円未満	(n=23)	56.5	30.4	26.1	21.7	43.5	13.0	4.3	17.4	0.0	4.3
	300万円以上500万円未満	(n=37)	59.5	64.9	32.4	32.4	29.7	10.8	0.0	2.7	8.1	0.0
	500万円以上700万円未満	(n=10)	50.0	60.0	40.0	30.0	50.0	10.0	20.0	10.0	10.0	0.0
	700万円以上1,000万円未満	(n=17)	53.8	38.5	46.2	0.0	15.4	15.4	15.4	7.7	7.7	0.0
	1,000万円以上	(n=14)	64.3	35.7	28.6	28.6	42.9	0.0	21.4	7.1	14.3	0.0

問19 あなたは、いじめを受けたり、不当な扱い（虐待なども含む）を受けた経験はありますか。

(1つに○)

- ・「ある」が28.7%、「ない」が64.1%である。

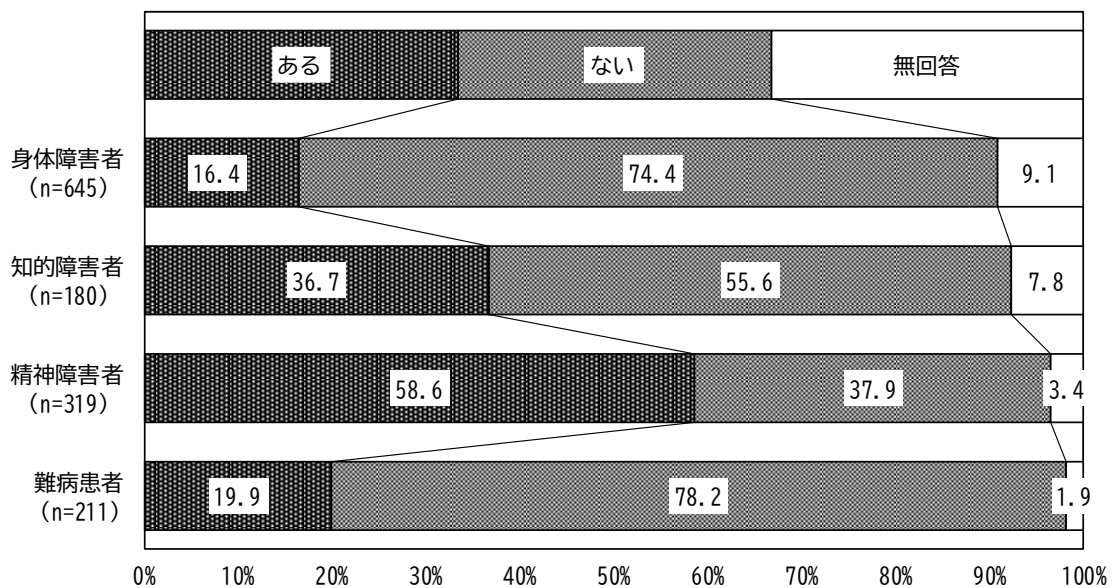
図表 いじめや不当な扱いを受けた経験の有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・「ある」との回答は、身体障害者 16.4%、知的障害者 36.7%、精神障害者 58.6%、難病患者 19.9%で、精神障害者では過半数になっている。

図表 いじめや不当な扱いを受けた経験の有無(障害等の種類別)

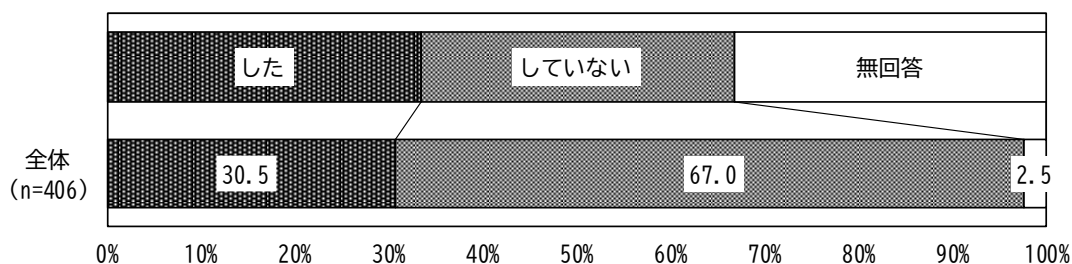


問19-1 問19で「1」と答えた方におたずねします。虐待を受けていると感じた場合、相談または通報しましたか。(1つに○)

- ・問19で「ある」と回答した人に相談または通報をしたかについてたずねると、「した」が30.5%、「していない」が67.0%となっている。

図表 虐待を受けていると感じた場合の相談・通報経験の有無(全体)

<いじめや不当な扱いを受けた人>

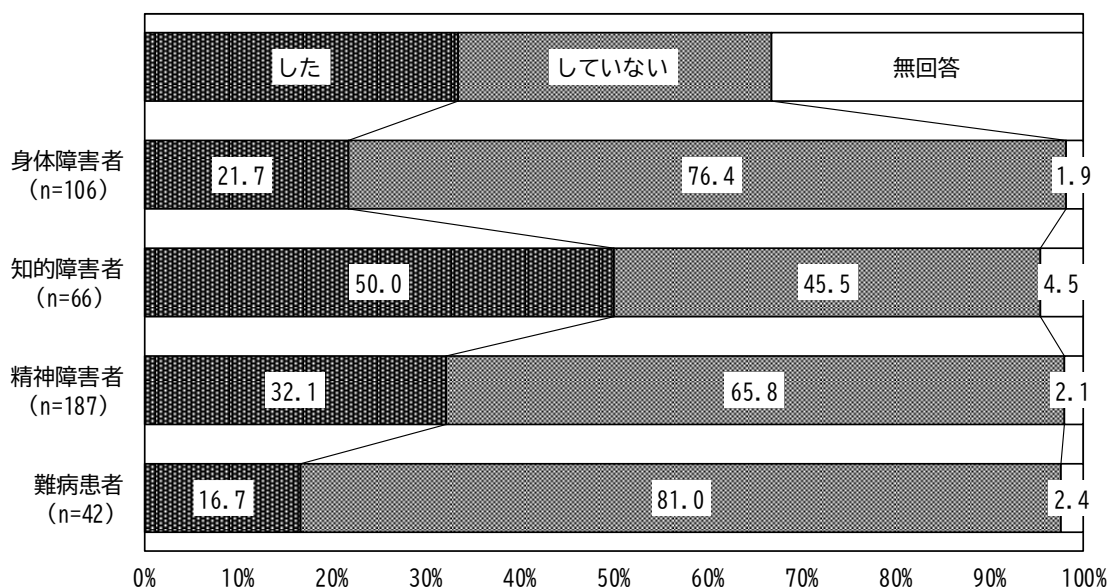


【障害等の種類別】

- ・「した」との回答は、身体障害者 21.7%、知的障害者 50.0%、精神障害者 32.1%、難病患者 16.7%で、知的障害者では半数になっている。

図表 虐待を受けていると感じた場合の相談・通報経験の有無(障害等の種類別)

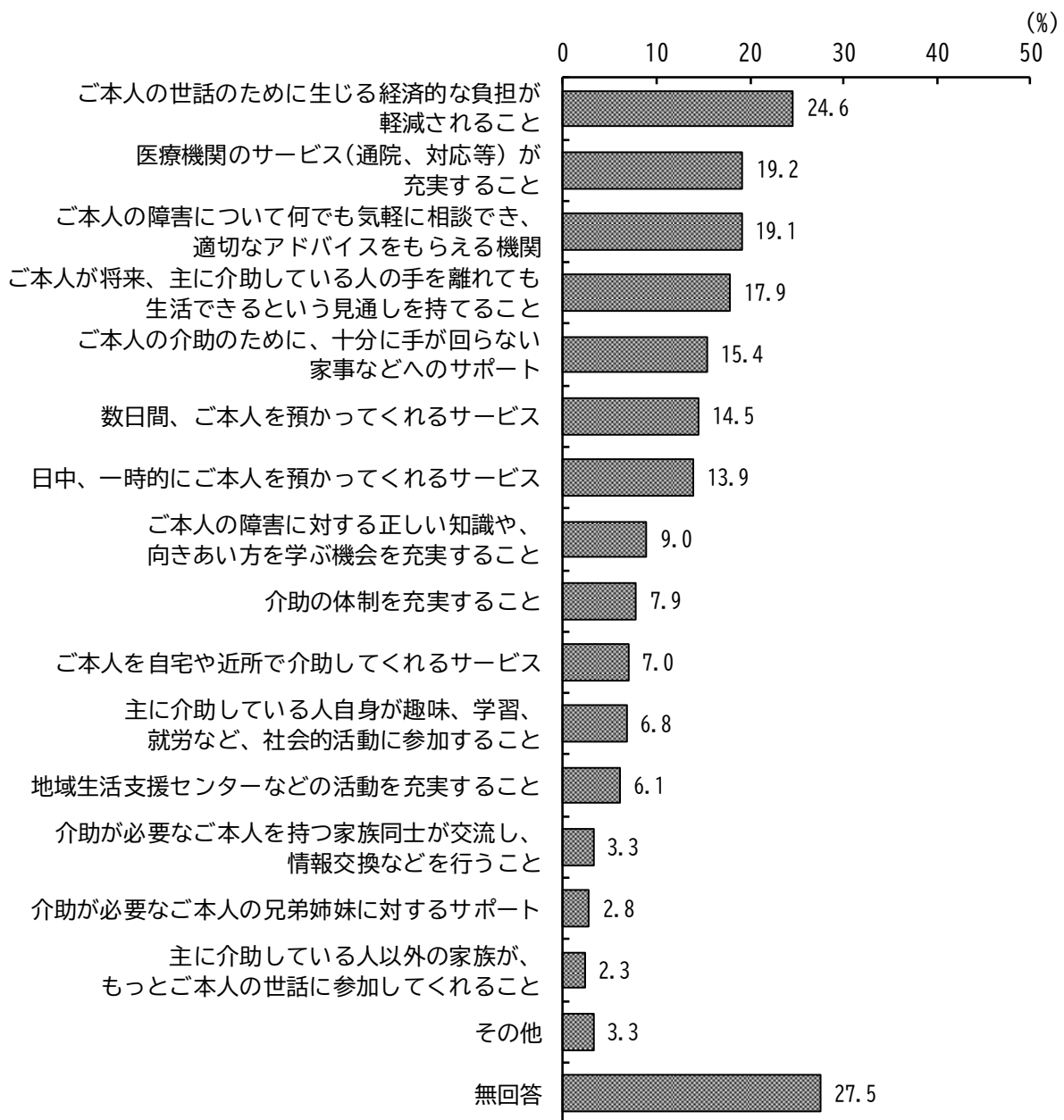
<いじめや不当な扱いを受けた人>



問 20 介助が必要なご本人に関して、介助の負担感やストレスを軽減させるために、主な介助者が重要だと考えることは何ですか。（3つまで○）

- ・ 介助の負担感やストレスを軽減させるために、主な介助者が重要だと考えることについてたずねたところ、「ご本人の世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」（24.6%）が最も多く、「医療機関のサービス（通院、対応等）が充実すること」（19.2%）、「ご本人の障害について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関」（19.1%）が続いている。「ご本人が将来、主に介助している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」（17.9%）、「ご本人の介助のために、十分に手が回らない家事などへのサポート」（15.4%）、「数日間、ご本人を預かってくれるサービス」（14.5%）、「日中、一時的にご本人を預かってくれるサービス」（13.9%）も1割を超えている。

図表 介助の負担感やストレスを軽減させるために重要なこと(全体：複数回答（3つまで）)

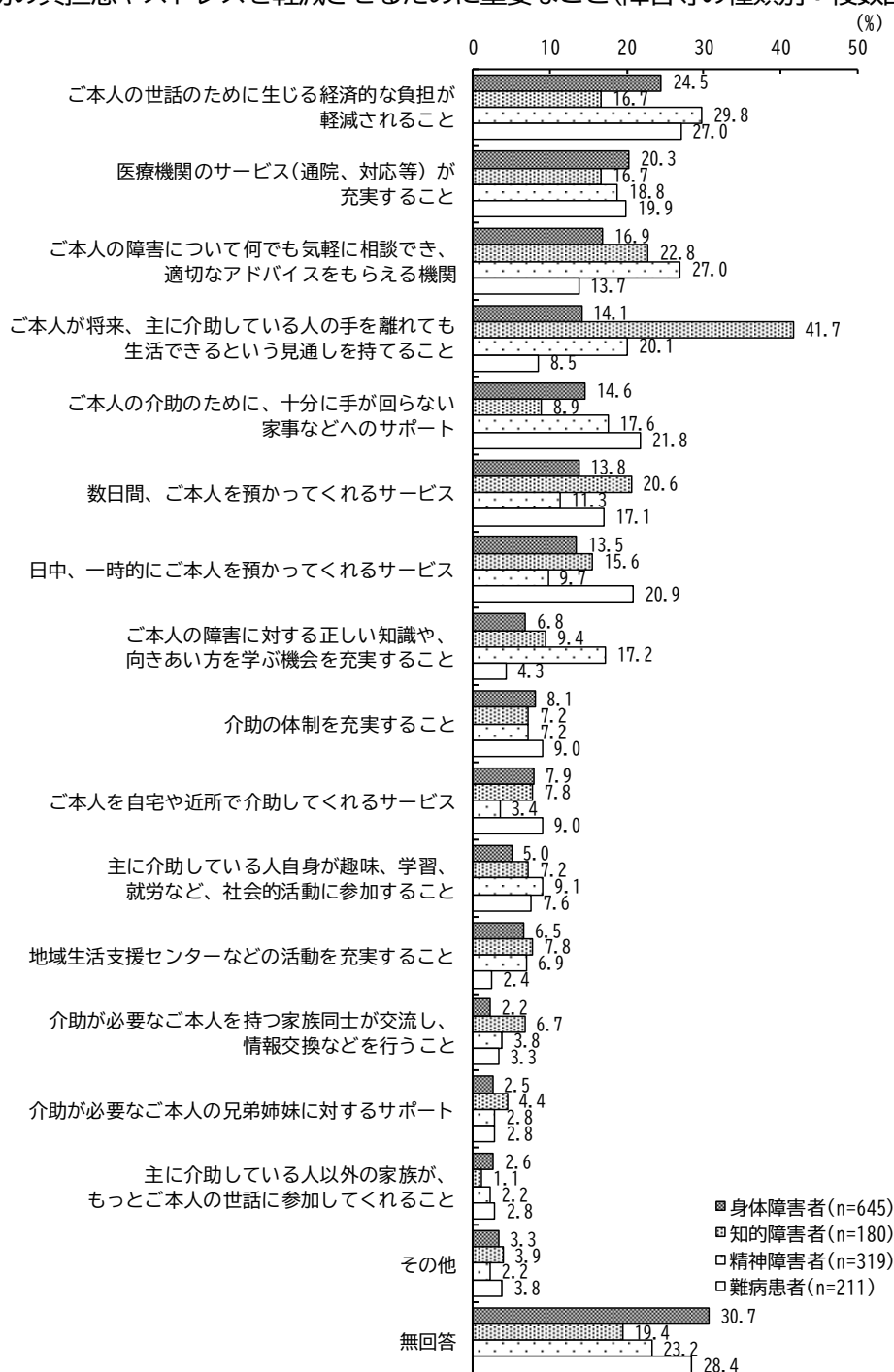


■全体(N=1,413)

【障害等の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者、難病患者では、「ご本人の世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」（身体：24.5%、精神：29.8%、難病：27.0%）、知的障害者では「ご本人が将来、主に介助している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」（41.7%）が最も多くなっている。
- ・2番目に多いのは、身体障害者は「医療機関のサービス（通院、対応等）が充実すること」（20.3%）、知的障害者、精神障害者は「ご本人の障害について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関」（知的：22.8%、精神：27.0%）、難病患者は「ご本人の介助のために、十分に手が回らない家事などへのサポート」（21.8%）となっている。

図表 介助の負担感やストレスを軽減させるために重要なこと(障害等の種類別：複数回答(3つまで))



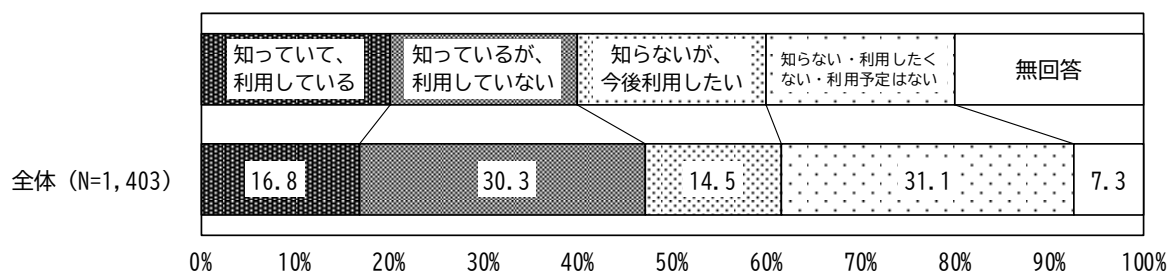
問21 あなたは、次の府中市内の障害等のある人のための相談機関等を知っていますか。

((1) ~ (4) について、それぞれ1つに○)

(1) 地域生活支援センター(み～な、あけぼの、プラザ、ふらっと)

- ・「知っていて、利用している」(16.8%)と「知っているが、利用していない」(30.3%)をあわせた<知っている>は47.1%である。「知らないが、今後利用したい」は14.5%である。

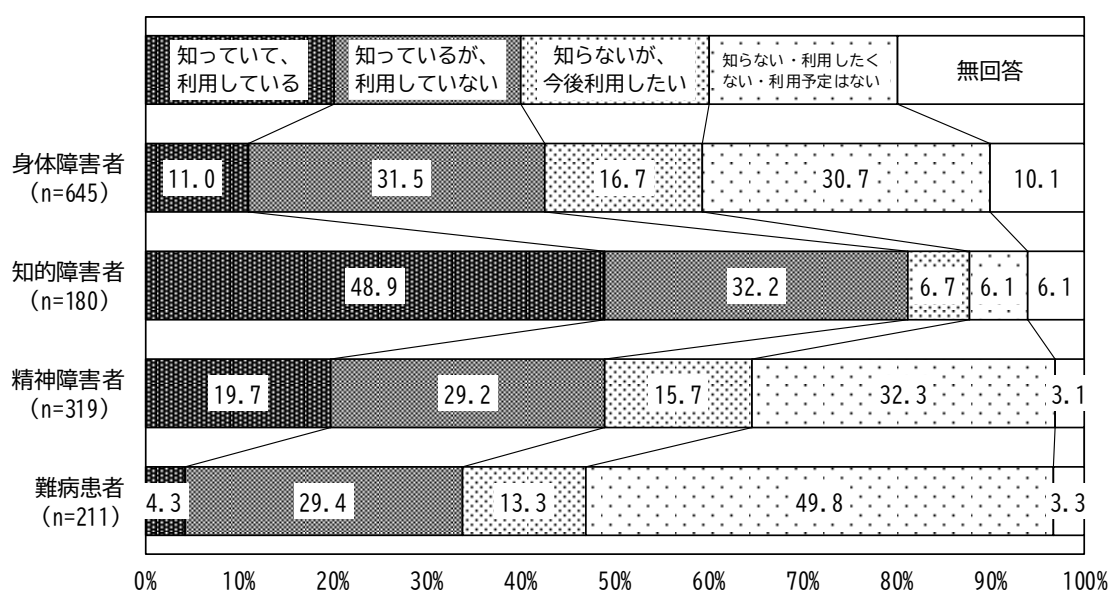
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(11.0%)と「知っているが、利用していない」(31.5%)をあわせた<知っている>は42.5%である。「知らないが、今後利用したい」は16.7%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(48.9%)と「知っているが、利用していない」(32.2%)をあわせた<知っている>は81.1%である。「知らないが、今後利用したい」は6.7%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(19.7%)と「知っているが、利用していない」(29.2%)をあわせた<知っている>は48.9%である。「知らないが、今後利用したい」は15.7%である。
- ・難病患者者は「知っていて、利用している」(4.3%)と「知っているが、利用していない」(29.4%)をあわせた<知っている>は33.7%である。「知らないが、今後利用したい」は13.3%である。

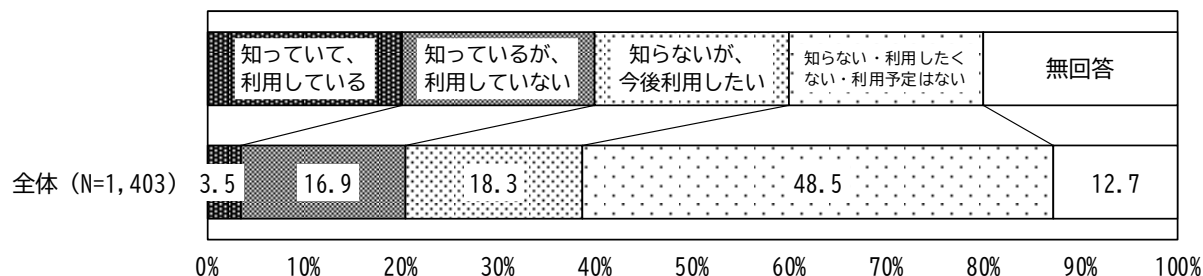
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：地域生活支援センター(障害等の種類別)



(2) 身体障害者相談員・知的障害者相談員

- ・「知っていて、利用している」(3.5%)と「知っているが、利用していない」(16.9%)をあわせた<知っている>は20.4%である。「知らないが、今後利用したい」は18.3%である。

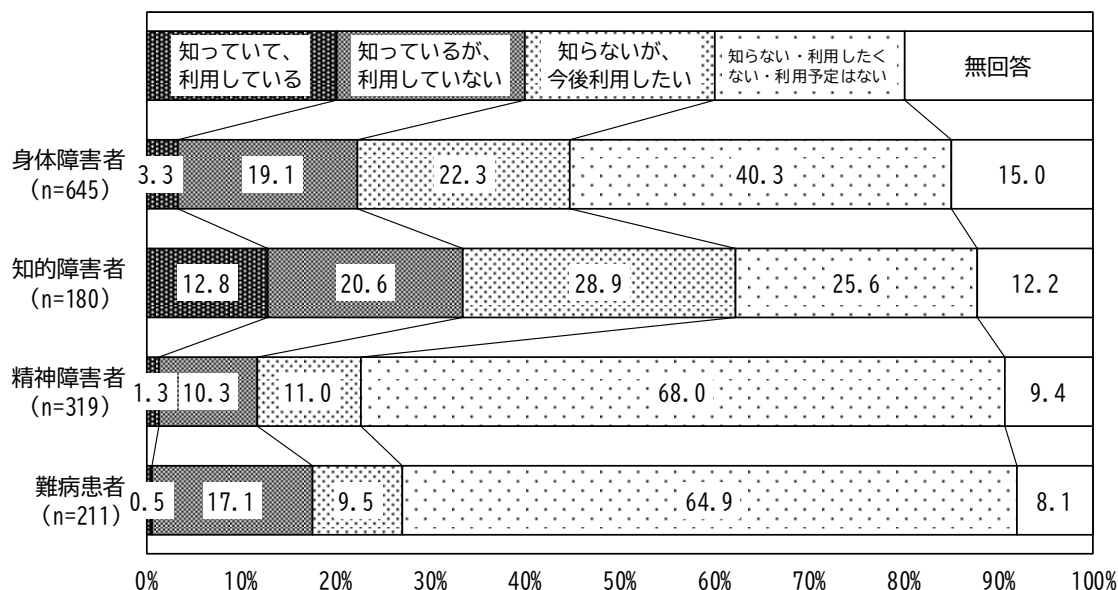
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(3.3%)と「知っているが、利用していない」(19.1%)をあわせた<知っている>は22.4%である。「知らないが、今後利用したい」は22.3%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(12.8%)と「知っているが、利用していない」(20.6%)をあわせた<知っている>は33.4%である。「知らないが、今後利用したい」は28.9%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(1.3%)と「知っているが、利用していない」(10.3%)をあわせた<知っている>は11.6%である。「知らないが、今後利用したい」は11.0%である。
- ・難病患者は「知っていて、利用している」(0.5%)と「知っているが、利用していない」(17.1%)をあわせた<知っている>は17.6%である。「知らないが、今後利用したい」は9.5%である。

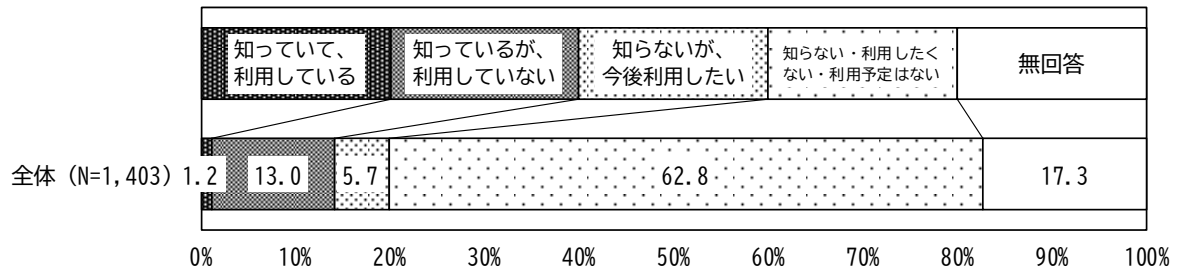
図表 相談機関等の認知度・利用状況：身体障害者相談員・知的障害者相談員(障害等の種類別)



(3) 聴覚障害者相談事業

- ・「知っていて、利用している」(1.2%)と「知っているが、利用していない」(13.0%)をあわせたと知っている>は14.2%である。「知らないが、今後利用したい」は5.7%である。

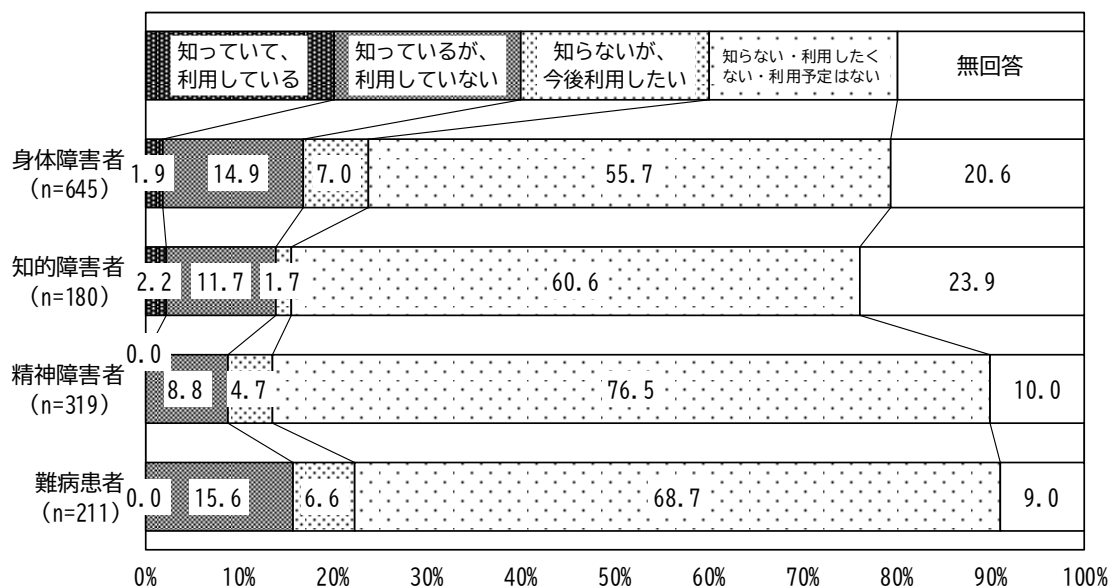
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(1.9%)と「知っているが、利用していない」(14.9%)をあわせたと知っている>は16.8%である。「知らないが、今後利用したい」は7.0%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(2.2%)と「知っているが、利用していない」(11.7%)をあわせたと知っている>は13.9%である。「知らないが、今後利用したい」は1.7%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(8.8%)をあわせたと知っている>は8.8%である。「知らないが、今後利用したい」は4.7%である。
- ・難病患者は「知っていて、利用している」(0.0%)と「知っているが、利用していない」(15.6%)をあわせたと知っている>は15.6%である。「知らないが、今後利用したい」は6.6%である。

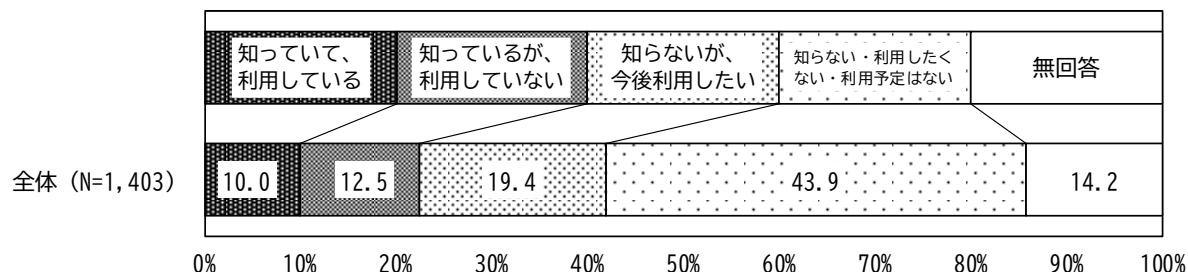
図表 相談機関等の認知度・利用状況：聴覚障害者相談事業(障害等の種類別)



(4) 計画相談支援事業所

- ・「知っていて、利用している」(10.0%)と「知っているが、利用していない」(12.5%)をあわせた<知っている>は22.5%である。「知らないが、今後利用したい」は19.4%である。

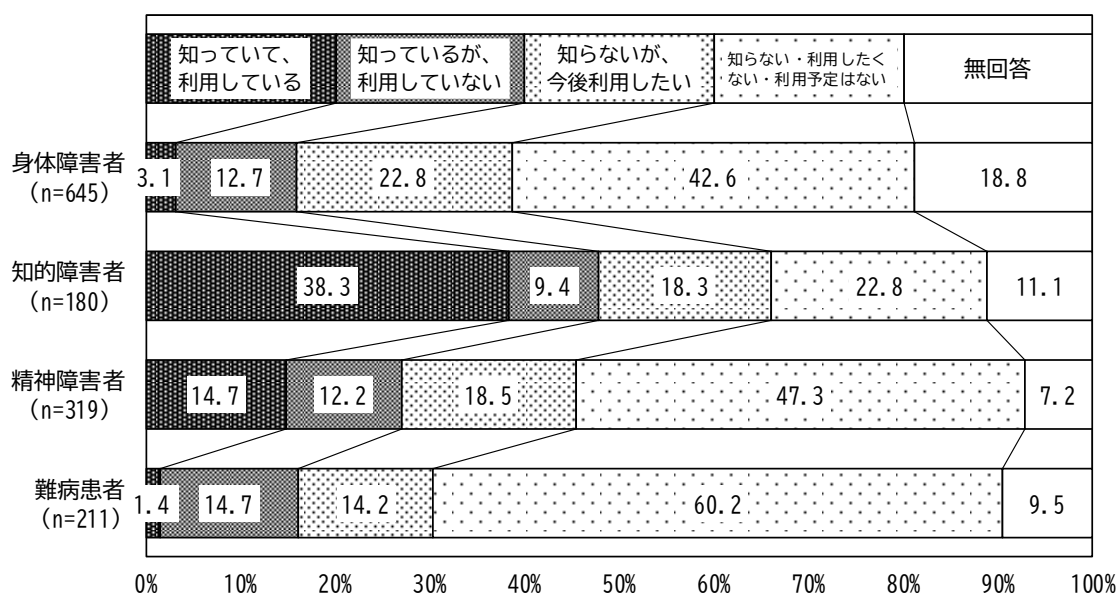
図表 市内の相談機関等の認知度・利用状況：計画相談支援事業所(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「知っていて、利用している」(3.1%)と「知っているが、利用していない」(12.7%)をあわせた<知っている>は15.8%である。「知らないが、今後利用したい」は22.8%である。
- ・知的障害者は「知っていて、利用している」(38.3%)と「知っているが、利用していない」(9.4%)をあわせた<知っている>は47.7%である。「知らないが、今後利用したい」は18.3%である。
- ・精神障害者は「知っていて、利用している」(14.7%)と「知っているが、利用していない」(12.2%)をあわせた<知っている>は26.9%である。「知らないが、今後利用したい」は18.5%である。
- ・難病患者は「知っていて、利用している」(1.4%)と「知っているが、利用していない」(14.7%)をあわせた<知っている>は16.1%である。「知らないが、今後利用したい」は14.2%である。

図表 相談機関等の認知度・利用状況：計画相談支援事業所(障害等の種類別)



問21-1 問21で「2」と答えた方におたずねします。

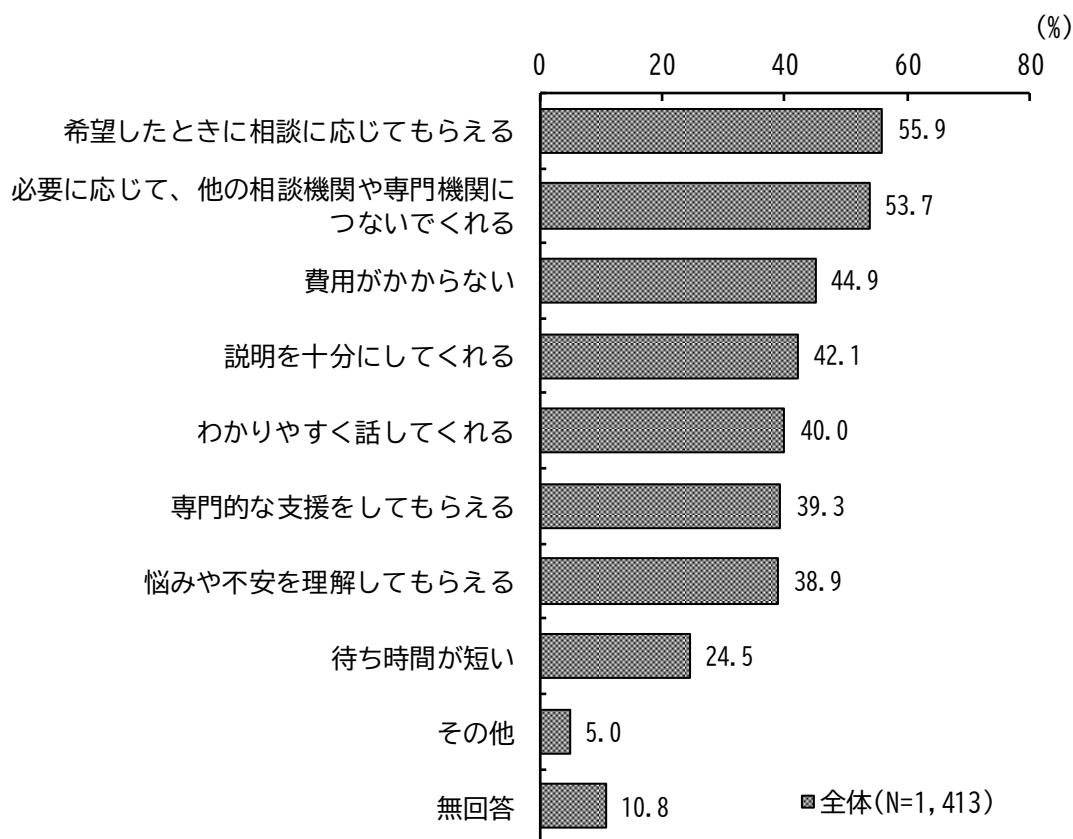
利用しなかった理由は何ですか。

- ・府中市内の障害等のある人のための相談機関の利用に関して、いずれかに「利用していない」と回答した方に利用しなかった理由を自由記述形式たずねたところ、416件の回答を得た。
- ・内訳としては、「必要がなかった」旨の回答が300件（72.1%）で、状態がそれほど重くなかったり、既に相談支援事業所や介護保険のケアマネジャーに相談しているとの理由であった。
- ・「相談できなかった」という旨の回答も29件（7.0%）あった。主な回答を挙げると以下のとおりである。
 - ・精神的に外出できない状態のタイミングだった。
 - ・住んでいる朝日町から遠いため。交通の便が悪い。
 - ・人が怖くなかなか相談に行けなかった。何を相談していいかわからなかった。
- ・「問題解決にならなかった」や「理解してもらえない」といった「相談が合わなかった」旨の回答も24件（5.8%）あった。主な回答を挙げると以下のとおりである。
 - ・以前相談させて頂いたが、大変いやな思いをしたので、大変だけど利用はしたくないと決めた。
 - ・相談したが、希望のサービスが受けられなかったから。
 - ・自分が思ってることとセンターが言うことのイメージが食い違っていた。
- ・さらに「相談支援事業所（の業務内容、利用方法等）」を「知らなかった」という旨の回答も19件（4.6%）あった。
 - ・施設は知っているが、サービス内容が不明だった。PR不足。
 - ・自分は対象なのか（特定受給者証をもらっているだけ）が不明だから。
 - ・名称は知っているが、具体的な活動内容は知らなかった。

問22 あなたが、相談機関等に求めることは何ですか。(いくつでも○)

- ・「希望したときに相談に応じてもらえる」(55.9%)が最も多く、次いで「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(53.7%)、「費用がかからない」(44.9%)が続いている。

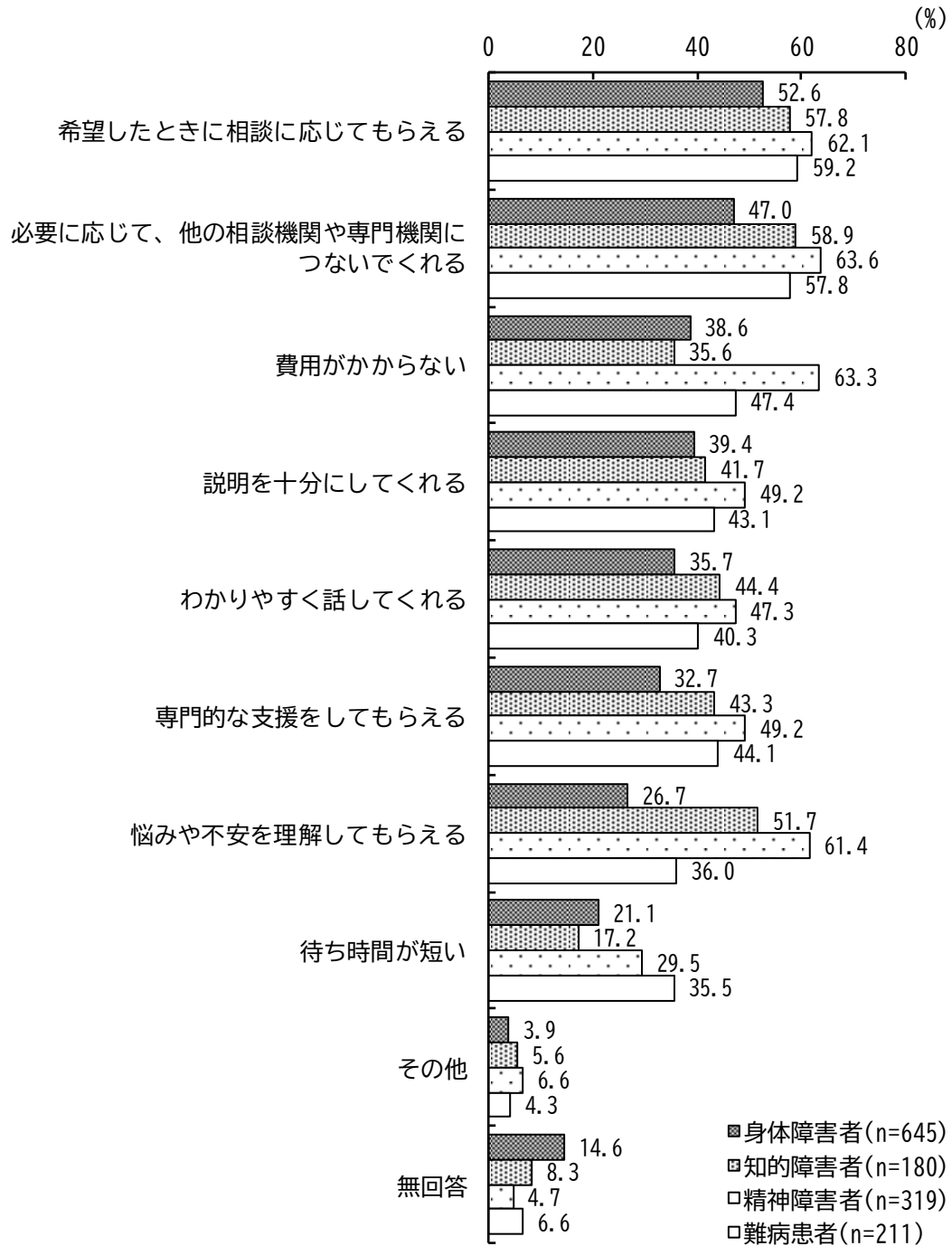
図表 市内の相談機関等に求めること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「希望したときに相談に応じてもらえる」(52.6%)が最も多く、次いで「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(47.0%)、「説明を十分にしてくれる」(39.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(58.9%)が最も多く、次いで「希望したときに相談に応じてもらえる」(57.8%)、「悩みや不安を理解してもらえる」(51.7%)が続いている。
- ・精神障害者は「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(63.6%)が最も多く、次いで、「費用がかからない」(63.3%)、「希望したときに相談に応じてもらえる」(62.1%)が続いている。
- ・難病患者は「希望したときに相談に応じてもらえる」(59.2%)が最も多く、次いで「必要に応じて、他の相談機関や専門機関につないでくれる」(57.8%)、「費用がかからない」(47.4%)が続いている。

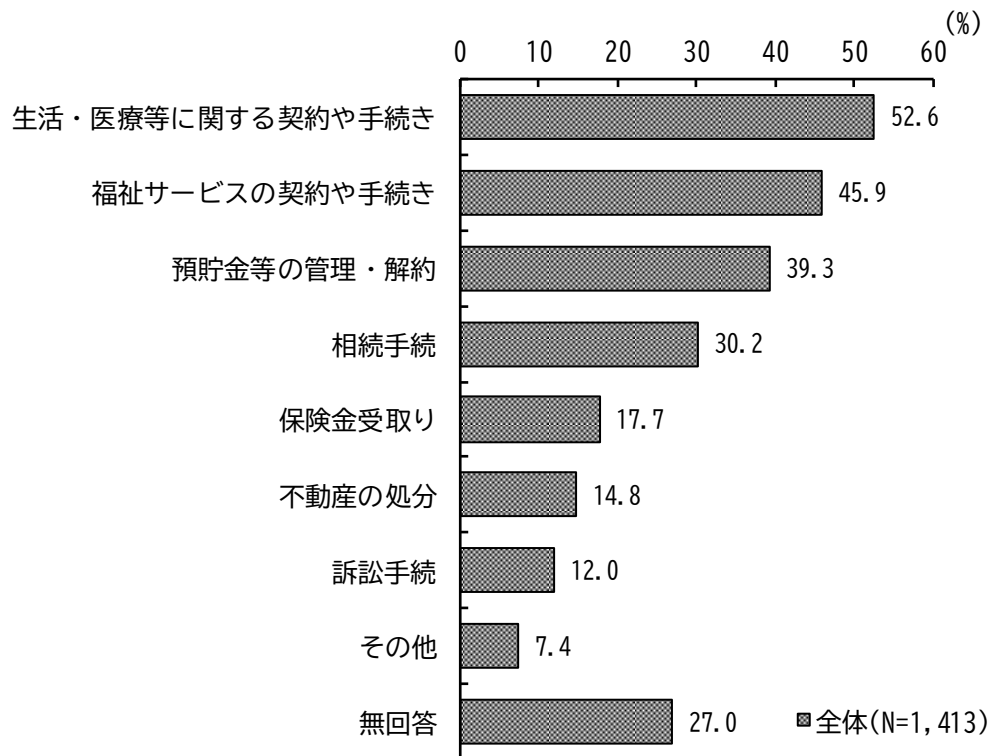
図表 市内の相談機関等に求めること(障害等の種類別：複数回答)



問 23 認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分ではない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）をつけることで、本人を法的に支援する制度として、成年後見制度があります。あなたは、今後成年後見制度を利用とした場合、成年後見人等にやってほしいことは何ですか。（いくつでも○）

- ・「生活・医療等に関する契約や手続き」（52.6%）が最も多く、「福祉サービスの契約や手続き」（45.9%）、「預貯金等の管理・解約」（39.3%）が続いている。

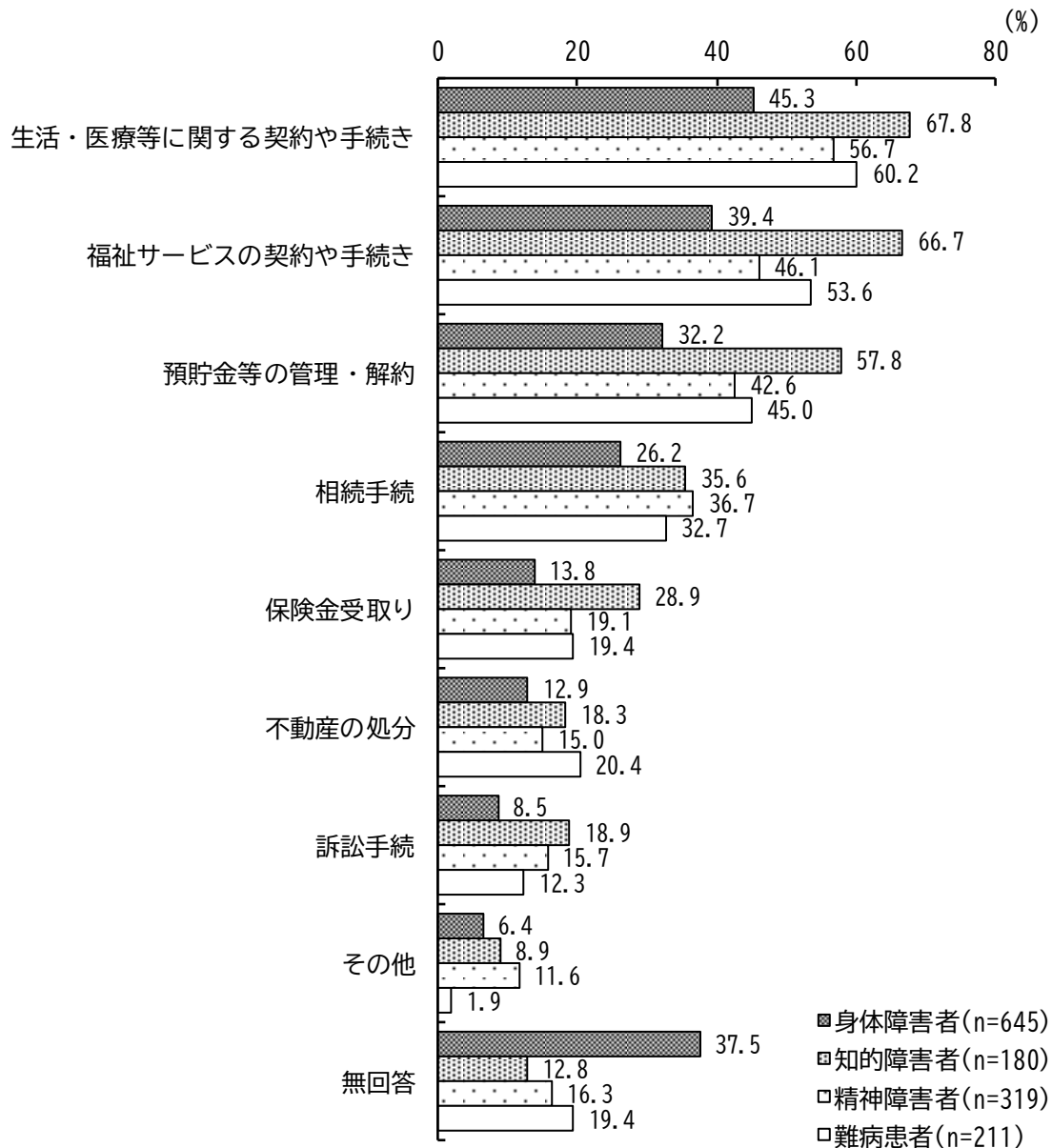
図表 成年後見人等にやってほしいこと(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、上位3位は全体と同様の傾向を示し「生活・医療等に関する契約や手続き」（身体：45.3%、知的：67.8%、精神：56.7%、難病：60.2%）が最も多く、次いで「福祉サービスの契約や手続き」（身体：39.4%、知的：66.7%、精神：46.1%、難病：53.6%）、「預貯金等の管理・解約」（身体：32.2%、知的：57.8%、精神：42.6%、難病：45.0%）となっている。

図表 後見人等にやってほしいこと(障害等の種類別：複数回答)

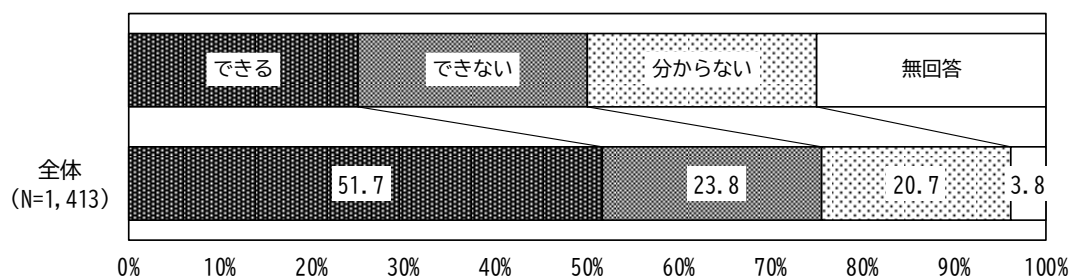


(8) 防災について

問24 あなたは、地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することができますか。(1つに○)

- ・地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することが「できない」と回答した人は23.8%である。

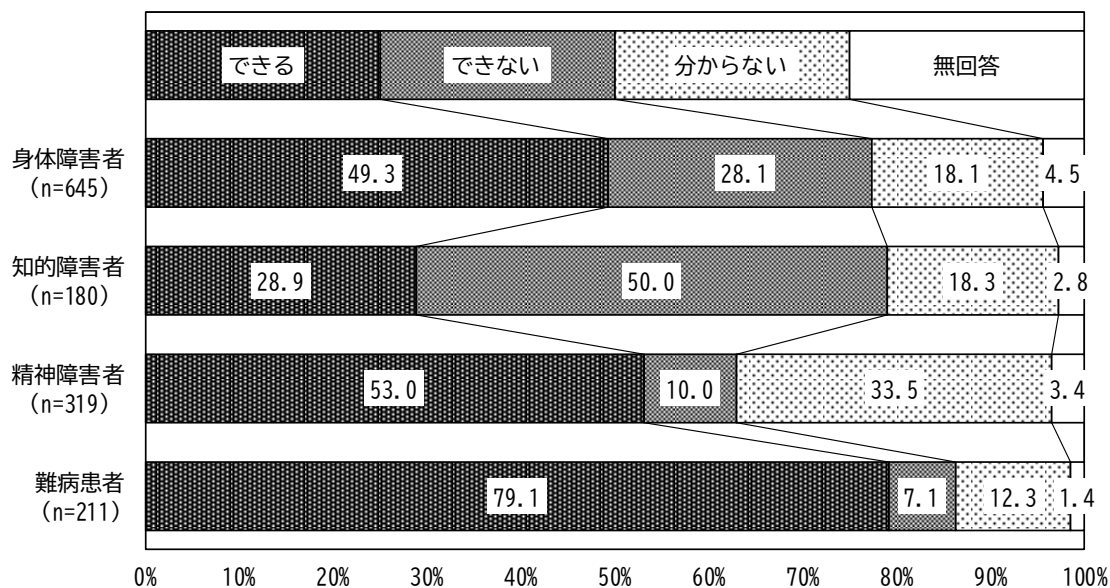
図表 緊急時の単独避難ができるか(全体)



【障害等の種類別】

- ・知的障害者は「できない」と回答した人が50.0%と半数となっている。

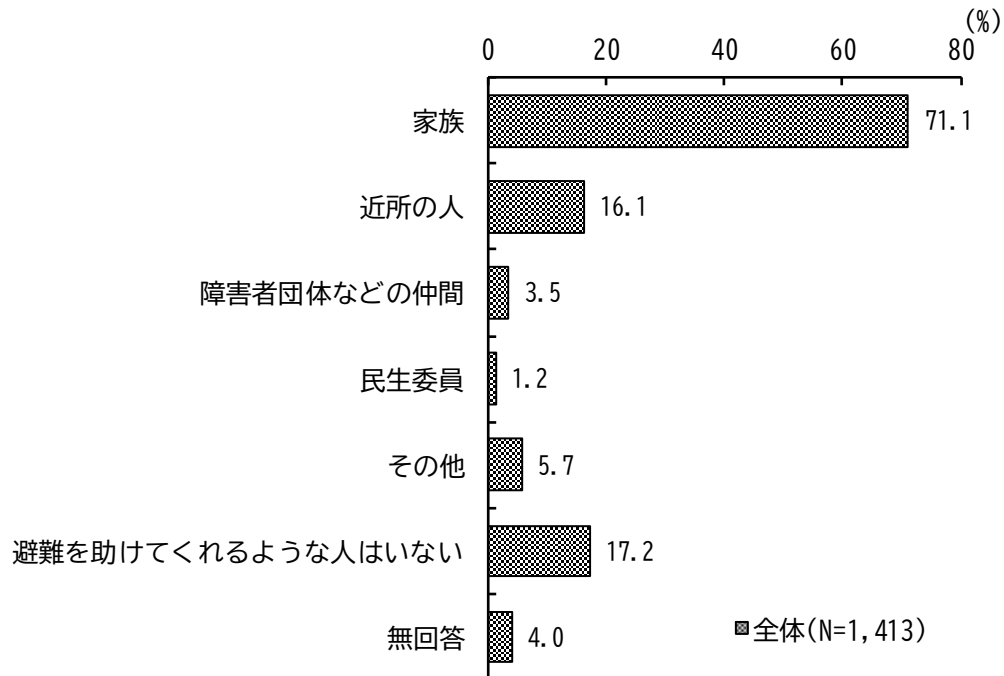
図表 緊急時の単独避難ができるか(障害等の種類別)



問25 地震や災害などが起きた場合に、避難を助けてくれるような人がいますか。(いくつでも○)

- ・「家族」(71.1%)が最も多く、次いで「近所の人」(16.1%)が続いている。「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人は17.2%である。

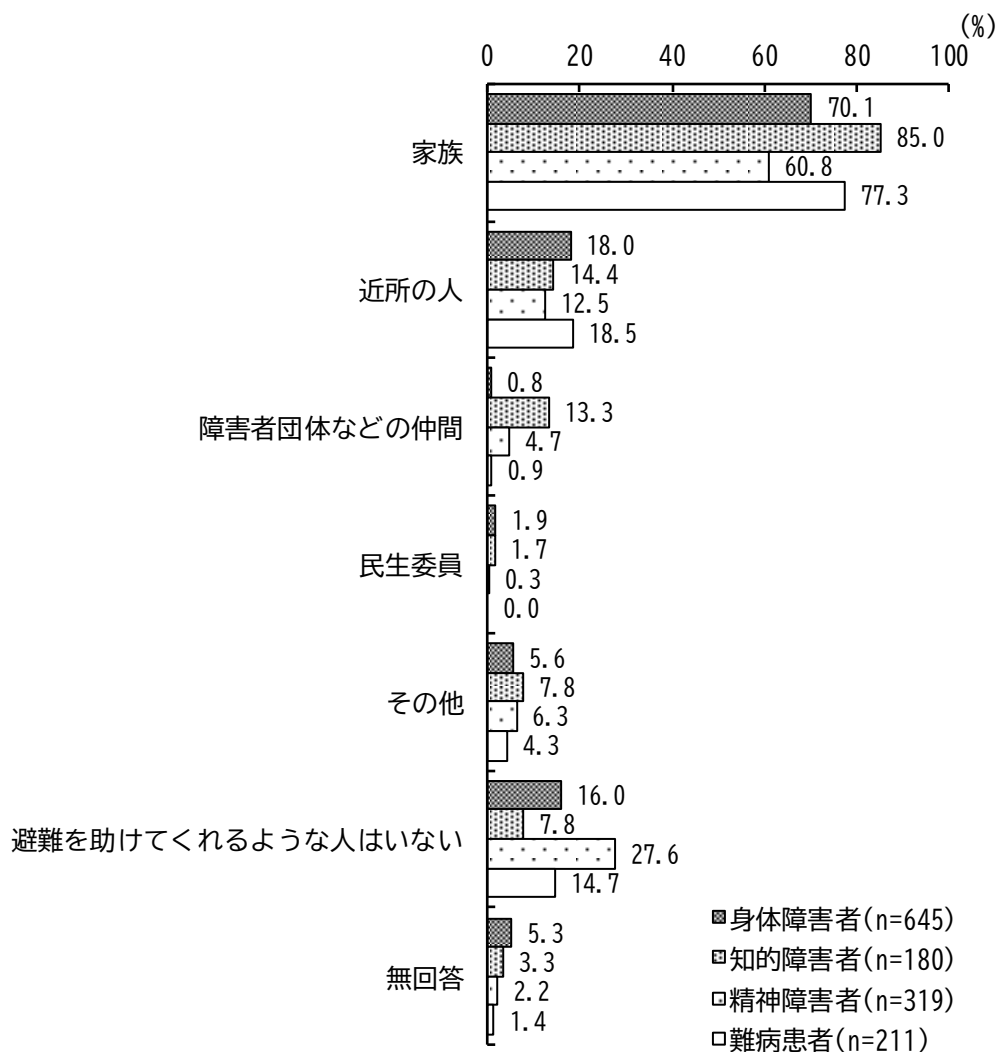
図表 地震や災害時に避難を助けてくれる人(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・精神障害者は、「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人が27.6%である。

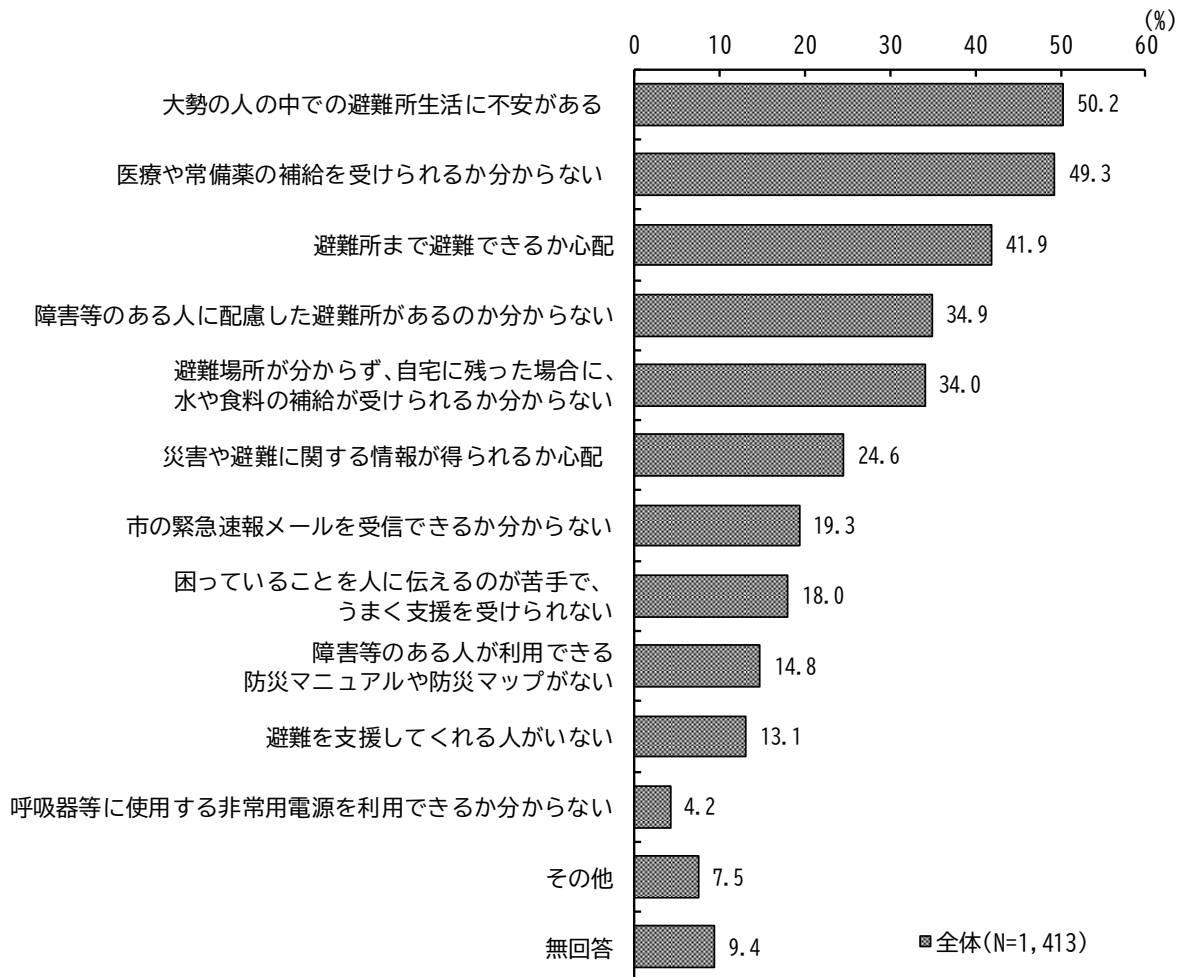
図表 地震や災害時に避難を助けてくれる人(障害等の種類別：複数回答)



問26 あなたが災害時に困ること・不安なことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(50.2%)が最も多く、「医療や常備薬の補給を受けられるか分からない」(49.3%)、「避難所まで避難できるか心配」(41.9%)、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(34.9%)が続いている。

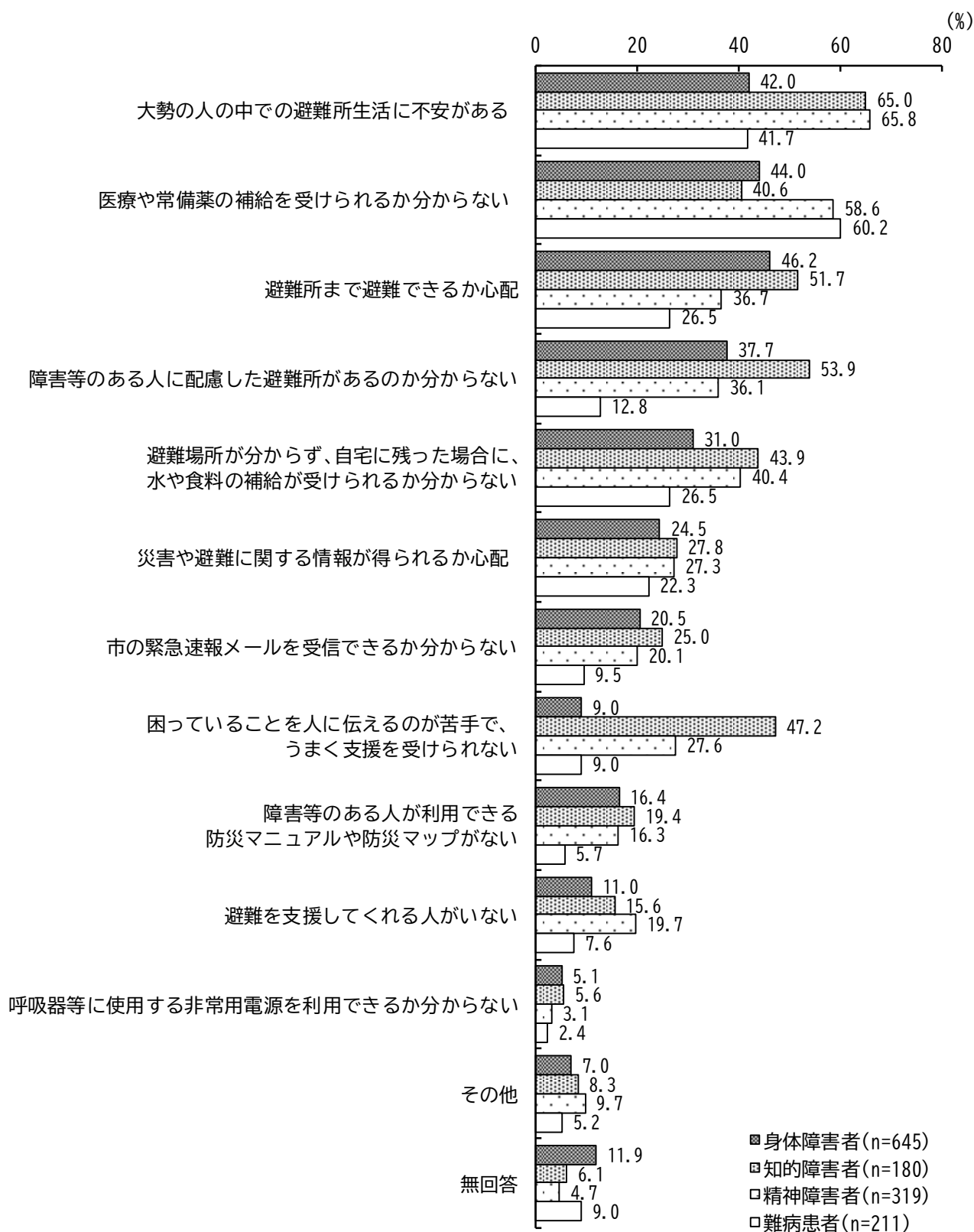
図表 災害時の不安や心配ごと(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「避難所まで避難できるか心配」(46.2%)が最も多い。
- ・知的障害者、精神障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(知的：65.0%、精神：65.8%)が最も多い。
- ・難病患者は「医療や常備薬の補給を受けられるか分からない」(60.2%)が最も多い。
- ・知的障害者は「避難所まで避難できるか心配」(51.7%)、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(53.9%)も5割を超えている。「困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない」(47.2%)も5割近くとなっている。また、「市の緊急速報メールを受信できるか分からない」(25.0%)は全体より5ポイント以上高い。
- ・精神障害者は「医療や常備薬の補給を受けられるか分からない」(58.6%)が5割を超えている。

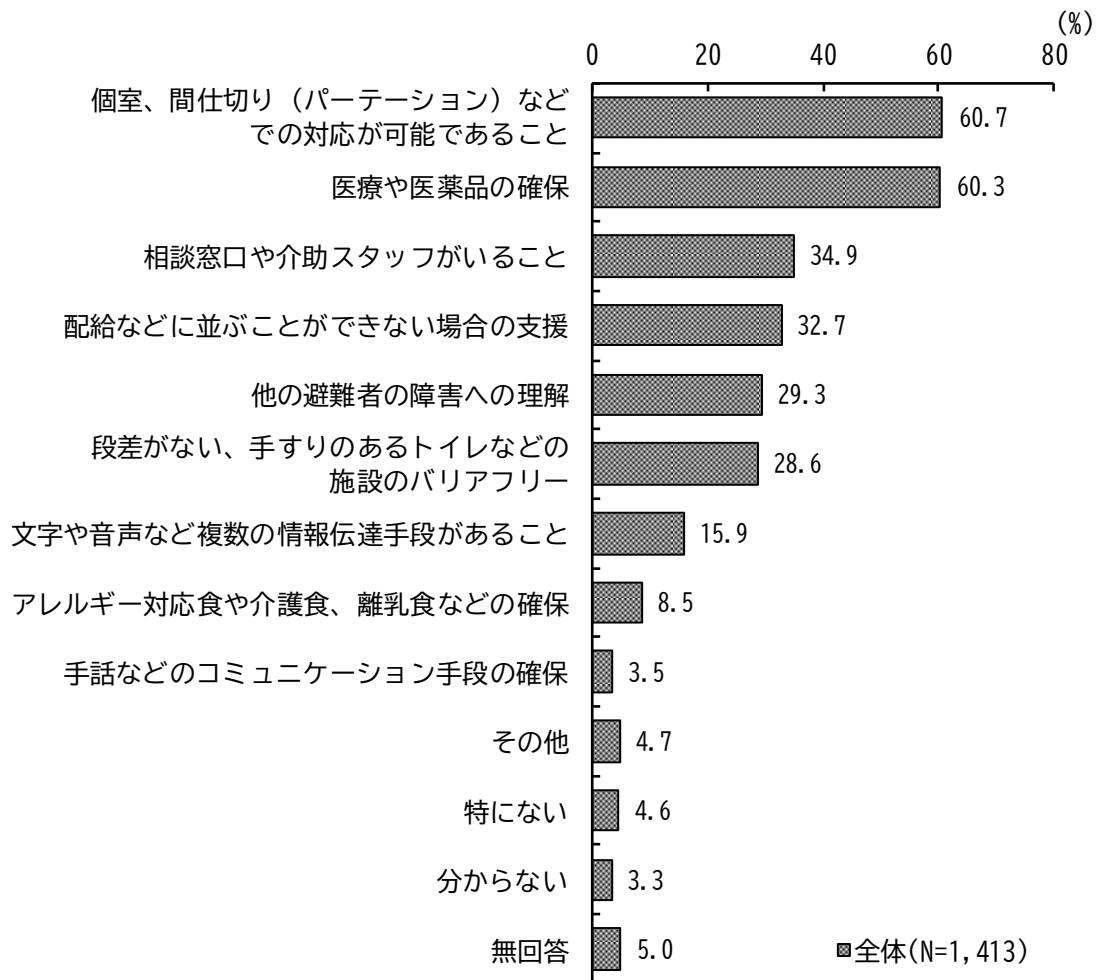
図表 災害時の不安や心配ごと(障害等の種類別：複数回答)



問27 地震などの災害が発生したときに、避難所で配慮してほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- ・「個室、間仕切り(パーティション)などでの対応が可能であること」(60.7%)が最も多く、次いで「医療や医薬品の確保」(60.3%)、「相談窓口や介助スタッフがいること」(34.9%)が続いている。

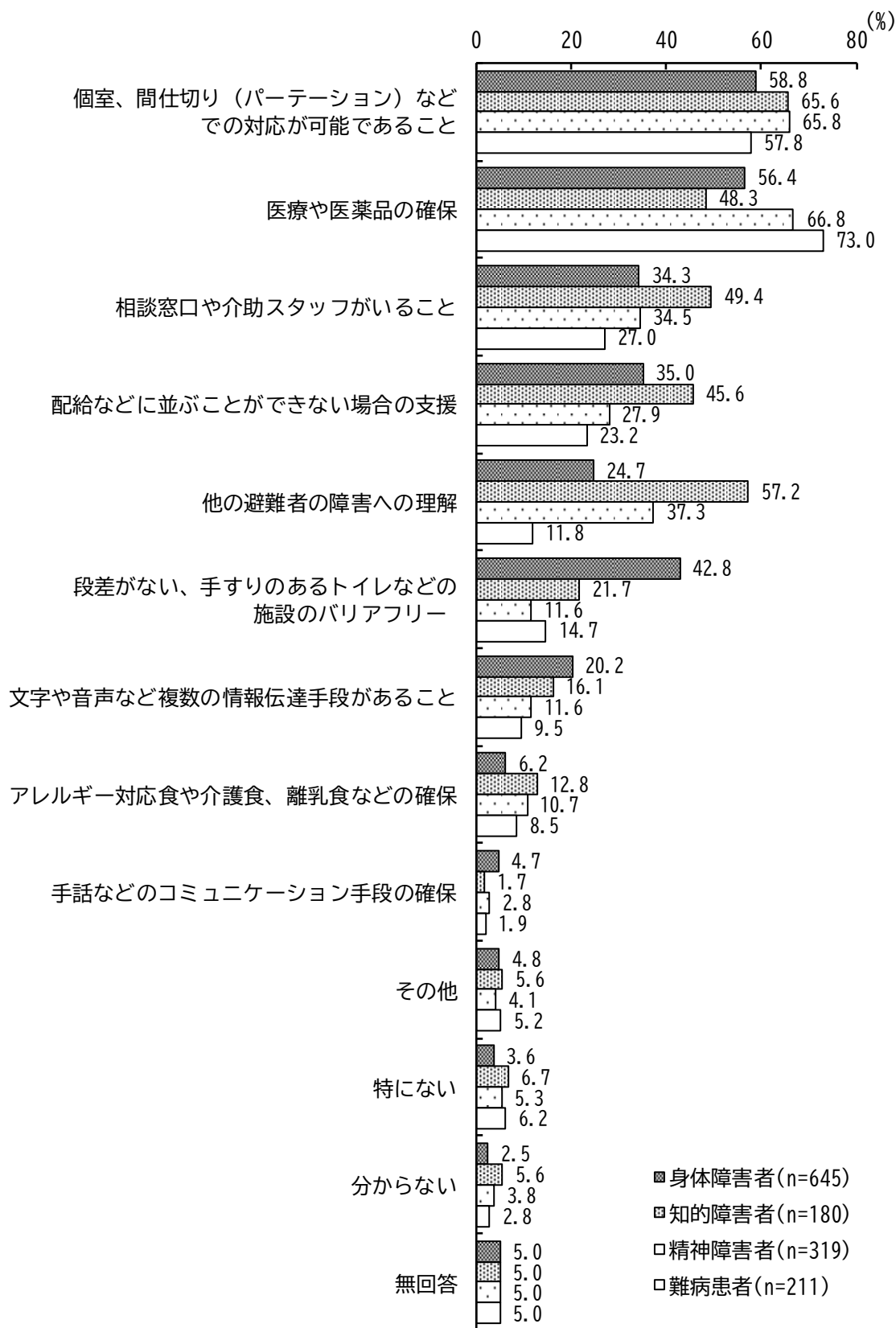
図表 避難場所で希望する配慮(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「個室、間仕切り(パーティション)などでの対応が可能であること」(58.8%)が最も多く、次いで「医療や医薬品の確保」(56.4%)、「段差がない、手すりのあるトイレなどの施設のバリアフリー」(42.8%)が続いている。
- ・知的障害者は「個室、間仕切り(パーティション)などでの対応が可能であること」(65.6%)が最も多く、次いで「他の避難者の障害への理解」(57.2%)、「相談窓口や介助スタッフがいること」(49.4%)が続いている。
- ・精神障害者は「医療や医薬品の確保」(66.8%)が最も多く、次いで「個室、間仕切り(パーティション)などでの対応が可能であること」(65.8%)、「他の避難者の障害への理解」(37.3%)が続いている。
- ・難病患者者は「医療や医薬品の確保」(73.0%)が最も多く、次いで「個室、間仕切り(パーティション)などでの対応が可能であること」(57.8%)、「相談窓口や介助スタッフがいること」(27.0%)が続いている。

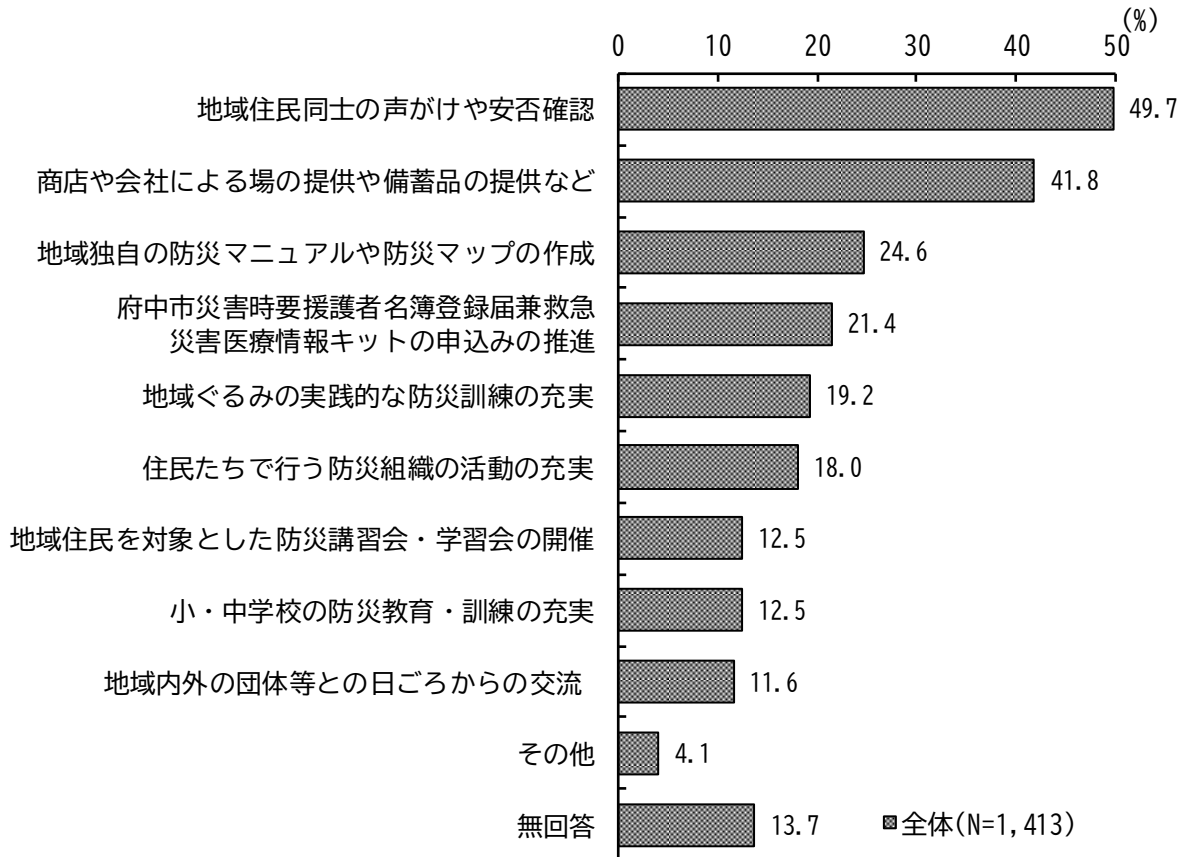
図表 避難場所で希望する配慮(障害等の種類別：複数回答)



問 28 あなたが、災害に備えて市民や企業等が行政と協働で取り組むとよいと思うものはどのようなことですか。(いくつでも○)

- ・「地域住民同士の声かけや安否確認」(49.7%)が最も多く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(41.8%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(24.6%)が続いている。

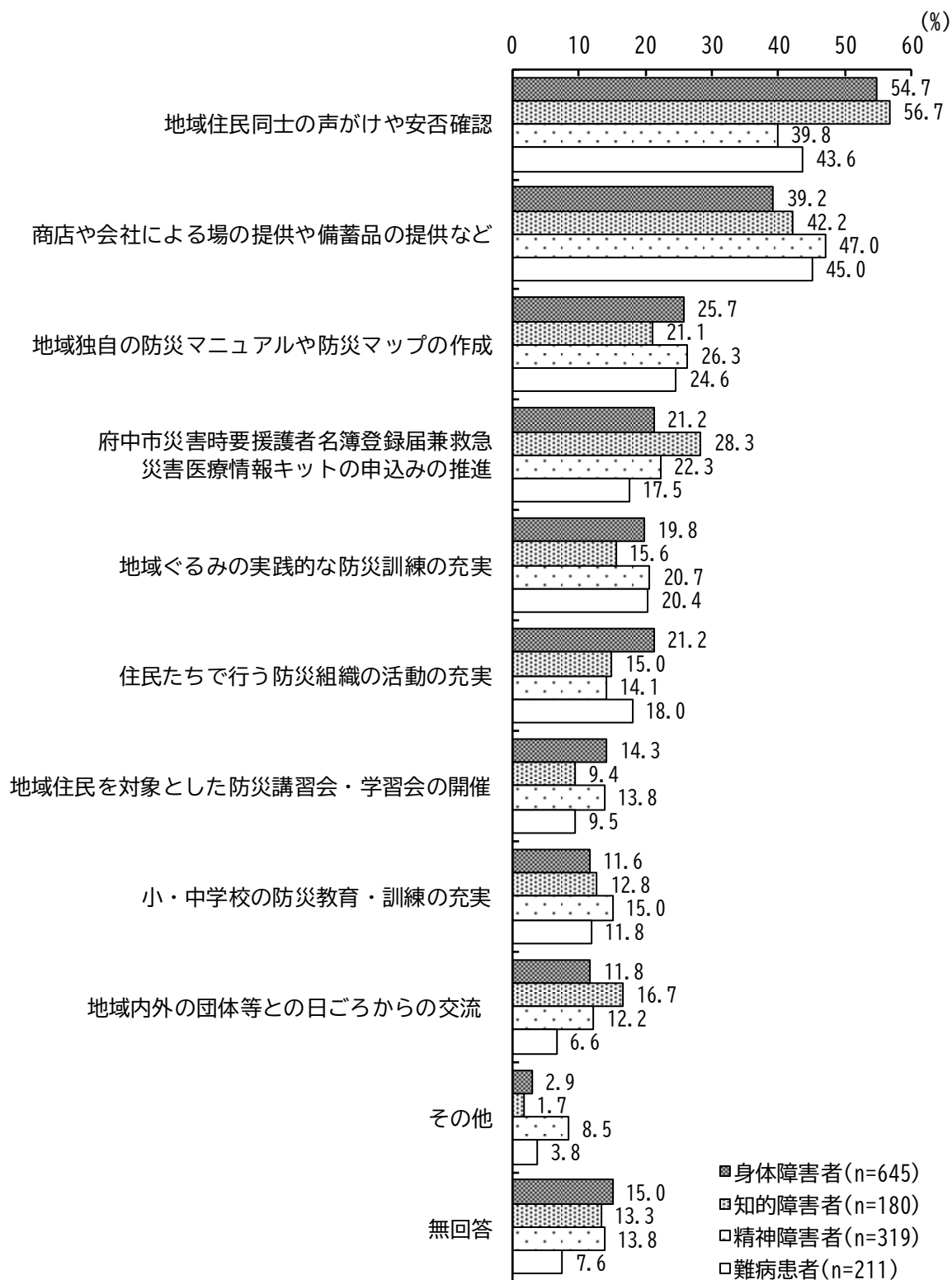
図表 災害時に協働で進める地域の支え合い(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「地域住民同士の声かけや安否確認」(54.7%)が最も多く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(39.2%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(25.7%)が続いている。
- ・知的障害者は「地域住民同士の声かけや安否確認」(56.7%)が最も多く、次いで「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(42.2%)、「府中市災害時要援護者名簿登録届兼救急災害医療情報キットの申込みの推進」(28.3%)が続いている。
- ・精神障害者は「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(47.0%)が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」(39.8%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(26.3%)が続いている。
- ・難病患者は「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(45.0%)が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」(43.6%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(24.6%)が続いている。

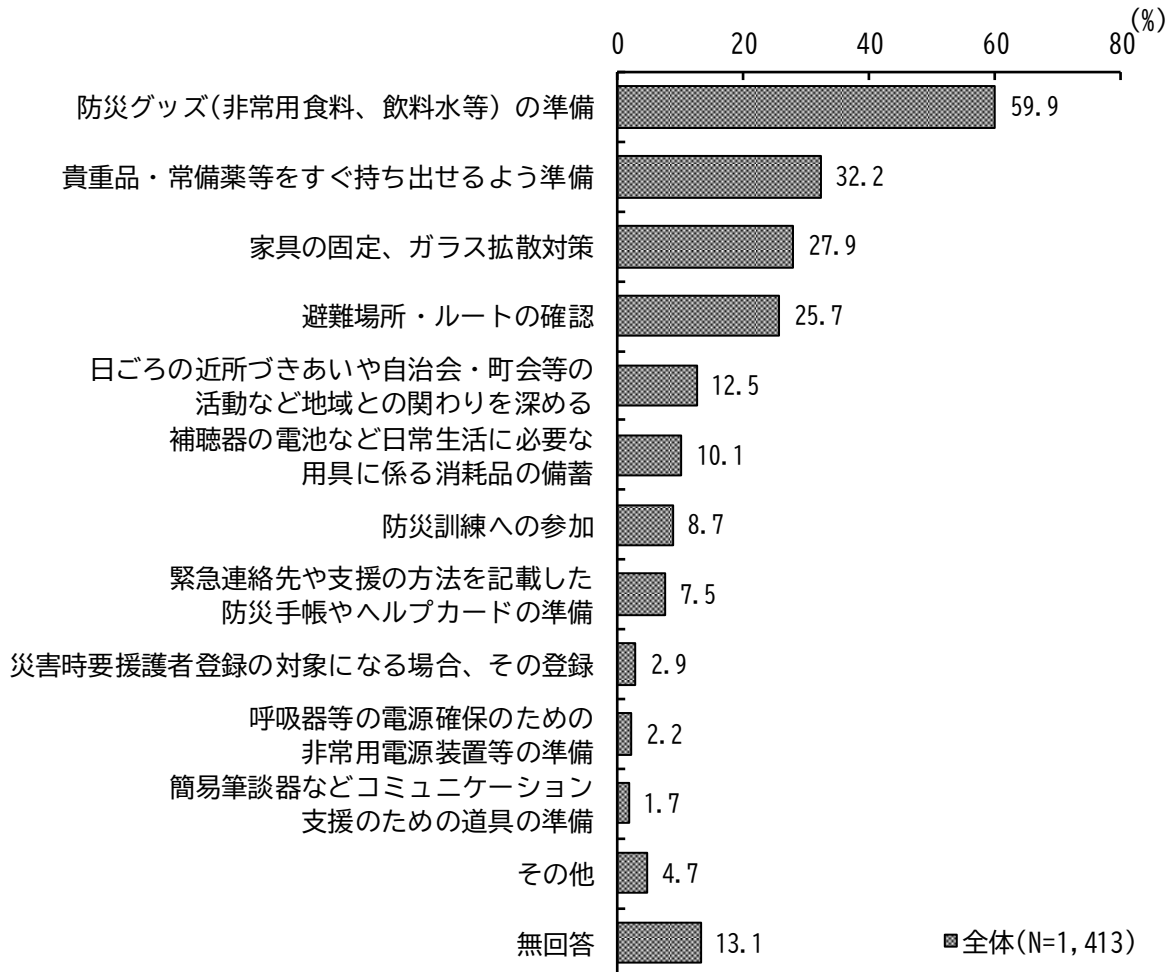
図表 災害時に協働で進める地域の支え合い(障害等の種類別：複数回答)



問29 あなたが災害対策としてふだんから行っていることは何ですか。(いくつでも○)

- ・「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(59.9%)が最も多く、次いで「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(32.2%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(27.9%)が続いている。

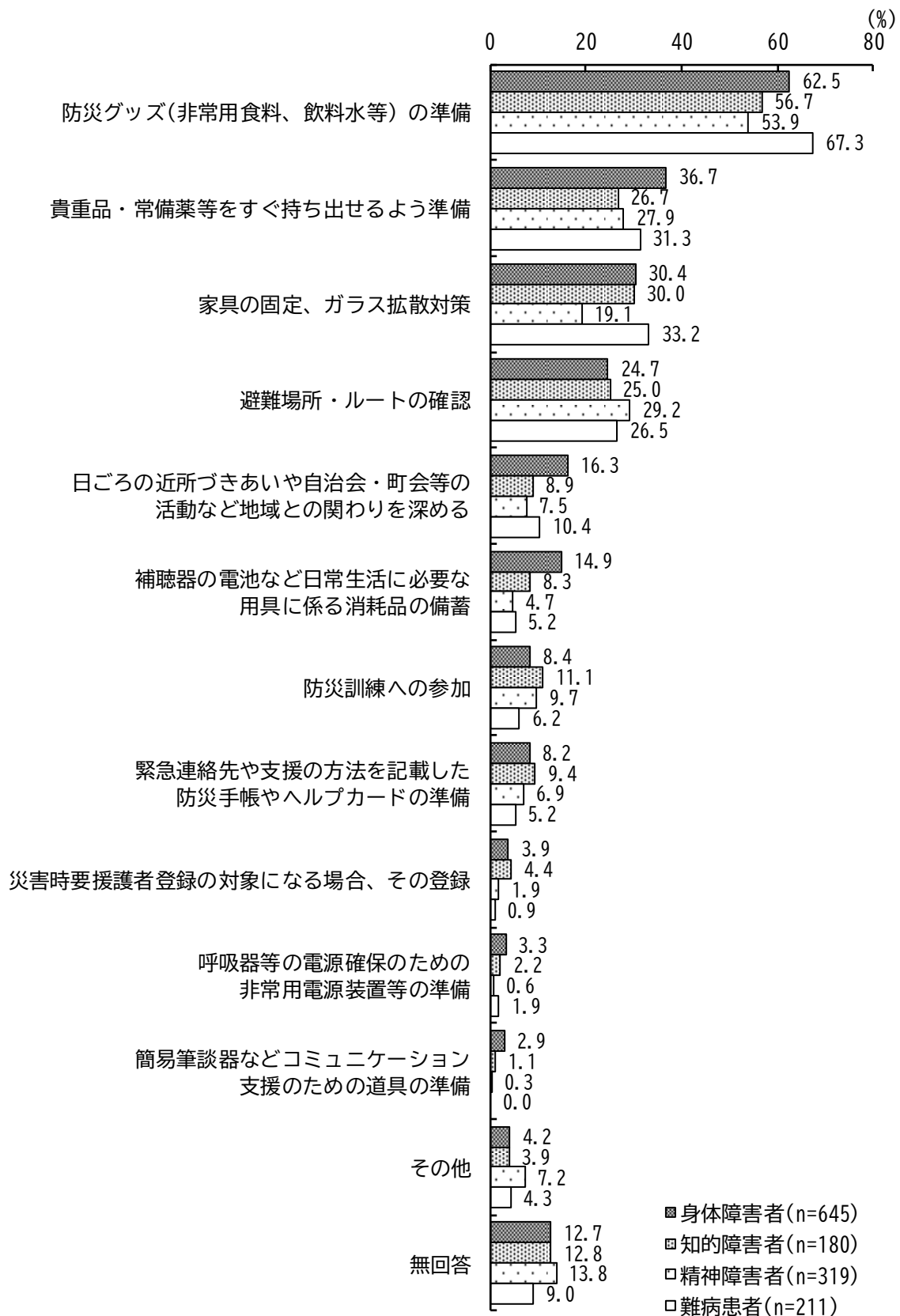
図表 災害対策としてふだんから行っていること(全体：複数回答)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(62.5%)が最も多く、次いで「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(36.7%)、「家具の固定、ガラス拡散対策」(30.4%)が続いている。
- ・知的障害者は「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(56.7%)が最も多く、次いで「家具の固定、ガラス拡散対策」(30.0%)、「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(27.9%)が続いている。
- ・精神障害者は「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(53.9%)が最も多く、次いで「避難場所・ルートの確認」(29.2%)、「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(27.0%)が続いている。
- ・難病患者は「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備」(67.3%)が最も多く、次いで「家具の固定、ガラス拡散対策」(33.2%)、「貴重品・常備薬等をすぐ持ち出せるよう準備」(31.3%)が続いている。

図表 災害対策としてふだんから行っていること(障害等の種類別：複数回答)

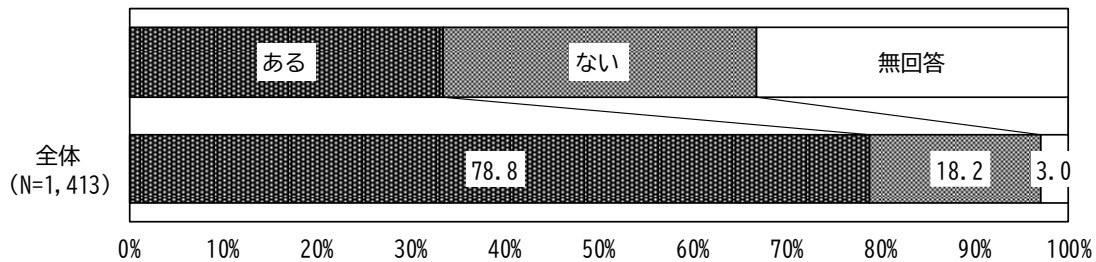


(9) 医療について

問30 あなたは、入院したことがありますか。(1つに○)

- ・「ある」が78.8%、「ない」が18.2%である。

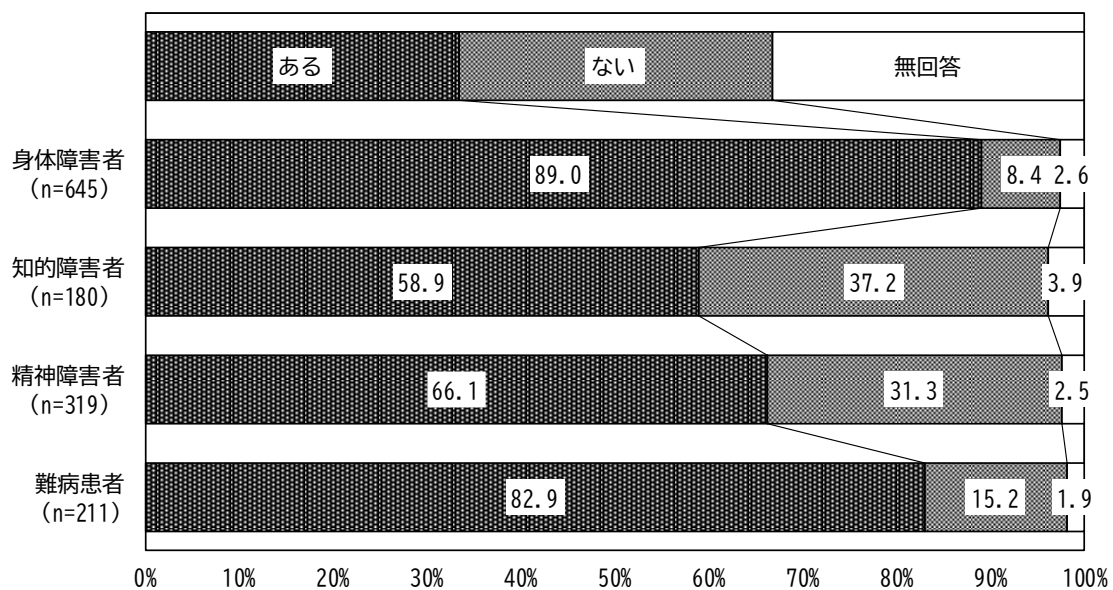
図表 入院経験の有無(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「ある」が89.0%で、全体より10.2ポイント高い。

図表 入院経験の有無(障害等の種類別)



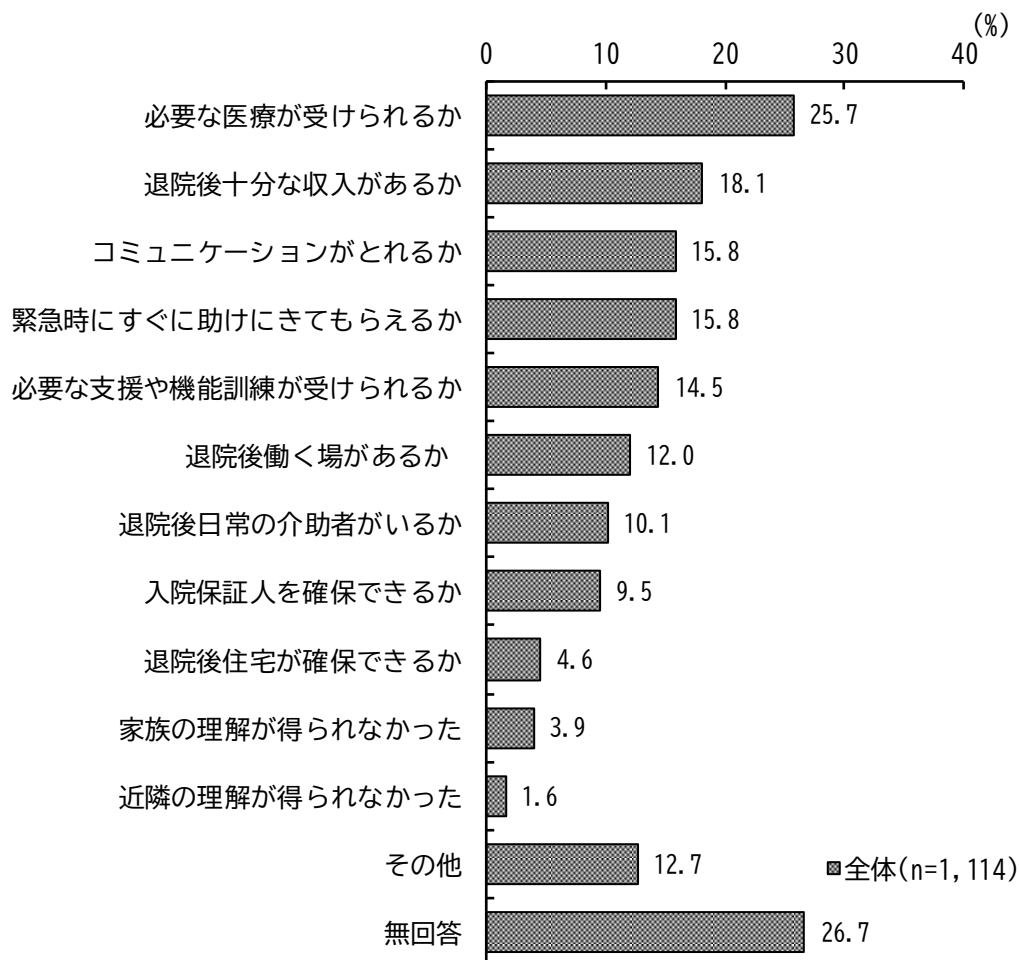
問30-1 問30で「1. ある」と答えた方におたずねします。

入院や退院するにあたり困ったことはありましたか。(いくつでも○)

- ・「必要な医療が受けられるか」(25.7%)が最も多く、「退院後十分な収入があるか」(18.1%)、「コミュニケーションがとれるか」と「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」(それぞれ 15.8%)が同率で続いている。

図表 入院や退院するにあたっての困りごと（全体:複数回答）

<入院したことのある人>



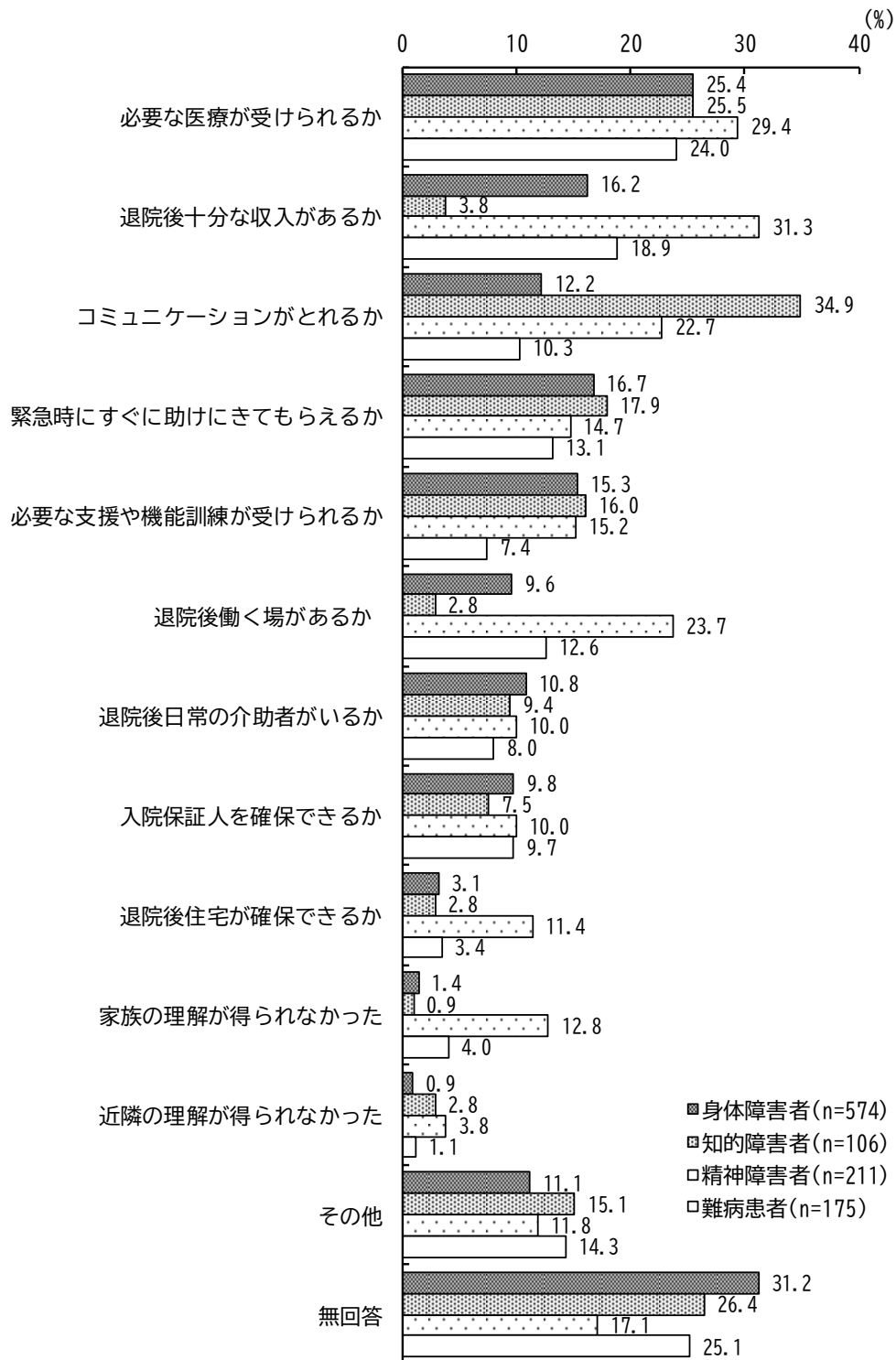
【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「必要な医療が受けられるか」(25.4%)が最も多く、「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」(16.7%)が続いている。
- ・知的障害者は「コミュニケーションがとれるか」(34.9%)が最も多く、「必要な医療が受けられるか」(25.5%)が続いている。
- ・精神障害者は「退院後十分な収入があるか」(31.3%)が最も多く、「必要な医療が受けられるか」(29.4%)が続いている。

- ・難病患者は「必要な医療が受けられるか」(24.0%)が最も多く、「退院後十分な収入があるか」(18.9%)が続いている。

図表 入院や退院するにあたっての困りごと(障害等の種類別:複数回答)

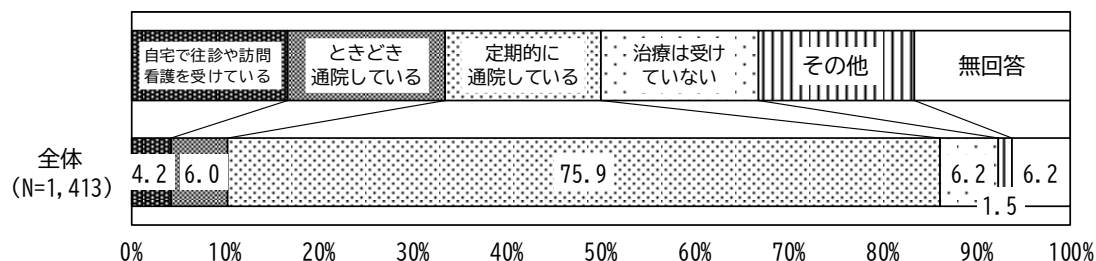
<入院したことのある人>



問31 あなたは、現在、通院して医師の治療を受けていますか。(1つに○)

- ・「定期的に通院している」(75.9%)が7割を超えている。

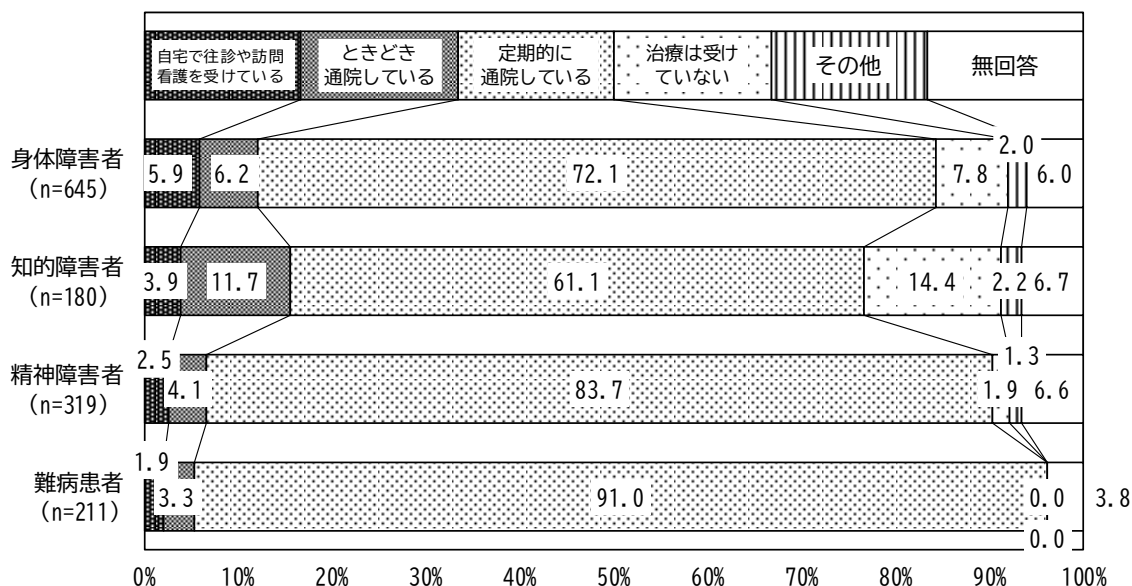
図表 現在受けている医療(全体)



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「定期的に通院している」(身体：72.1%、知的：61.1%、精神：83.7%、難病：91.0%)が最も多い。全体と比べて、精神障害者は7.8ポイント、難病患者は15.1ポイント高い。

図表 現在受けている医療(障害等の種類別)



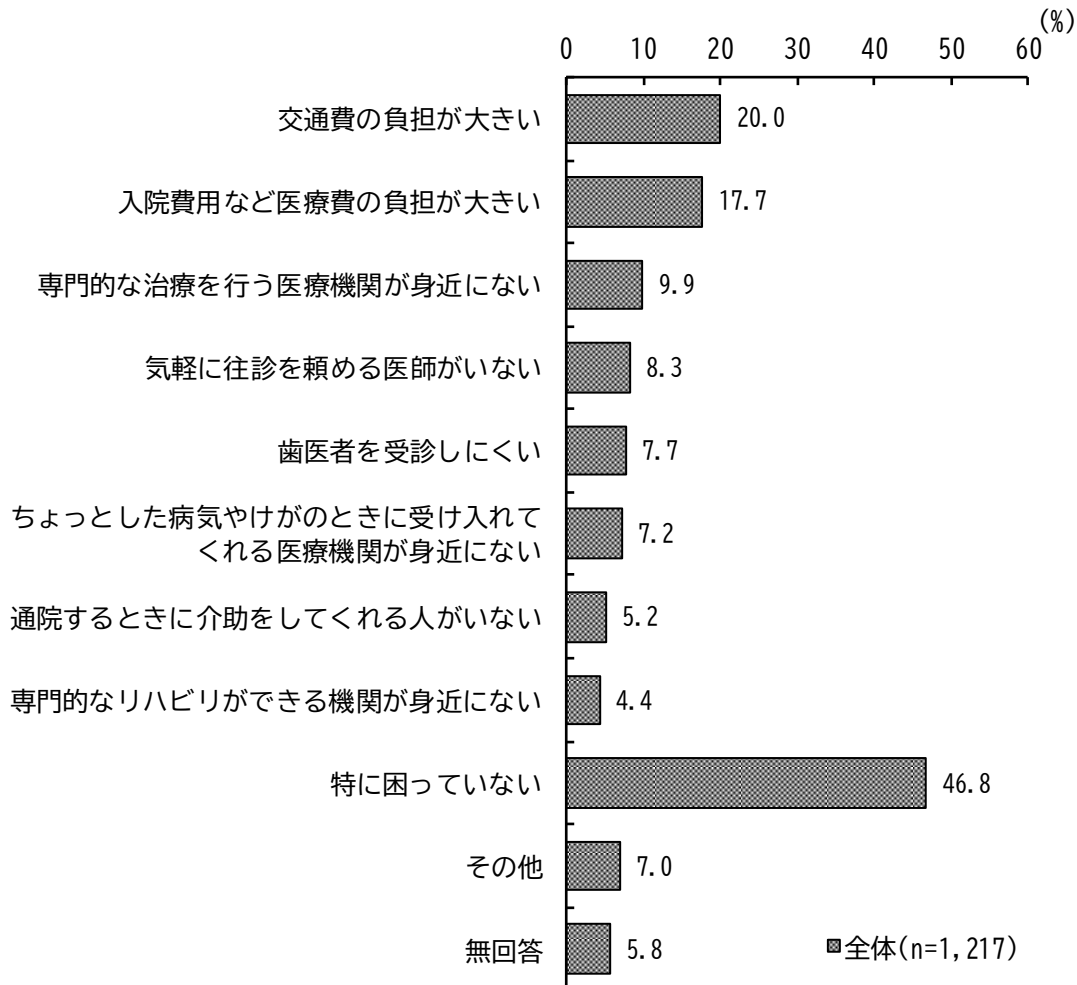
問31-1 問31で「1」、「2」、「3」と答えた方におたずねします。

通院などでお困りのことはありますか。(いくつでも○)

- ・困りごとの理由の中では、「交通費の負担が大きい」(20.0%)が最も多く、次いで「入院費用など医療費の負担が大きい」(17.7%)、「専門的な治療を行う医療機関が身近にない」(9.9%)、「気軽に往診を頼める医師がいない」(8.3%)が続いている。「特に困っていない」は46.8%である。

図表 通院などでの困りごと(全体:複数回答)

<通院して医師の治療を受けている人>

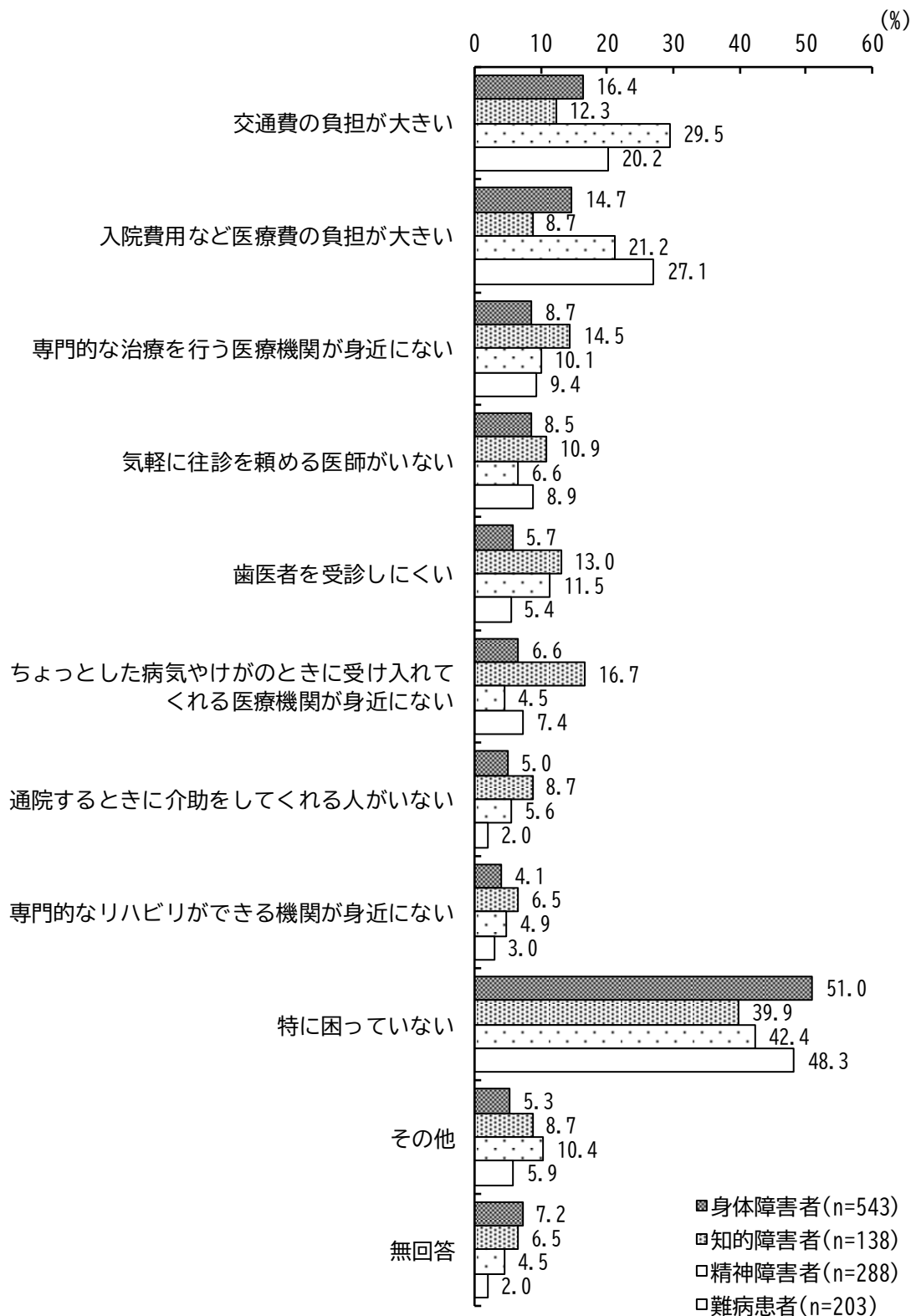


【障害等の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者は「交通費の負担が大きい」（身体：16.4%、精神：29.5%）が最も多い。
- ・知的障害者は「ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない」（16.7%）が最も多い。
- ・難病患者は「入院費用など医療費の負担が大きい」（27.1%）が最も多い。

図表 通院などでの困りごと(障害等の種類別:複数回答)

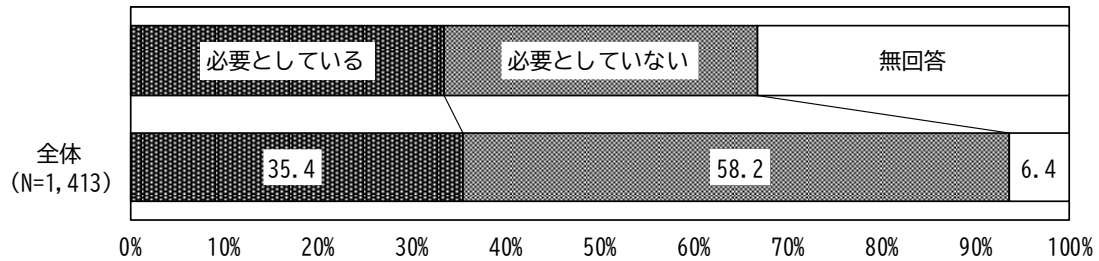
<通院して医師の治療を受けている人>



問 32 あなたは、日常的に何らかの医療・医療的ケアを必要としていますか。障害者手帳所持の有無に関わらずお答えください。（1つに○）

- ・「必要としている」は35.4%である。

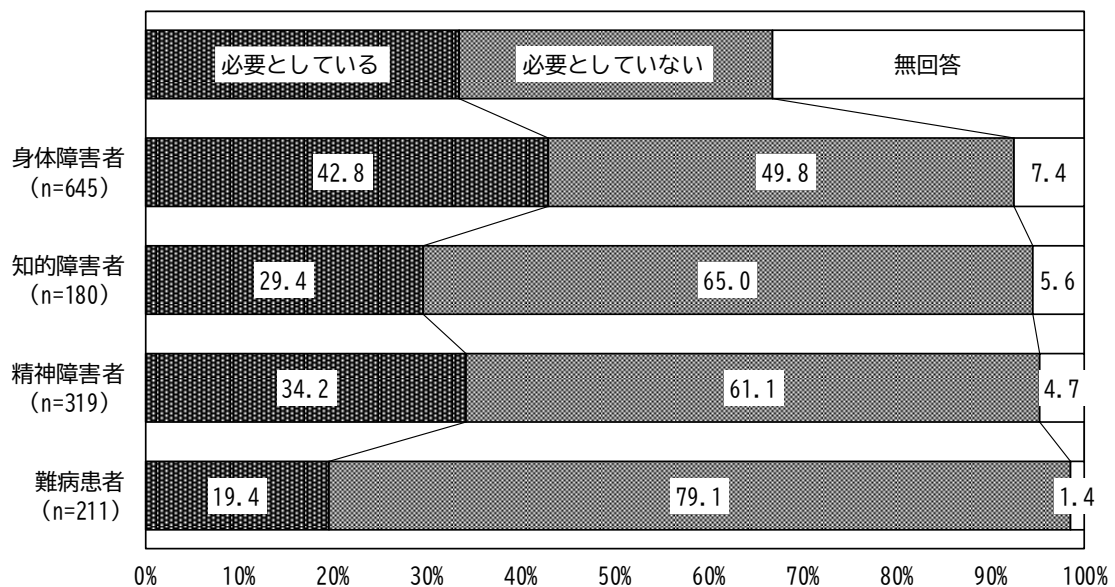
図表 医療・医療的ケアの必要性（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「ある」が42.8%で、全体より7.4ポイント高い。

図表 医療・医療的ケアの必要性(障害等の種類別)



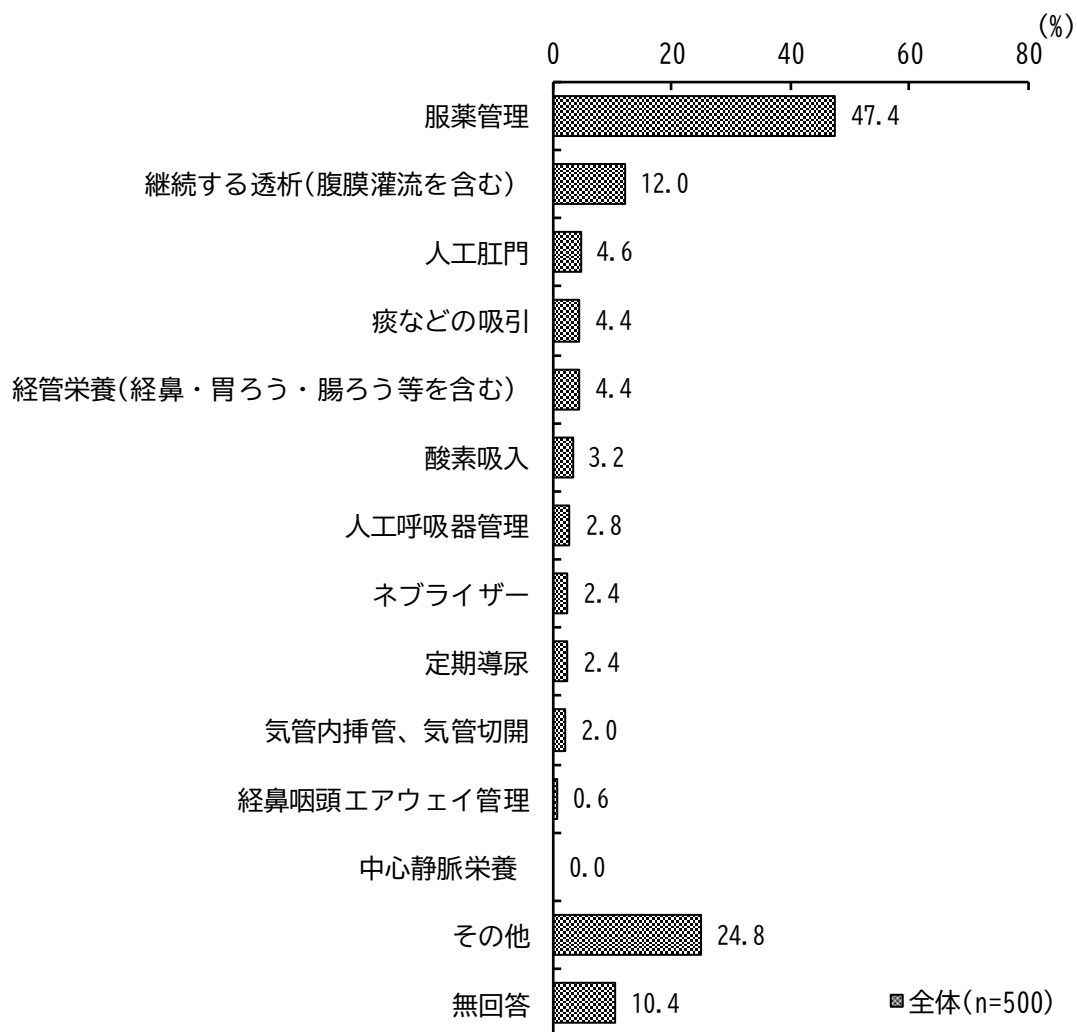
問32-1 問32で「1. 必要としている」とお答えの方におたずねします。

現在、あなたはどのような医療・医療的ケアを受けていますか。(いくつでも○)

- ・「服薬管理」(47.4%)が最も多く、次いで「継続する透析(腹膜灌流を含む)」(12.0%)、「人工肛門」(4.6%)が続いている。

図表 必要とする医療・医療的ケア(全体:複数回答)

<医療・医療的ケアを必要としている人>

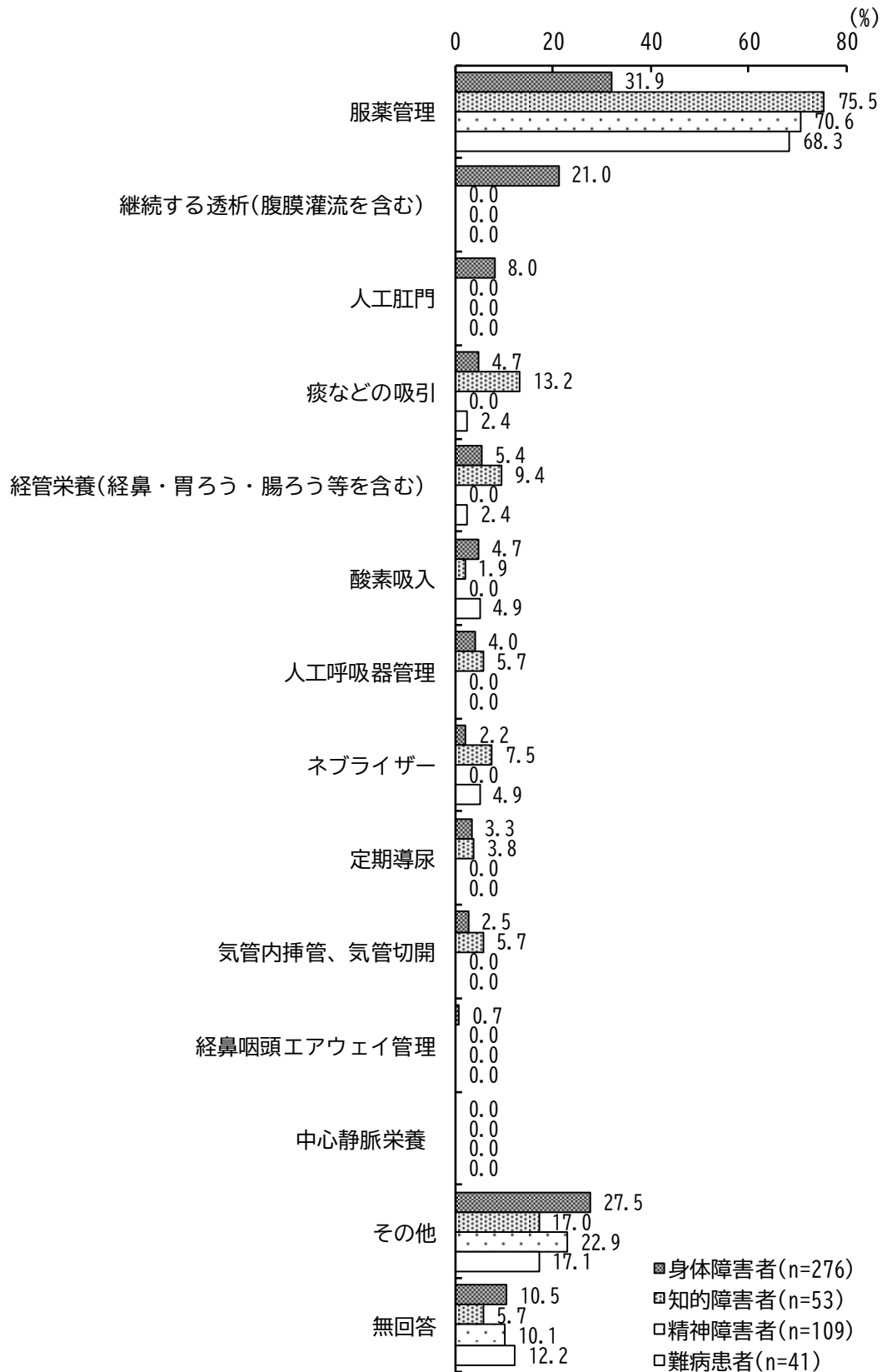


【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、「服薬管理」(身体：31.9%、精神：75.5%、精神：70.6%、難病：68.3%)が最も多い。

図表 必要とする医療・医療的ケア(障害等の種類別:複数回答)

<医療・医療的ケアを必要としている人>

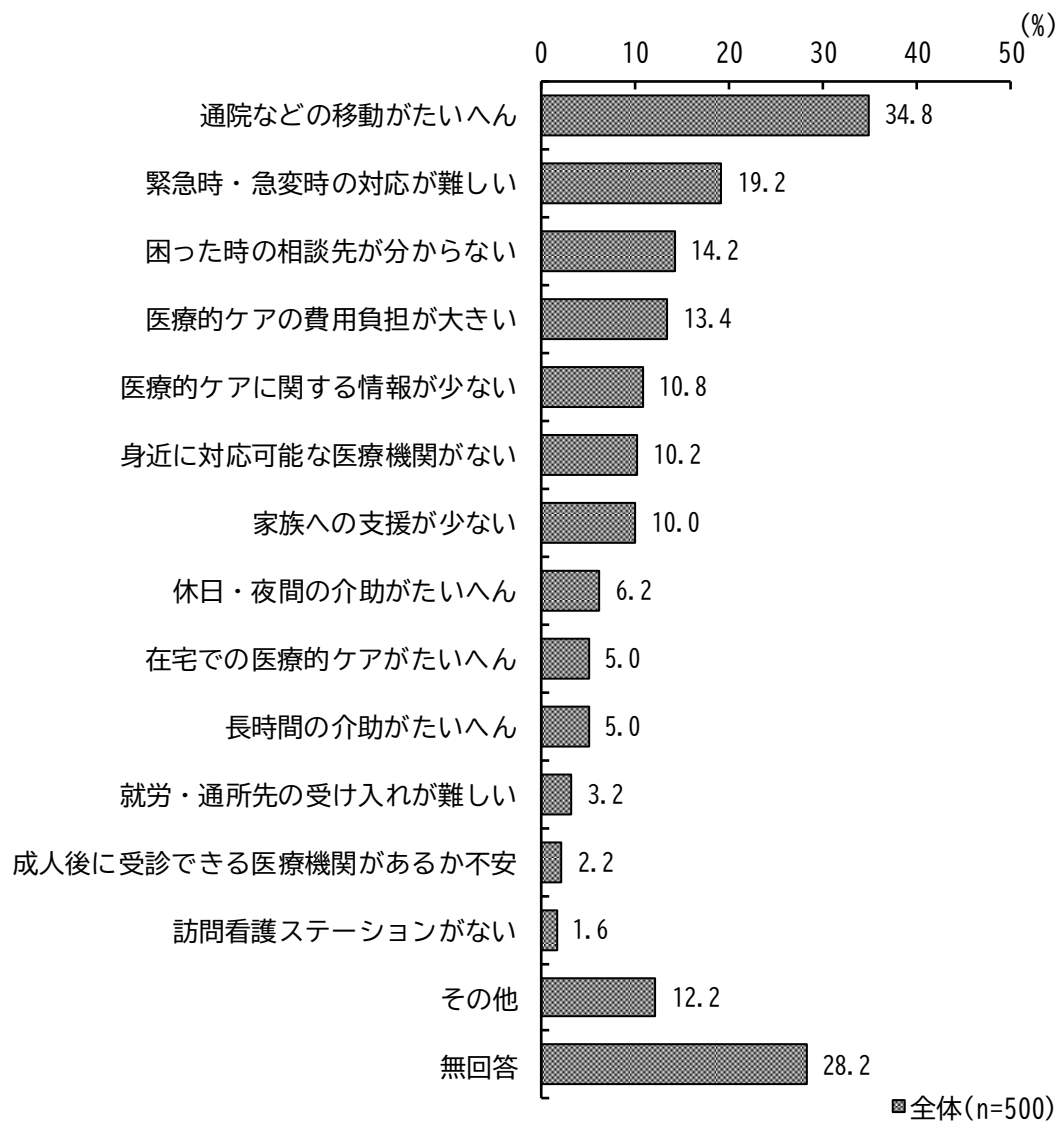


問32-2 問32で「1. 必要としている」とお答えの方におたずねします。

あなたの医療・医療的ケアにあたって、困りごとはありますか。（いくつでも○）

- ・医療・医療的ケアでの困りごととしては、「通院などの移動がたいへん」（34.8%）が最も多く、次いで「緊急時・急変時の対応が難しい」（19.2%）、「困った時の相談先が分からない」（14.2%）、「医療的ケアの費用負担が大きい」（13.4%）が続いている。

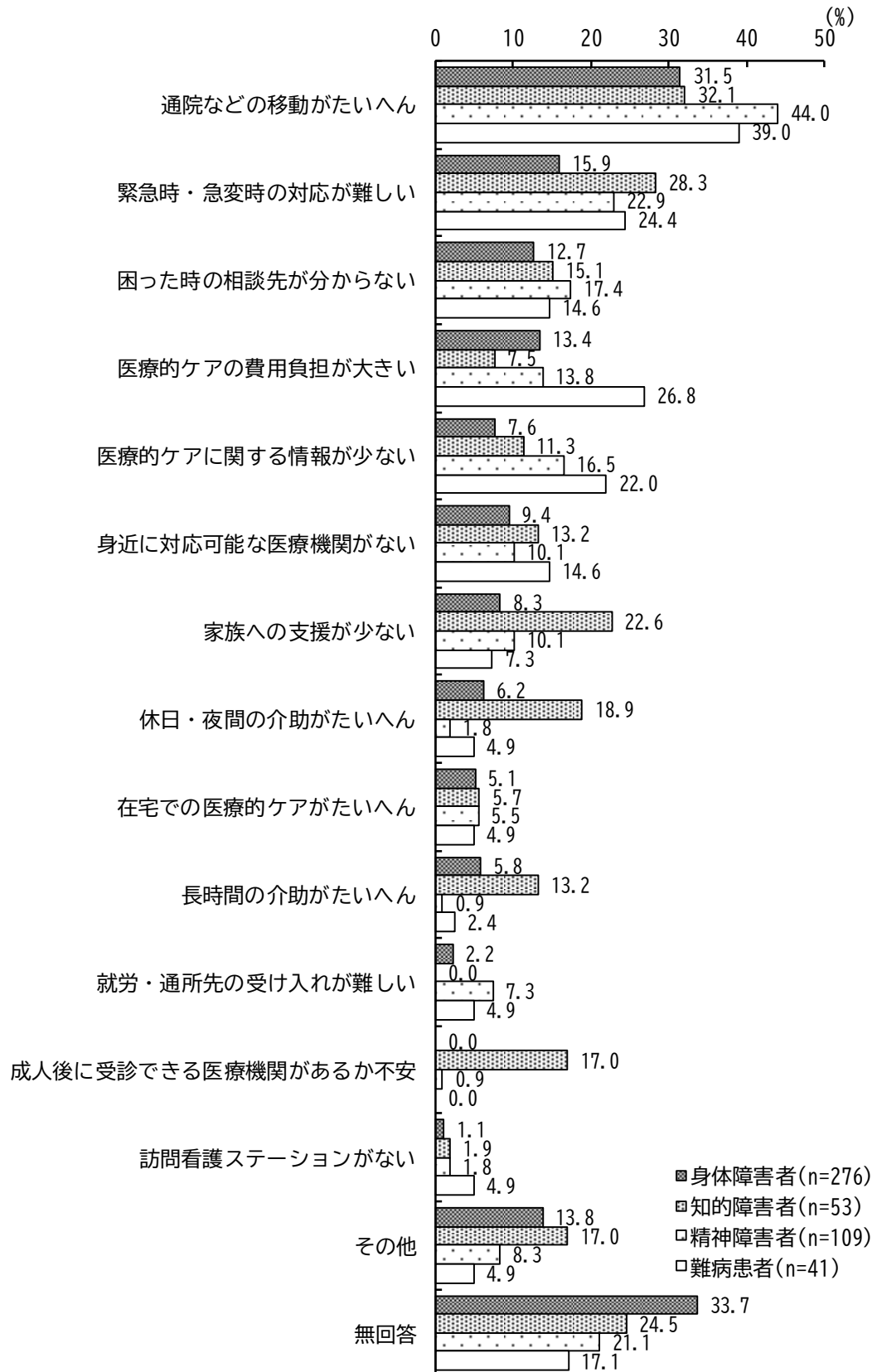
図表 医療・医療的ケアでの困りごと（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・ 障害等の種類別でも、「通院などの移動がたいへん」（身体：31.5%、精神：32.1%、精神：44.0%、難病：39.0%）が最も多い。

図表 医療・医療的ケアでの困りごと(障害等の種類別:複数回答)

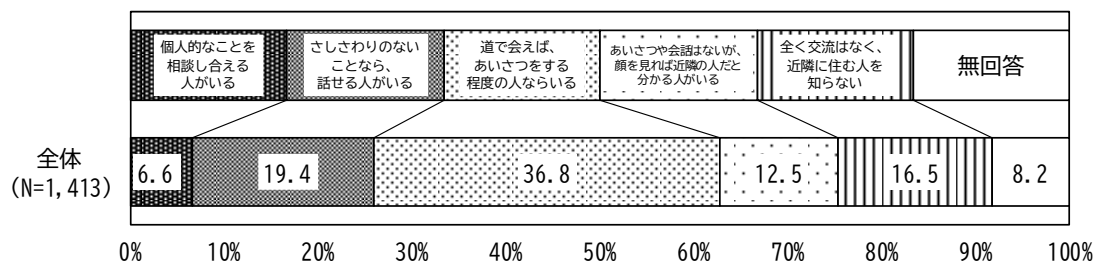


(10) 地域について

問33 あなたは、近隣に住む人と、どの程度おつきあいしていますか。(1つに○)

- ・「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(36.8%)が最も多く、次いで「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(19.4%)、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」(16.5%)が続いている。

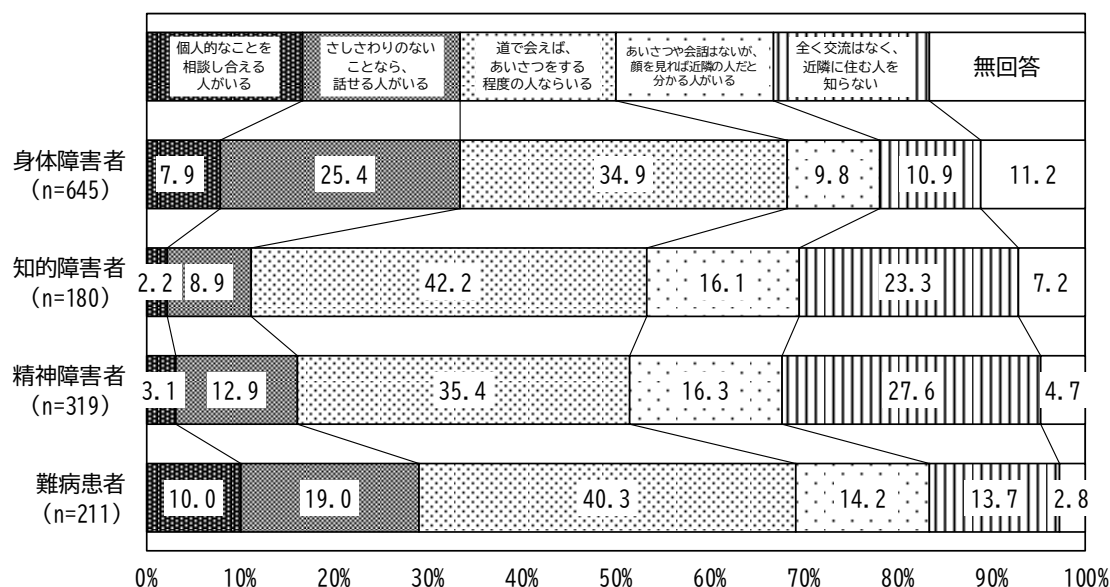
図表 近所づきあいの現状 (全体)



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別をみても「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(身体：34.9%、知的：42.2%、精神：35.4%、難病：40.3%)が最も多い。
- ・身体障害者は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(25.6%)が2割を超えている。
- ・知的障害者と精神障害者は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」(知的：23.3%、精神：27.6%)が2割台である。
- ・難病患者は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(19.0%)が2割近くいる。

図表 近所づきあいの現状 (障害等の種類別)



【居住地域別】

- ・ 武蔵野台文化センター圏域、押立文化センター圏域は「個人的なことを相談し合える人がいる人がいる」(武蔵野台：11.5%、押立：11.3%) が全体より5ポイント近く高い
- ・ 是政文化センター圏域は「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」(30.5%)が全体より 11.1ポイント高い。
- ・ 新町文化センター圏域は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」(43.2%)が全体より 6.4ポイント高い。
- ・ 片町文化センター圏域は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」(21.3%)が全体より 4.8ポイント高い。

図表 近所づきあいの現状(全体、居住地域別)

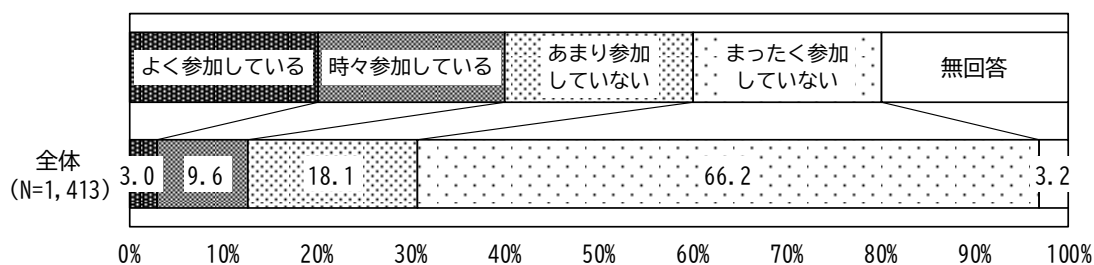
(%)

			個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話はしないが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答
全体		(N=1,413)	6.6	19.4	36.8	12.5	16.5	8.2
居住地域別	中央文化センター圏域	(n=283)	4.6	17.0	35.0	14.1	19.8	9.5
	白系台文化センター圏域	(n=147)	6.1	15.0	34.0	12.9	19.7	12.2
	西府文化センター圏域	(n=61)	4.9	19.7	41.0	13.1	16.4	4.9
	武蔵台文化センター圏域	(n=96)	11.5	18.8	40.6	8.3	12.5	8.3
	新町文化センター圏域	(n=162)	9.9	17.9	43.2	6.8	14.8	7.4
	住吉文化センター圏域	(n=153)	7.8	24.2	32.7	15.7	11.8	7.8
	是政文化センター圏域	(n=105)	3.8	30.5	35.2	16.2	11.4	2.9
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	3.4	24.1	40.5	11.2	13.8	6.9
	押立文化センター圏域	(n=62)	11.3	16.1	37.1	12.9	16.1	6.5
	四谷文化センター圏域	(n=30)	3.3	16.7	30.0	23.3	13.3	13.3
	片町文化センター圏域	(n=169)	5.9	18.3	36.1	11.8	21.3	6.5
	市外	(n=5)	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0

問 34 あなたは、地域活動やボランティア活動、お住まいの地域の行事にどの程度参加していますか。
(1つに○)

- ・「まったく参加していない」(66.2%)が最も多く、次いで「あまり参加していない」(18.1%)、「時々参加している」(9.6%)が続いている。

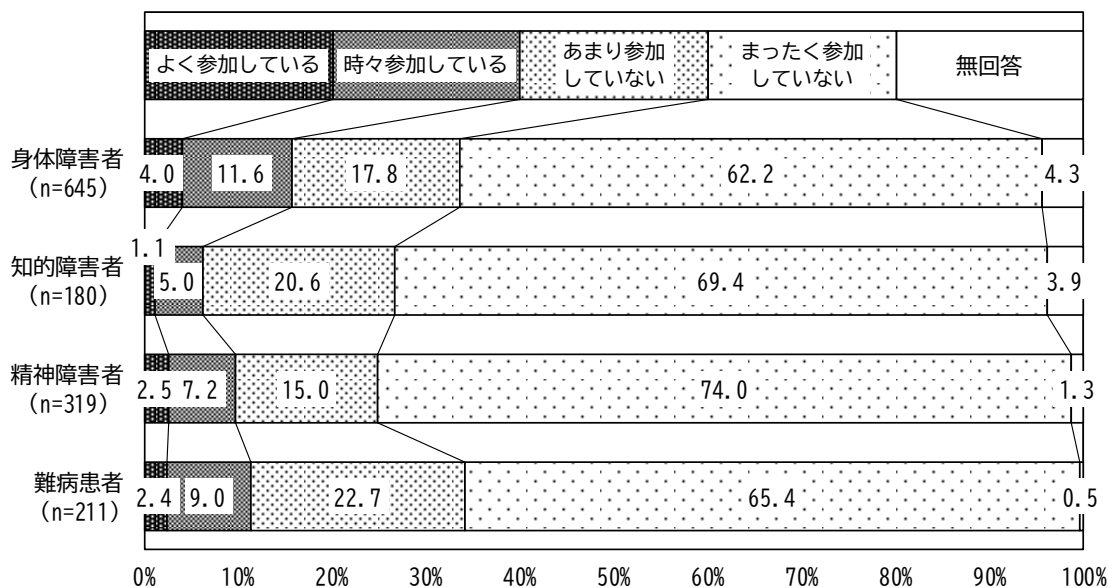
図表 地域活動への参加程度（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「まったく参加していない」（身体：62.2%、知的：69.4%、精神：74.0%、難病：65.4%）が最も多い。
- ・身体障害者は「時々参加している」(11.6%)が1割を超えている。
- ・知的障害者、難病患者は「あまり参加していない」（知的：20.6%、難病：22.7%）が2割を超えている。

図表 地域活動への参加程度（障害等の種類別）



【居住地域別】

- ・ 武蔵野台文化センター圏域は「あまり参加していない」(28.1%)が全体より10.0ポイント高い。
- ・ 白糸台文化センター圏域は「まったく参加していない」(78.2%)が全体より12.0ポイント高い。

図表 地域活動への参加程度(全体、居住地域別)

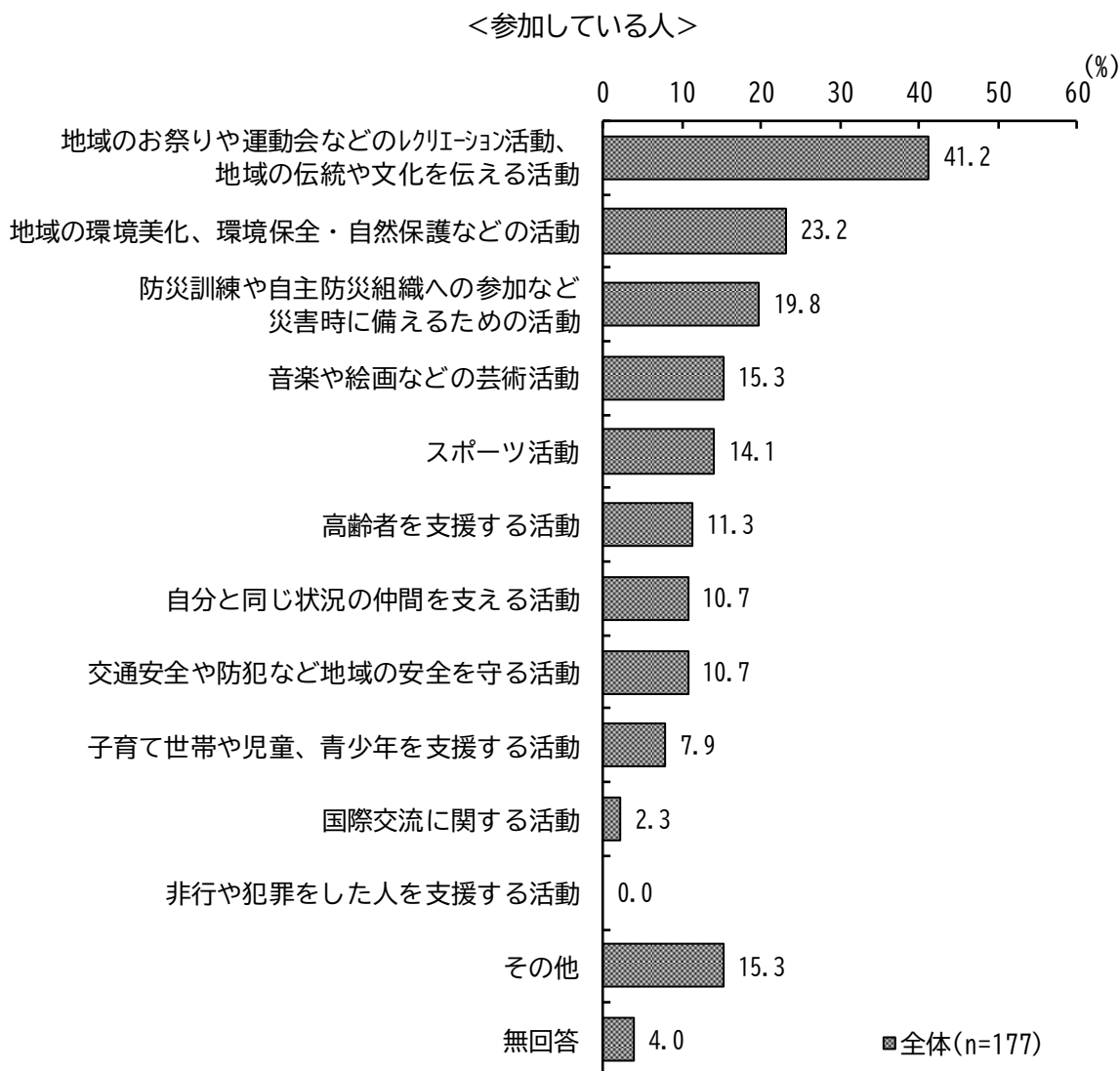
			(%)				
			よく参加 している	時々参加 している	あまり参 加してい ない	まったく 参加して いない	無回答
全体		(N=1,413)	3.0	9.6	18.1	66.2	3.2
居住地域別	中央文化センター圏域	(n=283)	2.1	8.5	17.0	68.9	3.5
	白糸台文化センター圏域	(n=147)	1.4	6.1	10.9	78.2	3.4
	西府文化センター圏域	(n=61)	0.0	11.5	23.0	63.9	1.6
	武蔵台文化センター圏域	(n=96)	5.2	9.4	28.1	53.1	4.2
	新町文化センター圏域	(n=162)	3.7	12.3	18.5	63.0	2.5
	住吉文化センター圏域	(n=153)	4.6	9.8	20.3	61.4	3.9
	是政文化センター圏域	(n=105)	2.9	9.5	19.0	67.6	1.0
	紅葉丘文化センター圏域	(n=116)	2.6	12.1	17.2	65.5	2.6
	押立文化センター圏域	(n=62)	6.5	8.1	24.2	58.1	3.2
	四谷文化センター圏域	(n=30)	3.3	3.3	10.0	83.3	0.0
	片町文化センター圏域	(n=169)	1.8	10.7	16.0	67.5	4.1
	市外	(n=5)	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0

問34-1 問34で「1」「2」と答えた方におたずねします。

どのような地域での活動やボランティアに参加していますか。(いくつでも○)

- ・参加している地域活動は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(41.2%)が最も多く、次いで「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(23.2%)、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(19.8%)が続いている。

図表 参加している地域活動の種類(全体:複数回答)

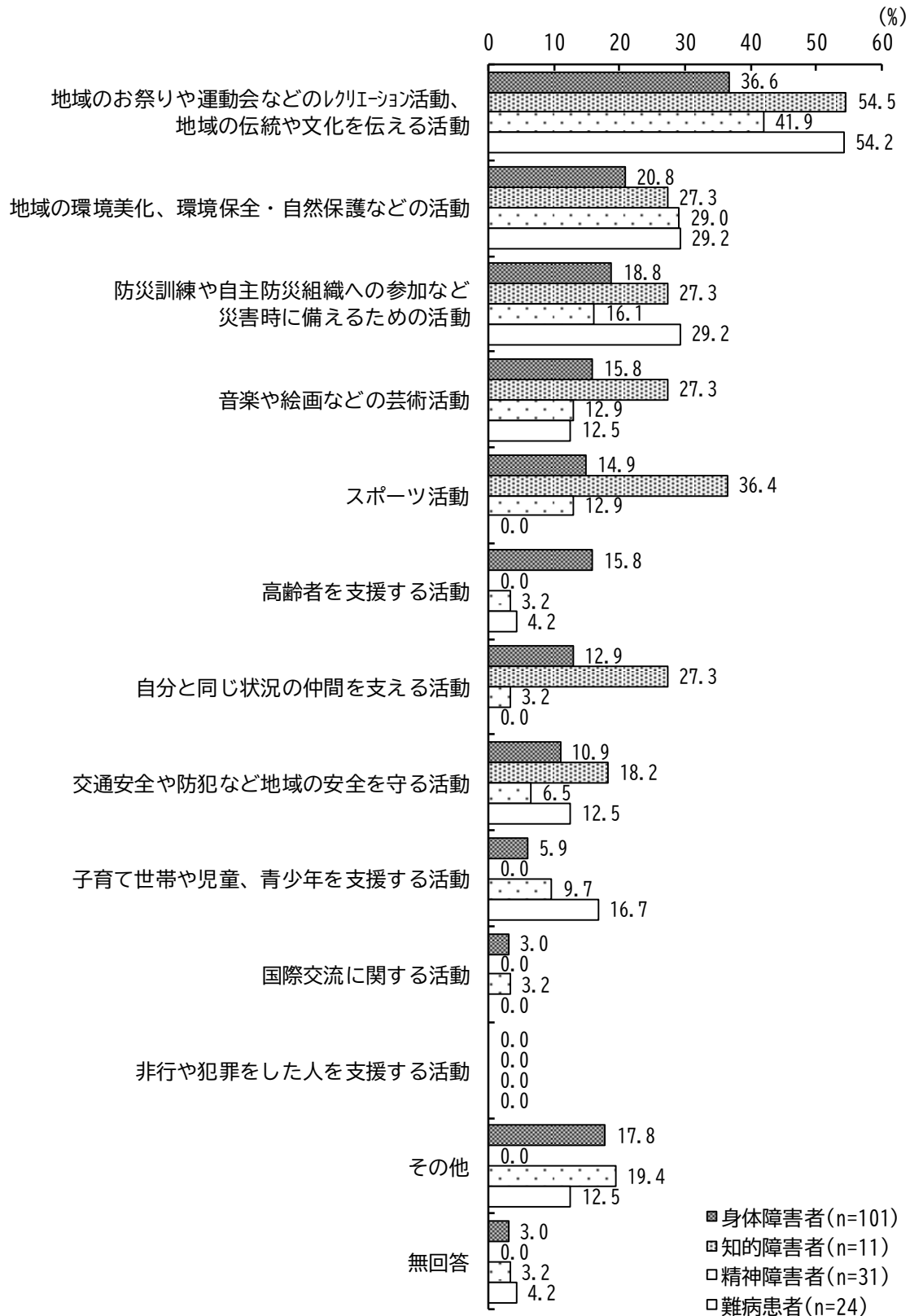


【障害等の種類別】

- ・ 障害等の種類別でも、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」（身体：36.6%、精神：54.5%、精神：41.9%、難病：54.2%）が最も多い。

図表 参加している地域活動の種類(障害等の種類別:複数回答)

<参加している人>



【圏域別】

- ・白糸台文化センター圏域は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(54.5%)や「スポーツ活動」(27.3%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・西府文化センター圏域は「交通安全や防犯など地域の安全を守る活動」(28.6%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・武蔵台文化センター圏域は「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動」(35.7%)、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(42.9%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・新町文化センター圏域は「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(15.4%)が全体より5ポイント近く高い。
- ・住吉文化センター圏域は「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(15.4%)が全体より7ポイント以上高い。
- ・是政文化センター圏域は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(53.8%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・紅葉丘文化センター圏域は「スポーツ活動」(23.5%)が全体より9ポイント以上高い。
- ・押立文化センター圏域は「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(55.6%)、「防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動」(33.3%)、「音楽や絵画などの芸術活動」(33.3%)、「高齢者を支援する活動」(22.2%)、「子育て世帯や児童、青少年を支援する活動」(22.2%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・片町文化センター圏域は「音楽や絵画などの芸術活動」(33.3%)が全体より10ポイント以上高い。

図表 参加している地域活動の種類(全体、圏域別)

<参加している人>

(%)

			地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	防災訓練や自主防災組織への参加など災害時に備えるための活動	音楽や絵画などの芸術活動	スポーツ活動	高齢者を支援する活動
全体		(n=177)	41.2	23.2	19.8	15.3	14.1	11.3
圏域別	中央文化センター圏域	(n=30)	43.3	23.3	13.3	13.3	23.3	3.3
	白糸台文化センター圏域	(n=11)	54.5	9.1	18.2	9.1	27.3	9.1
	西府文化センター圏域	(n=7)	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0
	武蔵台文化センター圏域	(n=14)	42.9	35.7	42.9	14.3	14.3	14.3
	新町文化センター圏域	(n=26)	30.8	26.9	23.1	15.4	0.0	7.7
	住吉文化センター圏域	(n=22)	40.9	27.3	22.7	4.5	9.1	13.6
	是政文化センター圏域	(n=13)	53.8	15.4	15.4	15.4	7.7	15.4
	紅葉丘文化センター圏域	(n=17)	35.3	29.4	0.0	5.9	23.5	17.6
	押立文化センター圏域	(n=9)	55.6	11.1	33.3	33.3	11.1	22.2
	四谷文化センター圏域	(n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	片町文化センター圏域	(n=21)	33.3	28.6	14.3	33.3	19.0	9.5
	市外	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

			自分と同じ状況の仲間を支える活動	交通安全や防犯など地域の安全を守る活動	子育て世帯や児童、青少年を支援する活動	国際交流に関する活動	非行や犯罪をした人を支援する活動	その他	無回答
全体		(n=177)	10.7	10.7	7.9	2.3	0.0	15.3	4.0
圏域別	中央文化センター圏域	(n=30)	6.7	10.0	10.0	0.0	0.0	13.3	3.3
	白糸台文化センター圏域	(n=11)	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0
	西府文化センター圏域	(n=7)	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	武蔵台文化センター圏域	(n=14)	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	14.3	0.0
	新町文化センター圏域	(n=26)	15.4	7.7	3.8	3.8	0.0	19.2	7.7
	住吉文化センター圏域	(n=22)	18.2	13.6	0.0	0.0	0.0	18.2	4.5
	是政文化センター圏域	(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7
	紅葉丘文化センター圏域	(n=17)	11.8	11.8	11.8	5.9	0.0	11.8	0.0
	押立文化センター圏域	(n=9)	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0
	四谷文化センター圏域	(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	片町文化センター圏域	(n=21)	23.8	9.5	4.8	9.5	0.0	19.0	0.0
	市外	(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

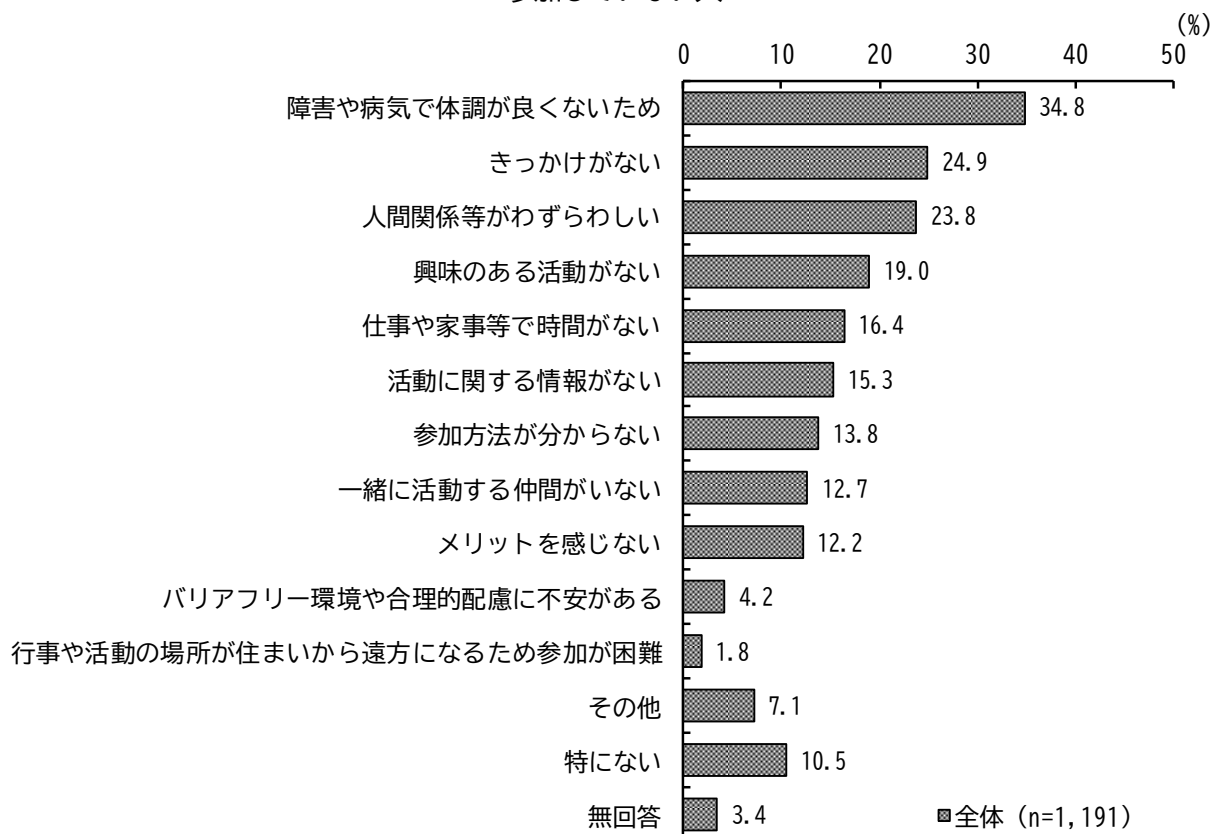
問34-2 問34で「3」「4」と答えた方におたずねします。

活動や行事に参加していない理由は次のどれですか。（いくつでも○）

- ・「障害や病気で体調が良くないため」(34.8%)が最も多く、次いで「きっかけがない」(24.9%)、「人間関係等がわずらわしい」(23.8%)が続いている。

図表 参加していない理由（全体：複数回答）

<参加していない人>

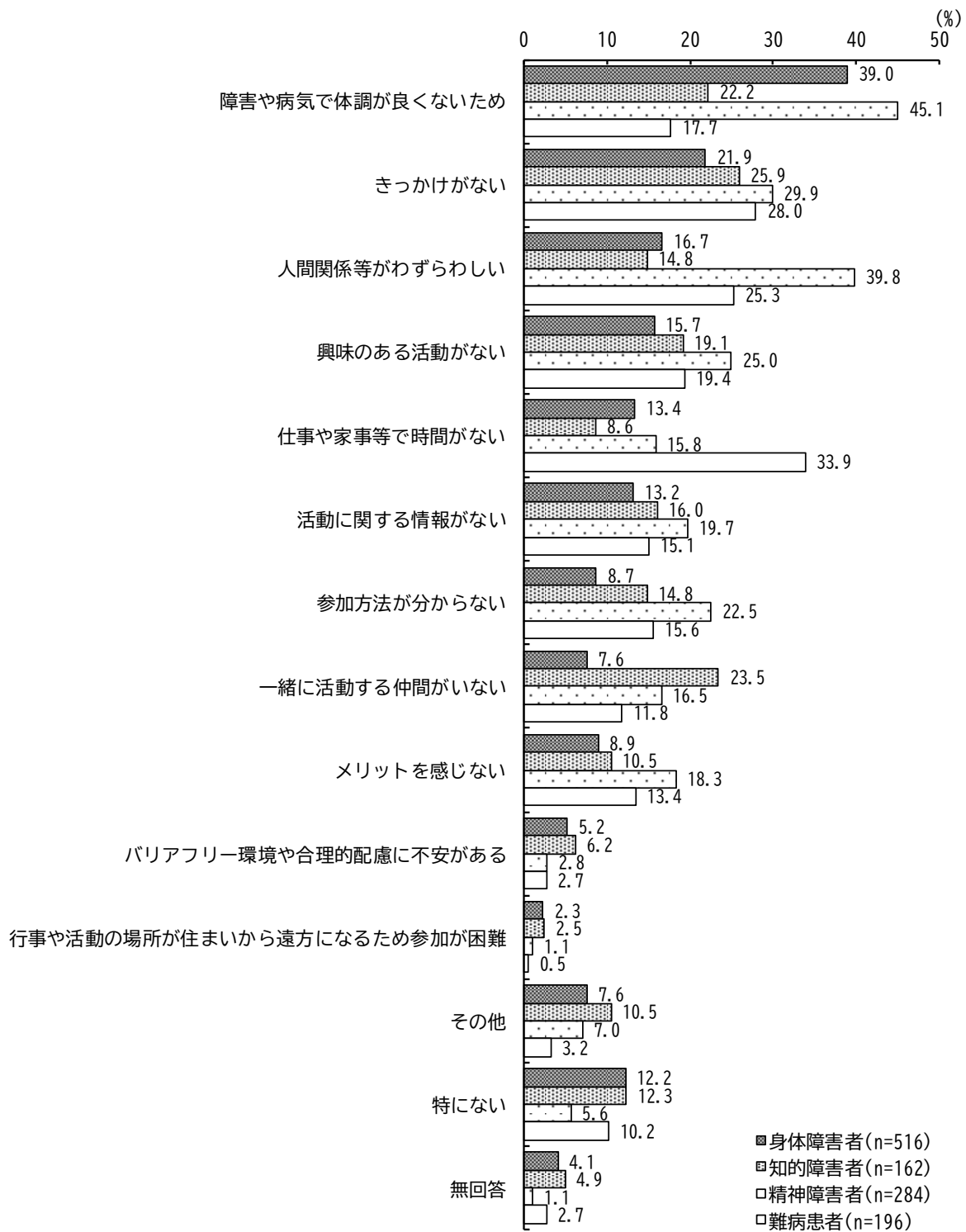


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「障害や病気で体調が良くないため」(39.0%)が最も多く、次いで「きっかけがない」(21.9%)、「人間関係等がわずらわしい」(16.7%)が続いている。
- ・知的障害者は「きっかけがない」(25.9%)が最も多く、次いで「一緒に活動する仲間がいない」(23.5%)、「障害や病気で体調が良くないため」(22.2%)が続いている。
- ・精神障害者は「障害や病気で体調が良くないため」(45.1%)が最も多く、次いで「人間関係等がわずらわしい」(39.8%)、「きっかけがない」(29.9%)が続いている。
- ・難病患者は「仕事や家事等で時間がない」(33.9%)が最も多く、次いで「きっかけがない」(28.0%)、「人間関係等がわずらわしい」(25.3%)が続いている。

図表 参加していない理由(障害等の種類別:複数回答)

<参加していない人>

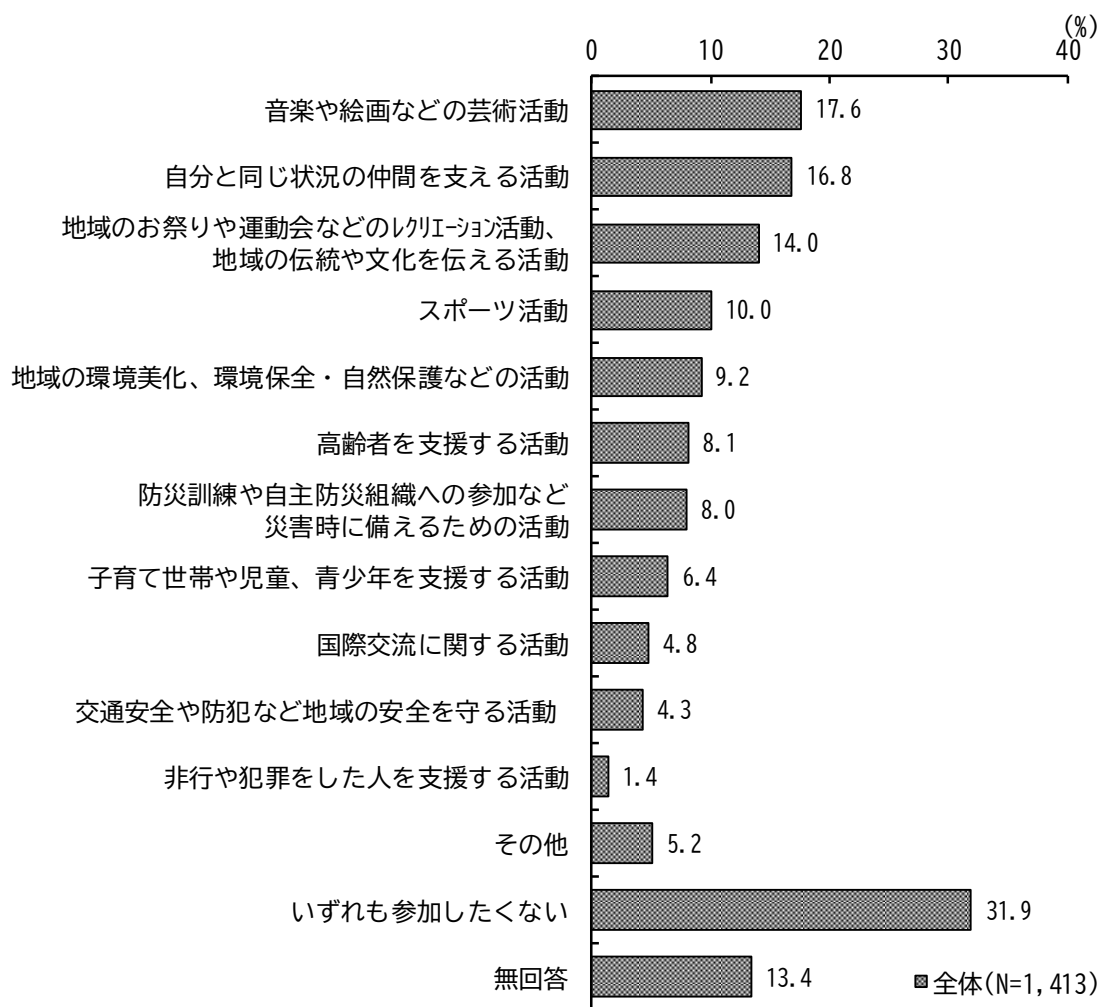


問35 今後参加したい、継続して参加したい地域活動やボランティア活動は、次のどれですか。

(いくつでも○)

- ・「音楽や絵画などの芸術活動」(17.6%)が最も多く、次いで「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(16.8%)、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(14.0%)が続いている。

図表 今後参加したい、継続して参加したい地域活動（全体：複数回答）

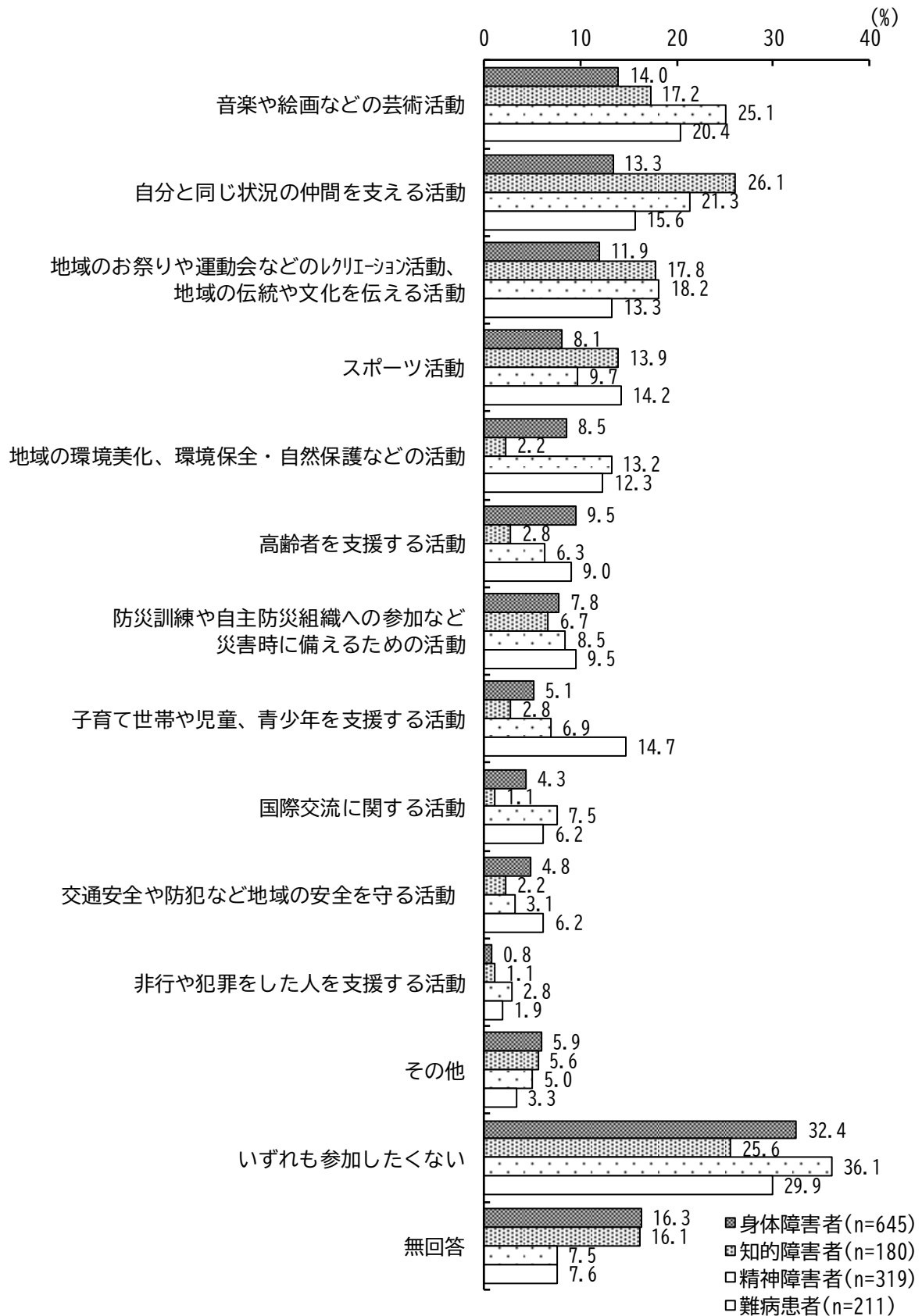


【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「音楽や絵画などの芸術活動」(14.0%)が最も多く、次いで「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(13.3%)、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(11.9%)が続いている。
- ・知的障害者は「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(26.1%)が最も多く、次いで「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(17.8%)、「音楽や絵画などの芸術活動」(17.2%)が続いている。
- ・精神障害者は「音楽や絵画などの芸術活動」(25.1%)が最も多く、次いで「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(21.3%)、「地域のお祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動」(18.2%)が続いている。

- ・難病患者は「音楽や絵画などの芸術活動」(20.4%)が最も多く、次いで「自分と同じ状況の仲間を支える活動」(15.6%)、「スポーツ活動」(14.2%)が続いている。

図表 今後参加したい、継続して参加したい地域活動（障害等の種類別：複数回答）



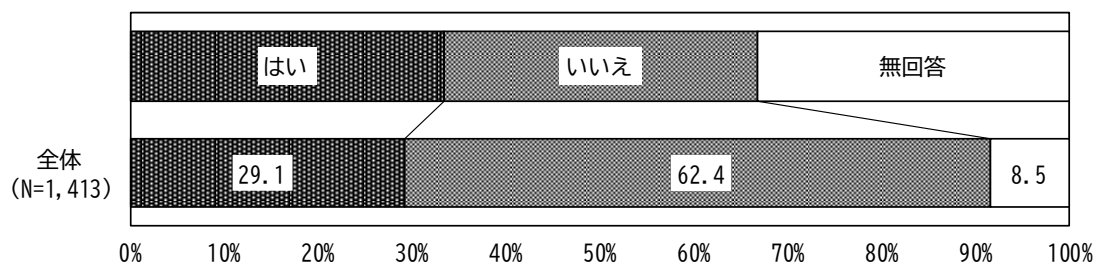
(11) 共生社会について

問36「共生社会（ノーマライゼーション）」は府中市民に十分理解されていると思いますか。

(1つに○)

- ・「はい」が29.1%、「いいえ」が62.4%である。

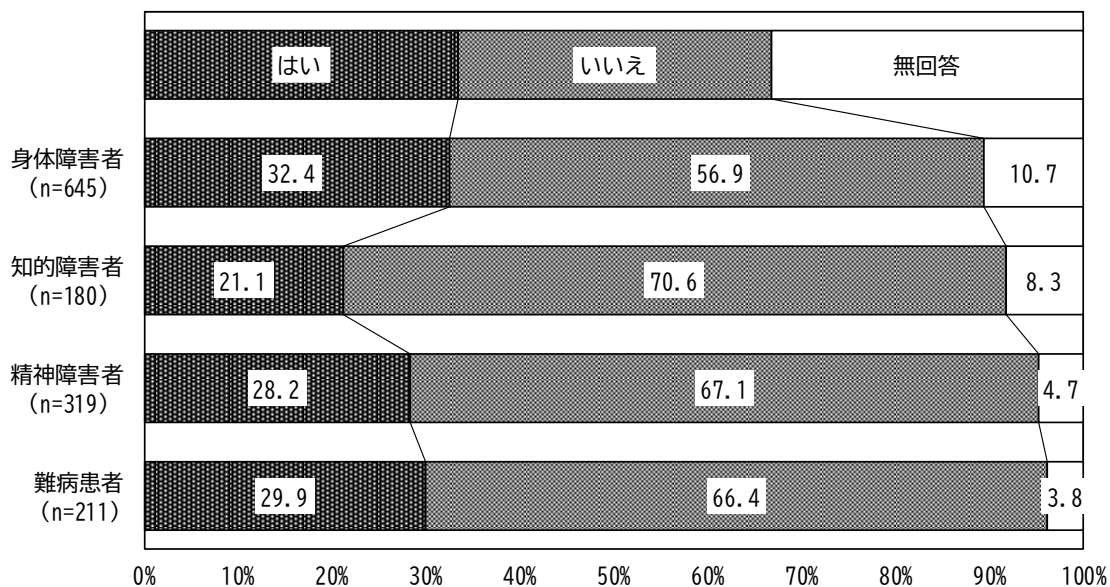
図表 市民のノーマライゼーションの理解（全体）



【障害等の種類別】

- ・知的障害者は「いいえ」(70.6%)が全体より8ポイント以上高い。

図表 市民のノーマライゼーションの理解（障害等の種類別）

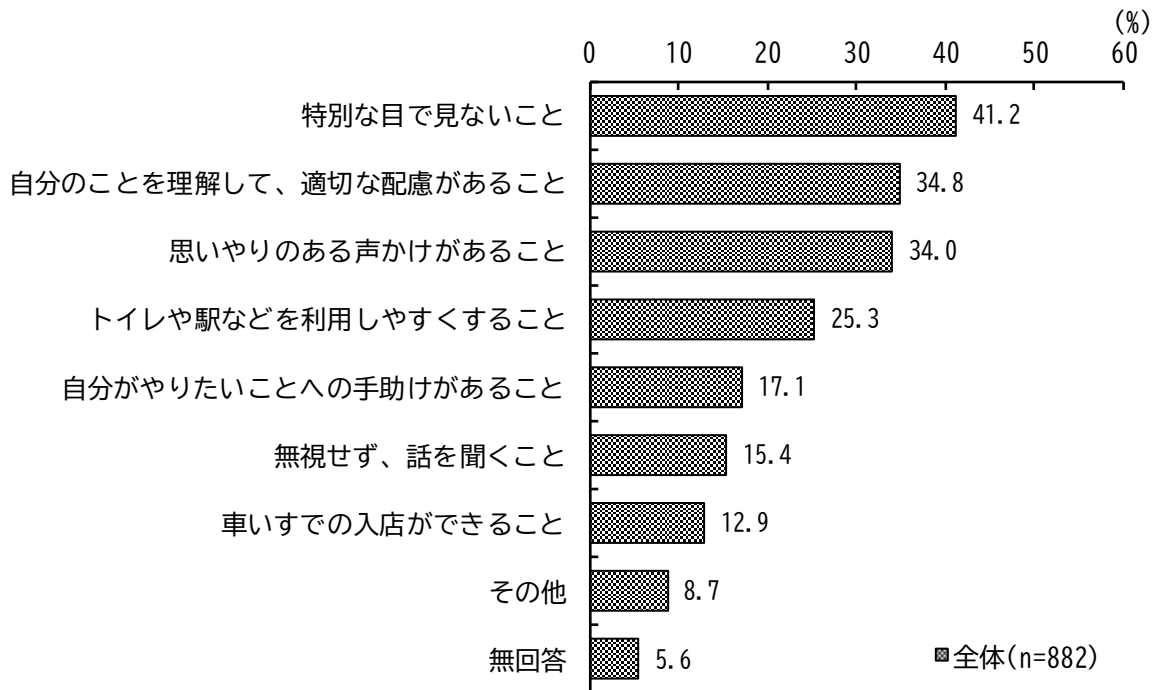


問36-1 問36で「2. いいえ」と答えた方におたずねします。

どのようなことがあれば「理解されている」と思いますか。(3つまで○)

- ・「特別な目で見ないこと」(41.2%)が最も多く、次いで「自分のことを理解して受け入れができること」(34.8%)、「思いやりのある声かけがあること」(34.0%)が続いている。

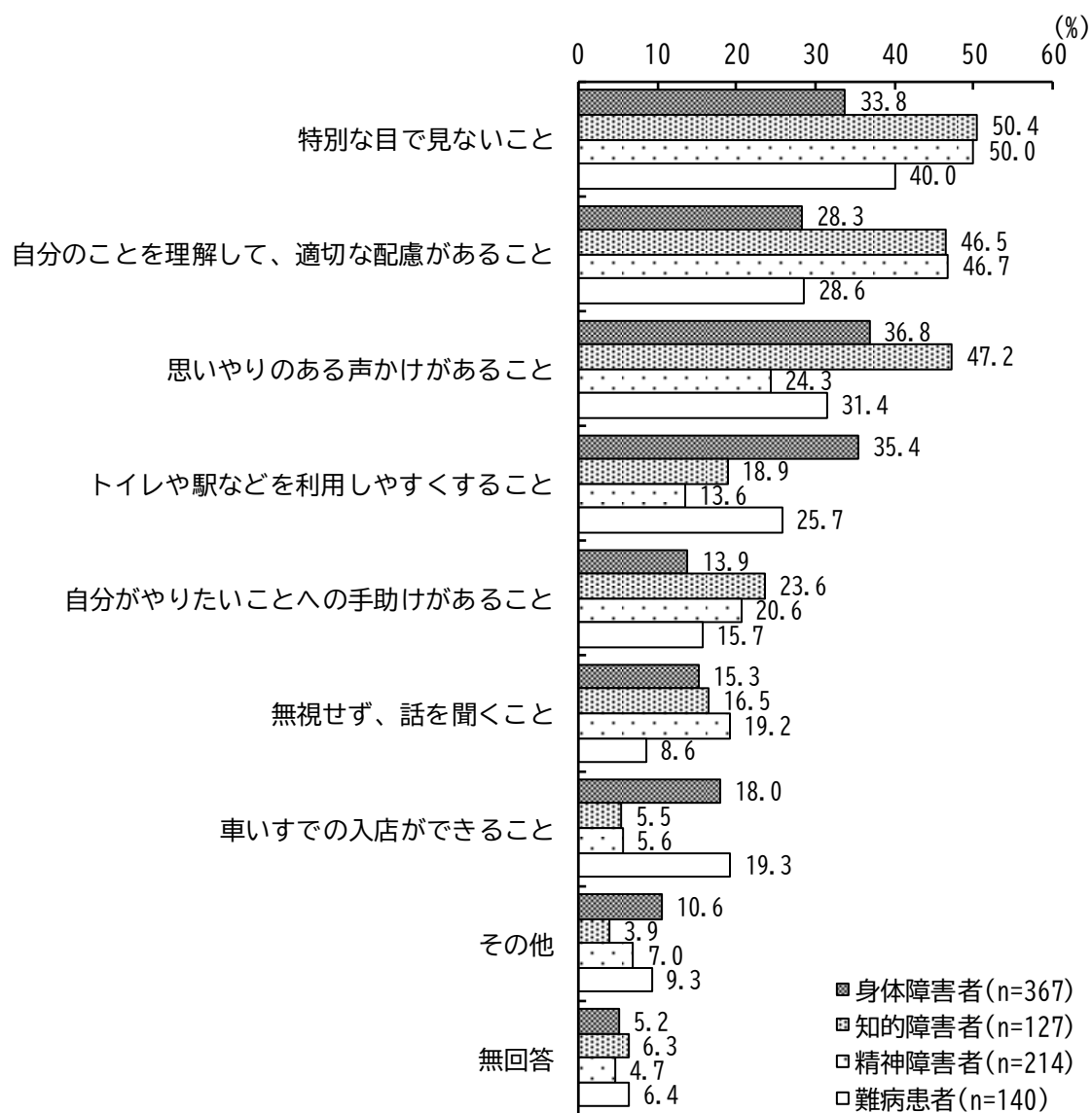
図表 どのようなことがあれば理解されていると思うか(全体：複数回答(3つまで))
 <ノーマライゼーションは市民に十分理解されていないと答えた人>



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「思いやりのある声かけがあること」(36.8%)、知的障害者は「特別な目で見ないこと」(知的：50.4%)が最も多い。
- ・知的障害者と精神障害者は、「自分のことを理解して、適切な配慮があること」(知的：46.5%、精神：46.7%)が全体より10ポイント以上高い。
- ・難病患者は、「車いすでの入店ができること」(19.3%)が全体より6ポイント以上高い。

図表 どのようなことがあれば理解されていると思うか（障害等の種類別：複数回答（3つまで））
 <ノーマライゼーションは市民に十分理解されていないと答えた人>



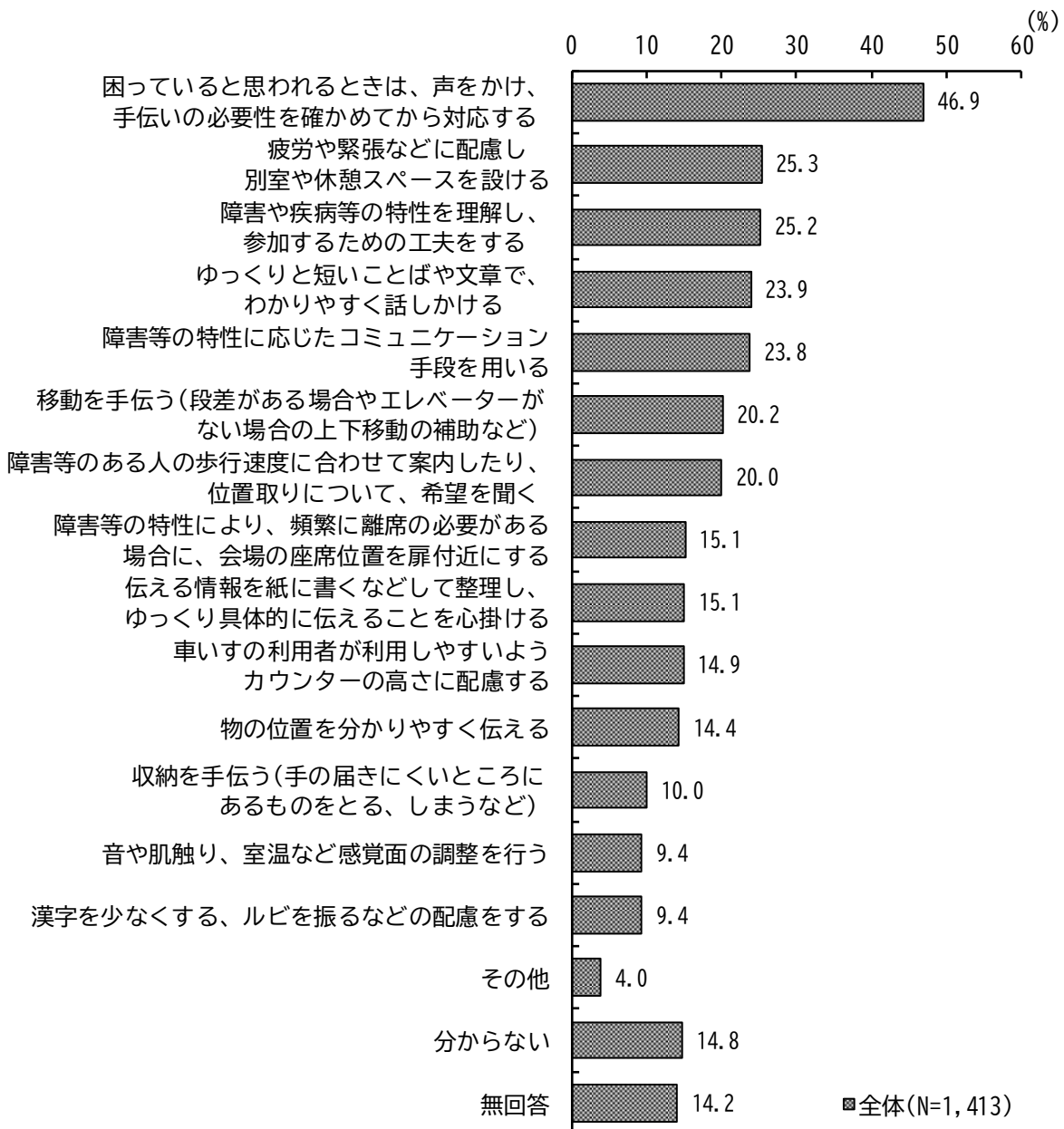
問37 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」では、「合理的配慮」として、国・地方公共団体や会社・お店など事業者に対して、障害等のある人からバリアを取り除く対応を求められた際に、対応することが求められています。

あなたは役所、会社、お店などに対し、どのような合理的配慮を必要としていますか。

(いくつでも○)

- ・「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(46.9%)が最も多く、「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(25.3%)、「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」(25.2%)が続いている。

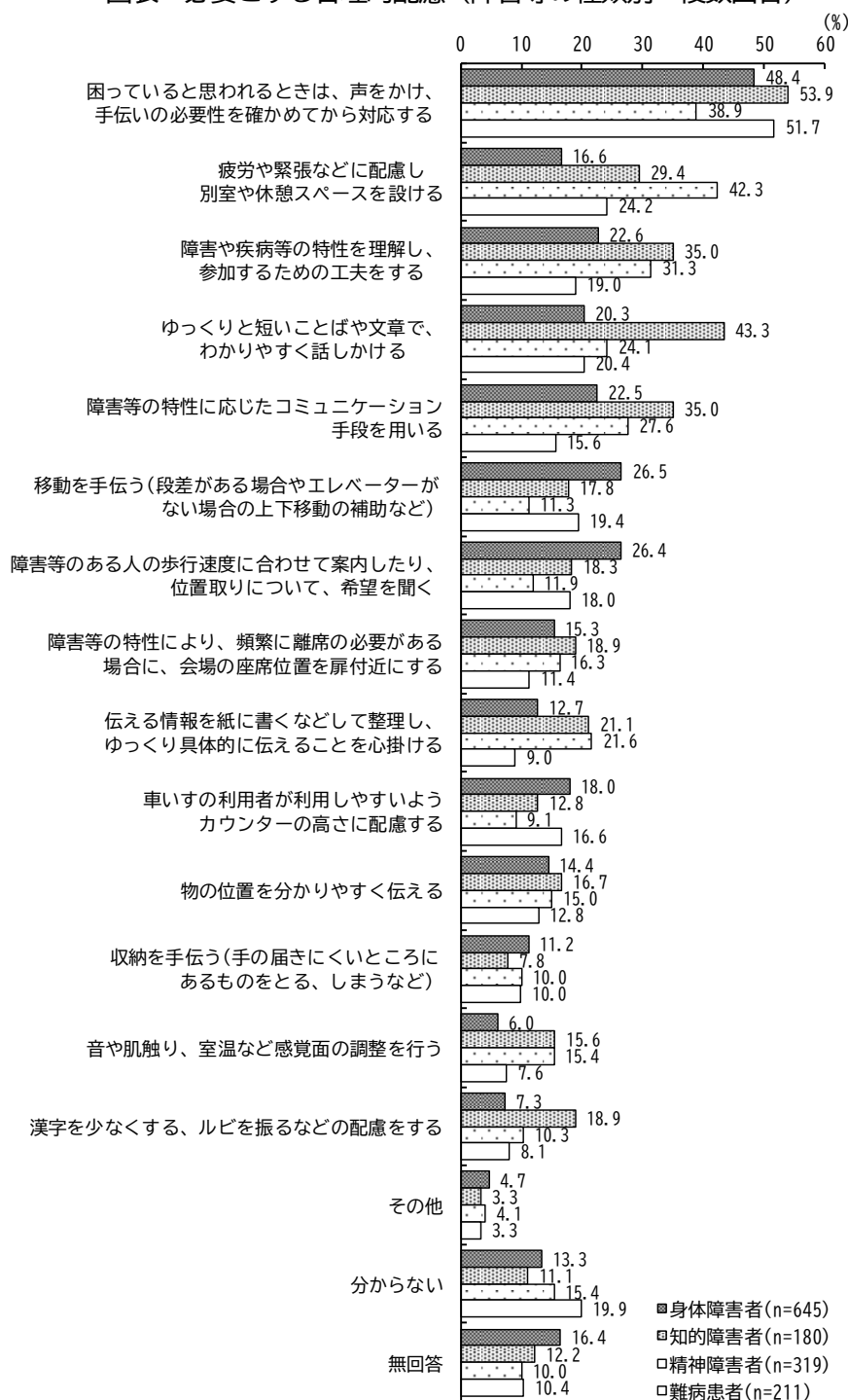
図表 必要とする合理的配慮（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、難病患者では「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（身体：48.4%、知的：53.9%、難病：51.7%）が最も多い。精神障害者では「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」（42.3%）が最も多くなっている。
- ・2番目に多いのは、身体障害者は「移動を手伝う（段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など）」（26.5%）、知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」（43.3%）、精神障害者は「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」（38.9%）、難病患者は「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」（24.2%）となっている。

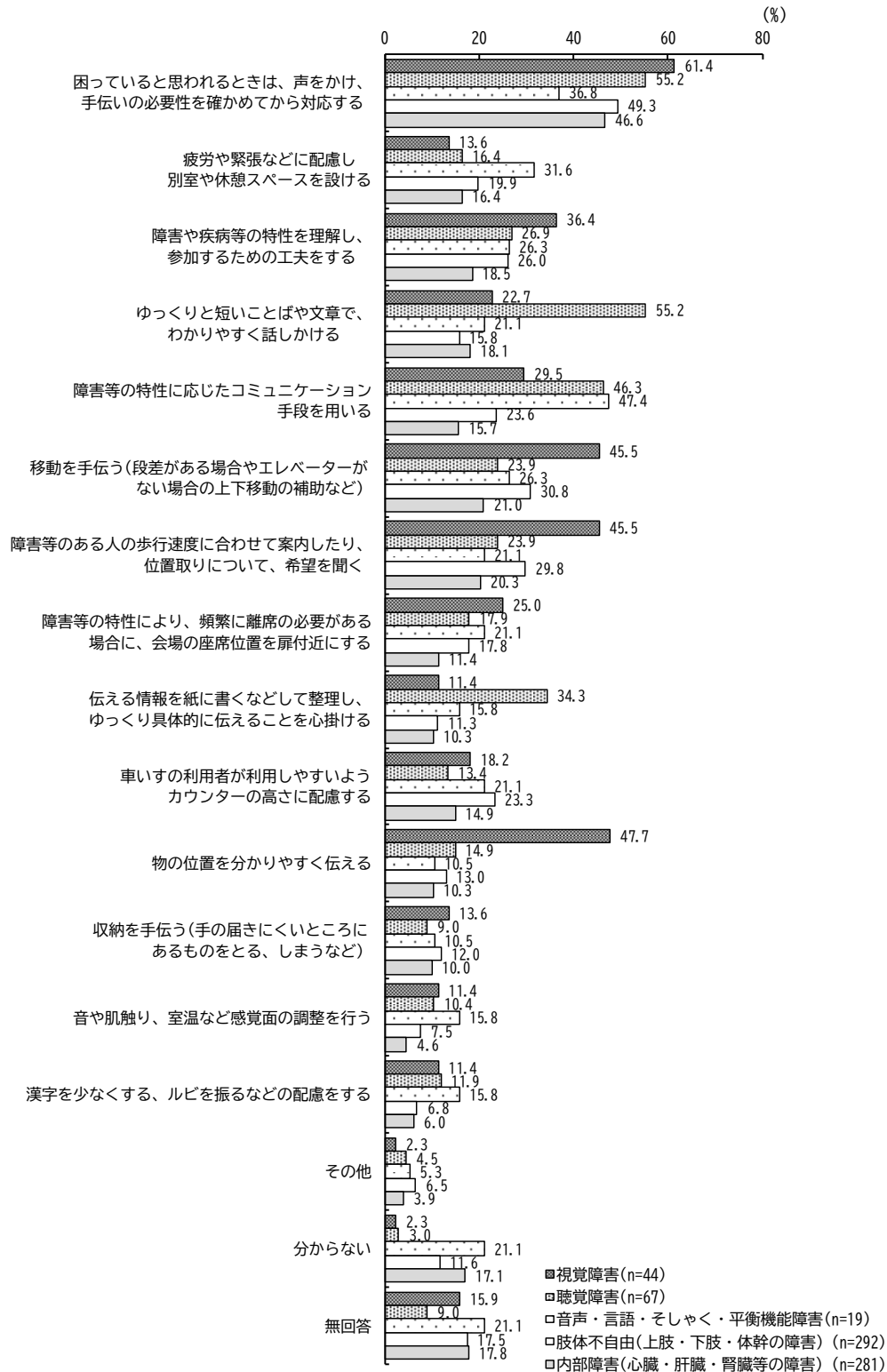
図表 必要とする合理的配慮（障害等の種類別：複数回答）



【身体障害者手帳の記載項目別】

- ・視覚障害、肢体不自由、内部障害は「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(視覚：61.4%、肢体：49.3%、内部：46.6%)が最も多い。聴覚障害は「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」と「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」(それぞれ 55.2%) が同率で最も多く、さらに音声・言語・そしゃく・言語障害では「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」(47.4%) が最も多い。

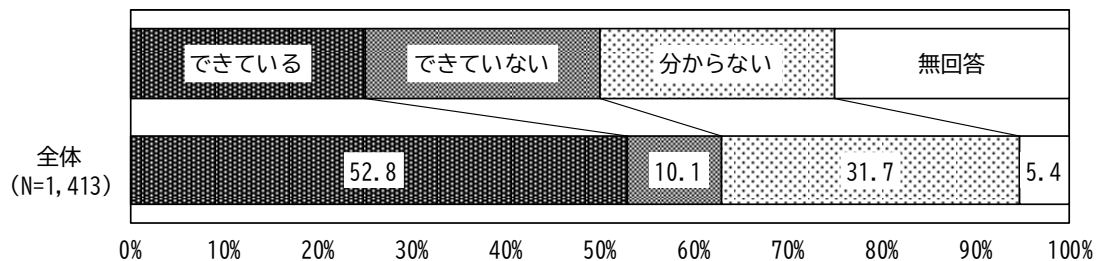
図表 必要とする合理的配慮(身体障害者手帳の記載項目別：複数回答)



問38 あなたは、地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができていますか。（1つに○）

- ・「できている」は52.8%、「できていない」は10.1%である。

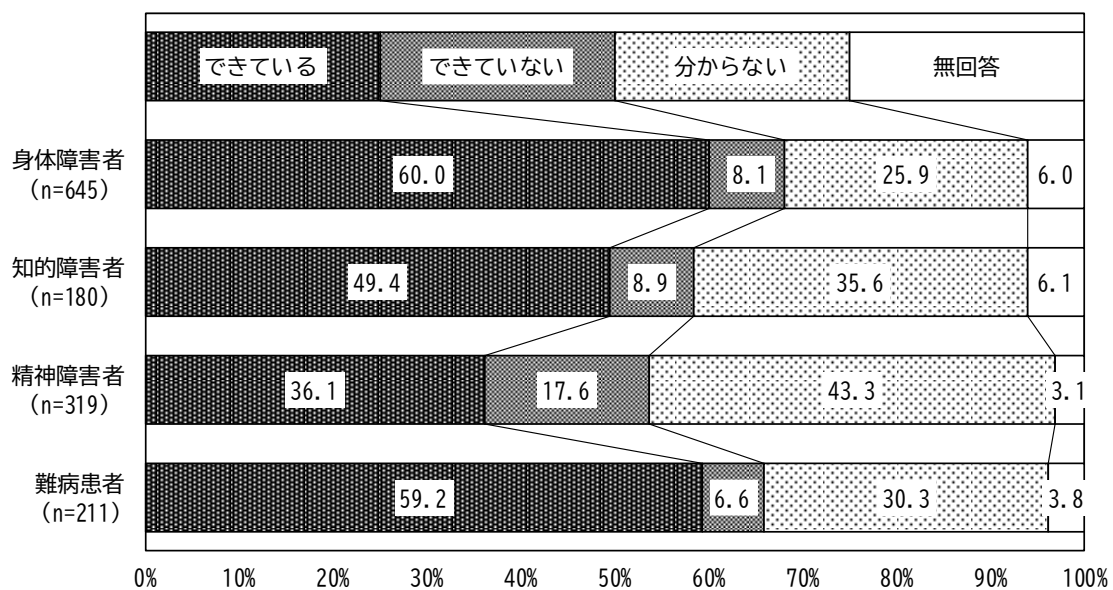
図表 地域の一員として安心して自分らしい暮らしができていますか（全体）



【障害等の種類別】

- ・精神障害者は「できていない」(17.6%)が全体より7ポイント以上高い。

図表 地域の一員として安心して自分らしい暮らしができていますか（障害等の種類別）



問38-1 問38で「2. できていない」と答えた方におたずねします。

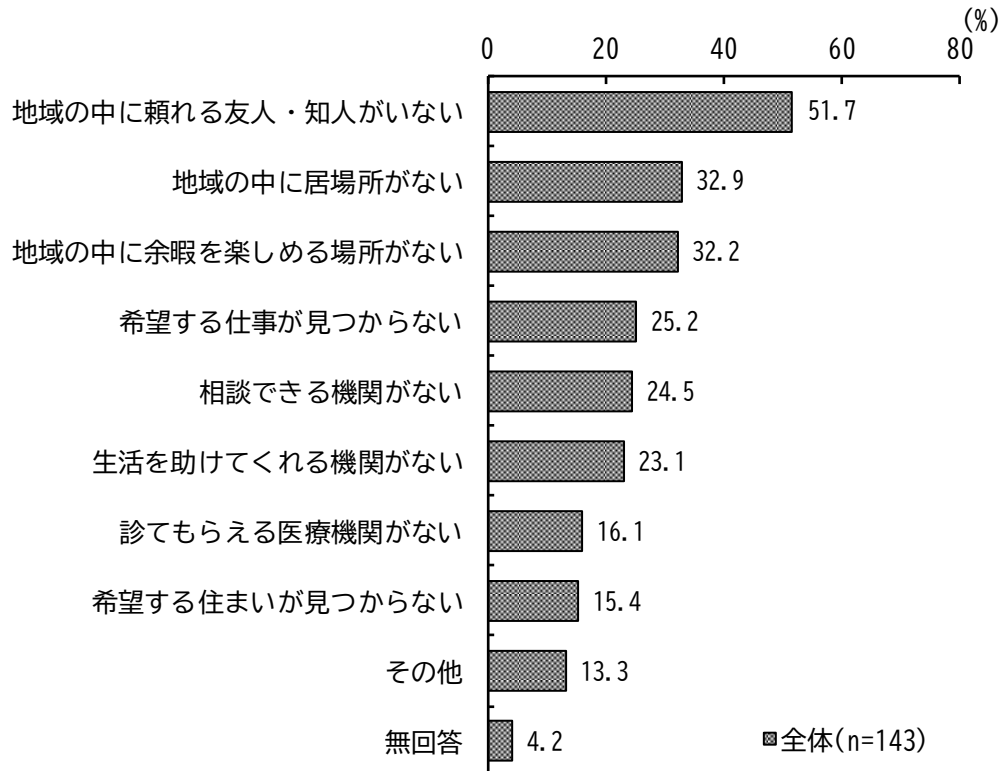
地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができていないと感じる理由は何ですか。

(いくつでも○)

- ・「地域の中に頼れる友人・知人がいない」(51.7%)が最も多く、次いで「地域の中に居場所がない」(32.9%)、「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」(32.2%)が続いている。

図表 自分らしい暮らしができていないと感じる理由（全体：複数回答）

<できていないと回答した人>

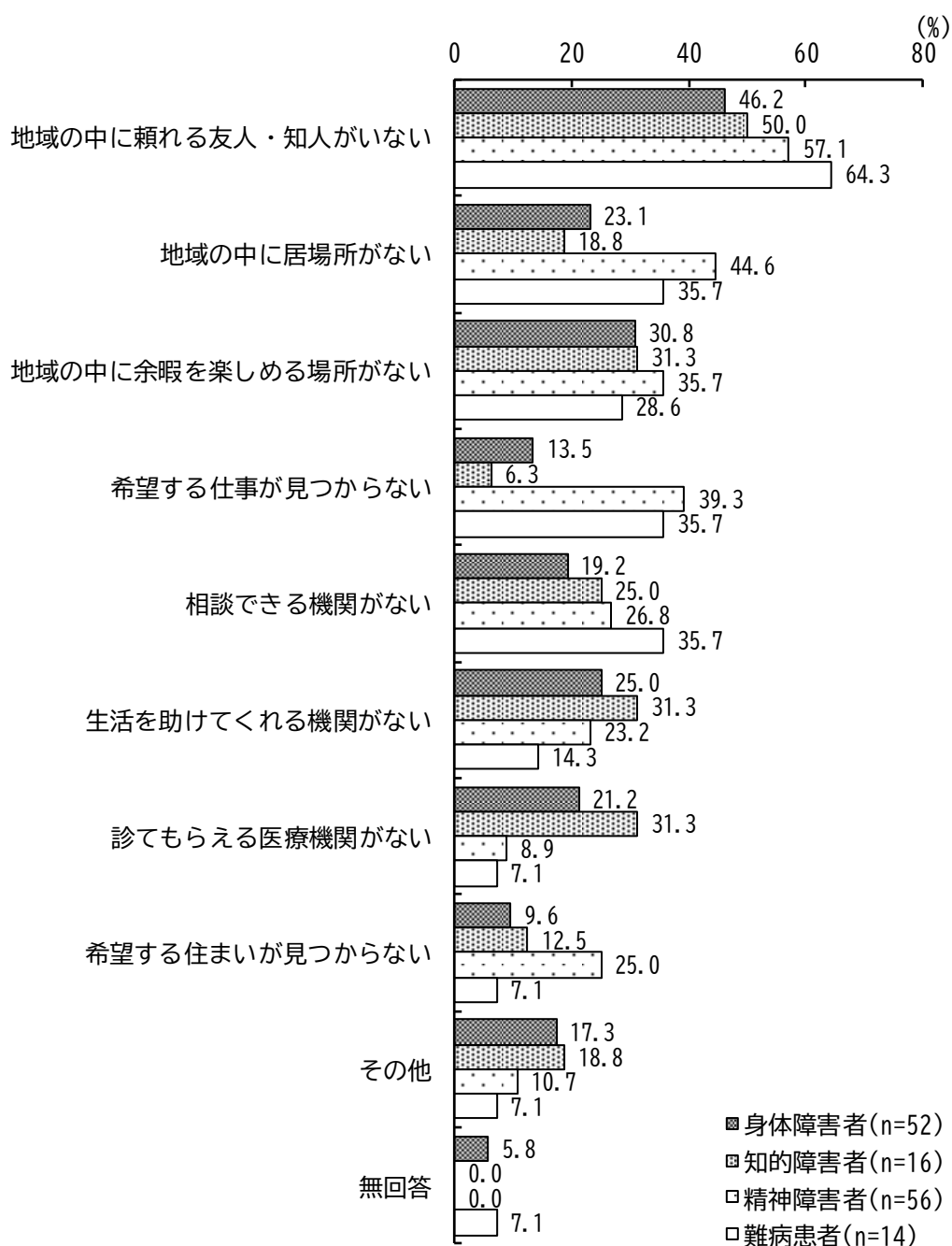


【障害等の種類別】

- ・ 障害等の種類別でも「地域の中に頼れる友人・知人がいない」（身体：46.2%、知的：50.0%、精神：57.1%、難病：64.3%）が最も多い。
- ・ 2番目に多いのは、身体障害者は「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」（30.8%）、知的障害者は「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」と「生活を助けてくれる機関がない」、「診てもらえる医療機関がない」（それぞれ31.3%）、精神障害者は「地域の中に居場所がない」（44.6%）、難病患者は「地域の中に居場所がない」と「希望する仕事が見つからない」、「相談できる機関がない」（それぞれ35.7%）である。

図表 自分らしい暮らしができていないと感じる理由（障害等の種類別：複数回答）

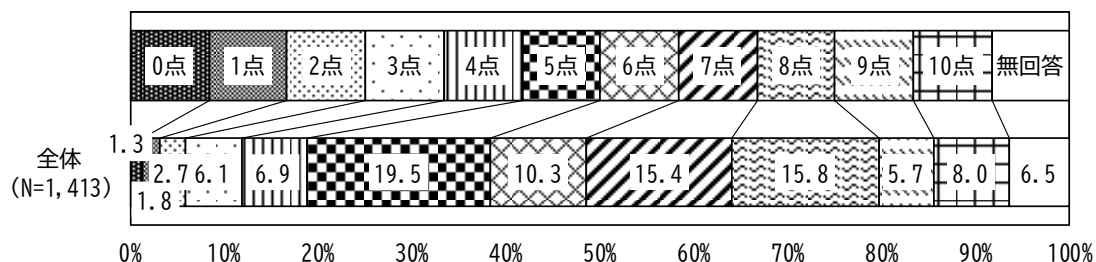
<できていないと回答した人>



問 39 あなたは、現在どの程度幸福だと感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とした場合、あなたはどれぐらいになると思いますか。最も近いものをお選びください。（1つに○）

- ・「5点」(19.5%)が最も多く、次いで「8点」(15.8%)、「7点」(15.4%)が続いている。

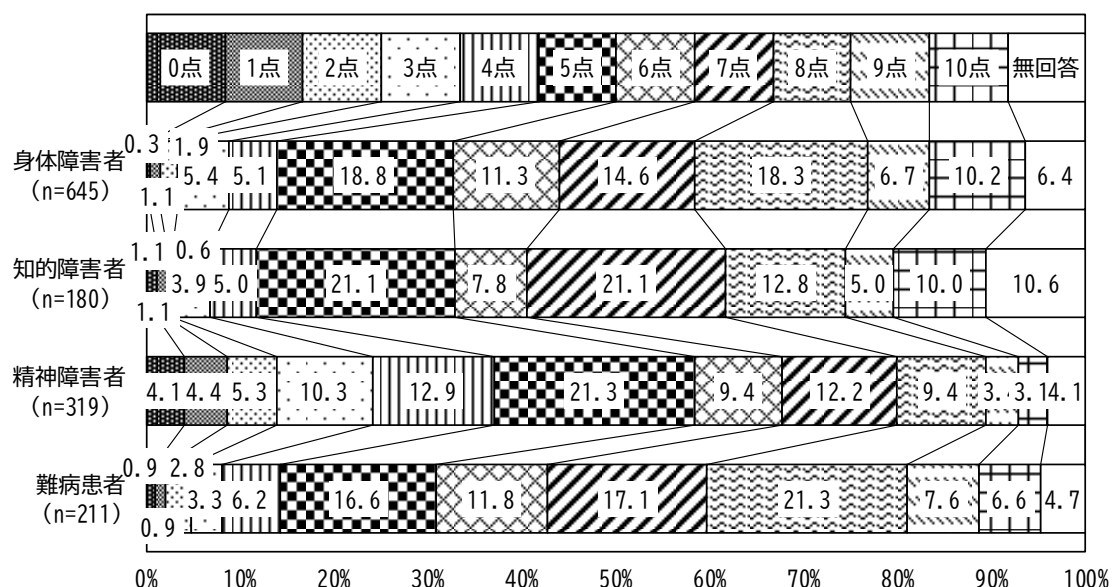
図表 主観的幸福度（全体）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者は「5点」(身体 18.8%、精神 21.3%)が最も多く、知的障害者は「5点」と「7点」(それぞれ 21.1%) が最も多い。また難病患者は「8点」(21.3%)が最も多い。
- ・2番目に多いのは、身体障害者、知的障害者は「8点」(身体 18.3%、知的 12.8%)、精神障害者は「4点」(12.9%)、難病患者は「7点」(17.1%)となっている。

図表 主観的幸福度（障害等の種類別）

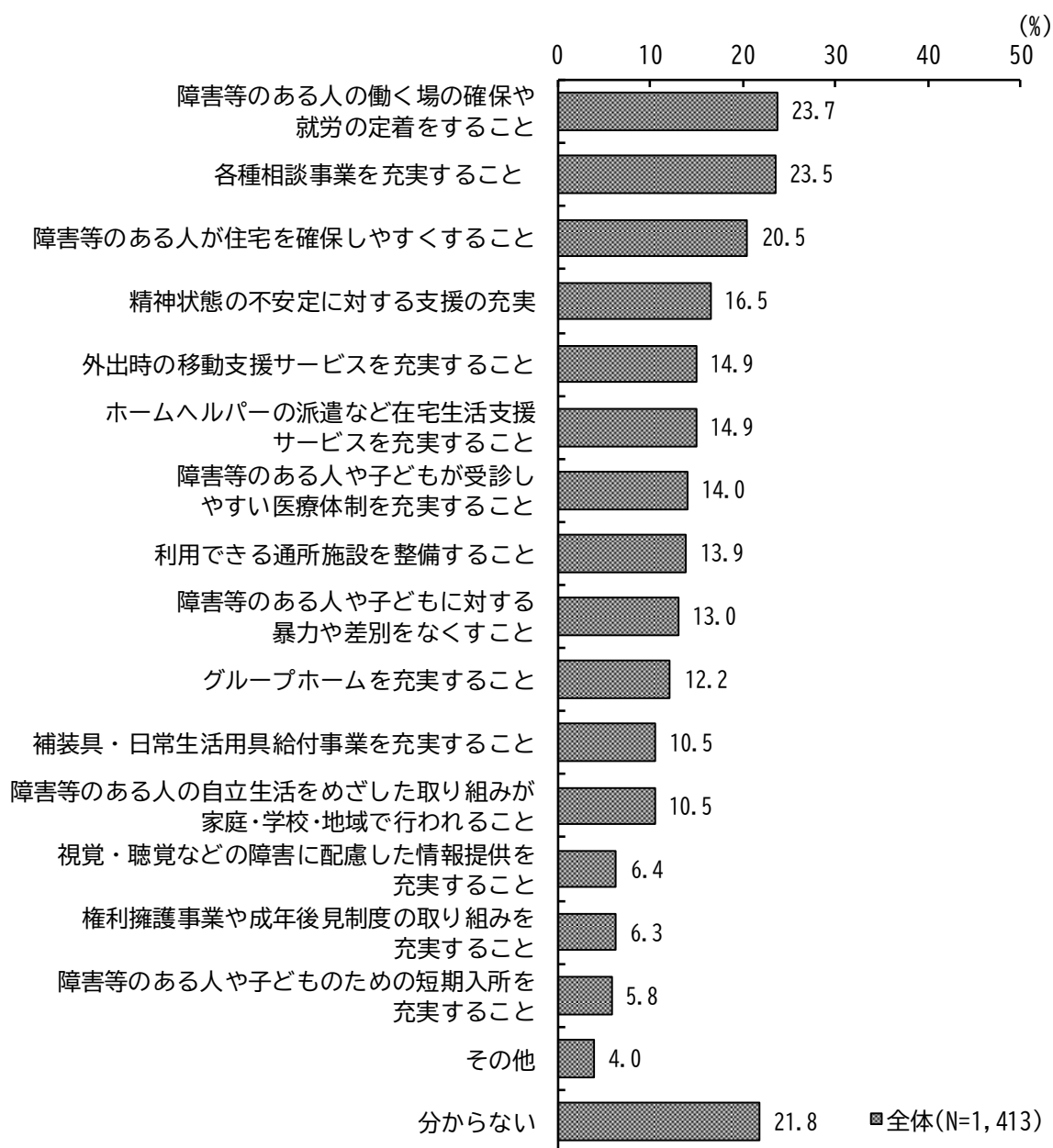


(12) 施策について

問 40 府中市は障害等のある人の施策について、どのようなことを充実させていけばよいと思いますか。
次の項目の中から、5つ、優先順位の高いものを下記の ☐ に番号を記入してください。

- ・「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(23.7%)が最も多く、次いで「各種相談事業を充実すること」(23.5%)、「障害等のある人が住宅を確保しやすくすること」(20.5%)が続いている。

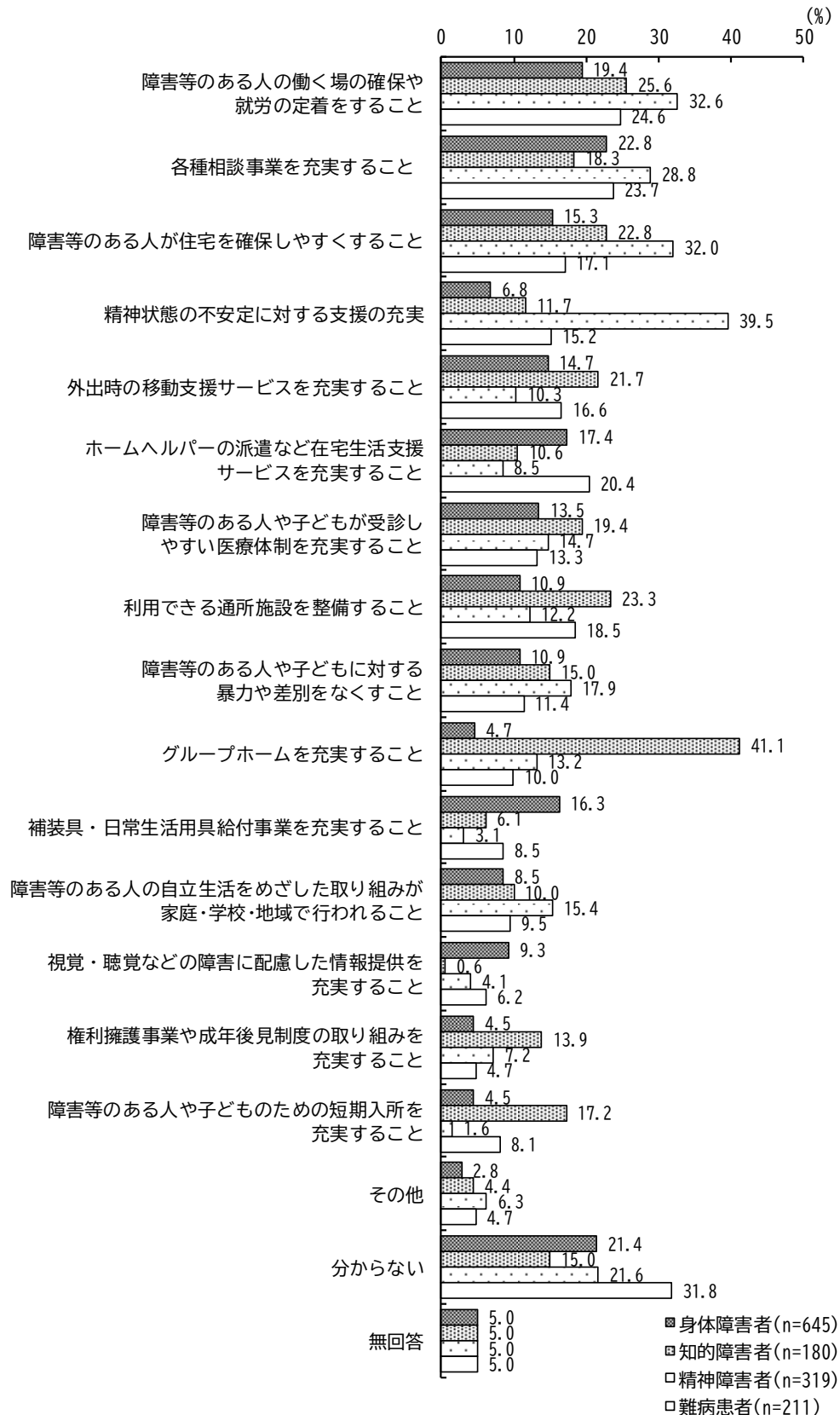
図表 充実を望む施策（全体：複数回答）



【障害等の種類別】

- ・身体障害者は「各種相談事業を充実すること」(22.8%)、知的障害者は「グループホームを充実すること」(41.1%)、精神障害者は「精神状態の不安定に対する支援の充実」(39.5%)、難病患者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(24.6%)が最も多い。

図表 充実を望む施策（障害等の種類別：複数回答）



【障害等の種類・年代別】

- ・身体障害者では、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（18～39歳：36.4%、40～64歳：26.9%）、65歳以上は「各種相談事業を充実すること」（21.4%）が最も多い。2番目に多いのは、18～39歳は「各種相談事業を充実すること」と「障害等のある人が住宅を確保しやすくすること」（それぞれ27.3%）、40～64歳は「各種相談事業を充実すること」（25.5%）、65歳以上は、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」（19.7%）になっている。
- ・知的障害者では、18～39歳と40～64歳は「グループホームを充実すること」（18～39歳：46.9%、40～64歳27.7%）が最も多い。65歳以上は回答が5人しかないものの、「精神状態の不安定に対する支援の充実」や「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」、「障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること」、「グループホームを充実すること」、「補装具・日常生活用具給付事業を充実すること」、「障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること」、「障害等のある人や子どものための短期入所を充実すること」（それぞれ20.0%）を挙げている。2番目に多いのは、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（18～39歳：26.6%、40～64歳25.5%）、65歳以上は該当する回答がなかった。
- ・精神障害者では、18～39歳と40～64歳は「精神状態の不安定に対する支援の充実」（18～39歳：46.1%、40～64歳：36.6%）、65歳以上は「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」と「精神状態の不安定に対する支援の充実」（それぞれ23.5%）が最も多い。
- ・難病患者では、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」（18～39歳：36.2%、40～64歳：24.8%）、65歳以上は「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」（31.9%）が最も多い。2番目に多いのは、18～39歳は「精神状態の不安定に対する支援の充実」（25.5%）、40～64歳は「各種相談事業を充実すること」（23.1%）、65歳以上は「利用できる通所施設を整備すること」（29.8%）となっている。

図表 充実を望む施策(全体、障害等の種類・年代別：複数回答)

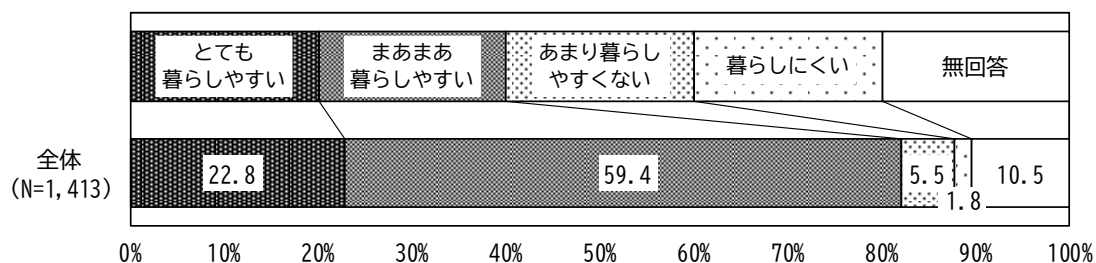
				障害等のある人の働く場の確保や就労の定着をすること	各種相談事業を充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくすること	精神状態の不安定に対する支援の充実	外出時の移動支援サービスを充実すること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること	利用できる通所施設を整備すること	障害等のある人や子どもに対する暴力や差別をなくすること
				(N=1,413)	23.7	23.5	20.5	16.5	14.9	14.9	14.0	13.9
障害種類・年代別	身体障害者	18～39歳	(n=22)	36.4	27.3	27.3	9.1	0.0	9.1	13.6	4.5	18.2
		40～64歳	(n=212)	26.9	25.5	22.6	11.3	14.6	14.2	17.5	10.4	14.2
		65歳以上	(n=407)	14.7	21.4	11.1	4.4	15.7	19.7	11.5	11.5	8.8
	知的障害者	18～39歳	(n=128)	26.6	23.4	23.4	10.2	22.7	9.4	21.9	25.8	20.3
		40～64歳	(n=47)	25.5	6.4	23.4	14.9	21.3	12.8	12.8	19.1	2.1
		65歳以上	(n=5)	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	精神障害者	18～39歳	(n=115)	44.3	33.9	38.3	46.1	12.2	5.2	18.3	14.8	17.4
		40～64歳	(n=186)	27.4	26.3	28.5	36.6	9.7	10.8	12.9	11.8	19.4
		65歳以上	(n=17)	11.8	17.6	23.5	23.5	5.9	0.0	11.8	0.0	5.9
	難病患者	18～39歳	(n=47)	36.2	21.3	21.3	25.5	12.8	6.4	19.1	14.9	10.6
		40～64歳	(n=117)	24.8	23.1	17.9	13.7	15.4	21.4	14.5	15.4	13.7
		65歳以上	(n=47)	12.8	27.7	10.6	8.5	23.4	31.9	4.3	29.8	6.4

				グループホームを充実すること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	権利擁護事業や成年後見制度の取り組みを充実すること	障害等のある人や子どものための短期入所を充実すること	その他	分からない
				(N=1,413)	12.2	10.5	10.5	6.4	6.3	5.8	4.0
障害種類・年代別	身体障害者	18～39歳	(n=22)	0.0	22.7	22.7	4.5	0.0	0.0	13.6	13.6
		40～64歳	(n=212)	3.8	23.6	9.4	12.7	3.8	4.2	3.8	20.8
		65歳以上	(n=407)	5.4	12.3	7.4	7.9	5.2	4.9	1.7	21.9
	知的障害者	18～39歳	(n=128)	46.9	6.3	10.2	0.8	15.6	18.8	5.5	18.8
		40～64歳	(n=47)	27.7	4.3	8.5	0.0	10.6	12.8	2.1	6.4
		65歳以上	(n=5)	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	精神障害者	18～39歳	(n=115)	20.0	2.6	22.6	2.6	13.0	1.7	7.8	21.7
		40～64歳	(n=186)	9.7	3.8	12.4	5.4	4.3	1.6	5.4	21.5
		65歳以上	(n=17)	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	23.5
	難病患者	18～39歳	(n=47)	6.4	10.6	6.4	8.5	4.3	12.8	4.3	36.2
		40～64歳	(n=117)	10.3	6.0	12.0	6.8	1.7	7.7	5.1	32.5
		65歳以上	(n=47)	12.8	12.8	6.4	2.1	12.8	4.3	4.3	25.5

問41 福祉サービスを利用しながら生活するうえで、府中市は暮らしやすい街ですか。（1つに○）

- ・「まあまあ暮らしやすい」(59.4%)が最も多く、次いで「とても暮らしやすい」(22.8%)、「あまり暮らしやすい」(5.5%)が続いている。

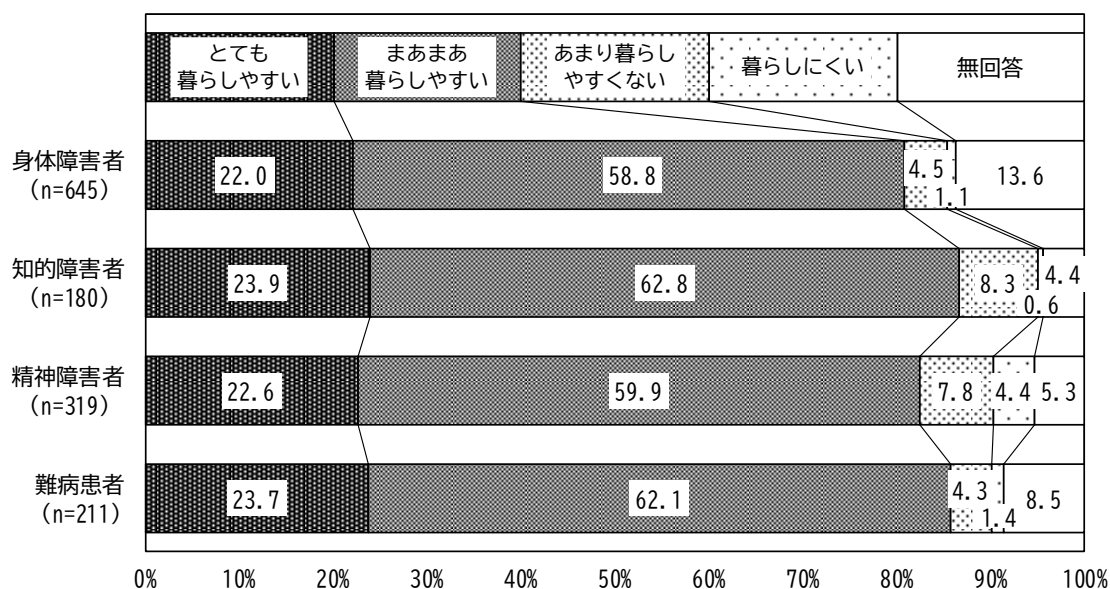
図表 府中市の暮らしやすさ（全体）



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、「まあまあ暮らしやすい」(身体：58.8%、知的：62.8%、精神：59.9%、難病：62.1%)が最も多く、次いで「とても暮らしやすい」(身体：22.0%、知的：23.9%、精神：22.6%、難病：23.7%)、「あまり暮らしやすい」(身体：4.5%、知的：8.3%、精神：7.8%、難病：4.3%)が続いている。

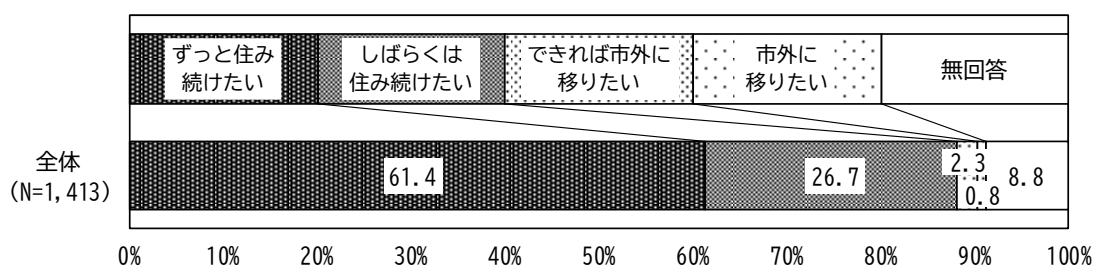
図表 府中市の暮らしやすさ（障害等の種類別）



問 42 今後も府中市に住み続けたいと思っていますか。それともそうは思いませんか。次の中から1つだけ選んでください。(1つに○)

- ・「ずっと住み続けたい」(61.4%)が最も多く、次いで「しばらくは住み続けたい」(26.7%)、「できれば市外に移りたい」(2.3%)が続いている。

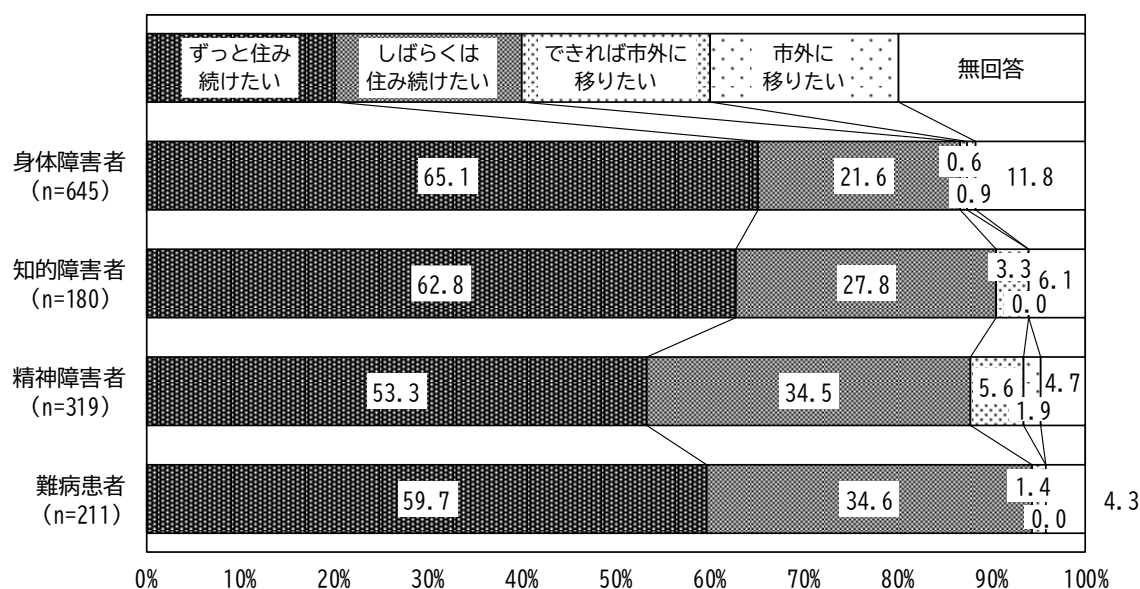
図表 府中市への居住継続意向（全体）



【障害等の種類別】

- ・障害等の種類別でも、「ずっと住み続けたい」(身体：65.1%、知的：62.8%、精神：53.3%、難病：59.7%)が最も多く、次いで「しばらくは住み続けたい」(身体：21.6%、知的：27.8%、精神：34.5%、難病：34.6%)、「できれば市外に移りたい」(身体：0.6%、知的：3.3%、精神：5.6%、難病：1.4%)が続いている。

図表 府中市への居住継続意向（障害等の種類別）



問 43 府中市の障害等のある人の施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・府中市の障害等のある人への施策、地域で暮らし続けるために必要なこと等に関して、自由記述形式で意見・要望をたずねたところ、391件の回答を得た。以下、主なものを掲載する。記入者が「本人」以外の場合は【 】内に本人との関係を記している。

(1) まちづくり (46件)

【身体障害者】

- ・銀行1階入り口で、勾配がきつすぎて車椅子が入るのに苦労しているのをみました。手伝いましたが、確かに勾配により結構力が必要でかつ扉が手動の開き戸で苦労しました。(男性、65～74歳)
- ・歩道を広くしてほしい。バス停に座る場所、屋根があるとよい。自転車のルールを徹底してほしい。危ない。(男性、75歳以上)
- ・車いすで移動すると1cmの段差でもひっかかります。車いすでなければ階段やエスカレーターを使いたい。元気な人が我先にエレベーターに行くのを見ると？と思います。(女性、50～55歳)
- ・一部の施設と思いますが、トイレが洋式と和式がある所があります。洋式に統一してもらえるとありがたいです。(女性、75歳以上)

【知的障害者】

- ・神社の近くに大きな商業施設が3つもあるのに、一般車で障害者が乗り降りしやすいスペースがない。ロータリー内で、一般車の乗り降りができるスペースを作って欲しい。(男性、18～24歳)

【精神障害者】

- ・私の場合ですが、男性へのトラウマ(P T S D)があるため、男性との距離がとれるようになると心強いです。特に電車などの交通機関で、男性が近くにいない状態を作られたらと思います(女性専用車両など)。(女性、25～29歳)

【難病患者】

- ・北府中駅をよく利用しますが、外から改札に行くのに階段しかありません。エレベーター又はエスカレーターをぜひ設置してほしいです。(女性、50～54歳)
- ・公園などの古いトイレの改築、および修繕。バリアフリートイレや子どもが使いやすいトイレを早急にやってほしい。(男性、30～34歳)

(2) 障害者施策全般 (8 件)

【精神障害者】

- ・ 障害者は多様な障害をもっていることがあり、その数も多いと思うので、すぐに何か施策に反映できるものでもないと思いますが、ぜひ住民の声をできる限り多く聞いていただいて、施策やサービスの必要性について考えていただきたいと思います。(男性、45～49 歳)

【難病患者】

- ・ 自分はまだ自立していて支援を必要としていないのでよくわからないが、将来不自由になったとき、なにも心配のない環境であってほしいと思う。(女性、30～34 歳)

(3) 障害・難病への理解 (20 件)

【身体障害者】

- ・ 皆が支え合い、思いやりを持った行動をすれば、より良くなると思います。(男性、50～54 歳)
- ・ 障害とひとくくりにするのは大ざっぱすぎる気がします。健康であることの質を考える人が増えれば暮らしやすいかもしれません。(女性、60～64 歳)
- ・ 近隣の方の理解があると住みやすい。集合住宅の場合、役割が難しい。(女性、65～74 歳)

【知的障害者】

- ・ 一人一人が異なるので、障害程度などによってさまざまな環境を維持していただけるとありがたいのではないかと思います。(女性、30～34 歳)

【精神障害者】

- ・ 障害がある人への偏見や差別を無くして、暮らしやすい生活を支援してくれるととてもありがたいです。働ける場を提供してくれるとありがたいです。(男性、35～39 歳)
- ・ 障害のある人もない人も、皆が一人ひとりを尊重し合い支え合って暮らせるソーシャルインクルージョンな社会になってほしいと思います。(女性、40～44 歳)

【難病患者】

- ・ 外来受診時、移動中「ヘルプマーク」をつけている方が多く驚きました。まずは自分自身のことをシッカリすることだと思います。(女性、40～44 歳)

(4) 施設、グループホーム (22 件)

【身体障害者】

- ・ 医療的ケアが必要で重い障害のある人でも入所できる入所施設をつくって欲しい。地域で安心して生活できる場を確保してほしい。(男性、25～29 歳) 【母親】

【知的障害者】

- ・グループホーム、福祉作業所を増やしてください。知的障害に関する理解を深める機会を増してください。（男性、18～24歳）【父親】
- ・府中市にグループホーム、親がなき後、入所できる施設を作ってもらいたい。（女性、60～64歳）【母親】

【精神障害者】

- ・グループホームの絶対的な不足状況を改善していただきたい。親は確実に高齢になり介助ができなくなります。（女性、40～44歳）【母親】

（5）在宅生活支援（20件）

【身体障害者】

- ・障害者福祉サービスを増やしてほしい（たとえばおむつや尿取りパッドの支給等）。（男性、50～54歳）
- ・画一的な支援サービスの決定をするのではなく、一人一人の状況や必要性を十分に検討し、柔軟にサービスの支援決定をしてほしいです。（女性、50～54歳）

【精神障害者】

- ・府中市は障害の内容によってサービスに差があり、精神障害についてはあまりサービスがないと思っている。（女性、55～59歳）

（6）情報提供（19件）

【身体障害者】

- ・自分がどのようなフォローを受けられるかわからない。広報に載っていることしかわからないので、都度、その人の障害に合った情報がほしいです。（女性、50～54歳）

【知的障害者】

- ・障害者本人は困りごともなく日々生活しているので暮らしやすいと思う。介助者（親）は将来が不安で仕方ない。（女性、18～24歳）【母親】

【精神障害者】

- ・施策等の周知が必要。知らないことが多すぎるため。（男性、60～64歳）

【難病患者】

- ・福祉サービスの情報が自ら探さないと情報が手に入りにくい印象があります。SNS（Xやインスタグラム、T i k t o kなど）でサービスの内容や新しい施策などの情報が手に入るととても身近に感じられるのではないかと思います。（男性、25～29 歳）

（7）手続きや窓口対応（37 件）

【身体障害者】

- ・市役所の各種手続きのオンライン化を推進してほしい。（男性、60～64 歳）
- ・私は右耳が聞こえないので、左側に来て話をしてもらおうと助かりますが、相手方が「その人は右とか左とか聴きやすい」と分かるような「ハタ」「リボン」が窓口に置いてあるといいと思います。（男性、75 歳以上）

【精神障害者】

- ・体調不良で役所に出向けないときなど、書類の申請など郵送で対応いただき大変ありがたかったです。（女性、45～49 歳）

【難病患者】

- ・福祉の手続き等をもっとわかりやすくして欲しいです。書類の書き方などもよりわかりやすくなると思います。（女性、75 歳以上）

（8）手当や経済的な支援（45 件）

【身体障害者】

- ・ほぼ満足しているが、ガソリン助成を上げてほしい。（男性、65～74 歳）

【知的障害者】

- ・グループホーム家賃を助成してほしい（足りないです）。（男性、25～29 歳）【母親】

【精神障害者】

- ・物価高なので、府中市独自の施策を講じて欲しい。（男性、50～54 歳）

【難病患者】

- ・難病の薬が高くて指定疾病者福祉手当を上げて欲しい。（女性、40～44 歳）

(9) 移動支援、通院介助 (6件)

【身体障害者】

- ・ ちゅうバスの障害者無料化。(男性、40～44歳)

【知的障害者】

- ・ 市内で通所施設が見つからず他市へ通所（家族が送迎）しています。ヘルパーを探していますが断られています。親も高齢となるためいずれグループホームなども考えないといけませんが、今の通所先へ通い続けたいため、送迎の問題もあり不安なことだらけです。(男性、25～29歳)【母親】

(10) 相談 (3件)

【身体障害者】

- ・ 各種相談事業が充実してくれると、様々な面でありがたい。(女性、75歳以上)

【精神障害者】

- ・ 相談機関の充実、施策を考えて、住みやすい市政をしてほしい。(男性、50～54歳)
- ・ 化学物質過敏症の啓発、相談先づくり。(男性、40～44歳)

(11) 災害時の不安 (3件)

【身体障害者】

- ・ 災害時の非難について心配。足が悪いので手助けがないと移動に困難を要する。そういうときの支援が必要。(男性、65～74歳)【配偶者】
- ・ 災害時に声かけしてくれる「民生委員」は居るのか。(男性、65～74歳)

【精神障害者】

- ・ 災害があった時 存在（安否）を確認していただきたいです。(女性、50～54歳)

(12) 生活の不安 (8件)

【身体障害者】

- ・ 将来的に持ち家があっても資金が尽きた時に生活していけるか不安。(男性、50～54歳)

【精神障害者】

- ・ 現時点では大抵自分のことは、時間を要しても自分でできるし、多少は家族の協力も得られますが、進行したらどうなるのか、不安ではあります。(男性、18～24歳)

(13) 就労 (12 件)

【身体障害者】

- ・ 障害者の娘を連れて、夫の仕事の関係で、四国に引っ越しましたが、娘は週に三日しか作業所に通えず精神的に不安定になりました。府中市に再び引っ越し、元の作業所に入所することができました。これからも障害者や、その家族に寄り添っていただき、ますます住みやすい街になるよう心から願っています。(女性、25～29 歳)【母親】

【精神障害者】

- ・ A型作業所が府中市になく、障害者が生活保護を抜けるのが難しい。電車やバスに乗れない人もあるので、市内にA型があれば仕事がしやすくなるように思う。B型だと生活保護から抜けられない。(男性、25～29 歳)
- ・ 私はうつ病で仕事を短期離職しがちである。障害者雇用枠で働いているが、やりがいも賃金も低い。職場環境を整備してくれればしっかりと働けるのに、条件に合う仕事がない。(女性、40～44 歳)

(14) 住宅 (6 件)

【身体障害者】

- ・ 今後、都営住宅に住みたい気がしている。(男性、65～74 歳)

【知的障害者】

- ・ 将来安心して住めるところが欲しい。人生に不安を感じない暮らしがほしい。(女性、25～29 歳)

【精神障害者】

- ・ 衣食住の確保が絶対必要だが、「住」に満足を感じている人は少ないと思う。ここに重点をおき、満たされれば、暮らしやすくなると思う。手数料の関係から宅建業者はやりたがらないだろうから、それをデメリットと感じなくなる方法があるといいと思う。(男性、40～44 歳)

(15) 交流 (12 件)

【身体障害者】

- ・ SNSに市内の障害のある人のコミュニティがあると、自分たちで情報共有できてよいと思います。(男性、50～54 歳)

【知的障害者】

- ・ 土日などにもっと障害者が参加できるイベントなどが欲しいです。物作り、ゲームなど、一緒に楽しめることが増えるとうれしいです。(女性、30～35 歳)【母親】

【精神障害者】

- ・障害者と普通の人との交流がさかんに行われる社会になるといいと思います。(男性、30～34歳)

(16) 文化・スポーツ活動 (5件)

【身体障害者】

- ・以前地域生活支援センターで、折り紙、笑いのわなどいろいろな講座があり楽しく過ごせました。シーズン毎のウォーキングも計画してくれました。障害者でもひきこもらないでなるべく出かけられるような講座やイベントはもっと必要だと考えます。(女性、75歳以上)
- ・視覚障害者にとって、対面朗読はすばらしく、天国です(ルミエール内、図書館)。もっと多くの障害者の方に利用してほしいと思います。(女性、75歳以上)【子ども】

【精神障害者】

- ・図書館をさらに増やしてほしい。書店ももうすこしできてほしい。本や資料は人々の生活の助けになる。(女性、35～34歳)

(17) 親亡き後の不安 (6件)

【知的障害者】

- ・週5日通所施設に通っています。身体障害と知的障害の重複があり、本人の意思を具体的に伝えられませんし、話をしても詳しくは理解できていないと思われます。通所からの帰宅後と土日は自宅で過ごしますが生活全般介助が必要で父母の高齢化で今後の事を考えなければと思っています。(女性 35～39歳)【父親】
- ・今は大丈夫だと思いますが私たち(親)が亡くなった後が不安です。(男性 18～24歳)【母親】

【精神障害者】

- ・横須賀で行われているエンディングプラン・サポート事業のような取り組みをやってほしい。(女性 50～54歳)

(18) 交通手段 (17件)

【身体障害者】

- ・ちゅうバスの本数を増やして欲しいです。(男性、45～49歳)
- ・旧鎌倉街道は交通機関がなく大変不便です。分倍河原まで25分、中河原まで20分と、若い時はなんとも思わなかったが最近はとても大変になってきました。(女性、75歳以上)

【精神障害者】

- ちゅうバスを残しておいてほしい(バスのまま)。チュウバスのルートを増やしてほしい。(女性、40～44歳)

(19) 近所づきあい (5件)

【身体障害者】

- ・ 老後の1人暮らしになった際の見守り（孤独死の廃除）社会を築いていくこと。市をあげて礼儀、マナー、道徳について改めて知らせていくこと。この頃の未成年者は礼儀なく自己中心的な方が目につき、これからの社会が不安。（男性、60～64歳）

(20) 放課後等デイサービス (1件)

【知的障害者】

- ・ 学校に通っている間の放課後等デイサービスが大人になっても通える夕方の余暇でデイサービスができてくれるといいなと思います。（女性、18～24歳）【母親】

(21) 教育 (3件)

【難病患者】

- ・ 障害のある子どもたちが障害を理由に夢をあきらめないための支援とそのサポート。例えば、入院時に学校に行けなくなり、勉強がしたくてもできない子ども。不登校になってしまった子どもなどへの支援。（男性、18～24歳）

(22) 家族への支援 (2件)

【身体障害者】

- ・ 老々介護が大変ストレスです。自分の身体がボロボロになっていることに不安があります。府中市は障害者福祉について充実していると思いますが、それを上手に利用できるかは個々の思いもある気がします。（女性、75歳以上）

(23) 医療 (6件)

- ・ 府中は障害者施設が多数あり、またイベントも多く活気があります。他市では差別もありましたので、その点理解度が高いのかと思います。ただ、障害者の健康診断が気軽に受けられる支援がなく、自動的に受診券が配布されるようなシステムはできないのでしょうか。（男性、30～34歳）【母親】

(24) 謝意や政策への期待 (43件)

【精神障害者】

- ・ 近隣自治体と比べ、府中市はケアが手厚いとの話を耳にすることがあります。より質の向上を期待しています。（男性、55～59歳）【母親】
- ・ 私の場合は現状で対応できています。子どものふるさとの府中が皆様のご努力で暮らしやすい市でありますようお願いしています。（女性、75歳以上）

(25) その他 (36 件)

【身体障害者】

- ・ ネットで回答できるようにしてほしいです。(男性、55～59 歳)

【精神障害者】

- ・ 大好きな府中で病気とパートナーと向き合いながら楽しく暮らしてゆきたいです。(女性、55～59 歳)